私の軍団長のために

あたり

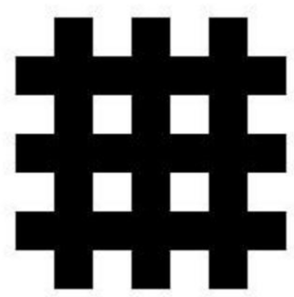
コルネリュー•ゼレア•コドレアヌ



Googleによる機械翻訳

コルネリュー・ゼレア・コドレアヌ





軍団の印

索引

Googleによる機械翻訳

この巻には私の19歳から34歳までの青春の物語が収録されています。

その感情、信仰、思考、行動、

あなたの間違い。

コルネリュー•コドリアヌ

レジオネラのために

1935 年 12 月 6 日

カンネン•シルバ

レジオネラ

私は軍団兵の家族のために書いています。村、工場、大学のすべての軍団兵に。私は本の著者に課せられるいかなる規制にも注意を払いません。時間がありません。私は戦場で攻撃の最中に急いで書きます。この時間、私たちは四方八方を囲まれています。敵は裏切りで私たちを攻撃し、裏切りは噛み付きます

私たち。

2年間、私たちは悪名高い検閲の鎖に縛られていました。 2 年間、私たちと軍団の名前は、侮辱されるだけでマスコミによって容認されてきました。敵が歓声を上げて我々が死ぬのを待っている間、裏切りが我々に降り注ぐ。しかし、これらの卑劣な騎士たちも、彼らの主人たちも、確かに、軍団運動を破壊するという望みを賭けたすべての攻撃、すべての扇動と必死の努力が無駄に終わることを、確かに間もなく確信するだろう。

軍団兵は死なない。彼らは正しく、動かず、無敵で不滅であり、憎しみの無力なけいれんに対して常に勝利を収めているかのように見えます。

*

— —

以下の行によって非軍団制の世界に生み出された意見は私にとって重要ではないし、その世界に対するその意見の影響も私には興味がない。
私が望んでいるのは、他のルーマニアの地平線から来た兵士である皆さんが、これらの記憶を読むときに、その記憶の中で自分自身の過去を認識し、自分の戦いを思い出してほしいということです。あなたが耐えた苦しみと私たちの民に与えた打撃を追体験してくださいますように。あなたが彼らの心を火で満たし、あなたが取り組んでいる、そして私たち全員が勝利するか死ぬかを命じられている厳しくて公正な戦いにしっかりと立ってくださいますように。書きながらあなたのことを考えます。

私たちのトラキアの先祖たちの静けさとともに死の洗礼を受けて、死に至るあなた方について。そしてルーマニアの勝利の旗を手に死者とその墓を踏み越えなければならない皆さん。

人生へのパス

ドブリンの森で

私たちはここにいます。1919 年の春の午後、フーシ周辺の高台に見張りが立つドブリナの森に集まりました。
誰が ?高校生、2年生、3年生、4年生からなる約20名のグループです。
まだ人生が始まったばかりだったにもかかわらず、私は深刻な問題について話し合うために若い同志たちを集めました。ボリシェヴィキが私たちを侵略したら、私たちはどうするつもりですか？
私の意見は、他の人たちも同意したが、もしボリシェヴィキ軍がドニエストル川を越え、プルート川を越えて我々の地域に到達するなら、我々は服従せず、森の中に武装して避難するだろう、というものだった。私たちはそこにルーマニアの行動と抵抗の中心を組織し、巧みな行動によって敵を振り払うでしょう。私たちは不服従の精神を維持し、町や都市のルーマニアの大衆の間に希望の火を灯し続けます。私たちは皆、古代の森の真ん中で誓いを立てました。この森は、モルドバの歴史を通して、多くの敵がその道で死に直面した有名なティゲシウの森の一角でした。

私たちは武器と弾薬を入手し、完全な秘密を保持し、森の中で偵察と戦闘訓練を実施し、私たちの意図を隠す前線を確立することに決めました。私たちはこの最前線を簡単に見つけ、すぐにそれを実現させました。それは、私たちが「ミハイル•コガルニセアヌ」と名付けたフシ大学の学生による全国文化協会です。大学の校長によって承認されました。それから私たちは市内で会議や講演会を始めました。私たちは公共の場では通常の業務に取り組み、森の中で戦闘訓練を模擬しました。これらのタイトルではどこでも武器を見つけることができたので、約 2 週間で必要なものをすべて集めました。

*

– –

当時、この国の混乱した状況は、18歳未満の子供たちだけでしたが、私たちにもよくわかりました。誰もが、国境のすぐ近くで進行中のボリシェヴィキ革命のことを考えていました。

農民はこの破壊の波に本能的に抵抗したが、完全に組織化されておらず、本格的な抵抗を示すことはできなかった。しかし、ユダヤ人マスコミ、そして一般に都市のすべてのユダヤ人によって組織的にこれらの思想の崇拝を煽られ、産業労働者は目まぐるしく共産主義へと傾いていた。

あらゆるユダヤ人、商人、知識人、資本家兼銀行家は、活動範囲内にいて、これらの反ルーマニア革命思想の代理人であった。
ルーマニアの知識層は決断を下しておらず、国家機構は混乱していた。決心して組織化された少数の分子による内部噴火、あるいはドニエストル川への侵入がいつでも予想される。この外部の行動は、内部のユダヤ共産主義ギャングの行動と連携しており、私たちを攻撃し、橋を破壊し、弾薬の在庫を爆破する可能性がありますが、そのとき、私たちの民族としての運命を決定したでしょう。このような状況下で、私たちの考えは混乱の中で、困難な戦争の終わりに新しく統一された国の命と自由に気を取られ、若い心の中にドブリナの森での誓いへと私たちを導く考えが芽生えました。 。

私はニコラエ•フィリペスク*の監視の下、勇敢なミカエルの首が眠るマナスティレア•デアルルイ陸軍士官学校（丘の上の回廊）で5年間を過ごしました。そこでは、少佐、後に学校の指揮官であるマリール•オルテアヌ大佐、中尉のフィルジル•バドゥレスク大尉の命令の下でした。エミール•パランギアヌと教師たちの指導の下、私は厳格な軍事教育を受け、自分の力に対する健全な自信を持ちました。

*アカデミア•ミリターを創設した元閣僚（1900〜1913年）はその名を汚す… （訳者注）

実際、私の軍事教育は一生続くでしょう。幼い頃から私の血の中に形成された秩序、規律、階層は、兵士の尊厳の感覚とともに、私の将来のすべての活動の指針となるでしょう。ここでも、私はあまり話さないように教えられましたが、それが後に私が「おしゃべりボクシング」を嫌い、よく話すようになりました。
ここで私はトレンチを愛し、リビングルームを軽蔑することを学びました。

当時私が受けた軍事学の概念は、後にその科学のプリズムを通してすべてを判断することになります。将校たちが私に教育したこの人間的および軍事的尊厳に対する感覚の崇拝は、しばしば名誉や尊厳の感覚のない世界で、私に困難をもたらし、苦しみにさらすことになりました。

私は 1916 年の夏を湖西の自宅で過ごしました。
私の父はここ2年以内に軍隊に呼び戻され、連隊とともにカルパティア山脈に残されました。ある夜、母が私を起こし、泣きながら身をかがめながらこう言いました。「起きて、すべての教会の鐘が全部鳴っているよ」。それは1916年8月15日、サンタ•マリアの祝日でした。私は、動員が布告され、その瞬間にルーマニア軍が山を越えたことを理解しました。

感動のあまり、全身が震えました。 3日後、私は自分も最前線で戦いたいという思いに駆られ、父を追って家を出ました。多くの冒険を経て、ついに私は父が中隊を指揮していた連隊、V•ピペレスク大佐率いる第25歩兵連隊に到着し、オイトゥズ渓谷のトランシルヴァニアに進軍していた。
私の不幸は大きかった。まだ17歳だった私が連隊長から志願兵として断られたからだ。それでも、私はトランシルヴァニアからの進軍と退却の両方に参加し、9月20日、父がセレス•ドム山のソヴァタ上空で負傷したとき、敵の進軍の前に父の役に立ちました。彼は負傷しながらも避難を拒否し、中隊を率いて退却し、その後オイトゥズでの激しい戦闘に突入した。

ある夜、午後2時に連隊は前進命令を受けた。将校らは道端の墓のような静寂の中で、集まった軍隊を見渡した。

父は大佐に報告するよう頼まれた。しばらくして戻ってきた彼は私にこう言いました。もうすぐ私たちは戦闘になるのですが、ここで二人とも死ぬのは良くありません。そうなると、母は何の援助も受けずに6人の幼い子供たちを残されることになるからです。大佐は私に電話して、ここ前線での滞在の責任を負いたくないと言った。 」

彼の心が疑っているのがわかりました。最寄りの鉄道から40キロも離れた、見知らぬ道で、真夜中に私を一人にしておくことを彼はためらっていました。

しかし、彼の主張に気づいて、連隊縦隊が前進し、夜の静寂と暗闇の中に消えていくにつれて、私はカービン銃と2つの薬きょうラックを回転させました。私は溝の端に一人取り残されたので、旧国境と家に向かって出発しました。

1年後の9月1日にボトシャニ陸軍歩兵学校に入学したとき、私はまだ前線に立つことを考えていました。私はここで、1917 年 9 月 1 日から 1918 年 7 月 17 日まで、陸軍学校の現役中隊で軍事教育と知識を学びました。スラベスク大佐、シウレア大尉、中尉の4人の著名な将校。フロリン•ラドゥレスクとステフレア少佐は、祖国のために戦いと犠牲の道を歩む私の歩みを導いてくれました。

さらに年が経ち、1919 年に平和が訪れ、私たち瀕死の子供たちは散り散りになり、それぞれの家に帰りました。
中学校教師である私の父は、生涯にわたって国家主義者の戦士でした。私の祖父は、曽祖父と同様に林業技師でした。我が国の人々は、歴史上のあらゆる困難な時代においても、初めから森と山の民でした。だからこそ、私の軍事訓練と私の静脈に流れる血が、ドブリナの行動、つまり素朴な現れ、つまり私たちの若さには想定されていなかったであろう真剣さの表れに刻み込まれたのです。

その瞬間、私たちは彼らのアドバイスと経験によって、敵が決して侵入しなかった同じ道でモルドバのために戦ったすべての先祖の存在を心の中で感じました。

IASI大学にて

1919 年 9 月

夏が過ぎた。私は秋にバカロレア*を取得し、私たちのグループは分かれて、それぞれが大学に向けて歩み始めました。ドブリナについては、国境の内外から押し寄せる敵意の脅威から国を守った記憶だけが私たちに残っています。

私はすべての若者にとって、大学受験、待望の大学受験という岐路に立ってフシを離れるつもりでした。準備として、私は大学で得た知識の資本、センセーショナルな文学、あるいは現在高校生の形成期に非常に重要な位置を占めている精神的倒錯を持っていましたが、残念なことに、私はそれを味わいませんでした。通常のルーマニア古典文学に加えて、 N. Iorga と AC Cuza によるSemanatorul (『種をまく人』) とNeamul Romanesc (『ルーマニアの人々』) の記事をすべて読みました。父はこれらを屋根裏部屋のいくつかの箱に入れて保管していました。私は自由時間を見つけてこの文献を読むためにそこに行きました。これらの記事の本質には、ルーマニア国民の 3 つの生活理想が大々的に表現されていました。

1. ルーマニア国民の統一。
2. 土地改革と政治的権利による農民の地位向上 3. ユダヤ人問題の解決。

当時のすべての国家主義出版物のジャケットには、次の 2 つの格言が印刷されていました。

「ルーマニア人のルーマニア、ルーマニア人だけ、そしてすべてのルーマニア人。」 - N. イオルガ。

「国籍は人間文化の創造的な力であり、文化は国籍の創造的な力です。」 -ACクザ。

私は大きな敬意を持ってヤシに近づきました。ヤシはすべてのルーマニア人を愛し、理解しており、誰もが訪れたい街です。
モイダビアの多くの町には栄光のかけらがあります。ホーティン、バーラッド、ヴァスルイ、ティギナ、セタテア=アルバ、ソロカといった名前を発音すると、魂が高揚するのを感じずにはいられません。

しかし、何よりもスチャバとヤシが登場します。
スチャヴァ、ステファン大王の本拠地。そしてヤシ、クザ=ヴォダ市は 1859 年の連合の都市であり、大学の設立により若者とその最も崇高な願望の都市となった。

ヤシには、ミロン•コスティン、ボ•ダン•ペトリチェク•ハスデウ、ミハイル•エミネスク、イオン•クレアンガ、ヴァシーレ•アレクサンドリ、オスタッシェ•ネグリ、イアコブ•ネグルッツィ、ミハイル•コガルニセアヌ、シトニオン•バルヌティウ、ヴァシーレ•コンタ、N•イオルガ、イオン•ガヴァネスクルが住んでいた。ここでは、政治経済学、クザ教授の偉大な個性が灯台のように輝いています。大学はナショナリズムの学校と化した。ヤシは、ルーマニアの偉大な進歩、国家の偉大さ、理想、願望の都市です。 1917 年の悲しみは大きい。困難な時期にフェルディナンド王の苦悩する魂がここに避難所を見つけたときのことである。 1918 年にすべてのルーマニア人が団結する都市となったこの街の運命は素晴らしいものでした。偉大な過去と現在の悲劇、つまり40の教会がある都市にとっても偉大な都市は、7つの丘の上に築かれたローマが今もルーマニアの永遠の都市であるように、ヤシの容赦ないユダヤ人の侵略の下で日々忘れ去られつつある。

なんと素晴らしい思い出でしょう！
ここで初めてアレクサンドリの調和のとれた詩が響き渡りました。

* 高校卒業までに必要な総合試験。 (Tr.)

「全身全霊のルーマニア

人よ、さあ、手を組もう。」

ここでは、他のどこにもありませんが、学生は、神秘的な鳴き声と神聖な衝動、つまり私たちの祖先の魂とともに、沈黙のヤシの上空に浮かんでいるのを感じます。学生ヤシは、夜の静寂の中で、痛みに気が狂ったかのように、街の曲がりくねった通りを駆け抜けるミハイル•エミネスクの幽霊のようなうめき声を聞く。

「見知らぬ人を真剣に受け止める
人は、犬に彼の心臓を食べさせ
ましょう。廃棄物が彼の家を食べさせま
すように。悪名が彼の両親を飲
み込みますように。」

この街は、1919 年の秋、私が深い敬意を持って訪れた街であり、その素晴らしいオーラに惹かれながらも、ここが私が 20 年前に生まれた場所であることに感動しました。そして他の子供たちと同じように、私も故郷をもう一度見てキスをしたことに感動しました。

私は法学部に入学しました。

ヤシ大学は戦時中閉鎖されていたが、1年前に再開した。現在上級生として戻ってきた元学生たちは、戦前の学生生活の伝統的なナショナリズムに固執してきた。彼らは2つの陣営に分かれた。 1つはラブスカ•ダス•カルタスの指導の下で、もう1つは法律のネル•イオネスクの指導の下で行われました。

これらのグループは数は少ないが、ベッサラビアから学校にやって来た膨大な数のユダヤ人学生、全員が共産主義者の工作員であり宣伝活動家であることに圧倒された。大学教授たちは、ACクザ、イオン•ガヴァネスクル、コルネリュー•スムレアヌら率いるごく限られたグループを除いて、同じ左翼思想の党派だった。多数派の支持者の一人であるポール•ブジョル教授は、上院全体で「光は東から、つまりドニエストル川の向こうから来る」と非常に高く宣言した。

いかなる国家主義的な考えや意見も「野蛮」とみなした教師側のそのような態度は、生徒たちの完全な見当識障害をもたらし、ある者は公然とボリシェヴィズムを支持し、他の者は　大多数が　「好きに言ってください、国家主義は左派は時代遅れだよ。」ラブスカグループは完全にその方向にズレてしまいました。私が参加したネル•イオネスク•グループは、いくつかの大学選挙で敗北した後、時間の経過とともに解散した。 人類は〜へ移動します

これらの反ルーマニア的思想の推進は、大勢の教授と学生たちによって支持され、統一ルーマニアのすべての敵によって奨励されていたが、学生たちの中にルーマニア人の抵抗はなかった。私たちの中には、依然としてバリケードを運用しようとしている人もおり、軽蔑と敵意の雰囲気に包まれていました。路上や大学のホールで、別の意見を持つ同僚、「良心の自由」を主張し、他のあらゆる形態の自由を説く同僚たちが、私たちが通り過ぎるたびに唾を吐きかけ、ますます攻撃的になりました。何千人もの学生が、ボリシェヴィズムを宣伝する会議に次ぐ会議で、軍、司法、教会、王室を攻撃した。ルーマニアの性格を残している協会はただ 1 つだけあり、それはブコヴィニアンとトランシルヴァニア人に属する「アブラム•イアンク」であり、学生ヴァシーレ•ラシンシの指導の下にあった。この大学は 1860 年以来伝統的に民族主義的であったが、反ローマ主義の温床となった。

Google による機械翻訳

革命は準備中

しかし、このような状況が存在したのは大学だけではありませんでした。ヤシの労働者大衆はほぼ完全に共産主義にどっぷりと浸かり、革命で爆発する準備ができていた。工場ではほとんど仕事が行われませんでした。彼らは何時間も会議や評議会を開催した。仕事よりも政治の話がほとんど。

私たちは、計画と命令に従って、自分たちが組織的に妨害を受けていることに気づきました。「機械を破壊し、破壊し、革命の勃発につながる一般的な物質的悲惨な状態を作り出す」。そして実際、この命令に従えば従うほど、悲惨は広がり、飢餓は脅威にさらされ、群衆の魂の中で反乱が膨れ上がった。

ヤシの街路では 3 〜 4 日ごとに大規模な共産主義者のデモが行われました。 10〜15,000人の飢えに苦しむ労働者たちはなんとか立ち直った。モスクワのユダヤ人犯罪者の手によって、「国王を打ち倒せ！」と叫びながらインターメーショナルを歌いながら街をパレードした。 「軍隊を倒せ！」そして、「共産主義革命万歳！」と書かれたプラカードを持っていた。 "、" ソビエトロシア万歳！ 」

もしこれらが勝利していたら、少なくともルーマニアの労働者政権が率いるルーマニアがあっただろうか？ルーマニアの労働者はこの国の主人になっていただろうか？
いいえ！翌日、私たちはタルムードとユダヤ人の圧政という最も汚い圧制の奴隷になっていたでしょう。ジェスが存在してから一秒後には、大ルーマニアは崩壊していたでしょう。

私たちルーマニア国民は、農民も労働者も知識人もみな無秩序に、皆殺しにされ、殺され、あるいは容赦なくシベリア各地に追放されていただろう。マラムレシュから黒海までの土地はルーマニアから強奪され、ユダヤ人大衆によって植民地化されただろう。ここが彼らが建てたであろう場所です

本当のパレスチナだ。

当時、ルーマニア国民の生と死が危険にさらされていることを私は十分に承知していました。そしてルーマニアの労働者を革命へと突き動かしたユダヤ人たちもいた。彼らは、その瞬間に私たちの心を捉えた苦痛にも、私たちの目に映る裏切られた苦痛にも同情しませんでした。彼らは自分たちが何をしているのか知っていました。ルーマニアの知識人だけが気づいていなかった。学校に通っていて、困難な時代に人々を啓発するはずだった知識人たち　だからこそ彼らは知識人だった　その義務を怠っていたのだ。これらの価値のない存在たちは、決定的な瞬間に「光は東から来る」という犯罪的無意識を維持しました。私たちのすべての都市の通りを脅迫的に行進する革命軍の隊列に誰が反対するでしょうか？学生？いいえ！インテリ層？

いいえ！警察？シグランタ*?彼らは、列が近づいてくるのを聞いてパニックに陥り、姿を消しました。軍隊ですら彼らの邪魔をすることはできませんでした。なぜなら、それは1,000人の兵士について語られているのではなく、組織的で飢えている15,000人、20,000人のうちの兵士について語られているからである。

Googleによる機械翻訳

1919 年のある雨の秋の夜、私がカウンセラーをしていた美術工芸学校の食堂で、友人が私に新聞の案内状を見せてくれました。

「国家良心警備隊は今晩木曜午前9時、3ルアで会議を開催する。
アレクサンドリ」

私はすぐにその場を去り、数カ月前に読んだ反共産主義のパンフレットを読んだこの組織のことを知り、参加したいと非常に焦りながら急いだ。
アレクサンドリ通り 3 番地にある、新しく作られたベンチが置かれた部屋に、私はただ 1 人の男性を見つけました。彼は40歳ほどで、体力がありやつれていて、テーブルに座って人々が到着するのを待っていました。大きな頭、二本の強い腕、重い拳、平均的な身長。彼は国家良心警備隊の大統領コンスタンティン•パンクーであった。

* 共産主義による占領前のルーマニア治安局。 (Tr.)

私は自己紹介をして、自分は学生であり、衛兵隊の戦闘員として認められたいのだと言いました。彼は私を受け入れてくれました。私はその会議に出席しました。約20人が出席した。学生; RMS* からは整備士が約 4 名、鉄道からは 2 名。数人の商人と労働者。弁護士のヴィクトル•クリメスクと司祭。さまざまな工場や都市の一部での共産主義運動によって得られた勢いと衛兵隊の組織の問題に関連して、さまざまな問題が議論された。

その夜から私の道は分岐しました。半分は大学での闘い、もう半分は労働者の間でコンスタンティン•パンクーとの闘いであった。私はこの男に執着し、組織が崩壊するまで常に彼のリーダーシップの下で行動を共にしました。

コンスタンティン•パンクー

コンスタンティン•パンクーの名前は両陣営のすべてのヤアジア人の口に上がり、ルーマニア人は期待を込めて口にしたものの、他の人は恐怖を感じたが、知識人ではなかった。

彼は商人であり、配管工であり、電気技師でもありました。彼は小学校の4学年を超えることはありませんでした。
彼は明晰でバランスの取れた精神を持っており、彼自身も適切な知識によってそれを豊かにしていました。 20年間、
彼は労働者の問題に専念していた。
彼は数年間金属労働組合の委員長を務めていた。彼は一流の雄弁家でした。

表彰台の上、観衆の前で、彼は感動を与えた。彼は明らかにルーマニア人の魂と良心を持っていました。彼は自分の国、軍隊、国王を愛していました。
良いクリスチャンです。彼はサーカスのレスラーのような筋肉と、まさに驚異的な強さを持っていました。
イアジア人は彼のことを長い間知っていました。

戦前、ヤシにはサーカスがやって来て、格闘ショーを開催していました。戦闘員の中にはあらゆる国の人たちがいた。
ハンガリー人、トルコ人、ルーマニア人、ロシア人などが、ある夜、そのうちの一人が他のすべての戦闘員を破ったとき、観客の中から勝者と戦うよう求めて市民が立ち上がった。彼にはこれを行う権限があった。彼は服を脱ぎ、戦いが始まりました。
2分も経たないうちに、ハンガリーのサーカスの実力者は地面に叩きつけられ、敗北した。

観衆の熱狂的な賞賛の中で優勝したルーマニア人は、ほかならぬコンスタンティン•パンクーだった。だからこそ、彼の戦闘への呼びかけがヤシの街頭に初めて現れたとき、力を崇拝する大衆は自信を持ってそれを受け入れた。

彼の努力は1年続き、ボリシェヴィキの脅威が増大するにつれて増大し、減少するにつれて減少した。

最初は小規模な集会が開催され、その後、5,6人、さらには1万人規模のデモが行われました。重要な時期には毎週、プリンス•ミルシア•ホールで、あるいは時にはユニオン•スクエアで開催された。その中で

定期的に話していたのは私でした。ここで私は群衆の前で話す方法を学びました。
疑いもなく、国家良心警備隊はヤシのような重要な場所で重要な瞬間にルーマニア人の良心を呼び起こし、それを共産主義の波に対する障壁として置いた。

ただし、この活動はヤシだけに限定されたものではありません。私たちは他の都市にも行きました。
さらに、定期的に発行される新聞「コンスティンタ」(「良心」)は、モルダビアとベッサラビアのほぼすべての町に警鐘を鳴らしながら浸透しました。
両陣営間の野戦ではほぼ毎日、避けられない血なまぐさい衝突が起こり、我々の側が最も多くの負傷者を出した。この緊迫した状況は春まで続いたが、こちらが 2度大勝したことで相手の攻撃力は大きく低下した。

警備員による州独占庁の占拠

国民意識

それは 1920 年 2 月 10 日か 11 日でした。2 週間にわたって全国ゼネストの話が持ち上がっていました。決戦が近づいていた。
市では正午頃ASMで約1であると報告されました。 000人の労働者が雇用され、ストライキが宣言され、赤旗が掲揚され、国王の像が下げられて足元にドリルが掘られ、その後カール•マルクス、トロツキー、ラコウスキーの像に置き換えられた。

私たちの人々は殴られ、整備士や衛兵隊員は負傷しました。午後1時に約100人が本社に集まりました。何をするか？ Pancu 氏が議論の議長を務めた。二つの意見がありました。政府に軍事介入を求める電報を送るべきだと主張する者もいた。私の意見は、出席者はASMに対処し、危険を冒してでも危険信号を降ろすべきだというものでした。私の意見は受け入れられました。私たちは旗を受け取り、1時にパンクーに率いられ、デステアプタ•テ•ロマーヌ（「目覚めよ、ルーマニア人よ」)を歌いながらラプスネアヌとパクラリに向けて行進を開始した。

路上にある工場の近くで、私たちは共産主義者のいくつかのグループを分離しました。
私たちは工場の庭に入り、建物に入り、旗油を屋上まで運び、そこで植えました。そこからは講義をさせていただきました。軍隊が現れて工場を占拠した。

私たちは歌いながら後退し、素早い攻撃が成功したと考えて本部に戻りました。
私たちの態度に関するニュースは稲妻のように街を駆け巡りましたが、ストライキは続きました。軍は国旗を守ることしかできず、工場を稼働させることはできなかった。何をすべきだったのか ?を探すという考えが私たちに思いつきました

市内の労働者が工場を開設する。 3 日間で、ヤシの各地から 400 人の新しい労働者が工場に入ってきました。これはうまくいき始めました。ストライキは失敗した。 2週間後、ストライカーの半数がこれを行うよう要求した。仕事に戻る。

私たちの勝利は素晴らしかったです。ゼネストへの第一歩は拒否された。ユダヤ人と共産主義者の共同体の計画は阻止され始めた。私たちの行動はルーマニア軍団に反響を呼び、彼らの士気を高めました。

ニコリーナの作品に掲げられた三色旗

最も強力な共産主義センターは、ニコリーナのルーマニア鉄道によって形成されました。
そこでは4,000人以上の男性が働いており、そのほぼ全員がボリシェヴィジ派だった。これらの作品の周囲の住宅地、ポドゥル•ロス、ソコーラ、ニコリーナはかなりの数のユダヤ人によって侵入されました。
ヤシの共産主義運動の指導者ゲラーター博士とその顧問ゲラーがここに抵抗点を定めたのはそのためです。 ASM の敗北から 1 か月も経たないうちに、ゼネストと決戦の開始の合図として、赤旗が掲げられ、工場上にはためきました。ストライキが宣言された。数千人の労働者が退職していった。

当局は無力だった。

Google による機械翻訳

* 国家独占庁、以下 ASM (Tr.)と呼びます。

私たちはチラシを通じてすべてのルーマニア人をプリンス•ミルチャ•ホールでの集会に呼び掛けました。演説の後、私たちは旗を持って建物を出て、群衆全員がニコリーナに向かいました。ユニオンスクエアで私たちは当局に呼び止められ、5,000人以上の武装共産主義者が私たちを待ち構えており、流血が起こるので続行しないよう忠告されました。

そこで私たちはユニオンスクエアから駅に向かって歩き、そこで機械のロータリーと駅の上に旗を掲げました。それで私たちは電車に乗ってニコリーナに行きました。誰かが駅とニコリーナの電車でスイッチを押し、全員がニコリーナの工場に入りました。下りていきます。店には誰もいない。建物の一つに赤い旗が掲げられている。私はトリコロールを歯の間に挟

みながら非常階段を登った。高いところにいたので、少し苦労しましたが、屋根に着きました。私は屋根に登り、這って頂上まで行きました。私は赤旗を掴み、数分間続いた大歓声の中、トリコロールを掲げた。それでそこから私は話しました。壁の外では、共産主義者が数を増やし、着実にコンパクトな集団へと成長し、脅威的な形で迫ってきました。

とんでもないラケットだ。屋内ではフラシ、屋外ではブーイングと罵声が響く。それからゆっくりと地面に降りていきました。パングは私たちに出発を命じた。しかし、共産主義者たちは門のところで私たちの出口をふさぎ、「パンクーとコドレアヌを来させろ！」と叫びました。
私たちは群衆より100フィート先を歩き、ゲートに向かった。
真ん中がパンクー、右が商人のマーガリント、左が私です。私たち三人は何も言わずに、銃のポケットに手を突っ込んだまま前に進みました。
門のところにいる人たちは、静かに私たちを見つめていました。さあ、あと数歩のところまで来ました。弾丸が耳をかすめるのを期待していました。しかし、私たちは、まっすぐに、そして決意を持って前進します。
しかし、これは非常に珍しく、刺激的な瞬間でした。もうあと数歩のところまで来ました。共産主義者たちは我々に心を開いて立ち去った！約10メートルの間、私たちは彼らの真ん中を墓のように沈黙のうちに歩きました。私たちは右も左も見ません。何も聞こえず、人間の息遣いすら聞こえなかった。私たちの部下も私たちを追った。しかし、彼らが通り過ぎると、沈黙は破られました。呪いは双方からの脅迫によって始まりましたが、戦いはありませんでした。一緒に線路に沿って駅へ向かいます。私たちの後ろ、作品の上で、吹く風が勝利のトリコロールの生地を揺らしました。

この行動の道徳的影響は比類のないものでした。ヤシ全員が大騒ぎになった。街頭では誰もが国家良心警備隊のことだけを話していました。ルーマニアの覚醒の底流が空気中に感じられた。列車はこの復活のニュースをさらに国の隅々まで伝えました。私たちは、ボリシェヴィズムが敗北するであろうことを悟った。その理由は、ボルシェヴィズムの前にも側面にも、その拡大を妨げる良心の障壁が築かれていたからである。

彼らの新たな侵略への道は今やすべて閉ざされました。これからは、ゲティ行動のすぐ後に撤退するはずです。アベレスク政権が私たちの努力に加わったため、この運動の見通しは完全に無効になりました。

国家的キリスト教社会主義
国家シンジックス

国家良心警備隊は、敵を倒すために設計された戦闘組織でした。私たちは常に一緒にいて、ほぼ定期的に彼のテーブルで食事をしていたので、1919 年のあの夜、私は何度もパンクーと話していた。そして私は彼にこう言いました。

「共産主義を倒すだけでは十分ではない。私たちは労働者の権利のためにも闘わなければなりません。彼らにはパンを得る権利があり、名誉のために戦う権利がある。私たちは寡頭政党と闘い、国家に対抗するのではなく国家構造の中で権利を勝ち取ることのできる国家労働者組織を創設しなければなりません。
」

「私たちは、ルーマニアの地に、我が国の歴史に関わる旗を除いて、別の旗を掲揚しようとする者を許さない。たとえ労働者階級であっても、私たちはそれを容認しません

それが国に対して反抗したり、国境の外での外国の動きと共通の大義を立てたりしても、誰もそれを認めません

パンのためにあなたは浪費し、銀行家や高利貸しの外国民族の集団に加わります、それはすべて二千年間、労働者と勇敢な人々の汗のおかげで救われます、あなたの権利、そうです、しかしあなたの国民の権利の範囲内で。その厳しさゆえに、あなたが属している国家の歴史的権利が踏みにじられることは許されません。

「しかし、私たちは、色の公式に隠れて、寡頭的で専制的な階級が、あらゆるカテゴリーの労働者の背後に身を置き、文字通り彼らの皮をむきながら、祖国のために空に旗を振り続けていることを認めませんが、彼らはそれを認めていません」愛;彼らが信じていない神。彼らが決して立ち入ることのない教会と、空のバンドを戦争に送り込んだ軍隊。

「これらの現実は、少数の不道徳なジャグラーの手による政治的詐欺の偽りの象徴として利用することはできません。」

それから私たちは労働者を全国労働組合に組織し、さらには「国家キリスト教社会主義」という政党に組織し始めました。そのとき、パンクーは次のように書いた。

国家キリスト教社会主義の信条

私は、ドニエストルからティサに至る単一の未分割のルーマニア国家を信じています。ルーマニア人全員の所有者であり、ルーマニア人だけが所有者であり、仕事を愛し、名誉と神への畏れを持ち、国と国民を気にかけています。男性と女性に市民的および政治的平等の権利を与える者。家族の保護者、公務員に給与を支払う*。

当時、私たちはアドルフ•ヒトラーやドイツの国家社会主義、そして子供の数や行われた仕事、質と量に基づいた労働者のことを聞いたことがありませんでした。そして国家においては、階級差を最小限に抑えて社会調和を擁護する。そして賃金に加えて、工場を国有化し（すべての労働者が所有する）、すべての農民に土地を分配する。

それは所有者（国営または民間）と労働者の間で利益を分配することになる。
元所有者は、自身の給与に加えて、元の投資額に反比例した割合を受け取る必要があります。さらに、国家は当初の投資を保証することになる。さらに、国家は「リスク基金」を通じて労働者に保険を掛けるだろう。それは労働者と公務員に食料と衣類の保証金を提供し、労働者と公務員は全国的な組合を組織し、さまざまな産業、農業、商業機関の理事会に彼らの代表を置くことになる。

私は偉大で強い「労働者の父」であり農民の王であるフェルディナンド一世を信じています。彼はルーマニアの幸福のためにすべてを犠牲にし、私たちの救いのために人々と一つになりました。彼はマラスティとマラセスティの軍隊の先頭に立って敵を破った。それ以来、彼は自分に忠誠を誓っている兵士たち、つまり自分たちの軍事任務が、1年で卒業できる国家にとっての真の学校であることを発見するであろう兵士たちを、愛情と自信を持って見つめ続けている。 「私は、国家キリスト教社会主義の光線に囲まれた三色旗が、大ルーマニアの兄弟姉妹間の調和の象徴であると信じています。

私は、福音に従って福音のために生き、使徒たちと同じように多くの人々の啓発のために自分自身を犠牲にしたいと願う司祭のいる聖なるキリスト教会を信じています。

私は、議会による大臣の選挙、上院の廃止、地方警察の組織、累進的な所得税、村の農業と手工芸の学校、主婦と成人のための「サークル」、障害者と高齢者のためのホームを承認します。国民、国民の家、父子決定、法律に関するあらゆる知識を効果的にもたらし、イニシアチブへのインセンティブを与える

国家の利益のための民間部門と農民の国内産業の発展。

私は、謙虚な羊飼いであっても国民の良心が復活し、疲れた人々の中から教育を受けた人々が降下し、明日のルーマニアの基礎である真の友愛を強め、彼らを助けることを願っています、アーメン！ 「国家良心警備隊」。

新聞コンスティンタ（「良心」）、1920年2月9日月曜日。

そこで私たちは全国労働組合の組織化を始めました。次の文書は、私たちの労働組合の 1 つがどのように結成されたかを示しています。当時のイアジアの労働者の誠実さを強調するためにこれを掲載します。

分！

「以下に署名したASMタバコ工場の商人、労働者、事務員は、今晩、1920年2月2日月曜日、アレクサンドリ通り3番地にある国家良心警備隊の本部で、大統領の議長のもとに会合した。 W.

パンクー、衛兵長官代理。この人々にとって異質な利益に奉仕する特定の個人の犯罪傾向を考慮し、彼らが行っているプロパガンダ、つまりこの組織の幸福と、生涯をかけて働いてきた私たちの存在そのものを攻撃することを考慮してください。一切れのパン、それが私たちと私たちの子供たちの唯一の食べ物です。私たち正直で法を遵守するルーマニアの労働者は、国民の最高の利益によって定められた道を、国の旗の下で共に行進することを望んでいます。この組織の健全性を考慮し、私たちの階級内での敵のプロパガンダをきっぱりと阻止するために、私たちは専門職の全国労働組合を構成することを決定し、その組合に以下の委員会と国民党からの代表を選出しました。良心警備員」。

183名の署名が続きます。

『Constinta』（『良心』）、1920 年 2 月 9 日、第 17 号および第 18 号。

1919 年の状況の実像

私は新聞やマニフェストから重要だと思うものを抜粋して、1919 年から 20 年の瞬間を報告しようとしています。 1919年8月にヤシでコンスタンティン•パンクーによって発行された最初のマニフェストは、一般的に方向感覚
を失った瞬間にヤシのすべての壁に貼られ、ヤシのルーマニア人労働者に対する戦いの合図となった。

ルーマニアの商人、労働者、兵士、農民への訴え

ブラザーズ、

何年にもわたる恐ろしい戦いの後、世界は人類間の平和を祝います。すべての文明国の賢明な指導者は、将来の平和な生存を保証する法律を制定して戦争を終わらせようと努めています。

しかし見よ、東方からは憎しみの声が聞こえる。それは敵が私たちの間にある不和や誤解を通して私たちを引き裂こうとしていることを示している。誤った教えの闇に支配されたロシアから、私たちは血を分けた同胞たちと戦い、銃殺するよう促されている。

かつての偉大さを嘆くハンガリーからも、同じ訴えが聞こえてくる。東の敵は西の敵と団結して私たちの平和を乱し、

侵入します。

国境を越えた外国人は、国内に住む外国人を通して、私たちの間に毒杯を渡そうとします。彼らは、平和、正義、自由の名において、そして労働者の名において、私たちを前進させているとあえて主張します。彼らの言葉は嘘であり、彼らは次の目的のために猛毒を要求します。
彼らは平和を望んでいると言いますが、彼ら自身がそれを破壊し、最も価値のある人々を殺します。自由を要求するが、死の脅迫によって人々は自由に服従するよう強いられる。国家内に憎しみ、不正、放縦をまき散らしながら、兄弟愛を望む。さらに、額に汗して稼いだ資本の廃止も求めているという。

彼らは戦争は望まないと言いますが、彼らは戦います。
彼らは軍隊の廃止を要求しているが、武装している。彼らは私たちに三色旗を廃棄し、その代わりに憎悪の赤旗を掲げるよう求めています。彼がオイトゥズ、マラスティ、マラセスティで戦ったときに敵を信じなかったのと同じように、彼のマニフェストとアピールを信じてはいけません。

すべての善良なルーマニア人の義務は、将来においても、敵が我々の間に蒔こうとしている不和の種が根を張らないようにすることである。
自分の仕事と名誉のために始めた仕事を完璧にしてください。あなた方の敵は、国境を越えて支配する怠惰、憎しみ、不名誉であり、私たちにも脅威を与えます。

注意深い !魂を清く保ち、私たちの救いは働き、団結、名誉であることを忘れないでください。

兄弟兵よ、

神への信仰によって、あなたは敵の力を打ち破りました。あなたは武器を使ってこの国の国境を永遠に刻みました。

あなたはあなたの血であなたの犠牲を完成させ、封印しました。だからこそ、外国の無法バンドがあなたが完成させたものを破壊することを許してはなりません。
祖国への愛と国王への信仰を持ち続けてください。あなたは最後の一滴まで血で祖国の国境を守ると誓った。敵の邪悪な意図から彼らを注意深く守ってください。それが私たちの先祖や先祖がしたことだからです。

農民の兄弟たち、

私たちの先祖の神は私たちの苦しみを憐れみ、これまでに見たことのないほど寛大な一年を私たちに与えてくださいました。あなたの働きと信仰に対して、善き主に感謝してください。働く力を新たにし、土地の産物を熱心に集めましょう。

ティサ川、ドナウ川、黒海の土地は完全にあなたによって征服されましたので、ご安心ください。

それを神聖な場所で守り、あなたの仕事と愛でその富を守りましょう。

ロメス兄弟、

この国の希望と力はあなたの中にあります。明日の幸せもあなたです。呪いを集めるのではなく、祝福を集めてください。
敵はドニエストル川とティサ川を攻撃しています。彼はまた、我が国の内なる平和を乱そうともしている。

私たちの救いは、仕事、名誉、国への愛、そして神への信仰です。
気をつけて、迷い、民も信仰もない人々に渡って来た人々を正しい道に呼びなさい。彼らは玉座の周りに団結し、三色旗の陰で国の平和を見守っています。

私たちを妨害しようとする外国人や外国人恋人たちに、私たちの周りに国家警備隊が結成され、監視し、彼らと戦うことになると伝えてください。

私たちの間に不和を植え付けようとしている人たちです。

世界中のルーマニア人、労働者、職人、兵士、農民は、私たちの祖先と、私たちが生きているこの時代の呼びかけにふさわしい人でありなさい。 (ss) ルーマニアの商人サークル。鉄道牽引組合。戦傷病兵協会。冶金学者ギルドなど

コンスティンタ (「良心」)、1919 年 8 月 30 日、中学 1 年、第 1 号

ローマ労働者の指導者たち

ルーマニアの共産主義労働者の指導者たちはルーマニア人でも労働者でもなかった。ヤシでは: ゲラーター博士、ユダヤ人。ゲーラー、ユダヤ人。シュピーグラー、ユダヤ人。シュライバー、ユダヤ人など

ブカレストにて :イリエ•モスコヴィシ、ユダヤ人。パウカー、ユダヤ人など彼らの周りには、行方不明になったルーマニア人労働者のグループがいた。

もし革命が成功していたら、偉大な王フェルディナンドの座を奪った共和国大統領はイリエ•モスコヴィシだったでしょう。

1919年の大ルーマニア議会で、ルーマニアの全州から議員と上院議員が集まり、連合の偉大な行為に興奮し、立ち上がり、偉大な統一王に拍手を送ったとき、このリー•モスコヴィシ氏は立ち上がることを拒否し、表向きは座っていた。

ユダヤ人マスコミの態度

ルーマニア国民にとって危険な時期におけるユダヤ人マスコミの態度を強調する必要がある。ルーマニア国家が存亡の危機に瀕するたびに、マスコミは敵に最も都合のよい主張を支持した。実際、この出来事の後、ルーマニア復興運動を支持するときはいつでも、同じ主張が頑固に反対されたことが容易にわかります。

彼らにとって、私たちの心配は喜びの日々でしたが、彼らにとっての私たちの喜びは悲しみの日々でした。

自由

今日の国民運動で非常に否定されている自由は、当時は教義とみなされていました。なぜなら、それが私たちの破滅の原因となったからです。たとえば、1919 年 12 月 28 日のアデヴァルル (「真実」) がエミール D. ファグレ (本名ホニグマン) の署名の下に書いたものは次のとおりです。

「社会党には自由にデモを行う権利があるため、この党が特権を持っていると主張することはできない。どの政党がデモを望んでも、その権利は拒否されなければならないだろう…」

SP

憎しみ

同じ紙で次のように読むことができます。

「イオンが率いる暗殺者集団に対する指導者は常に憎しみでなければならない」
ブラティヌ」

ルーマニア人に対するユダヤ人の憎しみは幸いである。サポートされています。一人が彼を呼び出す。それは犯罪ではありません。それは中世の恥ではありません。しかし、ルーマニア人が侵害された権利を守る時期が来ると、彼らの行動は「憎しみ」とレッテルを貼られ、憎しみは野蛮のしるしとなり、何も築けない屈辱的な感情となる。

法的秩序

アデヴァルル (「真実」)、1919 年 10 月 5 日

終わりました！ 「上級」政令法により、選挙期間中、以前よりもはるかに厳しい包囲と検閲の新体制が発足し、反対派と国全体が法律から排除される。それは純粋かつ単純であり、国王だけが全能である軍事独裁政権である。国王と自由党、そしてこれら 2 つの遺言の執行者として、あなたは将軍政府を持っています。 .... したがって、条例は私たちが国王を攻撃することを禁止しています。真実を語ることが攻撃、つまり国王が自由党とともに国を統治するという重責を担っていると理解されるとしても、それでもこの攻撃は行われなければならない。

この法令は、私たちが現在に対して全力で抗議する権利がないと理解される場合、現在の行政形態を攻撃することを禁じています。

二人の違憲の意志の結果として政府が誕生したことに、私たちは抗議します。
この事態に対して他に開かれた道がないとしたら、反乱の扇動や、いわゆる法的秩序に対する反動が何らかの効果をもたらすと知っていたとしたら　残念ながらそうではない　われわれは一瞬たりとも躊躇せずに行動するだろう。したがって、そのようなものに対して他に戦う方法はないので、

Googleによる機械翻訳

独裁的で圧制的な政権。

* 第一次世界大戦中のルーマニア首相(Tr.)

私たちは法の外に身を置き、残忍な武力を行使する武装集団に直面していると考えています...

こうしたすべてにもかかわらず、私たちはその旗を掲げ、倒れてもなお「圧制を打倒せよ」と叫ぶだろう。
「自由万歳」。

これが 1919 年のユダヤの新聞です。
言い換えれば、国王に対する、政府の形態や法的秩序に対する反乱を扇動するということです。

反乱の扇動

アデヴァルル (「真実」)、1919 年 10 月 11 日

「狂人たちよ！ 狂人たちはどこにいるの？」

先ほども言いましたが、我が国には行儀の良い男性が多く、狂った男性はいません。あるいは、クレイジーこそが私たちに必要なものなのです。
1848 年の人々は激怒し、当時のボヤール* 政権を根こそぎにしました。

狂った人材も必要だ。 14 stW で髪を分け合う行儀の良い男性たちが「いいえ」という決断を下した以上、なすべきことは何もありません。
少なくとも一人、あるいはそれ以上の狂人が必要だ。この狂人は何をしようとしているのか、どうやって知ることができるでしょうか？ ……

そこで狂人が依頼される。それから狂人を来させてください。

社会主義者さえ行儀が良くなった。実際、彼らの背後にはパーティーがあり、誰も恐れるべきではない男たちがいます。彼らは怖がっていないように見えますが、それでも行儀が良いです。 I. ナデイデがかつてそうしたように、彼らは頑なに法的枠組みの中に留まり、民間でも軍人でも権力者たちは彼らを追い出したいと考えているが、無駄な努力である、彼らの戦術は法的国家である。 1918年12月13日のように、彼らが銃撃されたとき、骨まで殴られたとき、フリムが手下たちによって墓に下げられたときでさえ、社会主義者たちは抗議する
それは当然のことであり、非常に威厳を持って だが、彼らは法律を逸脱するわけではない。 。

いずれにせよ、我々には狂った人材が必要だ。
今日の情勢に対して違法、あるいは法律に違反する行動を起こす狂人たちを名乗り出させてください。

王冠

ルーマニア人にとって、王冠は常に大切な財産でした。あらゆる危険に直面したときの私たちの団結と抵抗の保証人として、ユダヤ人たちはどんな手段を使ってでも彼を攻撃し、侮辱し、妥協させることを決して躊躇しませんでした。
たとえば、1919 年 11 月 16 日のディミナータ (「朝」) がフェルディナンド王をどのように扱ったかを示します。

「エラーのため」

動物が必要とする心配事は限られていますが、その脳はそれらを満足させるのに十分です。ごくまれに、非常にまれに、動物が間違っていることがあります。同様に、彼の知性はたとえどれほど小さかったとしても、重大な間違いに陥ることを防ぎます。

それは王にとっても同じではありません。

創造王について話したいと思います。

創造の王は、犬、馬、ロバよりもはるかに知性があります。それは正しい。しかし、これらの動物は誰も崖の端から飛び降りたり、水に身を投げて溺れたり、危険な行動を試みたりはしませんが、創造の王は毎日間違いを犯します。

許されないミス……。

* 私は「私は、dvikged -hudhokhn-g @s. ??? (Tr.)」

知恵は王に対し、一人の男や一党の手に囚われることを許さないよう要求した。

敬意を表して、陛下に彼の間違いを伝えるのが私の義務です。あまりにも不透明な状況は陛下の仕業だ。というのは、陛下は、ある種の罪悪感や興味を持った強迫観念に屈して、国内の状況が要求する自然な解決策から逃げたからである。

もし今日でも国王が将来の利益から切り離された自然な道に入ることを決断しなければ、自然はさらに強い決意をもってその権利を要求するだろう。

創造の王に警告を与えましょう。

キリスト教会

オピニア (「オピニオン」)、1919 年 8 月 10 日

ヤシ民族主義者たちは動揺し始める。彼らは非常に少数で、非常に邪悪であるため、かつては反乱を起こしていた彼らの扇動が、今ではばかばかしく、純粋で単純になっています。
国家主義者たちは「国家良心警備隊」を結成した。マニフェストが発行されました。会議が開催されました…

排外主義者の学生も招待された。慣習的な司祭たちも来ました…どこでも、最も横暴な法律によって、国籍間の違いが廃止されつつある時代に、我が国では国家主義者たちがこれらの違いを強調したいと考えています…講和会議は条約によって統制を課そうとしています少数派の……

どこの地域でも教会が国家から切り離され、各個人の個人的な関心事のままになっている中、我が国では国家主義者たちが組織的な宗教的原理宣伝を聖職者に訴えています…

すると司祭が介入し、人々の頭髪をそっと掴み、彼らが気絶するまで額を教会の石に叩きつける。人々が謙虚さと諦めを学ぶのは教会です。これはの意志です

神。

もう誰も嘘に騙されません。民族主義者たちが三色のバンドを袖に留めたり、一般知識人のユダヤ人に対する反感を煽ったり、司祭を教会で私たちに嫌悪感を与えたりするのは無駄である。今日、その忌まわしいものを恐れる人は誰もいません。

私たちは人々の間に愛を説きます。そして憎しみと復讐を宿す神殿の扉を蹴破る……。

署名: M. セヴァストス

行列

オピニア (「オピニオン」)、1919 年 10 月 26 日

「国家良心警備隊」の呼びかけに応じて、高貴な聖職者たちは、ひげ、祭服、旗をデモ参加者に提供した。

しかし、チーム全員に神がいるという贅沢は代償を払わなければなりません。
私たちは税金で司祭ではなく教師を雇用することを望んでいます。したがって、私たちは政教分離を望んでいます。なぜなら、私たちは強制的な寄付が、隠蔽主義、放棄、そして諦めの精神を助長するのに役立つことを望まないからであり、そのおかげで警察体制は中世に戻って維持されているからです。異端審問のため ?私たちは縞模様のズボンと尻尾、軍用チュニックを着た恐怖に憤慨しており、宗教的な習慣を身に着けた恐怖をもはや容認することはできません。政治的、軍事的陰謀によって引き起こされた街頭デモを見るのは心を痛めますし、赤い帽子やスカーフを身に着けたパレードをもう見たくありません…

Googleによる機械翻訳

十分！

教会のドームは人類の肩に重くのしかかっています。ひれ伏す声が彼を地面に引きずり下ろします。

この行列は味気ないものになるだろう。通りでは、博物館の衣服、ダイヤモンドがちりばめられたシープター、ミトル…十字架やストールが見られます。
ひげはなくなり、歪んだ身振りで演説者たちが胸をはだけ、歯の間に酢に浸したスポンジを吸っている血まみれの脇腹を群衆に見せるだろう…

署名: M. セヴァストス

明らかです。ここから将校を攻撃し、縞模様を引き剥がすまであと一歩です。
また、教会をツルハシで破壊したり、オピニア（「オピニオン」）、アデヴァルル（「真実」）、ディミネアータ（「ザ•モーニング」)の小さなユダヤ人記者や国民のための厩舎やサディスティックなパーティー会場に変えたりするための一歩でもある。。

ルーマニアの大きな逆境の時に、私はこれらの新聞のコラムで、敵民族のあらゆる憎しみと狡猾な陰謀がここに定住し、ルーマニア人の哀れみだけで黙認されているのを見ました。彼らがルーマニア軍の栄光とその神聖な軍服を着て亡くなった数十万人に対する敬意の欠如をいかに誇示しているかを私は見ました。国民全体のキリスト教信仰に対する敬意の欠如。

どのページからも私たちの心に毒が流れ込まない日はありませんでした。

私の魂を包み込んだ新聞を読んで、私たちは地球に落ちたと思われたときに、彼らが躊躇なく明らかにした宇宙人の本当の感情を知ることができました。私は 1 年で 3 人生続くほどの反ユダヤ主義を学びました。なぜなら、人々の神聖な信念や彼らの心が愛し尊敬するものを攻撃するには、彼らを深く傷つけ、その傷口から血をにじませることが必要だからです。 17年が経ちましたが、その傷はまだ出血しています。

ここで、この英雄、キリスト教徒の労働者の運動選手、職人コンスタンティン•パンクーについて言及することで、もう一度神聖な義務を果たさせてください。私はその指揮下にあり、彼の名を「赤い獣」と呼ぶまで私は彼の側に立っていたのです。 、敗北しました。この男、彼の勇気と毅然とした態度によって、人々の解放がもたらされるのです。

ヤシの街は破壊される運命にあります。 7年後、この巨人は苦しみと貧困で衰弱し、心臓病の治療の助けを求めてヤシの街を影のように歩き回った。彼は病気で貧しく、忘れ去られ、誰の助けもなく、無関心な国の真ん中で、そして最も困難な時に自らの体で守った都市で亡くなった。

戦後最初の学生会議

クルージュ、1920 年 9 月 4、5、6 日

この会議はクルージュ国立劇場で開催され、26カ国の統一の結果として非常に熱狂的な雰囲気が漂いました。

武力とその犠牲によるルーマニア国民。これは、これまで運命と不幸によって四方に散り散りになった民族の若い知識人たちの初めての会合でした。 2000年にわたる不正義と苦しみは終わりを迎えようとしていた。

何という熱意でしょう !なんと神聖な感情でしょう !私たちは皆、どれだけの涙を流したでしょう！
しかし、現在に対する私たちの熱意がどれほど大きくても、その威厳が私たちの心を支配していても、将来たどる道については見当識を失ってしまうほどでした。

この不確実性から、ユダヤ人権力は、ユダヤ人学生の学生組合への入学の可能性を議会の議題にするよう省庁、フリーメーソン、政治家に提案し、最終的には圧力をかけることで利益を得ようとした。

言い換えれば、ルーマニア協会をルーマニア•ユダヤ協会に変えることが試みられたのである。危険は深刻だった。一方ではボリシェヴィズムがドアをノックしており、他方では、我々自身のグループ内のユダヤ共産主義分子に数で圧倒される可能性があった。そのうちの少なくとも 2 つ、ヤシとチェルナウティでは、状況は悲劇的でした。それにもかかわらず、会議のリーダーであるラブスカ氏、学生団体のヤシ会長とその委員会全員。ナザリエ、ブカレスト大統領とそのすべての委員会およびすべての協会。そしてクルージュの大統領であるプスカルはこのアイデアに魅了されました。若い学生は、特に信仰を持っていない場合、非常に簡単に影響を受けます。彼らは、差し迫った物質的な利益というよりも、特にお世辞や約束された素晴らしい将来の見通しに誘惑されることにした。しかし、若者は、自分がどのような立場に就いているとしても、自分は国家奉仕の番兵であり、買収され、お世辞を言われ、誘惑されることを許すことは職務怠慢を意味し、場合によっては脱走や裏切りにつながる可能性があることを知らなければなりません。

ヤシから来た私たちの非公式の少数のグループは、決意が揺るぎなく、ブコヴィニア人と団結して、二日間激しく戦った。そしてついに私たちは勝ちました。
議会は、学生指導部全員が支持した動議に反対して、私が提案した動議を通常投票で可決した。議会がそのように投票したのは、信念からというよりも、私たちの闘いが遂行された決意と必死さを称賛するためだったと私は信じている。 。

チェルナウの生徒たち、ti はまだ 60 歳未満でしたが、立派な行儀をしていました。
私たちのイアジア人の小さなグループ（20人以下)も同様です。同じくヤシ出身のチョーチーナ20名を加えると、2日間の戦いは100名対5000名で勝利したことになる。

私たちのこの勝利は決定的でした。もし我々の視点が失われていれば、学生団体もルーマニア的性格を失い、ユダヤ人と接触してボリシェヴィズムに傾倒していただろう。ルーマニアの学生団体は大きな岐路に立っていた。

そしてその後の 1922 年には、ルーマニアの学生運動の勃発はなかったでしょうが、おそらく共産主義革命の勃発があったでしょう。

1920 年秋の IASI 大学の開校

他の大学センターでは沈黙が続いた。ヤシにいる私たちだけが、継続的な闘争を運命づけられていました。ヤシ大学の歴史上初めて、大学上院は通常の礼拝を行わずに年度の開始を発表した。

私たちの痛みを誰かに理解してもらうためには、この厳粛な式典が半世紀にわたって途切れることなく、大学で最も美しい行事であったことを知る必要がある。この機会には、大学の上院全体、すべての教授、すべての新しく登録された学生、そしてヤシの知的エリートが参加しました。この礼拝は常に講堂でモルドバ首都圏あるいはその牧師によって祝われ、ルーマニア国民の教育における新年の始まりを祝福した。しかし今、私たちの大学は、大学上院からの意向により、半世紀にわたる伝統のこの宝石を脇に置いておくことになりました。

さらに深刻なのは、ルーマニアの最高教育機関である私たちのキリスト教徒ヤシ大学が、この困難な時代に、神に対する闘争、学校、機関、国における神の追放を宣言していたことです。

ヤシ大学の教授たちは、この傾向に反対することが知られている4、5人を除いて、上院の異教の決定を「野蛮さ」と「中世の偏見」から「ルーマニアの科学」を導く前進として大いに満足して称賛した。 。 」。

共産主義の学生たちは歓喜し、ユダヤ人たちは勝利を収めたが、私たちの中には、教会が取り壊され、祭服を着た司祭たちが祭壇で十字架につけられるまで、どれくらい時間がかかるだろうかと悲しそうに考えていた人もいた。

当時、ヤシの国家主義者の学生約8人は、上院がとった措置を撤回するよう説得しようとして多くの教授たちの門を叩いたが無駄だった。しかし、私たちの度重なる試みは失敗に終わった。

そこで私たちは、新学期開始前夜、大学開学に断固反対するという重大な一歩を踏み出すことを決意しました。
グループになるために、私たちは全員、行動の本部であるスフパン通り4番地で寝ました。朝6時、ウラジミール•フリルヌと私は大学へ出発した。他の人たちも彼に同行することになっていた。私たちは大学の裏口を閉めてバリケードを作り、フリムをそこに残して警備します。私は大きな正面玄関に赤鉛筆で「この大学は伝統的な教会の礼拝に従ってのみ開校することを学生と教員の両方に注意を呼び掛けます」と書いたポスターを貼りました。

残りの仲間たちは遅れて到着しましたが、遅すぎました。学生たちは8時に到着し始めました。
私は入り口で一人、３００人以上の学生が集まる９時半ごろまで抵抗した。数学のミュラー教授が強引に押し入ろうとしたとき、私は彼にこう言いました、「あなたはこの大学の教授になったときに十字架に誓ったのに、なぜ今十字架に立ち向かうのですか？」

あなたが偽証者であるのは、自分が信じていないことを誓ったのに、今その誓いを破ったからです。 」

すると、共産主義者の指導者マリン、フリチュとイオネスク•デ•ボトシャニに率いられた学生たちが私に向かって突進し、大学の正門を開け、私をロビーに連れて行き、棒や拳で私の頭を殴りました。中央に捕らえられ、四方八方から押され、四方八方から打撃を受けたため、防御も反応もできませんでした。最後に、私は一人になりました。敗戦の不運を反省し追い詰めていると、6人の生徒たちが到着した。しかし、敵の勝利も長くは続かず、すぐに大学事務局長が牧師館から降りてきて、次のような通知を投函した。宗教的な儀式。」これは素晴らしい勝利であり、私たちはこの上ない喜びを感じました。 2日後の水曜日の朝、市の住民で満席となった講堂で宗教儀式が執り行われた。みんなに祝福してもらいました。

ACクザ教授は比類のない人物と話しました

雄弁。神とその民のために戦う者は、たとえ孤独であっても決して負けることはない、という信念が私を捉え、そして今も私から離れることはありません。ヤシの世論では、主に ASM と鉄道工場、そして最後に大学でのこれらの闘争が強力な反響を呼びました。 •

敵は、たとえボルシェビズムがほぼすべての大学教授、全マスコミ、すべてのユダヤ人、大部分の労働者によって支持されていたとしても、一方では最小限の若者グループしか存在しないにもかかわらず、深刻な障害なしには前進できないことを認識し始めている。国の将来への強い信念だけを武器に、この巨大な波に立ち向かう人々。これらの若者たちは、地面にあるいくつかの鋭い岩に匹敵する意志の障壁を持っていました。それは簡単に見渡すことができますが、大きな怪我をしないと登ることはできません。実際、私たちは試してみようとさえ思いませんでした。敵は私たちではなく、私たちの決意を恐れていました。国民の正気な部分、キリスト教徒でルーマニア人のヤシは私たちを励まし、同情的に見守ってくれました。

大学の年 1920 〜 1921 年

このような状況で始まった今年は、戦いと衝突が絶え間なく続いた。私たち学生戦士は、私が会長を務めていた学生団体「ステファン•ヴォーダ」を中心に組織されました。ここから私たちは相手を攻撃し、何度も倒します。彼らはルーマニアの文化を軽蔑し、大学やそのすべてを軽蔑しました。

私たちは、大国からこの罪深い後進的なルーマニアの土地にやって来た一部の人たちと同じように、賢明で相談相手であるというふりをしてこの国に来ていました。

彼らは要点では正しかったかもしれないが、私たちの小さな国ではすぐに、偉大な世俗的常識と衝突することになり、ドニエストル川をめぐる大帝国において、彼らが決して持っていなかったことが証明されたのだ。大学では会議ができなくなった。これ以上の決定はできませんでした。学生の大多数は共産主義者とその同調者でした。しかし、彼らは一歩を踏み出すことができませんでした。なぜなら、私たちのグループは決して40歳を超えたことがないからです。私たちは共産主義の思想や実践を攻撃し、その普及を許しません。共産主義者の学生シュピーグラーが逮捕されたときにヤシ大学で試みられたゼネストは、私たちのグループがカフェテリアを占拠し、「働かざる者は食べず」と主張してストライキ参加者の食事への立ち入りを禁止したため、1日後に失敗した。これらの学生が食事に入るのを許可されるべきであると私たちを説得するために学部長と教員からの嘆願はすべて無駄でした。その直後、私たちのグループはユニフォームの変更という新たな勝利を収めることになりました。

共産主義の学生たちはロシア帽をかぶっていたが、それは他の帽子を持っていなかったのではなく、ボリシェヴィズム肯定のこれ見よがしのしるしとしてだった。
大学での衝突の際、これらの帽子は押収され、ユニオンスクエアで焼かれた。それから毎日、大学で、街路で、パブで、狩りが始まりました。キャップはすべて焼けてしまい、一週間後には完全に消えてしまいました。

私たちのグループはさらに進んで、ユダヤ共産主義の報道機関と戦闘を繰り広げました。私たちには自分たちの言葉を伝えるための印刷機がありませんでした。国王、軍隊、教会に関するいくつかの無礼な記事の後、私たちのグループは忍耐力を使い果たし、ユダヤ人ヘフターが発行する新聞「ルメア」(「世界」)とオピニア(「オピニオン」)の事務所と印刷施設に侵入した。 ") そして毒と侮辱を吐き出した
印刷機を破壊した。私たちが暴動を引き起こしたことは間違いありませんが、これらの暴動は、共産主義革命の傭兵たちが我が国のために準備していた大混乱、取り返しのつかない混乱を止めることになるでしょう。

しかし、この活動すべてが私を彼の復讐の主な対象にしたのです。
ユダヤ人のマスコミは私たちを攻撃しました。私は激しく反応しました。ある日、オピニア(「オピニオン」)の編集者たちと街頭で会ったとき、口論の末、私が彼らの侮辱の責任を追及した後、口論になった。私の対戦相手はひどく殴られました。
しかし翌日、ヤシのすべての新聞が私、オピニア(「意見」)、ルメア(「世界」)、ミスカレア(「運動」)に対して共通の戦線を張りました。

IASI大学から永久追放

事態はそれだけではありません。大学上院は直ちに行動を起こした。会ったが、私に謁見も与えずに、私をヤシ大学から永久追放した。

最後に、大学とヤシ市の両方が、2年間ユダヤ共産主義者の平和を乱し、私たちの王の打倒、ユダヤ人の焼き討ちのための革命を解き放つ彼らのあらゆる努力に反対した治安妨害者を排除することになる。教会、銃撃事件

将校らと数十万人のルーマニア人の虐殺。秩序ある男たちと
大学上院の目には、合法性は共産主義者に映った。この秩序を破壊する者。

法科大学院協議会

Googleによる機械翻訳

しかし、本当にユニークな出来事が私たちの通常の学生生活を妨げたため、彼らの計画は失敗しました。法学部評議会は上院が発表した追放に疑問を呈し、学部長のクザ教授を中心にマテイ•カンタクジノ教授、ディミトリエ•アレクサンドレスク教授らとともにこの措置に反対した。
住民の怒りを和らげようとする評議会の取り組み

大学上院は失敗した。上院は追放命令を取り消さなかった。
その後、法学部は上院の代表を撤回し、その決定にもはや反対せず、独立を宣言した。法学部からは、教授会が大学上院の決定を承認しなかったため、授業に出席し続けることができるとの連絡を受けました。それで私はヤシ大学で学生を続けました。

この事件の結果、法学部理事会は3年間大学上院に代表を派遣しなかった。この葛藤は私が大学を辞めた後も何年も続きました。その後、私が卒業証書を受け取ったとき、牧師館は私の卒業証書の発行を拒否しました。そして今日に至るまで、彼らはそれを発行していません。弁護士会に登録して留学を続けるために、法学部から発行された証明書を使用しました。

大学の年 1921 〜 1922 年

新学期は通常の状況、つまり教会の礼拝とともに始まりました。大学とヤシ市は再びお祭りムードに包まれました。
この大きな出来事はブカレストではほとんど注目されませんでした。そこに学生たちが到着すると、数十万人の群衆、騒音、照明、そして多くの利益相反の中で、彼らの数は失われてしまいます。ヤシでは、

学生たちが去ると、鶴や鳥が去っていく秋のように、全体的に憂鬱な雰囲気が漂います。学生たちが戻ってくると、青春が始まり、人生が始まります。休日です。ブカレストの学生たちは、自分たちを見ていない、評価していない、検閲していない、興味を持っていない、愛していない、広大な世界の真ん中で孤独を感じています。ヤシでの学生の教育はブカレストでの教育とはまったく似ていません。なぜなら、彼はルーマニア人の愛の庇護のもと、母親の愛を受けて子供のように成長したからです。ここで国は生徒を育てます。私自身、私ができることすべてに対して、このヤシに大きな感謝の気持ちを共有する義務があります。私はヤシの霊が私に対して抱いている気遣いを常に感じ、彼の愛の光を感じ、彼の忠告、励まし、切迫感、戦いへの呼びかけを感じました。

彼らは、ヤシの生徒である私たちを今も追いかけており、母の憧れと愛の永遠の記憶として、人生の終わりまで私たちを追ってくれるでしょう。ヤシを通過したすべての世代の学生のうち、戦いへのヤシの呼びかけに生涯駆り立てられなかった人がどれほど多いことでしょう。どれほど多くの人が墓に同行できず、どれほど多くの人が今も彼らの非難に悩まされているでしょうか。

今年の初めに目立ったのは、ユダヤ共産主義が後退し、方向性を失い、その士気は事実上ゼロであり、何の抵抗も示さなかった。新入生はみんな私たちの闘いのことを知っていて、私たちのところに来るのを長い間待っていました。ここに来て、彼らは我々の仲間入りを果たした。

法学学生協会会長

その秋、私は法学生協会の会長に選出されました。大学上院は、私が大学から追放されたという口実で私の認証を拒否しました。私は自分自身を検証しました。

私たちの法学生協会は、他のすべての大学の協会と同様に、それぞれの分野での研究を実施し深めるという科学的活動を目的としていました。
たとえば、私の2年前、ネル・イオネスク会長の下で、法学生協会はほぼ毎週会議を開催していました。ある学生は、法律または関連分野に関する本を読み、それを要約し、会議で批評を発表しました。その後、矛盾した議論が続いた。一般的な形式はそのままにしていますが、新しいものも追加しました。これらすべての問題や報告は、ユダヤ人問題を科学的に調査しない限り対処できません。ルーマニアと海外のこの問題、国際的なユダヤ人の権力、国内外のこの問題の歴史を扱った作品が読まれました。私たちは彼らの私たちとの戦い方だけでなく、ユダヤ人の精神や考え方も研究していたので、戦い、身を守るためのさまざまな手段を提案しました。

そして、それぞれの説明の後、議論、結論が出され、最後に、誰もが啓発されて帰ることができるように定められた真理が策定されました。
さらに、同じ会議で次のことを実行するよう努めます。

a) あらゆる段階で、ユダヤ人の精神とメンタリティーが特定され、それがユダヤ人の大部分の思考と感情のパターンに密かに浸透していた。
ルーマニア人。

b) 私たちの解毒、すなわち、学校、文学、教師、講義、演劇、映画撮影などの書籍を通じて私たちの思考に導入されたユダヤ教の排除。 c) 非常に多くの方法で隠されたユダヤ人の計画を理解し、明らかにすること。わたしたちのため

彼らにはルーマニア人が率いる政党があり、それを通じてユダヤ教が語られています。ルーマニア人によって書かれたルーマニアの新聞。これを通じてユダヤ人は自分の利益を代弁する。ルーマニア語を話し、ユダヤ人としてルーマニア語で考え、書き、話すルーマニア語話者および作家。

Googleによる機械翻訳

これらすべてを研究すると、ルーマニア人はその歴史の中で初めて、国家の武器として、狡猾で裏切りな、戦い破壊するための武器として使用する民族と接触したことに気づき始めます。

ルーマニア人は常に正直な戦いだけを知っていた。新しいユダヤ人のやり方に直面して、彼は当惑した。私たちは、結局のところ、敵を知ることがすべてであり、私たちルーマニア人が敵を知れば、敵を倒すことができるということに気づきました。

私たちの会合は年間を通して定期的に続けられました。他の大学からの学生の数が増えたため、ヤシ学生総協会はほとんど存在しなくなった。学生全体が弁護士グループの活動に引き寄せられました。

講堂は、これらの会議に参加したい大勢の学生にとっては小さすぎました。ベッサラビアの学生の参加者数は増え続けています。半年間の活動は私たちに本当の奇跡をもたらしました。ベッサラビアのクリスチャン学生の4分の3が目覚め、新しい人生に招かれていると感じ、啓発されました。短期間のうちに、彼らは私たちの戦いにおいて最も忠実な兵士となり、信仰、献身、純粋な心、犠牲の精神を通じて、隆盛を始めていた運動のリーダーシップを獲得することになるでしょう。

同じ信仰を持ち、キリスト教国のためにならず者ユダヤ人の大群と戦うという誓いを持った友愛のこの瞬間は、決して忘れられることはないでしょう。昨日まで喧嘩していた僕らは今、抱き合っている。

私たちの会議の指針となるのは、我が国の天才であるボグダン•ペトリチェク•ハイデウ、ヴァシーレ•コンタ、ミハイル•エミネスク、ヴァシーレ•アレクサンドリなどの著作でしたが、特にクザ教授の著作と講義、パレスク教授の著作、ガヴァネスクル教授の国民教育の授業でした。

クザ先生の著作はすべて一度だけではなく、三回、四回と読んで勉強させていただきました。
特に、彼の名誉ある立場からユダヤ人問題を見事に扱い、ルーマニア人に彼らの最も深刻な現在の問題を理解するよう求めた彼の政治経済学講座は、それを知ろうとする私たちにとってあらゆる瞬間の指針となった。したがって、私たち、そしてルーマニア人にとっての最大の幸運は、ユダヤ人問題において世界で最も経験豊富な人物の一人であるクザ教授を迎えられたことだった。彼のおかげで、私たちはユダヤ人の策動に方向転換することができました。

最高の学術水準を備えた彼のコースは、これまでにないほどの注目を集めてすべての学生に受講されました。法科大学院の講堂はいつも小さすぎました。このヤシ大学には、長い間、同様の熱意を刺激するナショナリズムについて講義する教授はいないだろう。

その間、私たちの多くにとって、人生は他のあらゆる利益よりも、生存そのものが脅かされている国民のために戦うという唯一の目的を明らかにし始めました。

チェルナウティ大学訪問

他の大学では沈黙が広がった。前年の 1921 年の春以来、チェルナウティでは劇場のルーマニア化を求める運動が始まりました。数日間に及んだ激戦は生徒たちの勝利で幕を閉じた。さて、1922 年の春、私は法学生協会の後援を受けて、ヤアジア人によるジェマウティへの訪問を企画しました。先生方や生徒さんからも好評でした。私たち 100 人の訪問者は、そこにいた 3 日間、他に何もしませんでしたが、私たちの魂の中に広がりつつある新しい信仰をチェルナウティの同僚たちに伝えました。ヤシと同じようにチェル
ナウティにとってもそれは難しくありませんでした。

ユダヤ人の侵略に苦しみ、街路、商業、荒廃した教会、土地、そしてルーマニア人はすべてユダヤ人の支配下でうめき声を上げていた。簡単に言うと、

私たちの間には、人々に一度に会いたいという切望と共通の夢に基づいて、新しくて親密な精神的な親族関係が生まれました。

彼らは、自分自身と自分の国の運命の主人としての尊厳、力、権利の認識に目覚めました。この親密な関係は、1か月後にセマウティの学生たちが再び訪問したことでさらに強化されました。そのとき、私はトゥドセ•ポペスクに初めて出会った。パンドゥルに似た若い戦士の美しい姿をした彼は、後に学生運動の指導者の一人となったが、今では忘れられた十字架の下で貧しい墓地に眠っている。

「アパラエリア•ナショナラ」レビュー

1922 年 4 月 1 日、Cuza 教授と NC Paulescu 教授の指導のもと、隔月刊誌『Apararea Nationala』（「国防」）が発行されました。さまざまな思いや悩みを抱える私たちにとって、この雑誌の発行がどのような意味を持っていたかは、誰でも想像できると思います。

その中に、私たち自身の完全な理解と有用な議論に必要なものがすべて見つかりました。
クザ教授とパレスク教授の記事はすべての若者に信仰的に読まれ、ブカレストとクルージュの両方で、世界中の学生に大きな影響を与えました。私たちにとって、ユダヤ系新聞の論争と闘うための弾薬を輸送するもう一つの手段だったため、毎号の出版は勝利だと考えていました。

当時出版された 2 つの論文をクザ教授とパレスク教授の署名付きでここに転載するのが適切であると思います。

「tmtbの神霊は永遠に人類を守ります。要約すると、ヘブライ人の政治的•宗教的立法であるタルムードは、福音のように財産と支配の情熱と闘うのではなく、逆に、ユダの夢を実現するために、これらの悪徳を理解しがたい頂点に達させます。同時に、全地球の所有者であり、全人類の主でもある。

しかし、キリスト教の使徒たちが自分たちの理想を公然と説いている一方で、タルムードは隠蔽しています。そしてその2つの付属組織、カハルとフリーメーソンはさらに目に見えない。
3人は闇から逃れるために、卑劣で呪われた手段、つまり嘘を使う。
「言い換えれば、嘘はユダヤ人が利用するシステムの基礎であり、誰に対してもそう言えるのです...
「あなたが話すから、あなたもそうなのです。」
しかし、嘘には真実という致命的な敵がいます。なぜなら、真理こそがキリスト教の際立った特徴だからである。キリストは、「わたしは真理である」と言われました。それが、キリストの教義がイスラエルによって崇拝される理由です。

反対に、嘘は、いわゆる悪の霊または悪魔の特徴です。
そこでイエスはヘブライ人に向かってこう言われた、「あなた方は悪魔であるあなたの父から出たものであり、あなたの父の情欲はあなた方の意志である。」彼は最初から殺人者であり、彼の中に真実がないので真実に固執しません。彼が嘘をつくとき、彼は自分自身のために話しているのです。なぜなら、彼は嘘つきであり、嘘つきの父親だからです。 '

「キリストはこの世を去り、弟子たちに無敵の武器、すなわち御霊を送りました。真理の神聖な霊であり、人類を偽りの悪魔の霊から永遠に守るでしょう。」私はこの真理の霊の前に頭を下げて心の底からこう言います。魂。私は聖霊を信じています！ 」

(NC パレスク博士、『哲学生理学』より。
「タルムード、カハル、フリーメーソン」第 2 巻、ブカレスト、1913 年、300-301 ページ）

反ユダヤ主義の科学

「また恐ろしい言葉の組み合わせです。反ユダヤ主義の科学です。反ユダヤ主義はどうすればできるのか
科学になるのか ?科学者たちは石を持ち、科学者たちはアザラシを持ち、

数学者には×が付き、文献学者には接尾辞が付き、科学者には文化に関するいわゆる「固定された」考え方が付いています。 「反ユダヤ主義？これらの科学者にとって、それは単なる野蛮であり、残忍な本能の盲目的な現れであり、先史時代の名残であり、科学と偏見や情熱から自由な人間の啓発された良心の両方が非難する文明の恥です。

これは特にユダヤ人によって生み出され、ユダヤ化された人々が醸成する反ユダヤ主義を中心とした雰囲気であり、自分たちも現代文明と同じレベルにあるというふりをして純朴な人々を騙したり、愚かな人々の純朴さを利用したりするものである。 '
そして、なりたくない人は誰ですか？
たとえば、ユダヤ化された個人（自身もユダヤ人である)が、数年前に、当時も今日も変わっていない反ユダヤ主義について、信じられないほどの科学者のような雰囲気で語っていたという興味深い事例があります。そして、この著者、nomen-odiosum が Viata Romaneasca (「ルーマニアの生活」)、2 年目、第 2 号で私たちに語っていることは次のとおりです。 1907年11月11日、186ページ、204-207ページ - 後に戦争中の国家行動に対する裏切り者となった国家思想への裏切り者：「私はユダヤ人問題について話したいのですが...下品で凶暴な者たちによって完全に変質しました」私たちの反ユダヤ主義者のユダヤ教信者、彼らはこうして...私たちを文明世界に引き入れます...

「中世の迫害の兵器庫から掘り出された錆びた武器、憎しみのプロパガンダ、行き過ぎへの情熱的な扇動、大衆の獣としての本能の目覚め…大義名分を妥協することしかできないが、反ユダヤ主義の大義名分は妥協するしかない」それは公平ではないでしょうか...

「しかし、この紛争に……人種的迫害、宗教的迫害、一言で言えば反ユダヤ主義という偽りの空気を与えることは、敵の大義に役立つだけであり、一部の狂人のとりとめのない言い分を喜んで利用するだけである……」反ユダヤ主義のスキャンダル屋たちは、この問題全体を時期尚早に議題に上げている…「誰も、特に私たちの人は、現代の思想や外国の政治的行動に対して、無限に影響を免れることはできない…（これらの人々は)つまり、それらは疑念を抱かせるものではなく、脅迫的なものであり、明らかに空想的な政治的気質を含んでいます。

エド。 [つまり、Cuza、Tr 。 】
「したがって、私たちの問題を反ユダヤ主義や人種的憎悪の領域に置くことは、私たちが恥ずべき致命的な敗北に導かれることを意味します...アジアの緊急事態...暴力的なデマゴギー、不健全な扇動...憶測、暗い情熱.... (最後の点は、再び著者の点であり、反ユダヤ主義の脅威と同じくらい恐ろしい犯罪の脅威を予感させるものです。編集者 [つまり、Cuza, Tr]

私は、ユダヤ人に身を売ったすべての人々に典型的な、この典型的な概念を引用しました。そして、それが要約すると、決まり文句（「文明世界」、「現代思想」）、特に中傷（「下品で凶暴なユダヤ教」、「錆びた武器」、獣の本能」など）、一部のマニアックな衝動のとりとめのないものであることがわかります。 、「暗い情熱」）。
」、 反ユダヤ主義スキャンダルの宣伝者、アジア人

そのような「感謝」は、一般のユダヤ人の愛好家からだけでなく、時には他の分野の文化の著名な代表者からさえもたらされることがわかります。
したがって、たとえば、著名な法学者、大学教授、弁論家、政治家、元公共指導大臣のAC アリオン氏は、下院本会議でアポストロフィを使って私の反ユダヤ主義を理由に私を指摘しました。 「有名」というのは、私を穴居人と呼ぶそのような男から来ていると言えます。

ユダヤ人に関して言えば、彼らの反ユダヤ主義の説明はさらに特徴的である。
「憎しみと野蛮さをもって」というよくある決まり文句は別として、もちろん理由もなく、彼らは動機について議論することを気にしませんが、彼らによれば、反ユダヤ主義は狂気であり、知的退廃であり、精神の苦痛です。これは、最も著名な現代ユダヤ人の「知識人」の一人である K. リッペ博士によって、私たちがどのように見なされているかである。彼は、中世の有名なタルムード注釈者ラーシのひ孫という輝かしい出自を持ち、「セベゴイム•バログ（殺せ）」と述べた。ゴイムの最高のもの）。

医者。 K.リッペ医師はガリシア出身でヤシに定住し、そこで女性を中絶して殺害した罪で服役し、さらにドイツ語で「精神疾患の症状 - 反ユダヤ主義」という特別な著作を執筆した（1887年）。 。

そして、反ユダヤ主義に対して寄生ユダヤ人が使用する議論が、ユダヤ化された人々の議論と同様に非常に貧弱であるという証拠として、そして常に同じであることを証明するものとして、ここに国連の公式機関であるCurierul Israelit（「イスラエル人の急使」)があります。帰化ユダヤ人は今週金曜日15日号の社説でこう述べている。

1922年9月、『Aparare'a Nationala』(「国防」)に書いた私たちに向けて、「悪党の集団」という中傷的なタイトルで書かれた。

これらの反ユダヤ主義者には、感覚の倒錯に達した知的退廃の状態が存在し、それによって触れられた者が嘘や中傷に駆り立てられる一種の精神的サディズムが存在する。ご覧のとおり、これは非常に単純な説明であると同時に、非常に素朴な説明でもあります。

ユダヤ人に対する偏見は、特定の知的退化による嘘と中傷です。
ユダヤ人およびユダヤ化された人々によると、反ユダヤ主義の定義は、当然のことながら「反ユダヤ主義者」の野蛮さと狂気というこの 2 つの言葉に要約されます。社会現象としてのユダヤ人に関しては、彼らはこの「説明」にさえ立ち入らない。まるで存在しなかったかのように。この野蛮さと狂気こそが、エジプト人、ペルシア人、ローマ人、アラブ人を含む古今東西のあらゆる民族、そして現代に至るまでユダヤ人を国家的脅威とみなして彼らに対して行動を起こさざるを得なかったのである。

キケロ、セネカ、タキトゥス、ムハンマド、マルティン•ルター、ジョルダーノ•ブルーノ、フリードリヒ大王、ヴォルテール、ヨーゼフ二世、ナポレオン一世、ゲーテ、ヘルダー•ルートヴィヒ•フォイエルバッハ、リヒャルト•ワーグナー、ビスマルク、ルドルフ•ヴィルヒョウ、テオドール•ビルロート、オイゲン•ディーフィーリングなど、あらゆる分野でユダヤ人に対して 、イマヌエル•カント、フィヒテ、ショーペンハウアー、シャルル•フルニエ、声を上げた無数の人たち。

最後に、シミオン•バルヌティウ、BP•ハイダウ、ヴァシーレ•アレクサンドリ、ヴァシーレ•コンタ、ミハイル•エミネスクなど、私たちの文化の最も著名な代表者の反ユダヤ主義は、野蛮さと狂気によって説明されています。

野性的で狂気: そのすべて、文明的で行儀が良い: ユダヤ化された人々、そしてユダヤ人: 存在しない、そしてユダヤ化された人々の卑劣さは社会現象としての反ユダヤ主義を説明できない、我々はそれを反ユダヤ主義理論と呼ぶことにする。
私たちの理論によれば、反ユダヤ主義の憲法では、本能、良心、科学の 3 つの段階を区別する必要があります。

当初は目先の物質的利益に関心を持っていた群衆を、本能が常に本能に導かれ、大衆運動を通じてユダヤ人寄生主義に反対するようになった。その運動はしばしば一般化され、血なまぐさいものであったが、これは世界中の他の多くの運動の中でも同様であり、例えば、ウクライナにおけるコサックの恐ろしい運動が主導したものである。 1649年に25万人以上のユダヤ人が死亡したボグダン•フメルニシイ著。

ユダヤ人の脅威に対する意識は、まず教育を受けた階級から徐々に目覚め始めます。
そしてそれは広がり、大衆に浸透していきます。最初のグループは人々に加わり、彼らの要求を支持します。したがって、後者は徐々に意識的になります。

科学は部分的な研究から始まり、最終的には 私たちの時代に限っては その目的の決定に達する。すなわち、ユダヤ教を社会現象として研究し、ユダヤ教を隠れようとする環境から排除し、それが人間の問題であると結論づける。実のところ、最も偉大であり、その解決策が見つけられなければなりません。

これまでの部分的な研究によって到達した結論を考慮すると、それらは科学の反ユダヤ主義を形成していると言えます。これが基礎であり、反ユダヤ主義の科学と混同すべきではありません。それらを区別するものは次のとおりです。彼らの異なる目標。そして、この科学の目的に基づいた定義は次のとおりです。これは、それ自体が真の科学であることを明確に示しています。

反ユダヤ主義の科学は社会問題としてのユダヤ教をその対象としており、したがって必然的にその解決に貢献できるすべての科学を総合したものとなる。

部分的な研究を通じてユダヤ教の知識に貢献するこれらの科学が何であるかについては、すでに見てきました。
そしてこれが反ユダヤ主義の科学がどのように利用するかです

彼らの調査結果は解決策に到達します。
歴史によれば、ユダヤ人は太古の昔から、畑を持たずに放浪の民、遊牧民であったことが証明されています。反ユダヤ主義の科学は、そのような遊牧生活は座りがちな農耕民族の幸福に反しており、容認できないことを証明しています。

人類学は、ユダヤ人はセム人、アーリア人、黒人、モンゴル人など、互いに異なる人種の混合であると確立しています。反ユダヤ主義の科学は、この異人種間の混血の結果として文化分野におけるユダヤ民族の不毛性を説明し、次のことを示しています。

メスティーソは他国の文化に何も貢献できず、文化を改ざんして自国の特徴を損なうだけである。

神学は、ユダヤ教が、その神であるヤハウェと、他の民族から離れて選ばれた聖なる民（アムコード)とみなされるユダヤ人との間で結ばれた特別な契約に基づいた排他主義的な宗教であると確立しています。
反ユダヤ主義の科学は、そのような概念がユダヤ人との平和的協力や同化の可能性を排除すると厳密に推論している。

この政策では、ユダヤ人は他の国のどこにいても独自の社会組織を持ち、国家の中に国家を構成していると述べている。反ユダヤ主義の科学は、「ユダヤ人は無政府分子であり、あらゆる国家の存在にとって危険である」と結論付けている。

政治経済学によれば、ユダヤ人は常に、パレスチナであっても、自らが直接の生産者ではなく、労働力を搾取し、他国に重ねられた民族として生きてきたことが証明されている。反ユダヤ主義の科学によれば、あらゆる人々はユダヤ人による搾取から自分たちの生産的な仕事を守る権利があるが、ユダヤ人は寄生虫のように生きて人々の存在を危険にさらすことは容認できない。

哲学は、ユダヤ教の生命概念が人類の進歩に反する時代錯誤であることを証明しています。反ユダヤ主義の科学は、文明への義務として、この文化的な怪物をすべての国の共同の努力によって撲滅することを課しています。

反ユダヤ主義の科学は、さまざまだが異なる特殊科学が客観的に確立したことに基づいてその結論を立てているが、それらはすべて必然的に同じ結論に至る。つまり、ユダヤ人を他の民族の真っ只中から排除することで、不自然で寄生的な存

在に終止符を打つというものである。文明と平和に反対する時代錯誤的な概念を、もはや容認できないすべての国の人々に。

見てわかるように、この反ユダヤ主義理論は、反ユダヤ主義を 2 つの個別の表現に還元したユダヤ人およびユダヤ化理論とは異なります。実際、それらは一斉に現れた瞬間に、野蛮と暴力という社会問題になります。 -そしてそれについても説明しています。

反ユダヤ主義の本能は、時には野蛮さや憎しみを伴うこともあります。
生命を守るためには本能が不可欠であるにもかかわらず、本能は盲目だからである、と彼らは言います。
しかし、いかに「野蛮」であっても、反ユダヤ主義の意識が本能に加わり、その衝動が強化される。

「文明化」されるためには、まず人が存在しなければなりません。

反ユダヤ主義の科学は最終的にこの現象を説明することに成功し、人々の良心にさらに光を当て、彼らの本能と暴力的な爆発を完全に満足させ、ユダヤ人の寄生という原因の暴露によって正当化されました。
したがって、ユダヤ教の問題に対する科学的解決の公式が与えられ、それを理解するには、現代の反ユダヤ主義を適用するだけでよく、したがって、本能のエネルギー、良心のエネルギー、科学のエネルギー、真実が完全に明らかになり、恐るべき社会的勢力を形成し、確かに現代文明の最大の問題であるユダヤ人問題を解決することができます。そして、ユダヤ人とユダヤ教徒は、この大国に対して、自分たちの寄生の運命を引き延ばしようとして何をしているのでしょうか ?私たちは常套句、中傷、気まぐれを見てきました。

「我が国の反ユダヤ主義者の低俗なユダヤ教…」「彼らは文明世界の目から見ると私たちを危険にさらしている…」、「中世の迫害の兵器庫から掘り出された錆びた武器…」、「獣姦の扇動」 「大衆の本能…」、「アジアの衝動…」、「狂気…」、「精神的サディズム。 '

これらはすべて、彼らが我々の反ユダヤ主義に反対する議論である。なぜなら、彼らには他に他に根拠がなく、遊牧民の寄生によって反乱を起こしているすべての国々の中で復讐のエネルギーがくすぶっている一方で、自分たちの愚かさによって反ユダヤ主義を終わらせることができると考えているからだ。 」

AC Cuza、Apararea Nationala (「国防」) No. 1922 年 11 月 16 日、15 日、最初年。

キリスト教学生協会財団

1922年5月20日、限られた会議で、私たちは牧師館の支援を受けた反対派の残党の手にまだあったヤシ学生総協会を廃止し、今日も存続している「キリスト教学生協会」を設立しました。私たちは設立当初は小さなグループでしたが、その後、学生サークルを設立し、後に法学生協会に発展しました。そして今、ついに私たちの努力の中から、クリスチャン学生協会の名の下に本当の一般的な学生協会が誕生しました。ヤシの学生全員が打っていましたが、1919 年とは対照的に、別の学生団体でした。

この時点で、私の心にはかなりの憂鬱がなかったわけではありませんが、3年間の戦いと、あまりにも多くの試練の炎の中で燃え上がった親愛なる友情を経て、私は大学、学生生活、そして戦友たちから離れる日が近づいていました。卒業試験まであと 1 か月しかなかったのですが、ここを離れなければならないという考え、心の中で固く結ばれていた私たち 1919 年高校卒業生が散ってしまうという考えから立ち直れませんでした。だけは知っています。国のどの隅まで。だからこそ、法学学生協会にサヴァ•マルギンカヌ氏、キリスト教学生協会にイリエ•ガルニータ氏を私の後任に任命した後、最も団結を感じた26人の同志が、私たちを学生として団結させた信条のために、どこにいても戦うことを誓いました。大学にて。私たちは全員でその誓いに署名し、瓶に入れて埋葬しました。私が卒業クラスに合格した後、戦いに新しく参加した 46 人の第 2 グループから別の票が投じられました。彼らはフーシでの私のゲストであり、そこで私たちは4日間会議を開き、将来の活動についての細部を頭の中で明確にしました。ここで父は何度も戦友たちに語りかけ、戦うよう激励した。そこで私たちは、国民にとってより良い、より公正な日々を望みながら、魂の中に別れを切り出しました。

名誉の義務

下記に署名したヤシ大学の学生は、ルーマニア国民が我が国の土地を横領し、国の指導力を掌握しようとする外国人によってその生存そのものが脅かされているという困難な状況を認識している。私たちの子孫が貧困と悲惨によって土地を追われ異国の地をさまようことがないよう、また国民が外国民族の圧政で血を流さないように、私たちは祖国を守るという新たな神聖な理想を中心に断固として立ち上がる。ユダヤ人の侵略に反対。

この理想に基づいて、私たちはヤシ大学キリスト教学生協会を設立しました。この理想を胸に私たちはホールを後にします

Google による機械翻訳

今日は学校から。

どこにいても、自分たちの正義のために、脅かされている国民の命のために戦うことは、私たちの名誉ある主な義務であると私たちは考えています。このような理由から、今日、1922 年 5 月 27 日土曜日に集まった私たちは、悲しみに暮れた心に火を灯すために、青春時代に私たちを活気づけた火を国中に広げ、あらゆる場所に持ち歩くという共通の義務に自らを誓います。人々は真実の灯火であり、これらの土地で自由な生活を送る権利の灯火です。

私たちは、今日脱退し、引き続き支援メンバーである協会との緊密な連絡を維持し、共通の闘争において常に私たちを団結させる中心点となります。私たちは 8 年後、1930 年に 5 月 1 日から 5 月 14 日までヤシ大学で再会します。会員委員会は、その日の 2 か月前にすべての会員に通知が届くよう手配し、到着の手配をします。私たちは、この協会を通して私たちに従うすべての世代の学生を招待します。彼らは祖国の祭壇に自分の作品を祀ることに理解を示さなければなりません。その年、その日、ヤシ大学で私たちに参加してください。

1922 年 5 月 27 日

コーネリュー
ゼレア•コドレアヌ•フーシ N.
ナデイデ、21 University St.-
ヤシ•グリッグ。ギカ、23 Carol St.-Iasi I.
サルブ、
Rudi、Soroca County Grigoriev Eusevie、Cargaiani、
Cetatea-Alba County Ilie Gameata、40 Muzelor St.-Iasi Alexandru
P. ハギウ、チェトレスティ-ヴァスルイ Loan Blanaru、35
Tabacari St. -Husi Constantin C. Zotta、13 Major
Teleman St.-
Husi A. Ibrailianu、3 Ghica Voda St.-Galati M.
ベルテット、プルカリ、セタテア - アルバ郡 Iacob I.
フィリペスク、Tg.
Falciu、Falciu County Leonid Bondac、5 I. Heliade Radulescu
St.-Soroca C. Madarjac、71 Apostol St.-
Galati 1. Miclescu, 165 Portului St.-Galati lonel 1.
Teodoreanu,
Muzelor-Galati Laseu Nicolae、22 Sinadino St.-Chisinau
Bobov Mihail、85 Podolskaia St.-Chisinau Mihail V.

サルブール、マスカウティ、オルヘイ郡 Nicolae B.
Ionescu、59 Constantin
Brancoveanu St.-R-Sarat Pavel Epure-Cetatea-
Alba、大聖堂 Gh。
ボカ、バラセアナ、スチャ
ヴァ郡 ヴァシル•ニコラウ、61 ラスカー•カタルジュ•サン•フーシ アンドロニック•ザハ
リア、パルテスティ•デ•スス、ブコヴィナ ヴァシーレ N.
ポパ、パウネスティ、プルトナ郡 ヴァシル•コルニチュウ、プトラウテ
ィ、スチャヴァ郡 ニコラエ•N•オーライト、テレブレシア、シレト
郡 Gr 。 Mihuta, Scheia, Suceava County Ciovanu Stefan,
9 Sturza St.-Suceava Eugeniu Cardeiu, Bilca,
Radauti County Eug. N. マノレスク、エプレニ、ファ
ルシウ ヴィアディミール県

フリルヌ、カルマトゥイ、カハル•ガ郡。
Zarojeanu、40 Muzelor St.-Iasi
Prelipceanu Tit。ヴァシル、ホロドニクル デ ジョス、ラダ
ウティ郡 Prelipceanu Gr.ラダウティ郡ホロドニクル
•デ•ジェブス、ヴァシル、ラダウティ郡ホロドニクル•デ•スス、ラ
ダウティ郡コンスタンティン•ダリエ、シレト郡テレブレチ
ャ、ステファンへのパセアル融資 ミハイル•I•バボール、バラセアナ、
スチャ
バ郡サヴァ•マルギネアヌ、スチャバ郡ストロエステ
ィ タラヌ•トライアン、スチャバ郡ストロエスティ
アル。ピストゥガ、タルナウカ、ドロホイ郡 ドラゴミル•ラ
ザレスク、タルナウカ、ドロホイ郡 コンスタンティン
•C•カンパヌ、シャイア、スチャヴァ D.
ポロスニク郡、グルメゾアイア、ファルシウ•N•Ghウ
ルス、マルステニ、コヴルルイ C. ギカ郡、23 Carol St.-Iasi

大学での勉強の終わりに

大学で過ごした 3 年間が目の前で過ぎ、家ではどうすればこれほど多くの障害を乗り越えられるだろうかと自問しました。何千人もの人々の精神性、意志をどうやって打ち破ることができるでしょうか。どうすれば大学上院議員を倒すことができるのか。そして、どうすれば敵のマスコミ全体の大胆さを和らげることができるでしょうか ?傭兵を雇い、新聞を発行し、田舎に出て、この本当の戦争を煽る資金が私たちにあったのだろうか ?私たちには何もありませんでした。

私がその最初の戦いに身を投じたとき、私は誰かの主張のため、あるいは作話の結果として、あるいは実行する責任を負わされた事前の決定の結果として、あるいは、さらには長く続く内なる大きな衝動に基づいて、そうしたのではありませんでした。混乱や思考。私がこの問題を深く考えた。そんなことは何もない。どのようにしてこの戦いに参加したのか説明できませんでした。

おそらく、悩みや考えを抱えながら道を歩いていて、家を焼き尽くした火災に驚き、コートを脱いで炎に巻き込まれた人々を助けようと飛び降りる男性のようなものかもしれない。 19～20歳の頭脳を持った私は、見たものすべてから、国を失いつつあること、もはや国を持たないこと、貧しく搾取されているルーマニアの貧しい労働者の無意識の協力によって理解した。 、支配的で壊滅的なユダヤ人の大群が私たちを飲み込むでしょう。私は単なる自己保存の本能からではなく、自分の一部である人々を守るために、自分の心の命令に従って、這う小さな虫でも持つ防衛本能に従って行動しました。ですから、私はいつも、すべての人々が、生きているすべての人たち、祖国のために亡くなったすべての人たち、そして彼らの将来の世代とともに私たちの後ろにいると感じていました。私たちの国民が私たちを通して戦い、発言すること、この歴史的存在の前に敵の数がどんなに多くても、私たちが蹴散らして打ち負かすほんの一握りの惨めな人間にすぎないこと。

だからこそ、無思慮な大学上院議員をはじめ、私たちの反対派がすべて失敗したのです。彼らは、大勢の狂気の若者たちが私たちの中で戦っていると信じて、実際に戦い、自国民を打ち倒したのです。すべての人をそれぞれの立場に置く自然の法則があります。ルシファーから現代に至るまで、自然に対する反逆者たちは皆、常に知恵に欠けていたものの、多くの場合非常に知性があり、呆然としてしまいました。

この自然法、この賢明な秩序の枠内では、誰もが戦うことができ、彼らの間で戦う権利があります。その外で、それに逆らって、この命令のもとでは、誰もできません。

Googleによる機械翻訳

罰なしで発動し無敵。人間の生体では、血球はその構造内に留まり、機能しなければなりません。小球が生物に対して扇動する場合だけでなく、それがさらに少ない場合、つまり、それが自分自身に奉仕するとき、自分自身を満足させるだけのとき、自分自身の外に他の目的や理想を持たないとき、反乱が起こるでしょう。それがあなた自身の神になったとき。

写真の中の人物であり、人々に奉仕している人物。神と神の法律の構造と奉仕の中にある人々。

これらのことを理解した者は、たとえ一人であっても勝利するでしょう。理解できない者は負けます。そんな思いを抱えながら大学3年生を終えた。組織の観点から言えば、私たちはリーダーと規律という概念を確立していました。民主主義は、憶測や理論によって達成された確信によって排除されたのではありません。

私たちは最初から反民主主義的に生きてきました。いつも私が率いていました。 3年間で私が法学生会会長に選出されたのは1回だけでした。
それ以外のときは、ファイターたちが私をリーダーにしたのではなく、従うべきファイターたちを選んだのです。私は委員会を設置したこともありませんし、提案を投票にかけることもありませんでした。ただし、必要に応じてみんなに相談しましたが、自分の責任で自分で決めました。
だからこそ、私たちの小さなグループは常に揺るぎないユニットであり続けています。行動や理論の問題で互いに対立する、多数派か少数派かにかかわらず、意見が分かれた派閥は存在しなかった。

他のすべてのグループでは、その逆が当てはまりました。だからこそ彼らは敗北したのだ。

偉大な信仰は、私たちの心の中で燃え続け、私たちの道を照らす炎のようなものです。お互いへの忘れられない偉大な愛、素晴らしい規律、戦闘中の決断とバランス

戦闘計画の検討。これら、私たちの国と神の祝福が、その 3 年間での勝利を私たちに保証してくれました。

1922 年の夏

1922 年の夏は平穏に過ぎませんでした。モルドバの都市にあるルーマニアの国立劇場または共同劇場の舞台で、「カナポフ」一座によってユダヤ人の演劇がイディッシュ語で上演され始めました。私たちの若者たちは、ルーマニア国民の国家教育と道徳教育を目的としたこの教育機関の疎外の始まりを見て、これを脅威と考えました。商工業、ルーマニアの豊かな土壌と下層土を報道機関で収奪され、いつか私たちは国立劇場の舞台からも収奪されるのを目にすることになるでしょう。劇場は、学校や教会と同様に、退廃的な国家にその権利と歴史的使命を認識させることができます。それは国家を解放に向けて闘争する準備を整え、動機付けることができます。これからはこの砦さえも奪われてしまうだろう。ルーマニア人の汗と資金で建設された私たちの劇場は、ユダヤ人が私たちとの戦いで軍隊を準備し強化するのに役立ちます。そしてその一方で、ルーマニアのこれらの段階から、彼らは私たちルーマニア人に「精神的な食べ物」として提供することになり、そのすべてが私たちの国民の士気の低下と道徳の衰退と破壊に寄与することになります。

この新たな反ルーマニア攻撃に対して毅然とした態度をとるのは、他者、つまり政府、当局、あるいは教師の義務であった。しかし、どれも取られませんでした。打撃の危険を冒し、無数の侮辱を浴びせられながらも、どこにも支援を見つけられず、可能な限り最善の対応をしたのは若者だけだった。この戦いは、フシ、バリアド、ボトシャニ、パスカニなどのすべての都市で、どこでも高校生たちに助けられたヤアジア人学生のグループによって戦われた。

彼らはユダヤ人でいっぱいのホールに入り、サタンの出演者たちにつかめるものは何でも投げつけ、ステージから追い落としました。

ルーマニア人。

おそらく、野蛮な方法で、と言う人もいるかもしれません。私もそうかもしれません。しかし、外国にとってそれはどれほど文明的なことなのでしょうか？

私の国のあらゆる品物を次々に略奪するのか ?同じ国民が私の文化を汚染し、それをステージ上で提供して私を殺すというのは、どれほど文明的なことなのでしょうか ?
ロシアのユダヤ人が使用していた手段はどれほど文明的でしたか?裁判もせずに何百万人もの人々を虐殺することがどれほど文明的でしょうか ?教会を焼き払ったり、キャバレーに変えたりするのはどれほど文明的でしょうか ?

私自身、貧困と貧弱な力で、できる限り攻撃から身を守ります。できれば活字で。彼らがまだルーマニア人であれば、当局の援助を得て。誰かが聞いてくれれば、言葉で。最後の手段として力ずくで、そして全員が黙っていれば。自分自身を裏切ったり生来の卑怯さによって国を守らなかったり、まったく反応しない者は、価値のない裏切り者である。

いずれにせよ、この闘いは抗議活動であり、卑劣で恐ろしい沈黙の真っただ中での唯一の抗議活動であった。翌日、私たちの同志たちは打ち傷と満身創痍で戻ってきた。なぜなら、15人の若者のグループが3、4,000人のユダヤ人がいる劇場に入るのは容易ではなかったからである。そして特に、彼らはルーマニア人たちの中傷と悪口に意気消沈して帰ってきた。

私はよく自問します。これほど小さなグループである私たちが、これほど多くの打撃やあらゆる方向からの叱責に直面しながらも、何が私たちを前進させたのだろうか ?どこにもサポートが見つかりませんでした。私たち全員に対するこの戦いにおいて、私たちは自分自身の中に唯一の支えを見つけます。私たちは、私たちの土地と国民のために戦い、苦しみ、殉教者として亡くなったすべての人々とともに、国家運命の偉大な道を歩んでいるという確信の中で。

ドイツ語に

私は 1922 年の秋にヤシに戻りました。そこで私は、自分の古い考えを仲間たちと共有しました。それは、ドイツに行って政治経済の勉強を続けると同時に、私たちの考えや信念を受け入れるという自分の意図を実現しようとするというものでした。海外。 。私たちは、研究に基づいて、ユダヤ人問題には国際的な性格があり、したがってその反応は国際的な範囲を持つべきであることをよく理解しました。この問題の完全な解決は、次のことを除いては達成できないということです。

すべてのキリスト教諸国がユダヤ人の脅威に対する認識を目覚めさせた行動を通じて。
しかし、お金も服もありませんでした。仲間たちが私に服をくれたり、お金を借りてくれたりしました。

エンジニアのグリゴレ•ベジャンから 8,000 レイが支払われ、能力に応じて毎月返済されることになっていた。このお金を持って私はベルリンに向けて出発しました。別れた人たち全員に駅まで同行してもらいました。彼らは今は家に残って戦い続けています。

彼らがベルリンに到着すると、2 人の学生友人、バランと C. ゾッタが大いに助けてくれました。私は大学に出願しました。登録当日、私は民族衣装を着て、古くからの伝統に従って学部長が新しい申請者一人一人と握手をするという美しい式典に出席しました。大学のホールでは、ルーマニア人の服装のため、私は一般の好奇の対象でした。

1922 年のドイツに関するこれらの文章の読者は、特に 2 つの質問、つまり一般的な状況と反ユダヤ主義運動の状況についての質問に興味を持つかもしれません。

敗戦で終わった戦争が残した傷は今も血を流している。物質的な悲惨さがベルリンとその他の国を覆いました。最近では、富の重要な中心地であるルール渓谷も占領されました。私はブランドの急激かつ壊滅的な凋落を目の当たりにしました。労働者宿舎ではパンも食料も仕事もなく、何百人もの子供たちが通行人に近づき物乞いをしていた。ブランドの凋落はドイツの貴族も同じ悲惨な状況に陥った。お金を持っている人は、少数ではありますが、

Googleによる機械翻訳

彼らは無一文だった日々。高価格の蜃気楼に惹かれて土地や不動産を売却した人々は、数週間で貧困に陥った。
国内外のユダヤ人資本家が巨額の取引を成立させた。ハードカレンシーを持った人々は、わずか数百ドルで50棟の巨大なアパートの所有者になった。投機家たちが街中を捜索し、恐るべき詐欺を狙った。

このひどい悲惨な状況を共有したのは何人かの外国人で、その中には私自身も含まれていました。私にはお金がなかったからです。持ってきた8,000レイはもう使ってしまいました。それから飢餓が始まりました。
しかし、一般的な苦しみの中で、彼自身の苦しみはもっと耐えやすいのです。私は困難に直面しても簡単に曲がらないタイプだったので、不幸に屈することなく、それと戦おうとしました。

私はあらゆる可能性を検討し、商業に専念することに決めました。国内で食料の在庫を購入し、ベルリンに持ち込み、レストランに販売するのに必要な資本はほとんどありませんでした。この事実により、私は休暇前に生活が安くなるイエナに引っ越しました。そこで私は、ドイツ国民が苦しむ悲惨な状況のただ中で、規律の精神、労働能力、義務感、正しさ、忍耐力、そしてより良い日への信仰に感銘を受けました。彼らは健康な国民であり、自分たちが打倒されることを許さず、予期せぬ力で、自分たちを抑圧するあらゆる困難の岩の下から立ち上がるだろうと私にはわかりました。

反ユダヤ主義運動。ドイツには反ユダヤ主義の学生を論文、マニフェスト、記章に載せた政治団体がいくつかあったが、いずれも弱体だった。ベルリンの主義主張もイエナのものと同様、何百もの団体に分かれており、反ユダヤ主義者はほとんどいなかった。多くの学生は問題を漠然とではありましたが知っていました。反ユダヤ主義的な学生運動や、ヤシと同様の教義的方向性についてさえ語ることはできませんでした。私は1922年にベルリンで学生たちと何度も話し合いましたが、彼らは今日ヒッティア主義者であることは間違いありません。ヤシで学んだ真理を学生たちに伝え、反ユダヤ主義の教師であったことを誇りに思っています。私がアドルフ•ヒトラーのことを初めて聞いたのは、1922 年 10 月中旬のことでした。私は、良好な関係を築いていた北ベルリンで「かぎ十字」をしていた労働者のところへ行きました。彼の名前はシュトルンプで、ザルツヴェーデラー通り 3 番地に住んでいました。 「ミュンヘンで反ユダヤ主義運動を始めたのは36歳の画家、ヒトラーだと言われています。私には彼こそ、我々ドイツ人が待ち望んでいた人物のような気がします。」と彼は私に言いました。この作業員の予測は的中しました。私はいつも彼の直観力に感心してきた。彼はその直観力によって、彼の時代の10年前に、数十人の中から見ず知らずの一人を魂のアンテナで選び、1933年に成功し、ドイツ国民全体を一つの偉大な命令のもとに団結させることができたのだ。 。

ローマ行進とムッソリーニの勝利というファシストの大勃発のニュースを聞いたのもベルリンでした。まるで自分の国の勝利であるかのように喜びました。世界のさまざまな地域で自国民に奉仕するすべての人々の間には、人々の破壊のために働く人々の間に親族関係があるのと同様に、同情の親族関係がある。

を踏んだ勇敢なムッソリーニも我々の一人だったので、の頭はすべて彼の上に落ち、死を誓いました。私たちにとっても、他の人にとっても、彼は素晴らしい人になるでしょう

北極星は私たちに希望を与えてくれます。彼はヒドラを倒すことができるという生きた証拠となるだろう。勝利の可能性の証明。
「しかし、ムッソリーニは反ユダヤ主義者ではない。あなた方は無駄に喜んでいる」とユダヤ人マスコミが私たちの耳元でささやいた。それは私たちが何を喜ぶかという問題ではなく、もし彼が反ユダヤ主義者でないなら、なぜあなた方ユダヤ人が彼の勝利を悲しんでいるのかという問題だと私は言います。ユダヤ人マスコミによる世界的な彼への攻撃の論理は何でしょうか ?イタリアには、ルーマニアのシレト渓谷のシアンガイ（はるかに小規模な民族）と同じくらい多くのユダヤ人がいます。イタリアの反ユダヤ主義運動は、ルーマニア人がシアンガイに対する運動を始めるようなものだろう。

しかし、もしムッソリーニがルーマニアに住んでいたら、反ユダヤ主義にはならなかったはずだ。ファシズムとは何よりもまず、自国を脅かす危険から国を守ることを意味するからである。それは、これらの危険を破壊し、国家の生命と栄光への明確な道を開くことを意味します。

ルーマニアにおいて、ファシズムはルーマニア国民を脅かす危険の除去、すなわちユダヤ人の脅威の除去と、ルーマニア人が望む権利を持つ生命と栄光への自由な道を開くことのみを意味し得る。ユダヤ教はフリーメーソンを通じて、そしてロシアでは共産主義を通じて世界の支配者となった。ムッソリーニは、イタリアを死の脅威にさらしていた２つのユダヤ人の頭、共産主義とフリーメーソンを国内で破壊した。そこでは、ユダヤ教がその二つの現れを通して根絶されました。私たちの国では、ユダヤ人、共産主義者、フリーメーソンなど、存在するものによってそれを根絶しなければなりません。これらは、私たち若いルーマニア人が一般に、ムッソリーニの勝利の喜びを私たちから奪おうとするユダヤ人の努力に反対する考えです。

学生運動

1922 年 12 月 10 日

私はまだイエナにいたのですが、ある日、すべての大学のルーマニア人学生全員が戦闘に立ち上がったというニュースを見て驚きました。ルーマニアの若者たちのこの集団的なデモは、誰もそれを疑うことなく、国の深部から湧き出た火山の噴火でした。それは、国が行き詰まりを経験するたびに立ち上がり、トランシルヴァニアの中心であるクルージュで初めて現れ、その後、ほぼ同時に、他のすべての大学センターで激しく噴火しました。

実際、12月3日と4日にはブカレスト、ヤシ、チェルナウティで大規模な街頭デモが行われた。ルーマニアの学生全員が、大きな危険が迫っているかのように立ち上がった。歴史を通じて何度も脅かされてきたこの地上の種族は、その存在を救うためにその脅威に直面するために若者たちを解放してきました。事前の準備もなく、賛否両論の議論もなく、委員会の決定もなく、クルージュ出身者はヤシ、チェルナウティ、ブカレスト出身者を知ることもなく、集団として興奮するような素晴らしい瞬間だった。暗い夜の真夜中に稲妻が走るような、集団的な啓発の素晴らしい瞬間であり、この国のすべての若者が自分たちの人生の運命と国民の運命を認識しました。

この運命は、我が国の歴史を通じて輝かしく続き、ルーマニアの将来全体にまで広がり、それが国民に望む人生と名誉であるならば、私たちと私たちの孫たちが歩まなければならない人生と名誉への道を示しています。 。何世代にもわたってこの運命に従い、それに近づき、あるいは遠ざかることができ、それによって国家に最大限の命と名誉、あるいは最大限の不名誉と恥辱を与えることができるのです。場合によっては、同世代から見捨てられ、孤立した個人だけがこの目的地に到達できることもあります。その瞬間、彼らは人々であり、あなたの代わりに話します。過去の何百万もの死者と殉教者全員が彼らとともにあり、明日の国民の生活も同様です。

ここでは、たとえ99パーセントであっても、自分の意見を持つ多数派は重要ではありません。私たちの人々の人生の運命を決定するのは多数派の意見ではありません。
大多数である彼らは、良心と美徳、または無意識と退廃の状態に応じて、それに近づくか距離を置くことしかできません。我が国の人民は、外国人に首を押し付けた何百万もの奴隷によってではなく、アブラム•イアンク、チューダー、イアンク•ジアンのホリアのくびきによって、あらゆるハイドゥチ*を通じて生き残ったのである。しかし、銃口をつけたポーターを背中に乗せ、名誉と自由の輝きを携えて山道を登っていきました。私たちの国民は、臆病で行儀の良い「多数派」を通してではなく、彼らを通して発言したのです。彼らは、何があろうとも、征服するか死ぬかだった。

なぜなら、人は死ぬとき、その死によってすべての人々が生き、その名誉によって名誉を受けるからである。
それらは歴史の中で、夕暮れ時に太陽の光に照らされた高台で金色の灯台のように輝きますが、広大な平原の上には、それがどれほど広くて数が多くても、忘却と死の暗闇が落ち着きます。国家の歴史に属する国民の運命を犠牲にして生きて勝利する者ではなく、勝っても負けてもこの運命を貫く者だけである。私たちのルーマニアの運命は神の知恵によってあらかじめ定められています。 12月10日にはルーマニアの学生が見ることができました。そして、そこにこの日の価値があるのです。ルーマニアの若者全員が光を見たということです。 12月10日、全学生センターの代表者がブカレストに集まり、運動の本質と考える10項目を掲げ、これらの項目の実現を求めて全大学のゼネストを宣言した。

当時ルーマニアの若者全員を悩ませていた真実の本質について代表者たちがどれだけ定式化できたとしても、12月10日は合意事項を定式化する価値としてはそれほど大きくない。この若者が自分の魂が見た光に目覚めたという奇跡のおかげで、それは素晴らしいことです。聖戦を宣言するという共通の行動をとった彼の決断に対して、それはこの若者に多大な心の強さ、多大な英雄的行動、多大な成熟、既知および未知の多くの犠牲、そして非常に多くの墓を要求することになるだろう！

1922 年 12 月 10 日、この地の若者たちは大きな試練にさらされました。

Google による機械翻訳

* 伝説のロビンフッドタイプの男性。(Tr.)

ブカレストの人々も、遠く離れた私も、そしておそらく高校生だったが、今日多くの刑務所で苦しむか地下で眠っている人々も、今日この日が私たちをこれほど多くの危険にさらすことになるとは信じられませんでした。私たちは国を守るための戦いで多くの打撃を受け、多くの傷を負いました。

ブカレスト、クルージュ、ヤシ、チェルナウティでは、指導者ではなく自らの直観力に導かれて敵に向かう学生集団の恐るべき爆発があった。彼らはまずユダヤ系マスコミに目を向ける：アデヴァルル（「真実」）、ディミナータ（「朝」）、マントゥイレア（「救い」）、オピニア（「オピニオン」）、ルメア（「世界」）、ホットベッドルーマニア人にとって道徳的感染、毒、混乱の原因となる。彼らは彼らを破壊するためだけでなく、ルーマニア国民に警戒しなければならない敵の前線の危険性を示すために彼らに頼っている。報道機関に対してデモを行うということは、報道機関を国益の敵であると宣言し、ユダヤ人またはユダヤ化されたルーマニア人が書いた報道に騙されたり、盲目にされたり、誘導されたりしないようにルーマニア人の注意を喚起することを意味する。

この報道は宗教的思想を攻撃し、ルーマニア人の道徳的抵抗力を弱め、神との接触を断ち切ります。この報道機関は反国家論を広め、国民への信仰を弱め、国民を祖国の土地、祖国への愛、常に戦いと犠牲を求めてきた土地から引き離します。

この報道機関はルーマニアの利益を誤って伝え、国益に反する方向にルーマニア人を誤った方向に誘導し、方向づけています。この報道は、外国人が自分たちの利益を満たすことができるように、凡庸な分子や腐敗する可能性のある人々を持ち上げ、ユダヤ教とその利益のために何らの便宜を図ろうともしない道徳的な人々を貶めるものである。

このマスコミは国民の魂を毒し、センセーショナルな犯罪、不道徳な事件、中絶、冒険を毎日そして組織的に公表している。
この報道機関は真実を殺し、ルーマニアの戦闘員に対する破壊の武器として中傷を使用して、極悪非道な執拗さで嘘を提供します。これが、ルーマニア人がユダヤ人の新聞を読むときに注意し、無計画に印刷されていないすべての単語に注意を払い、その背後にあるユダヤ人の計画を解読しようと努めなければならない理由です。学生運動がユダヤ人のニュース編集室に電話をかけ、彼らをルーマニア国民の敵だと宣言したのは、こうした問題だった。私は、学生大衆の恐ろしい爆発は指導者によってではなく、彼らの直観力によって導かれたものであることを強調しました。

なぜなら、誰かが敵対的なデモを行うために数人を誰かの家に追い込むことは簡単だが、大勢の群衆が本能の赴くままに敵意を持って誰かに敵対した場合、その人は控訴の権利もなく敵として非難されるからである。国民。

「ヌメルス•クローサス」

「ヌメルス•クロースス」という公式は学生闘争中に口から口へ伝えられますが、大衆が公式を発行しないため、救済の公式としてではなく、彼らは脅威を指摘します。

「Numerus clausus」とは、ユダヤ人の脅威が多数存在するため、学校、商工業、あるいは独立した職業において、もはやユダヤ人を支援できないことを意味します。 「あなたの大多数に注意を払いなさい」とは「numerus clausus」が意味するもので、それは私たちの国家抵抗力を超えており、私たちが行動を
起こさなければ私たちは民族として滅びることになります。

これはこの式の合計値です。あるいは、経済性の尺度として、お好みであれば、病気を治すにはまったく不十分ではあるものの、必要な応急処置としての緊急処方としての価値があります。
「Numerus clausus」自体は、学校、職業などにおけるユダヤ人の制限を意味します。この制限は何人までですか?ルーマニアにおける全ユダヤ人の数とルーマニア人の数の比率。つまり、ルーマニアにルーマニア人が 1,500 万人、ユダヤ人が 300 万人いるとすると、その割合は 20% になります。 「ヌメルス•クロースス」の公式によれば、ユダヤ人は20%の割合で学校、医療専門職、バーなどに入学を許可されなければならない。「ヌメルス•クロースス」とは、ユダヤ人の数をユダヤ人の数とユダヤ人の総数の間の割合に制限することを意味する。ルーマニア人。

「ヌメロス•クロースス」は国家内でユダヤ人を再分配するための公式にすぎず、問題を解決するための公式ではない。この計算式はかなりの割合を扱っているため、ほとんど何も解決しませんが、ユダヤ人の高い割合を減らすことはできません。ユダヤ人が300万人だとしたら、それだけが残る。特に、この高い割合の原因は治療されておらず、それを軽減する手段も示されていません。最後に、それ自体はユダヤ人問題を解決する手段にはなりません。

ユダヤ人の数

多数のユダヤ人は一連の問題を引き起こします。 1. ルーマニアの土地問題。 2. 都市の問題。 3. ルーマニアの学派と支配階級の問題。 4. 国民文化の問題。

これらすべてはAC Cuza教授の著作の中で完璧に扱われています。
人物、芸術における国籍、記事、国会演説、政治経済コース。以下に私が提示するアイデアは、基本的にクザ教授の考えに属します。
ルーマニアのユダヤ人の数は正確にはわかっていません。
これは、収集された統計がルーマニアの政治家側の極めて無関心で行われたためであり、それは彼らが国家的裏切り行為を隠蔽するためであり、また世界中のユダヤ人が統計の真実から逃げているためである。ことわざに「ユダヤ人は嘘に生き、真実に触れると死ぬ」というものがあります。ちなみに、財務省の国家統計局長は長らくレオン•コレスク、本名はレオン•コラーであった。そして、彼らの観点からすれば、彼らは正しい。なぜなら、ルーマニア人がユダヤ人の正確な数に直面したら、彼らは真の国家的脅威に直面していることを認識し、祖国を守るために立ち上がるだろうからである。言い換えれば、統計的真実の前に、ユダヤ人の権力は弱まり、消滅するのである。彼は真実を隠し、嘘でごまかして生きていくしかない。

ルーマニアには200万人から250万人のユダヤ人がいると考えられます。彼らが主張するように、ルーマニア国民がたった100万人しかいなかったら

致命的な危険に直面します。なぜなら、重要なのはその数そのものではなく、その数の質、特に国家の機能構造や国民生活のあらゆる側面においてユダヤ人が占める地位であるからである。

私たちの土地は侵略の地でした。しかし、その長い歴史の中で、今日のユダヤ人ほど恐ろしい数の侵略者が現れたことはありません。
侵略は私たちを通り過ぎました。今日の侵略者は決して去らない。彼らはこれまで以上に未知の数で私たちの土地に定住し、この土地の体と人々にかさぶたのように残ります。このユダヤ人の侵略はいつ始まりましたか? 1800年頃にモルドバ全土で発見されたユダヤ人はわずか数千人だった。 1821年、ブカレストには120世帯がいた。

私たちの土地へのこの遅い定住は、ユダヤ人が常に商業に携わっており、商業の発展には自由と安全が必要であるという事実によるものです。

ルーマニアにはこれら 2 つの条件が欠けていました。一方ではルーマニアの土壌を開発する自由、したがって貿易拡大の見込みはなく、もう一方では安定と安全でした。ルーマニアの土地は世界で最も治安の悪い土地でした。ルーマニアの農民には、毎年、家、家畜、仕事、作物の保障がありませんでした。私たちの国は侵略によって荒廃し、何世紀にもわたって戦争の舞台となり、しばしば外国の支配や血なまぐさい貢物の余波を伴いました。

ユダヤ人はこの地で何をすべきだったのでしょうか ?フン族、タタール人、トルコ人と戦う ?
ユダヤ人の侵略はちょうど100年前に始まりました。 1829 年のアドリアノープルの和平の結果、貿易の自由が認められ、同時により平和な生活の地平が見え始めました。そのときから彼らの侵略が始まり、我々ルーマニア人、特にモルドバ人の頭脳を年々増し増し、我々から富を吸い取り、道徳的に破壊し、絶滅の危機にさらした。 1848年、モルダビアの商人や実業家は統治者ミハイル•シュトゥルツァに苦情を申し立て始め、ユダヤ商人と彼らの不誠実な競争に対する措置を要求した。

それ以来、侵略は着実に増加しました。 「侵略」という言葉は、暴力や道徳的、肉体的な勇気の概念を前提としているため、適切な用語ではないかもしれません。
「ユダヤ人の浸透」についてはさらに詳しく

この言葉は、抜け目のない侵入、卑怯で不誠実な侵入という概念をよりよく包括しているため、適切な用語です。なぜなら、戦い、リスクへの直面、多大な犠牲、達成された征服を正当化することなく、人々の土地と富を盗むことは小さなことではないからです。彼らは少しずつルーマニアの小規模な貿易と産業を征服しました。次に、同じ欺瞞的な戦術を使用して大企業と大産業を攻撃し、国の北半分の都市を支配しました。ルーマニアの中産階級への攻撃は、敵を麻痺させるために背骨を刺すという、一部の捕食性昆虫の場合にのみ見られる正確さで実行された。

これ以上に適切な場所を選ぶことはできませんでした。中流階級への攻撃に成功するということは、ルーマニア国民を真っ二つに引き裂くことを意味した。それは二重の接触を持つ唯一の階級である。すなわち、農民階級と重なり合い、そのより良い経済状態と教育のおかげで農民階級に対して権威を行使する。支配階級を肩に担いでいる。中産階級への攻撃、つまり中産階級の破壊が成功すると、その後に致命的な結果がもたらされ、攻撃者側にはそれ以上の努力は必要ありません: a) 支配階級の崩壊 (この支配階級は最終的には崩壊します)、b)その再建の不可能性、c)混乱と動物化、農民階級の敗北と奴隷化。結局のところ、ユダヤ人によるルーマニアの中産階級への攻撃は死を目的としている。一部の人が想像しているように、ルーマニア国民の死は最後のルーマニア人の死を意味するわけではない。この死は束縛された人生を意味します。ユダヤ人のために働くことになる数百万人のルーマニア農民が奴隷生活に転落した。以下は、ユダヤ人の数と私たちの地域への彼らの到着に関するニコラエ•イオルガ教授の結論です。ロルガ教授は、1913 年 9 月 13 日にルーマニアのアカデミーで発表された論文「公国におけるユダヤ人の歴史」の中で、この疑問を説明し、特に次のように述べています。

「ネアムツでは、1764 年から 1766 年にかけて数人のユダヤ人が修道院の土地に定住しました」(p. 18)。

「ボトシャニでは、1757 年の文書のような統治者からの文書で、都市の他の住民の中にユダヤ人が含まれていることについては言及されていません。」(p. 17)

「ユダヤ人は時々スチャヴァで教会の土地の居酒屋の店主として現れるが、時にはオクナ、ハルラウ、シレティウ、ガラティ、バルラドの小規模な貿易商として現れる（バルラディアンのキリスト教徒がどの貿易よりも貿易に関与していたと言われる時代もあった)他の職業）」（p.10）。 「その後ローマでは、1741年には『モルダビア人』と『アルメニア人』しか知られていなかったが、タルグル•フルモスでは1755年に『2つの酒場』とユダヤ人女性がそこに存在していたことが記載されている」(p.17-18)。

1775 年の併合当時のブコヴィナでは、次のようになりました。

「ホーティンとスチャヴァの一部が併合されていたチェルナウティ地方とカンプルング地方では、これらすべての地域において、オーストリア帝国の支配以前にはユダヤ人家族はわずか 206 家族しかいなかった。

1775 年、ガリシアの洪水により、その数は 780 〜 800 世帯に達しました。
この国の初代総督、エーゼンベルク将軍は、彼らが主にワイン、ウィスキー、ビールなどを扱う居酒屋の創設に専念していることを知りました。
彼らは「最もひねくれた人々で、怠惰に傾き、キリスト教徒の労働者の汗をかいて何不自由なく生きている」と将軍は言う。 」

1781 年に運営された委員会は次のことを示しています。

「この国ではユダヤ人は、あらかじめ卵の中のひよこ、花に咲いた蜜、母親の胎内にいる子羊を農民からわずかな金で買う習慣があり、この高利貸しによって住民を完全に吸い尽くして干からびさせている」 , このようにして借金を背負った農民たちは、将来自分たちを救うための資源を見つけることができず、国外に逃げているのが彼らを貧困に導くのです。 、彼らから必死に身を守ります。

」

「…カバル家が古い現状に耐えるためにエンゼンベルグに年間5,000.0金貨を書面で提供したため、私たちの統治者を汚職することも裁かれましたが、彼は国を完全な破壊にさらすことをせずにそのお金を拒否しました。」
, (p.20)。

そしてその後、1840 年から 1848 年頃、イオルガ教授は次のように述べています。

「このような搾取と堕落の施設がモルドバ全土で、居酒屋ごとにウィスキーポテトやその他の毒物の瓶を持ち歩き、支配階級の文明的悪徳を養う競争を疲弊させていると数えることもできるだろう」(p. 34)。

そしてイオルガ教授は次のように書いています。

「それでも、国内のユダヤ人分子によって促進された外国人の介入は止まらなかった。 1878年、彼らはルーマニアの独立を承認する前に条件を課し（多くのルーマニア人の血を犠牲にして勝ち取った）、独立の問題で屈辱を積み上げた :現在のカハル家はルーマニアの指導者たちにいくら払っているのか？

モルドバ系ユダヤ人の権力に政治的に国の半分を譲り渡し、自殺せざるをえないルーマニア…。
そして、コガルニセアヌ氏がアルコールとユダヤ人の高利貸しから村を守ったため、マイオレスク氏は海外の共宗教者らの圧力の結果、国内の外国人に公民権を与えるという侮辱からルーマニアの尊厳を守った。 」(p.39)。

私は、ルーマニアの土壌におけるユダヤ人の入植の始まりに光を当てるために、偉大で認められ議論の余地のない科学的権威によって報告されたこれらの例を引用します。

ルーマニアの土地の問題 - 領土法

たとえそれがたとえ未開の部族であったとしても、外国の侵略に直面して、自分たちの土地の窮状を引き裂くような苦痛を伴って考えない人々は、この世界に存在するはずがない。世界のすべての民族は、歴史の始まりから今日に至るまで、祖国の土壌を守ってきました。すべての民族の歴史は、私たちと同じように、自分たちの土地を守るための闘争に満ちています。私たちが脅かされている土地を守るために数えられているのは、私たちルーマニアの若者の異常であり、病気の状態だったのでしょうか？それとも、彼が危険にさらされているのを見たときに私たちが彼を守らなかったら異常ですか？私たちがそれを守らない、つまりすべての国がしてきたことをしないというのは異常なことでしょう。自分自身を世界全体、そして私たちの歴史全体と矛盾させることは、異常であり、病気の状態です。

なぜすべての民族は自分たちの土地を守るために戦い、戦い、そしてこれからも戦い続けるのだろうかと私は自問する。土地は国家存続の基盤です。国家は土の奥深くに木のような根を張り、そこから食物と生命を得ています。空中に浮いて生きられる木がないのと同じように、土地がなければ生きていけない人はいません。独自の土地を持たない国家は、他の国家の土地に、つまり自らの体で自らの地位を確立し、その生計を損なわない限り、生きていくことはできません。神が与えて人々の生活を規定する法律があります。そのような法律の 1 つが領土法です。神は各民族に、住み、成長し、独自の文化を発展させ、創造するための明確な領域を与えました。

ルーマニアのユダヤ人問題は、他の地域と同様に、ユダヤ人によるこの領土の自然法への違反にあります。彼らは私たちの領土を侵略しました。彼らは犯罪者であり、彼らの犯罪の結果を負うよう求められているのは私たちルーマニア国民ではありません。初歩的な論理から言えば、犯罪者は犯した犯罪の結果を負わなければならないということです。彼は苦しまなければならないのでしょうか？彼を苦しめましょう！

すべての犯罪者は苦しみます。他人が犯した違反のために死ななければならないなどという論理はこの世に存在しない。

したがって、ユダヤ人問題は「人種憎悪」から生じるものではない。それは、すべての人々が生きる法律と自然秩序に反してユダヤ人が犯した違反に端を発しています。

世界の。ユダヤ人問題の解決策は？それは、犯罪者が普遍的な自然の秩序に再び入り込むことと、彼らの

自然法を尊重すること。しかし、その国の法律はユダヤ人の侵入も禁じています。
憲法第 3 条には、「ルーマニアの領土は、外国出身の人々によって植民地化されてはならない」と書かれています。

200万人のユダヤ人がルーマニア領土に定住したという事実は、植民地化ではないとしたら何を意味するのでしょうか？しかし、この領土はルーマニア国民の不可侵かつ取り消し不能な財産である。そして誰かが書いたように、50年後でも、100年後でもなく、さらには数千年後でも、我々は1000年間のハンガリー占領を経てトランシルヴァニアの土地を再征服する際に、この土地に対する権利を主張するだろう。

私たちと私たちの土地

私たちの周りの人々は皆、どこかよそからやって来て、今住んでいる土地に定住しました。歴史は、ブルガリア人、トルコ人、マジャール人などが到着した正確な日付を教えてくれます。何もないところから来たのはただ一人だけです、それは私たちの人たちです。私たちは樫の木やモミの木とともに、時の霧の中でこの地に生まれました。私たちは、土が私たちに与えてくれるパンや存在によってだけでなく、その土の中に眠っているすべての祖先の骨によっても、土とつながっています。私たちの両親は全員ここにいます。私たちの記憶のすべて、戦争中の栄光のすべて、私たちの歴史のすべてが、ここ、この土地に埋もれています。

ここは、不滅のデセバル王の遺灰のあるサルミセゲトゥザの遺跡です。デセバルのように死ぬ方法を知っている人は決して死なないからです。「ここに支配者ムサティンと支配者バサラブが眠る。ここポドゥル•イナルト、ラズボエニ、スチャヴァ、バイア、ホーティン、ソロカ、ティギーナ、セタテア•アルバ、チリアでは、そこで戦いで倒れたルーマニア人、貴族や農民、草の葉や葉のようにたくさんの人々が眠っている。

ポサーダ、カルガレーニ、オルト川沿い、ジウ•チェルナ川、トゥルダ。不運で忘れ去られたモティ•デ•ヴィドラの山々から、フエディンやアルバ•ユリア（ホリアと武装した同胞たちが拷問を受けた場所）まで、いたるところで戦いの証言と英雄の墓が残っている。ドラゴスラヴェレとプレデアルのオルテニアン山脈、オイトゥズからヴァトラ•ドルネイまで、カルパティア山脈のすべてで、頂上でも谷底でも、いたるところでルーマニア人の血が川のように流れていた。国民にとって困難な時期の真夜中に、ルーマニアの地から私たちに戦いを促す声が聞こえました。私は尋ねます、そして答えを期待します：ユダヤ人は何の権利によって私たちからこの土地を奪うことを望んでいますか？

彼らは、どのような歴史的議論に基づいて、彼らの見せかけ、そして何よりも、ここ私たちの土地に住むルーマニア人である私たちに挑戦する大胆さを根拠としているのでしょうか？私たちは何百万もの墓と、私たちの魂だけが感じている何百万もの目に見えない糸によってこの地球につながっており、私たちを地球から奪い取ろうとする者たちには悲惨です。

都市の問題

しかし、このルーマニアの土地の範囲内で、ユダヤ人はどこにも無計画に定住したわけではありません。
彼らは都市に定住し、その中にユダヤ人が密集した真の島々を形成しました。最初に侵略され征服されたのは、チェルナウティ、ホーティン、スチャヴァ、ドロホイ、ボトシャニ、ソロカ、ブルドゥイエニ、イトチャニ、ブリチェニ、セキュアニなどのモイダヴィア北部の貿易都市や町でした。

彼らの前で、ルーマニアの商人と商人は徐々に姿を消しました - 今日はある通り、明日は別の通り、明後日はセクターです。 100年も経たないうちに、

古代の名声を誇ったルーマニアの中心地はルーマニアらしさを失い、真のユダヤ人の要塞のような姿をとりました。モルドバの他の都市も急速に崩壊した：ローマン、ピアトラ、ファルティチェニ、バカウ、ヴァスルイ、バリアド、フシ、テクチ、ガラティ。そして、モルダビアの第二の首都、第一の首都、そしてかつてのスチャヴァに次ぐ第二の首都ヤシは、まったく単純に、シュテファン大王の要塞の貧しくも輝かしい遺跡を取り囲む、汚いユダヤ人の巣窟に変わってしまった。

今、ヤシでは、ルーマニア人やルーマニア人に会うことなく、通りや地区全体を歩くことができます。
を参照してください。

ルーマニアの家やルーマニアのお店。人々は、今では廃墟と化した有名な教会の前を通り過ぎます。ルーマニアの靴職人ギルドによって建てられたタルパラリ教会*、ルーマニアの馬具職人ギルドによって建てられたクレラリ教会*。すべてが崩壊しつつある。大都市ヤシには、ルーマニアの靴屋も馬具屋ももう存在しません。

モルダビアの古い貴族の聖ニコラス教会は完全に崩壊しました。そして、その周りの墓の上では、ユダヤ人のレストランが今でもゴミ、ゴミ、ゴミを処分しています。最も多くの人が集まるメイン広場にある教会は、人が足りず閉鎖されている。そして、現在この人々の集合体を構成しているのはユダヤ人です。ラプスネアヌ通りでは、まるで苦痛のようにうめき声を上げているクザ•ヴォダ宮殿がユダヤ銀行に変わり、かつての庭園にはパレスチナ様式のユダヤ劇場が見える。外国の侵略者は、私たちが最も神聖視しているすべてのものを踏みにじります。私たちの心は苦しみにうめきます。私たち子供たちは、引き裂かれた魂を抱えて自問します。自国民に対してあれほど敵意を持って行動するルーマニア人がどうして存在するのでしょうか？どうしてこんなに裏切り者が多いのでしょうか？なぜ彼らは裏切りの瞬間に壁に向かって並べられたり、生きたまま焼かれたりしなかったのでしょうか？どうしてみんな無表情なの？どうして私たちは何もしないのでしょうか？

それらは私たちに重くのしかかり、魂を悩ませ、人生を妨げる良心の問題です。
私たちは、戦い、苦しみ、墓の中以外では決して平安を得ることができないことを知っています。
私たちの沈黙は私たちを臆病で覆い、一分一秒の遅れが私たちを殺してしまっているように思えます。

私たちは、この国の疲れきった体に開いた傷であるベッサラビアの貿易都市や村についてさえ言及しません。

私たちは、奴隷状態にあるルーマニア人が毎日死んでいるマラムレシュについてさえ触れていません。マラムレシュの大きな悲劇を説明できる言葉はありません。しかし、腐敗は癌のように広がりました。ラムニクル•サラト、ブザウ、プロエスティに到達し、首都を侵入した。 15 年後には、古代ルーマニアの地域であるヴァカレスティが陥落しました。ドゥデスティは完全に倒れた。カレア•グリヴィテイのルーマニアの商人たちも同様だ。オボール地区の有名な商人が亡くなり、ユダヤ人がその地位を引き継ぎました。カレア•ヴィクトリエイユ * が下落した。今日、現実には、それは単なるルーマニアの「敗北」の道になっています。現在、カレア•ビクトリエの不動産の 4 分の 3 はユダヤ人が所有しています。過去10年間で、ユダヤ人はドナウ平原を越えて西に広がり、オルテニア、そしてミカエル勇者の首都であるクライオヴァの首都へと広がった。彼らは、高給を得てユダヤ人問題など存在しないふりをしているルーマニアの政治家の保護のもと、セヴェリンのラムニクル•ヴァルチャに行った。

この政治家たちの国民に対する裏切りはあまりにもひどいので、もし彼らがまだ生きているなら国民は目をえぐり出さなければならない。彼らが死んでいれば、骨は掘り起こされて公共の広場で焼かれなければなりません。彼らの子供や孫たちは起訴され、財産は没収され、「裏切り者の息子」という汚名を着せられることになった。都市は国の経済の中心地であるため、ルーマニアの都市の喪失は私たちに壊滅的な影響を及ぼします。国の富はすべて彼らに蓄積されています。都市を支配する者が生存手段、国家の富を支配することになる。国富の所有者であるルーマニア人にとっては無関心なのだろうか？私たち自身ですか、それともユダヤ人ですか？世界中の誰にとっても、これは無関心の問題かもしれません。なぜなら、集団は内部で再生産し、発展するからです。

自由に使える生存手段が少ないほど、問題の人口の増加は小さくなり、発展の可能性は小さくなり、逆も同様です。人口の法則に関するこれらの真実は、すべての経済学者によって研究され、クザ教授によって比類のない明快さで定式化されました。ルーマニアの富がユダヤ人の手に渡るということは、ルーマニア人への経済的または政治的依存を意味するだけでなく、経済的自由を持たない人々には政治的自由もないからです。それはそれ以上の意味を持っています。つまり、我々の成長能力そのものを打ち砕く国家的脅威です。人口的には。私たちの生計手段が失われるにつれて、私たちルーマニア人は、外国からの侵略と私たちの生計手段の押収の両方のために、日々その数が増加しているユダヤ人の手に私たちの場所を残して、私たちの土地で滅びるでしょう。生存、私たちの富。

* それぞれ靴屋と馬具屋の複数形。 (Tr.)

第二に、都市は国家の文化の中心地です**。ここ都市には学校、図書館、劇場、教室があり、すべて都市の住民にサービスを提供しています。ユダヤ人の家族は、5人か6人の子どもを学校に通わせるのが容易だが、ルーマニアの農民は、都市から遠く離れた辺鄙な村に住んでおり、子どもを最後まで学校に通わせることはほとんどできない。そしてこの場合、彼は体力も富も完全に疲弊しており、家にいる他の4、5人の子供の幸福を危険にさらすほどだ。したがって、都市を支配する者は、文化への参加の可能性を支配することになります。しかし、それだけではありません。国家が世界においてその文化的使命を果たすのは、都市と学校を通じてです。ルーマニア人は、ユダヤ人の声、ペン、心、精神を通じて文化的使命を果たすことがどのようにして可能でしょうか?

最後に、都市は国家の政治的中心であり、国家は都市の指導に従います。
直接的または間接的に都市を管理する者が国の政治的指導力を持ちます。都市の外にある田舎には何が残っているのでしょうか ?人間としての生存手段を持たず、疲弊して貧困に陥り、文化もなく、酒に中毒になった数百万人の農民が、今やルーマニアの都市の領主となった裕福なユダヤ人、あるいはルーマニア人（市長、市長、警察、憲兵)に率いられている。 、閣僚)が名目上の管理者であるのは、彼らがユダヤ人の計画の仰向けの実行者にすぎないという理由だけです。これらの役人たちは支援され、お世辞を受け、贈り物を浴びせられ、行政評議会に組み込まれ、司法経済権力から毎月給料が支払われている（ユダへの給料は一度だけだった）。彼らは金銭欲が掻き立てられ、贅沢と悪徳に駆り立てられ、ユダヤ人の指令や条例に従わなければ、たとえ閣僚であっても簡単に追放される。彼らの給料や手当は削減され、窃盗や怪しい取引が暴露され、彼らを妥協させるために関与していることが暴露される。

これが、私たちが都市を失って以来、ルーマニアの祖国に残っているものです。不誠実な支配階級、自由のない農民、そして国も未来もないルーマニアの子供たちです。

ルーマニアの学校の問題

都市を制する者は学校を制し、今日学校を制する者は明日の国を制する。以下は 1920 年の統計です。

チェルナウティ大学の状況

哲学学校。

夏学期、ルーマニア人 :174人。ユダヤ人574人。

法学士。

夏学期、宗派別: 正教会:
237 (ルーマニア人とルーテニア人)
カトリック教徒: 98
ルーテル派: 26

その他の宗教: 31
ヘブライ語: 506

De Situatia Demongrafica a Romaniei (ルーマニアの人口動態) Em.
ヴァシリュー=クルージ p. 84

*
**ファッショナブルなショッピング街、ビクトリーウェイ(Tr.)
AC Cuza、Apararea Nationala (「国防」) No. 3、1922 年 5 月 1 日を参照。

ベッサラビアで

田舎の小学校: 男子:
ルーマニア人 72,88,9 人、ルーマニア人以外のキリスト教徒 1,974 人 女子 :ルーマニア人 27,555 人、1,302 人 、ユダヤ人は1,281人。
非ルーマニア民族キリスト教徒 、ユダヤ人は2,147人。

都市部の小学校 :男子。
ルーマニア人6,385人、非ルーマニア人2,435人、そのうち1,351人がユダヤ人であった。女の子:
ルーマニア人5,501人、非ルーマニア人2,435人、そのうち1,492人がユダヤ人であった。

中等学校および専門学校: 1,535 正
統派、6,302 校
ヘブライ語、

混合中等学校: 690 正教、1341 ヘブライ
語。

(前掲書、84-5ページ)

古代王国で
ルーマニア系ユダヤ人
バカウ大学 363 198
ボトサニ高等学校 229 127
ボトシャニ女性体育館 155 173
ドロホイのライセウム 177 167
ファルティチェニのライセウム 152 100
国立リセ、ヤシ 292 201
アレクサンダー ザ グッド ギムナジウム、ヤシ 93 215
ステファン大王ジム、ヤシイ 94 120
ローマのライセウム 256 157
ピアトラ ネアムツ図書館 343 179

私立学校:
ブカレスト 441 781
ヤシ 37' 108
ガラティ 1.90、199

(0p.cii. Pp.85-7)

* 1918 年にルーマニアが統一される前のモルダビアとワラキア。(a)

ヤシ大学の状況
ルーマニア系ユダヤ人
医学部 546 831

薬学部 97 299
芸術学部 35 1 100
理学部 722 321
法学部 1,743 370

(0p.cit. Pp.87-8)

ルーマニアの教育制度は、このように多数のユダヤ人によって破壊され、2つの問題を引き起こしています。

1. ルーマニアの支配階級の問題。政治家だけでなく、あらゆる活動分野のすべてのリーダーを含む明日のリーダーは学校から形成されるからである。

2. 国民文化の問題。学校は国民の文化が形成される実験室だからです。

ユダヤ人に抑圧されているこのルーマニアの学校制度の悲劇を強調するために、我が国で最も著名な教育学者の一人であるヤシ大学のイオン•ガヴァネスクル教授の痛ましい発見を以下に引用することが特に重要であると考えます。ヤシ国立ライセウムが提供するこの光景は、学生の圧倒的多数がユダヤ人で構成されている。少数のルーマニア人学生は奇妙に感じている。休み時間になると、彼らは落ち

着きなく部屋の隅に隠れます。彼らは寛容な少数派を構成します。

ほとんどの人は離れて暮らしており、自分たちの懸念事項、ゲーム、サークル、マカビー、ハコア、マコアなどのこと、会議や講義、スポーツ、仕事の予定、楽しい時間などについて話し合っています。
そして、ルーマニア人の裁量に疑問がある場合、ユダヤ人の生徒（国内では少数派だが学校では多数派)は、仲間内でささやいたり、直接イディッシュ語に切り替えたりする。

ルーマニアの教師がこのような生徒の魂に直面するのは残念です！
思わず、彼はアヒルの卵を孵化させた鶏のことを思い出します。湖の端で、怖がって鳴き声を上げながら立っている彼女を見てください。彼女は必死に自分のアヒルの子たちに呼びかけています。アヒルの子たちは水に飛び込み、反対側に滑り落ちて追いかけることができません。この聴衆にどのようなナショナリズムを教えられるでしょうか?自分の中に愛国心、ルーマニアの願望、理想の炎を感じたら、話せますか ?口さえ開けてもらえますか ?彼らの顎はロックし、言葉は唇に固まります。

偉大なコガルニセアヌ、外国人留学生でいっぱいの観客席の前で…ルーマニアの歴史を紹介する有名な演説を、今日ルーマニアの「国立」体育館がユダヤ人の「国立」となったまさにこの場所で行うことができたのだろうか。 1つ？

彼は、理解と信仰に満ちた輝く瞳からの共感からその強さを引き出すインスピレーションを失っていただろう。

1. ガヴァネスクル、Imperativul momentului istoric、(「歴史的瞬間の命令」) p.67。

もっと：

「そして、国民生活の一側面に限って言えば、イギリス、フランス、イタリアで、大多数の生徒が先住民族以外の民族に属している、いかなるレベルの学校も見たことがないだろう。 「たとえば、英国の大学の法科大学院では、ユダヤ人が547 人、英国人が 234 人で、1920 年のチェルナウティ法科大学院におけるユダヤ人対ルーマニア人の比率と同じであると想像するかもしれません。 ? 「それとも、イタリアの哲学学校には、チェルナウティのユダヤ人対ルーマニア人の比率が同じで、イタリア人 174 人に対してユダヤ人が 574 人いる可能性があるということですか?

「これらの比率は正常ですか ?それらは容認できない、考えられないほどの民族生物学の怪物ではありませんか ?それらはルーマニア人民の責任ある支配階級の側の犯罪的無意識の兆候ではありませんか ? 」(I.ガヴァネスクル、op.cii、)

ローマの指導者階級の問題

しかし、今の学生や学生とは誰でしょうか ?今日の学生は、教師、医師、エンジニア、弁護士、市長、議員、明日の大臣、つまりあらゆる活動分野における人々の将来のリーダーです。もし今の生徒たちの50、60、70%がユダヤ人なら、明日には論理的にこのルーマニア国民の50、60、70%がユダヤ人の指導者となるでしょう。国家が大学の外国人留学生の数を制限する権利があるかどうかは、依然として疑問の余地があるかもしれない。

ハーバード大学ではこの質問にどう答えているかをご紹介します。ユダヤ人問題を研究した後の嘘つき卒業生モリス•グレイの紀要(1906年) - 『ヌメルス•クラウスス』のクザ教授が引用したもの。 11. モリス•グレイは、原理的に問題を定式化することから始め、次のように尋ねました。「まず、大学の機能とは何ですか? その機能は何ですか?

「彼の義務が個人に対するものであれば、大学への入学は率直かつ明白に民主主義の原則に基づいていなければなりません。すべての受験者は、入学試験に合格し、最初の授業料を支払うことを条件に入学を許可されなければなりません。候補者の性格、または昇進、能力、または候補者自身または他者にとっての有用性の潜在的な可能性についての深刻な調査。

しかし、大学の義務が国家に対する義務であるならば、学生の入学に対する大学の態度はおのずと別の原則に基づくものでなければならない。

私の意見では、大学の義務は、人間の思考のさまざまな領域で人材を訓練し、少なくともそのうちの何人かがそれぞれの分野でリーダーになり、それによって国家に奉仕できるようにすることです。

これはしっかりと確立された原則です 、クザ教授はこう付け加えた。

「大学の義務は国家に対するものであり、そのために大学はあらゆる分野のリーダーを養成しなければならず、彼らは必然的に民族的に先住民でなければならない。 」なぜなら、国家にとって外国の指導者を大学で教育することは容認できないからである。 」

これまでの数字から、明日のルーマニア支配階級の深刻な問題を推測することができます。確立された真実が 1つ残っています。それは、ルーマニアはルーマニア人によって導かれるべきであるということです。ルーマニアはユダヤ人によって指導されるべきだと主張する人はいますか?そうでない場合は、
1つ
ルーマニアの若い学生が正しいこと、そしてすべての運動、すべての間違い、すべての悪名、すべての挑発、すべての陰謀、そしてこれからも積み重ねられるすべての不正を認めなければならない。

Googleによる機械翻訳

この若いルーマニア人は、ルーマニア人とその優秀な戦闘員を絶滅させるためにユダヤ人が行った戦争に自分たちの正当性を見出している。

国民文化の問題

これがすべての問題の中で最も深刻であると考える人々は、その果実の問題を心配する木のようなものです。毛虫に虐げられていることに気づくと、彼はこの世での使命を果たすことができなくなり、実を結ぶこともできなくなります。その場合、彼女は人生そのものの問題よりもさらに大きな最も悲しい問題に直面しなければならないでしょう。なぜなら、彼女の人生の目的が破壊されるのを見て、彼が死んだ場合の方が彼女にとってより苦痛だからです。最大の苦痛は無駄な努力による苦痛である。なぜなら、それは人生の無益さの恐ろしい認識から生じる苦痛だからである。

私たちルーマニア国民が実を結ぶことができなくなるのは怖くないですか？私たちには、他の民族の文化と並んで世界で輝ける、私たち自身の、私たちの民族、私たちの血によるルーマニア文化がないということでしょうか？今日、私たちはユダヤ人の本質の製品を世界に提示することを非難されているのでしょうか？今日、この瞬間、世界がルーマニア国民が私たちの血と国家の天才の成果を示すために現れるのを待っているとき、私たちは自分たちに次のようなものを提示します。

ユダヤ文化風刺画の感染？

私たちはこの問題に深い苦悩を抱いて見つめており、自分の歴史全体が危険にさらされているのを目の当たりにして、身を守るために武器をとらないルーマニア人はいないだろう。ここに、I. ガヴァネスクル教授の『歴史的瞬間の命令』から、これらの不滅のセリフを転載します。

「ルーマニア国民の主な関心事は、彼らの存在にとって物理的な保存と同じくらい重要なことであるが、人類の理想的な生活の領域における彼らの主張、つまりルーマニア特有の文化の創造である。ルーマニアの文化が、異質な性格の学校や経済的、政治的組織から発展することは不可能です。」

「国民生活の機能としての制度は、それを生み出した人間的要素がルーマニア人である場合にのみ、ルーマニア的性格を持つ。」

この悲しい状況に直面して、私たちを押しつぶす多数の侵略者に直面して、
ガヴァネスクル教授は、国立学校と文化の問題を提起し、不安でいっぱいの自分に問いかけます。

「ルーマニアの魂はどこに避難できるでしょうか？彼らはどこで自国に追放されたという苦痛で強迫的な印象から逃れられるでしょうか？」救いの十字架の守りの下、沈黙のうちに思いをまとめるために入る教会を除けば、彼らの唯一の避難場所は学校である。

学校は、国家的天才が自分の子孫を集め、彼らに食事を与え、育て、飛ぶことを教え、この国家的天才だけが知っており、到達する必要がある高みへの道を教える理想的な巣です。 「学校は、国民の心の琴線と人々の精神的な器官が、世界でまだ聞いたことのない新しい交響曲、神がその存在に特有にあらかじめ定めた天性の才能の最初の交響曲を歌うために調整される避難場所です。

学校は、人々の生活の大きな謎が解き明かされる聖域であり、そこでは民族の魂がその不滅の本質を光のしずくに蒸留し、創造的な思考によってその民族だけにあらかじめ定められた理想的な形に形作られるのです。世界。

他の民族の魂の旋律楽器は、私たちの文化の交響曲に調和して参加することはできません。彼らはその構成により、人々の声を響かせるためにお辞儀をする方法しか知りません。

彼らはどんなルーマニアの交響曲を生み出すことができるでしょうか？

Google による機械翻訳

他の民族の魂の国家的天才の本質は、民族の創造者によって彼らのために決定されたもの以外の形で結晶化することはできません。ルーマニアのイメージは、ユダヤ人、マジャル人、またはドイツ人の民族的本質からどのように生み出されるのでしょうか? 」

(1. ガヴァネスクル、「歴史的瞬間の命令」、64-8 ページ)。

ユダヤ人はルーマニア文化を創造することができないだけでなく、私たちが持っている文化を偽造し、毒を入れて提供するでしょう。ルーマニアの学校がこのように浸軟化していることで、私たちは民族としての使命を放棄し、ルーマニア文化の創造を放棄し、ユダヤ人の毒で死ぬという立場に置かれています。

ルーマニアへの帰還

他の大学の同僚とは異なり、私たちイアジア人の学生は、クザ教授の講義、パレスク教授とガヴァネスクル教授の著作、法学生協会で行われた調査と研究、そして私たちが見たものからこれらすべてを知っていました。自分の目で見て、自分の魂で感じて。私たちにとって重大な良心の問題が生じています。毎日、追加の証拠がもたらされました。私たちはユダヤ報道機関の不誠実を認識しており、あらゆる状況においてユダヤ報道機関の悪意を目の当たりにし、あらゆる反ルーマニア的なものの背後にユダヤ報道機関が扇動しているのを見てきました。私たちは、ユダヤ人の利益の命令に忠実に従う政治家、役人、当局、作家、キリスト教の司祭たちのお世辞と賞賛の仕事を目にしました。私たちは、そのような人々に嘲笑が山積しているのを見ました。

ルーマニア、あるいはユダヤ人の危険性をあえて非難する人々にふさわしい正しい態度をとった。私たちは、まるで彼らが何千年もここの領主であったかのように、私たちの土地で私たちが卑劣な扱いを受けているのを見ました。

私たちは、ルーマニア国民の運命が進むべき線を引こうとする、宗教、文化、芸術、政治といったルーマニアの生活の最も親密な問題に、望まぬ訪問者たちが大胆にも侵入してきたことに憤りを募らせながら見守った。
私はまだ子供に近い若さで、解決策を探しながら長い間この考えに悩まされていました。

私が最も印象に残った要素は、その後の私の闘いを決定づけ、苦しみの瞬間に私を慰め、強めてくれた要素でした。 1.
私たちの人々と彼らの将来が致命的な危険にさらされているという認識。
2. この土地に対する私の愛と、今日ユダヤ人によって嘲笑され、冒涜されているあらゆる神聖で輝かしい場所に対する痛み。
3. 祖国のために亡くなった人々の遺灰が哀れです。
4. 人間としての尊厳に対するこの奇妙な敵による侮辱、嘲笑、踏みつけに対する反抗の感情
そしてルーマニア人として。

したがって、1922 年 12 月 10 日、学生運動の火山爆発という素晴らしいニュースを聞いたとき、私も仲間たちと力を合わせて戦うために帰国することを決意しました。しばらくして、電車が私を家に連れて帰りました。私はクラクフから駅で待っていたチェルナウティの学生たちに電報を送りました。私はそこに二日間滞在しました。大学は閉鎖されました。彼を護衛する学生たちは国に仕える兵士のように見えた。

神に照らされた魂。彼の美しく神聖な行動には私利私欲の微塵も曇りはありませんでした。彼らが団結して一つになって戦った大義は、彼ら自身や彼らの絶え間ない困難やニーズをはるかに超えていました。

チェマウティでの主な戦闘員は次のとおりである。トゥドセ•ポペスク、ダンボヴィタ郡マルチェスティの老司祭の息子、神学三年生。それからダニレアヌ、パベレスク、カルステアヌなど。戦闘計画について尋ねました。勝利するまで、つまり政府が12月10日の動議で提起された点を満足のいく解決をするまで、「数字のクローススス」から始まるゼネストを宣言することが決定された。私にとって、その計画は間違っているように思えました。

私の頭の中で、次のような考えが生まれ始めました。 a) 学生運動はすべてのルーマニア国民に届けられなければなりません。現在は大学に限定されているが、ルーマニアの国民運動にも拡大すべきである。なぜなら、一方ではユダヤ人問題は大学に限定されずルーマニア国民全体に関係しており、他方では大学だけでは解決できないからである。 b) この国民運動は、単一の指揮のもとに組織に組み込まれなければならない。 c) この組織の目的は、国民運動を権力に就かせるために戦うことであり、この運動の外にある政党のいかなる規則も国家問題を解決できないため、「数字の問題」とその他すべての問題の両方を解決することになる。 d) これらの点を念頭に置いて、学生たちはルーマニア人のあらゆる階層からなる大規模な全国集会を組織すべきであり、それが新しい組織の始まりとなるでしょう。 c) この集会を実施するために、各大学は可能な限り多くの旗を提供しなければなりません。

各州の郡に布地が与えられ、その布地は学生の代表団から有名な民族主義者に与えられ、代表団はその人物をその周りに市や国の指導者たちを集める任務に最も適任であるとみなした。そして、一週間前に集会の日付と場所を知らせる電報を受け取ると、彼は旗を持って部下全員とともにその場所に向けて出発した。

f) 政府がデモを阻止しようとしないように、すべての準備は慎重に行われ、最後の瞬間まで日付は不明のままにしなければならない。

私はこの計画を寮の1つにいる約50人の戦闘員に説明しました。彼らはそれが良いことだと考えました。そこで私たちは皆でお金を出し合って必要な布地を購入し、すぐに生徒たちはブコビナ郡の旗を作り始めました。

IASIにて

ヤシでは、元チームメイト全員に会いました。私も彼らのために計画を立てました。ここでも、初日にモルドバとベッサラビアのすべての郡の旗が女子生徒たちによって作られました。

クザ先生は見つからなかった。彼は首都での会議に出席するため、スムレアヌ教授と私の父とともにブカレストに向けて出発していました。

ブカレストで

翌日、私はブカレストへ向かいました。ここで私はクザ教授とスムレアヌ教授、そして私の父に会いに行きました。彼らは四半世紀以上、嘲笑や殴打、さらには傷に打ちひしがれながらも、共にユダヤ人の脅威と戦ってきました。そして今日、彼らと会うことで大きな満足を感じています。 30,000人を超える若者の国全体が、生涯奉仕してきた信仰のために戦旗を掲げました。

Google による機械翻訳

しかしブカレストでは私の考えは同じ熱意をもって受け入れられませんでした。まず、クザ教授の反対に遭ったからです。開催される集会で、私の計画を提示し、彼を首長として率いる国民運動の創設を提案したが、彼は私の計画が良いとは考えなかった、と彼は言った。「私たち自身を組織する必要はない。私たちの運動は恐るべき大衆の流れに基づいている。」

私は、大衆運動を油井に例えて主張しました。油井は、石油パイプラインから切り離されていると、たとえ噴出しても、石油があふれてしまうため、何の役にも立ちません。しかし、私は成功せずに去りましたが、翌日、スムレアヌ教授と父が彼を説得しました。

しかし、すぐに予想もしなかった困難に直面しました。 2月の初め頃でした。大勢の学生は熱意に満ちていました。すべての食堂は閉鎖され、すべての寮の門は私たちに対して閉ざされ、真冬に外に取り残されて飢えることになったにもかかわらず、学生たちは熱心で、首都のルーマニア人によって見事に守られ、翌日には全寮制が開けられました。自宅のドアを閉め、8,000人以上の苦労している学生たちを保護し、食事を与えています。

このしぐさには、承認、戦う意欲、団結、負傷者への慰めがあった。
しかし、私はこの集団とは何の接触もありませんでした。そこには誰も知りませんでした。雑誌『アパラレア•ナショナラ』（「国防」）のマネージャーだった学生ファニカ•アナスタセスクを通じて、私は彼らの何人かと知り合うようになった。ブカレストの学生運動の指導者たちは、十分な方向性を持っていなかったという印象を私は抱いた。なぜなら、エリート層は独特の知的資質に恵まれていたにもかかわらず、後に社会で彼らが占める役割によって証明された事実であるが、思いがけず自分たちが学生運動の先頭に立っていることに気づいたからである。そのときは彼らが考えもしなかった動きだった。実際、たくさんいるので、それぞれの意見が異なります。リーダーシップの貴重な要素の中には、前線にいるのはクレトゥ、ダヌレスク、シミオネスク、ラペアヌ、ロベンタなどです。大衆は好戦的だったが、指導者の中にはそのような高揚した気分を落ち着かせることが最善であると考えた人もいた。その一方で、ユダヤ人問題に対する彼の知識が不十分であったことと、

政治家との接触が不十分だったために、少なくとも一部の政治家は運動を物質的な次元で再位置づけしようとするようになったが、私の見解ではそれは容認できないことだった。
それはあたかも誰かが「1. 私たちはユダヤ人から祖国を取り戻すために戦っている」と言っているようなものだからだ。
2. 私たちはテーブル上の白パンを求めて戦います。
3. 私たちは 2 コースの食事をめぐって争います。
4. 私たちはより快適なベッドを求めて戦いました。
5. 私たちは研究室の設備や解剖器具などを求めて戦います。
6. 私たちは寮を増やすために戦います。そのため、最後には当局が私たちに大声でこう言うことになるだろう、「学生たちの要求は満たされた。政府は学生たちの嘆かわしい状態、彼らのひどい悲惨さなどを認めた。要求された6点のうち5点が認められた。器具、実験室、1日2つの白パン、2つのコース料理

、3人の学生
」

快適なベッドを備えたドミトリーなど。
最初の点、つまりユダヤ人バンドから国を救ったことについては、政府が6点中5点を与えたという口実で何も言われない。学生運動の初期から、ユダヤ系マスコミ全体は、学生運動をこの物質的な面、つまり運動の目的が「一切れのパン」に移そうと努めた。

したがって、本当の標的であるユダヤ人は気づかれずに逃亡することになる。実際、それがあれば。新聞を読み直してみると、ルーマニアの政治家もこの問題を同様の言葉で表現していることがわかります。学生には寮やより良い食事などが提供されるべきです。私が言ったように、ブカレストの学生指導者の一部はこの傾向に傾いていました。もし学生たちがこのコースを受講していたら、彼らは本来の使命から逸れていただろう。私の意見はいつも反対だった

この観点は、生徒の要求を形成する際の物質的な命令のいかなる侵入にも反対することです。

なぜなら、今日も言っているように、学生たちを突き動かすのは差し迫った必要性や物質的な欲求ではないからです。この偉大な運動は、逆に、これらの事柄、私利私欲、自分自身や家族の苦しみへの執着を放棄することでした。それは、ルーマニアの学生の側のこれらすべてのことの忘却であり、自分たちの全体性の同一化でした。人々の関心、ニーズ、願望に寄り添うこと。その無私の心、そしてそれだけが彼女の目に神聖な光を照らしたのです。

学生運動は物質的な要求を目的としたものではありませんでした。彼女は世代のニーズを超えて、国民のより高い志と結びつきました。一方、ここブカレストでは、学生運動は大学の範囲内にとどまり、学術運動であり続けるべきであり、政治的な性質の運動になってはいけないという考えが広まっていた。しかし、この意見は完全に間違っており、この熱心な運動を大学内に制限して、何らかの方法で大学内で運動を消滅させることに最大の関心を持っていたユダヤ人と政党の計画と一致したからである。

私たちの意見は、扇動するために運動を組織したのではなく、勝利を得るために運動を組織したというものでした。これには学生部隊が不十分であったため、ルーマニア人全員と団結する必要がありました。

さらに、ブカレストの指導者たちは、クザ教授が最終的に組織の会長になるとの宣言に反対し、彼はそのような積極的なリーダーシップにはふさわしくないと主張した。私は、ありのままの彼をサポートすべきだと主張しました。

最後に、ブカレストの人々は私に対して非常に警戒していました。私はこのことに心を痛めました。なぜなら、私は心の中で最も純粋で神聖な人間として、この国のためにできる限り協力したいという燃えるような願望を持って彼らのところに来ていたからです。おそらく、私のことは知らずに、彼らが遠慮するのは当然だったのでしょう。

こうした理由から、私はブカレストで反対に遭いました。そこで私は委託を受けて仕事を始めましたが、旗は 3 つか 4 つしか作成しませんでした。

クルージュにて

私はヤシ出身のコンスタンタ•ギカ夫人の3人の子供の一人、アレクサンドル•ギカと一緒にクルージュへ向かった。ギカは学生運動中に見事な行動をとった統治者の曾孫であった。

クルージュ学生センターの会長はアレクサという人で、穏健派で善良な人でした。 Fle は、学生オリエンテーションと新しい運動の会長としての Cuza 教授の宣言の両方に関して同じ議論で私を迎えてくれました。学生たちはしっかりとしていて、熱意に満ちていました。そんなとき、機敏で才能のある青年モタに出会った。彼もアレクサと同じ意見だった。私は彼を説得しようとしましたが、無駄でした。大変な思いをしました。誰も知りませんでした。それでも、私は何人かの学生を味方に付けてくれました。コルネリュー•ジョルジェスク、薬学部学生。文学者のアイザック•モカヌ。クラスマル、医学。ジャスティン•リースなど

私たちは旗を 1 つしか作らなかったので、最初の瞬間から私たちの行動計画に非常に熱心に同意してくれたシアンク大尉の家で、私たちはこの旗に誓いました。

1923 年 3 月 4 日の IASI 総会。
国家防衛リーグ

ヤシに戻った後､私の前には並行して活動する 2 つの道がありました。 1. すべての大学で旗が作られる集会の基礎を築く。

2. 学生運動を継続し､ゼネストを維持する。

第一の点については､最大の困難は人員不足でも組織力でも政府の対策でもない｡今回､最大の障害となったのはクザ教授自身であり､彼は反対はしなかったものの､熱意に欠けていた。

クザ教授は組織化の必要性を十分に確信しておらず､予定されている集会が成功する可能性を信じていなかった。
第二の点に関しては､私はブカレストとクルージュのセンターの指導者らと深刻な困難に直面し､この新しい世界の完全な統一を実現するための戦闘計画に向けた単一の観点での合意を妨げる困難に直面した｡団結した力を尽くして､敵と私たちの過去のすべての過ちに立ち向かいましょう。

これらの学生センターの指導者も本体も､次のとおりです。 a) ユダヤ人問題を知りませんでした｡特にユダヤ人について知りませんでした｡彼らはユダヤ人の権力､その考え方､行動様式を知りませんでした｡彼らは相手を知らずに戦争を始めた。 b) 彼らは､我々が支援を約束した当時の自由主義政府､あるいは最終的にはその後継政府が我々の要求を満たしてくれるだろうと信じていた｡その上で､彼らは外交に従事することを好み､最終的には政治家に我々の大義の正義を納得させることができると信じていた｡問題の最も初歩的な側面さえ知らない男性たちと問題について話し合うことほど苦痛なことはないと私は思います｡この状況に対し､私は以下のような対応をとりました。

1. ヤシの中心部から数人の優秀な代表者がブカレストの中央委員会の会議に定期的に参加していること（この委員会の会議は週に 2 回､3 回定期的に開催されました｡会議は午後 9 時に始まり､3､4､3 時間続きました）｡朝の5時間､さらには7時間もの間､矛盾した議論が行われた（多くの参加者にとって､学生運動の唯一の記憶は､委員会内での修辞的な衝突を伴う会合だけだった）。

2. ブカレストとクルージュでは､学生団体からの最も優れた戦士のグループが､それぞれのセンターの指示に関係なく活動するために結成されること。

クルージュとブカレストでは､これらのグループは非常に急速に形成されました｡ブカレストでは彼らは委員会に出席したが､指導部は会合のたびに強い反対に遭った｡ブカレストでは､

ヤシからの代表者であるイブライレアヌは大きな助けとなりました｡同様に､医学生のリーダーであるシミオネスクの毅然とした態度が､学生たちの真の精神を保った。

ヤシから受け取ったニュースによると､集会の準備に関しては､見通しは次のとおりであった｡わずか 2 週間で､40 の郡で 40 以上の旗が信頼できる人々に発行された。 2か月にわたる学生運動と全大学でのゼネストの後､ルーマニア人の魂は沸き立っていて､その言葉を待ってどこにでも出没する準備ができていたのは当然のことだった｡デモの旗とニュースは間に合った。

クザ教授は､より多くの人が参加できるよう､集会の日程を5月に設定したいと考えていた。
私は以下の理由から集会をできるだけ早く開催すべきであると意見した。

1. 学生運動の周りに集まっている人々は皆､どこからか部隊を結成せよという命令が聞こえてくることを期待し､従うべき計画があることを知っていた。

2. この状況を知ったユダヤ人とフリーメーソンが疑似的な活動を始めるのではないかと心配した

国民を搾取し、運動を袋小路にそらすことを目的とした国家主義組織。

いずれにせよ、これはルーマニア人の心に大きな混乱を引き起こしたため、熟考すべきではなかったでしょう。

3. 政府、地方自治体、保護者、教師などあらゆる方面からの攻撃があり、戦争を遂行するのは簡単ではないので、学生運動の最前線を支援する必要があると感じました。貧困、飢え、寒さ。彼らを擁護するためにルーマニアの大衆を動員し、激励の言葉を送れば、この運動の戦線全体が活性化するだろう。

4. 最後に、何千人もの学生が何をすればよいのかわからず、無関心だったためです。彼らは一度か二度、デモを行った。彼らは1回か2回会議を開きました。しかし、2ヶ月も経ってしまいました。
これらの若者たちは何かをしなければなりませんでした。新しい組織が誕生したら、次に何をするか考えられなかった群衆は皆、幅広い活動領域を持っています。

彼らは翌日から仕事を始め、村々を訪れて組織化し、新しい信仰を獲得することができました。

1923 年 3 月 4 日

クザ教授は集会を 1923 年 3 月 4 日の日曜日に開催することを決定した。場所、ヤシ。

彼は私を夕食に招待してくれました。そこで、新しい組織にどのような名前を付けるかという問題が生じました。レフター大尉は「フランスのような国民防衛党だ」と語った。それが適切だと思いました。クザ教授はさらに、「これは政党ではなくリーグ、つまり『キリスト教国防連盟』だ」と付け加えた。そしてそう呼ばれました。
そこで私は、チェマウティ、ブカレスト、クルージュに同じメッセージを書いた電報を送りました：「3月4日にヤシで結婚式をします」。それから私は集会の準備の細部を整えることに忙しくなりました。それは、スムレヌ教授と私の父の同意を得て、クザ教授によって決定されました。大聖堂での祈り。大学にて - シミオン•バムティウとGhへのオマージュ。マルゼスク。サラン•ベジャンにて - 公開集会。

大規模な国会の開催を知らせるポスターが印刷された。戦闘組織設立を目的としたヤシでのルーマニア人大規模集会のニュースは、4つの大学の学生の間で、そしてルーマニア人全体の間に稲妻のように広まった。

3月の夜、旗の布を持ってきたリーダーに先導されて、満員電車3台が到着し始めた。午前中、42グループが42本の旗を持って到着しました。これらの旗の布は黒でした - 喪のしるしです。中央には白くて丸い斑点があり、彼らが征服しなければならない暗闇に囲まれた私たちの希望を示しています。白の中央には、世界中の反ユダヤ主義闘争の象徴であるかぎ十字が描かれています。そして国旗の周りには、赤、黄、青のルーマニアの三色旗が描かれています。クザ教授はブカレスト滞在中にこれらの国旗の形状を承認しました。さて、私たちはそれらをポールに固定し、新聞紙に包み、大聖堂に向けて出発しました。そこで1万人以上の群衆の前で礼拝が行われました。

祝福されるときは、42 枚すべての旗が祭壇の前に広げられました。祝福を受けると、彼らは国中に連れて行かれ、それぞれの周りにルーマニアの魂が集まったまさに要塞が築かれました。各郡に送られたこれらの旗は、同じような考えや感情を持つすべての人々を団結させるための凝集剤となるでしょう。その厳粛な祝福、その印象的な象徴性、そして各自治体への配置によって、組織と民衆の志向に関する大きな問題は解決されつつあった。

大聖堂からは、数千人の人々が旗を広げ、ユニオンスクエア、ラプスネアヌ通り、キャロル通りを通って大学に向かう行列を形成した。そこで、ひとつに

Googleによる機械翻訳

敬意と尊敬のしるしとして、ミハイル•コガルニセアヌ、シミオン•バルヌティウ、そしてゲオルゲ•マルシェスク、後者は1879年憲法第7条の擁護者であり、皮肉にもユダヤ人の擁護者であるリベラル大臣ジョージ•マルシェスクの父親であるゲオルゲ•マルシェスクに献花された。

そこで大学の円形競技場で、「全国キリスト教防衛連盟」の設立文書に署名が行われた。

その日の午後、会議はイオン•タルノスキ将軍が議長を務めてベジャン•ホールで開催された。
多くの

廊下に収まりきれない人々が路上にいた。クザ教授は、多大な熱意を持ってキリスト教国防同盟の会長に任命されました。講演者は、クザ教授、スムレアヌ教授、タルノスキ将軍、私の父、各自治体の代表者、そして大学センターの代表者たち：トゥドセ•ポペスク、プレリプセアヌ、アレックスでした。

ベントニック、ドンカ•マネア、ノビッチ、ソフロン•ロボタ。その中には、私も。クザ教授は動議を読んだ後、最後に「LANCの若手弁護士CZ•コドレアヌの組織を私が担当する」と使命を託した。

*

私の直接のリーダーシップの下、国全体のために、

それから彼は郡の指導者たちを指名した。ラリーは完璧な順序で、そして大きな熱狂とともに終了しました。

Google による機械翻訳

*

ルーマニア語の「Christian National Defense League」(Tr.)の略称。

その他の反ユダヤ主義組織および国家主義組織

経済的および政治的な性格を持つ小規模な反ユダヤ主義組織は 1900 年以前にも、その後にも存在しました。これらは、増え続けるユダヤ人の侵略に対抗するための、ビジョンと祖国愛を持った人々による微弱な努力でした。しかし、最も深刻な反ユダヤ主義組織は、N.イオルガ教授とAC クザ教授の指導の下、1910年4月23日に設立された「国民主義民主党」でした。この党には完全な管理プログラムがありました。彼の記事 #45 では、ユダヤ人問題の解決策が示されています。

「ユダヤ人問題の解決は、ユダヤ人の排除、ルーマニア人の生産力の発展、彼らの企業の保護を通じて達成されなければならない。」

これらの点を列挙した後、次の厳粛な宣言を読んでください。

「私たちは、これが私たちの名誉ある第一の義務であると考え、全力を尽くしてこの計画を維持し、宣伝し、擁護していきます。」

AC シーザ N. イドルガ

この組織には、1900 年以来すべてのベテラン戦士が集まりました。著名な戦士の中に、スムレアヌ教授、イオン ゼレア コドレアヌ教授、ドロホイのブトレアヌ、ガラティのトニ、CN リフリム、そして後にステファン ペトロヴィチ、CC コロイウなどが含まれます。

1914年、彼らは全員、トランシルヴァニア解放のためのルーマニア戦争参戦を要求する運動を主導した。そして1916年までに彼らのほとんどは前線に立ち、見事に任務を遂行した。 1910年から1911年以来、ドロホイの自治体は法学者ブトレアヌの指導の下にあった。ヤシ、クザ教授の指揮下。そしてスチャヴァは父の指導のもと、ルネサンスの拠点となった

ルーマニア人。

1912年、これらの郡の流れは非常に強かったため、選挙で政府はテロを利用しなければ確実な敗北を避けることができなかった。その際、父は重傷を負いました。

戦争直後、農民たちが前線から帰還し、新たな生活を断固として望んでいたとき、最初の選挙でクザ教授がヤシに、私の父がスチャヴァに国会議員をもたらした。そこで彼らは激しい議会闘争を繰り広げ、全国から拍手喝采を浴びた。この戦いは、軍隊が私たちの国を侵略したドイツ人が私たちに押し付けようとした平和に反対して行われました。

これらの真に注目に値する衝突の余韻は国民党と民主党を中心に国の希望を集め、その後の選挙では真の手ごわい勝利が記録された。スチャヴァでの勝利は比類のないものだった。 7 つの副議席のうち、政権が 1 議席を獲得し、他のグループは 0 議席を獲得し、父のリストは 6 議席でした。ドロホイもヤシもほぼ同じ。列車は34人の民族主義議員らをブカレストまで連れて行った。

しかし、ルーマニア国民にとって残念なことに、国中から集まった軍隊はすべて大敗北に終わりました。

それはルーマニア人の頭上に稲妻のように落ちた。ユダヤ人とフリーメーソンの勢力は、ACクザのニコラエ•ロルガ教授という2人の党首をなんとか分裂させた。ニコラエ•ロルガは、我が国に「少数者条項」を課す条約に反対せず、署名する用意があると宣言した。反対側のバリケードにいるクザ教授は、この悪名高い「少数者条項」は、

ルーマニア人が流したすべての血に対する反抗であり、我が国の国政への容認できない干渉であり、
我が国にとっての不幸の始まりである。事実上、ユダヤ人に政治的権利を保障するという押し付けが私たちに課せられたのです。
パスタ。

しばらくの間、N.イオルガは反ユダヤ主義者ではありませんでした。破裂が修復不可能であることは明らかだった。そして、この不幸なルーマニア国民は、救いの希望に再び悲痛な思いをしました。

ほとんどの党員と国会議員はニコラック•ロルガ教授の側に立ち、クザ教授の立場によって権力獲得のチャンスは遠ざかると信じていた。クザ教授とともに残ったのはスムレアヌ教授と父だけだった。

「ルーマニア国家の顔」と「ローマの行動」

1923年、学生運動のさなか、ナショナリズムの波の衝動を受けて、ヴィフォル、ルンギエスク、バギエスクの指導の下で「ルーマニア国民膜」が出現し、クルージュではカトゥネアヌ、チョルテア、ロレンテアの教授が率いる「ルーマニアの行動」が出現した。イウリウ•ハテガン弁護士、Em.ヴァシリュー＝クルージュとモタ率いる学生グループ。

最初に発行されたのは、よく書かれた機知に富んだ週刊誌「ファシズム」でした。しかし彼らはユダヤ人問題については知りませんでした。後者は「Romanian Action」を隔月で発行し、その後「Romanian Brotherbood」も非常によく書かれていましたが、出版のみに限定されていました。彼らは何か行動を起こすことも、強固な組織を作ることもできませんでした。

この間、学生のモタは「議定書」をフランス語から翻訳し、カトゥンカヌ教授とエムがコメントを付けました。 Vasiliu-Cluj、その後小冊子の形で出版されました。ヴァシリュー=クルージは著書「ルーマニアの人口統計状況」を出版し、その中でルーマニアの都市のひどい状態を統計的に示しました。

これら 2 つの組織は、「キリスト教国家防衛連盟」のような行動力、組織力、教義的能力を持たず、後者と合併する 1925 年までしか存続しませんでした。

「全国キリスト教防衛同盟」の設立後、私の活動は2つの方針に沿って継続することになった。
1つはセンターによって組織された別個の単位としての学生運動であり、当面の目標として3か月間参加した独自の戦いを持っていた。そしてLANCでは私がクザ教授のオーガナイザーの役割を引き受けました。

学生側としては、次のことに努めるべきです。

a) 学生の名誉を賭けたゼネストの姿勢を維持することは、攻撃、打撃、圧力、学生の頭上を飛び交う餌などを考慮するとかなり困難な作業である。さらに、敗北主義者の学生や敗北した信者の支持者もおり、彼らは管理される必要がありました。

b) 利用可能な学生要素を体系的に使用してルーマニアの大衆全体から募集し、彼らを単一の軍隊に組織します。 LANC

LANC側には、約40の郡にリーダーと旗があった。必要なものは次のとおりです。

a) 残りの郡の旗の完成。 b) それぞれのリーダーとできるだけ緊密に連絡を取る。 c) これまでのところ、組織内での正確なガイドラインを直ちに確立する。
存在しないが、医学を知らない郡長らによって要求された。午後、、に

ショート: 学生ラインでの守備。 LANCラインで攻撃的。

大勢の学生たちは、私たちの人種と死者の精神に対する健全な本能に導かれて行動しました。数々の困難を乗り越えて輝かしい道を歩みました。

リーグでは問題はもう少し深刻だった。郡長らは組織に対する説明とガイドラインを求めた。この流れに動かされた人々は信仰を強め、教え込まれ、組織と闘争で達成すべき目標について十分な情報を得る必要があった。

彼らは上司から規律と信頼を学ばなければなりませんでした。そのとき私たちは運動を生み出していませんでしたが、組織され、規律があり、教え込まれ、戦闘に導かれる必要のある完全な運動をすでに持っていました。

私が受け取った手紙と命令を持ってクザ教授のところへ行ったとき、彼は彼らによって武装解除されました。

彼らは彼を奇妙な新しい世界に紹介しました。太陽のように輝き、理論世界の高みで無敵だった彼は、戦場に降ろされたとき、無力となった。 「規制は必要ない。

彼らに自分自身を整理させてください。」

または：

「私たちは規律が必要なために兵舎にいるわけではない」と彼は何度も私たちに言いました。そこで私は、細部に至るまで自分で規約を書き始めました。しかし、私の年齢ではそれは難しい仕事であることがわかり、私はそれを父に持って行き、数日間作業して、形式と内容に必要な修正を加えました。組織体系は単純だが、それまでの政党とは異なっていた。違うのは、郡村の委員会と議員を基礎とする政治組織そのものに加えて、それとは別に数十人、数百人で組織される青年団を結成したことです。それまでの私たちの政治組織にはそのようなものはありませんでした。その後、彼らは自由党青年、国民農民党青年などの形で彼らを採用しました。彼はそのようなことについて聞きたくありませんでした。それからクザ教授と父の間で数時間にわたって恥ずかしい口論が続き、文字通り私は凍りつきました。これが不幸な争いにつながる可能性があると思い、このスレッドを立てたのは残念です。暴力的で失礼な男だった私の父は、クザ教授の許可を得ずにこの法律を手に入れて印刷所に行き、それを出版しました。

しかし、後者は、より機転と冷静さを発揮し、特定の問題ではどれほど柔軟性に欠けていたとしても、このような場合でも同様に順応性があり、物事をスムーズに解決する方法を知っていました。
彼は父に電話をかけてこう言いました。

「分かった、印刷してみましょう。でも、ちょっと見てみる機会をください。 」彼はそれを修正し、再構成し、アピールやマニフェストの教義的な部分を追加して、報道機関に送信しました。その後、これは「善きルーマニア人のガイド」となり、その後 LANC のガイドとなり、1935 年までリーグの基本的な本となりました。私は、組織にとって絶対に必要な良いことが実際に達成されたことに満足していましたが、心の中で自分にこう言いました。 「こういった初歩的な質問にそれだけの議論が必要になると、物事は難しくなります。組織において、上司の無理解も議論の多さも良いことではありません。

Google による機械翻訳

芸術の修正。 3 月憲法の 7 日

1923年。

ユダヤ人への公民権の付与

憲法を書き直すという使命を持った制憲議会でもある自由議会が芸術の修正を意図しているという噂が長い間広まっていた。 7 これは、「ルーマニアに存在するすべてのユダヤ人に市民権と政治的権利を与える」という意味でのものである。これまで、旧憲法のこの条項は外国人への市民権の付与を禁止しており、したがって、外国の侵略と干渉に対する真の防衛の盾となっていた。ルーマニアの公務に干渉するこの特権を、最大200万人のユダヤ人と、新しく我が国に定住したユダヤ人に与え、ルーマニアに住んでいたルーマニア人との平等の権利を与える。この地では何千年もの間、それは天に向かって叫ぶ不正であり、祖国を愛するすべてのルーマニア人を心配させ、深く揺さぶらずにはいられない大きな国家的脅威であった。

この状況に直面して、クザ教授はこの国の将来を脅かす脅威を示す一連の不滅の記事を書き、連盟はルーマニア人に署名してもらう請願書を全国に配布した。憲法第7条はそのまま維持される。請願書には数十万の署名が集まり、制憲議会に送付された。

これは、この深刻な問題が審議されている間、私たち学生があらゆるセンターからブカレストに行き、そこで地元の学生や国民とともに、私たちの未来を奴隷にする行為を止めるためにデモを行うべきだということを示していると思いました。私はチェルナウティ、クルージュ、ブカレストへ向かいました。生徒たちは私の提案を受け入れ、試合に向けて準備を始めました。出発日を示すために、カジュアルな電報を送ることに同意しました。しかし計画は失敗した。私たちは、この問題に関する審議は少なくとも 3 日間続き、その間にブカレストに到着できると予想していました。しかし、3月26日の審議は30分にも満たなかった。自由党政府と議会は、明らかに自分たちが犯そうとしている重大な恥ずべき行為に気づいていたようで、できるだけ目立たないようにそれを隠蔽しようとした。

この国家的裏切り行為の翌日、いわゆるルーマニアのマスコミも、ユダヤ系のマスコミも、この悪名高い行為を沈黙して扱った。 「ディミネアータ」（「朝」）、「ルプタル」（「戦い」）、アデヴァルル（「真実」)は、ブカレストの地主と借地人の対立を毎日太字で印刷し、隅には彼らが簡単に発表したいくつかの言葉が書かれていた旧憲法第 7 条は第 133 条に置き換えられました。

こうして自由党と悪名高き1923年議会は墓に埋葬され、この人々の将来をかけて墓石を封印した。私たちの子供たちから、私たちの母親から、私たちの年長者から、そして今そして永遠に、この地球上で苦しんでいるすべてのルーマニア人からの呪いは、これらの国の裏切り者を罰するのに十分ではありません。こうして、沈黙と卑劣さが蔓延する雰囲気の中で、この国家的裏切りの大行為は完了した。現在ルーマニア全土を支配している人格であるクザ教授の声だけが聞こえた。

「ルーマニアの皆さん、1923年3月28日の憲法は直ちに廃止されなければなりません。
その制定に抗議します。要求のない選挙を要求します。確実に勝利できるよう組織しましょう。新しい憲法は、国家の支配的な国民としてのルーマニア国民の優先的権利を保証しなければならない。」

ヤシでその知らせを聞いたとき、私は泣き始めました。そして私は自分にこう言いました。「そんなはずはない !少なくとも国民は、私たちが抗議活動をしていることを知るべきだ。なぜなら、そのようなくびきを首に負わされた国民が抗議しないなら、彼らは愚かな国民だ。」
それから私はイアジア人に宛てたマニフェストを編集し、すべてのルーマニア人を大学での抗議集会に呼び掛けました。ユダヤ人に公民権が与えられたというニュースは稲妻のように広まった。街は沸き立っていました。

政府の命令により、地元当局は軍隊、憲兵、警察を投入した。挑発が起こり、その後移動が阻止された。

そこで計画が変更されました。 「集会は大学ではなく市内14か所で行われた。そこから一晩中続いたデモと衝突が始まった。

地元当局、軍、警察は、私たちの戦闘計画、集合場所の突然の変更、そして市の端から端まで走り回ったことに完全に当惑した。反対側の地点で30分おきに噴火した。私の指揮下のグループは、最も困難な地点で出会った :ポドゥル•ロス（ソコーラ）とTg。ククルイでは、ユダヤ人の生意気な人々が、反ユダヤ主義のデモ参加者は決して足を踏み入れず、生きて立ち去ることはないと主張しました。そこにはルーマニア人は住んでいません。

何千人ものユダヤ人が目を覚まし、虫の巣のようにあちらこちらに走り回りました。火に遭遇したら、私たちは火で応戦しました。
私たちは義務を果たし、邪魔になるものはすべて打ち倒し、モルドバのかつての首都ヤシが依然としてルーマニア領であり、そこで統治し、許可することも禁止することもでき、平和を維持するのは私たちの腕であることをユダヤ人に示しました。罰したり赦免したりする戦争。

翌日、バリアードの騎兵隊が地元の2個連隊、警察、憲兵隊、ユダヤ人を支援するために市内に到着し、ブカレストの新聞は次のような見出しの特別版を発行した。「ヤシは革命の夜と昼を過ごした。 」

それが私たち、ただ子供たちにできることです。私たちはこうする方法を知っており、当面は肩にくびきが置かれていました。私たちはそれを冷静に、奴隷のような諦念をもって、卑怯な態度で受け入れません。私たちはこれらすべてを行い、たとえどれほど多くの戦いと犠牲が私たちに期待されていたとしても、生涯にわたってこのくびきを打ち破るという神聖な誓いを立てました。

翌日、私は囚人たちに食べ物を届けるために警察庁舎に行きました。そこでは、マニフェストの著者である疑いでユリアン•サルブが尋問されていた。これを見て、私は捜査官のところに行き、「サルブはマニフェストの著者ではない、私が書いている」と言いました。

私の最初の逮捕

警察署で彼らは私にこう言いました。「コドレアヌさん、あなたは代理人と一緒に法廷に行かなければなりません。」

「なぜエージェントなの？」私は返事をした。 「私は一人で行きます。」私の言葉が疑問視されたのはこれが初めてだった。私は気分を害した。 「いいえ、私は捜査員と一緒に行きません。彼が望めば、私の後ろを60フィート歩いても構いません。私は一人で行きます。私の言葉には20人の警察官以上の価値があります。」私はその場を去り、エージェントは私の後ろを20フィート歩いていました。
裁判所に到着しました。捜査官が来て、私をジュイス•デ•カティチ警察署に連れて行き、「あなたは逮捕されているので、刑務所に送らなければなりません」と言われました。

それを聞いたとき、目の前が真っ暗になりました。当時、「投獄される」ということは屈辱的なことでした。イアジア人の中で逮捕された人は一人もおらず、民族主義者の学生が逮捕されたという話も聞いたことがありません。ましてや愛国者の経歴を持つ私が？私は彼の机に近づき、「閣下、私は逮捕を受け入れません。誰も私を迎えに行ったり、刑務所に連れて行ったりするつもりはありません。」と言いました。

哀れな男は、これ以上の議論を避けるため、捜査員に私を刑務所に連れて行くよう命令し、反対しないように忠告しました。それから彼は立ち去りました。エージェントは私を連れて行こうとした。私は彼に、「家に帰って、私を放っておいてください。私をここから連れ出すことはできません。」と言いました。
その後、他のエージェントが入ってきました。私は午前11時から午前8時までそこにいました。私を排除しようとするあらゆる努力は失敗に終わりました。
「私はいかなる不正行為にも罪を犯していません。私は国民に対する義務を果たしました。逮捕されなければならない有罪者があるとすれば、それは国民に不当な扱いをした者たちです。ユダヤ人に公民権を与えたのは議会です」 。」

最後に、法廷職員全員が一人ずつ門番の所へ帰っていきました。残ったのは私の隣のエージェントと私だけでした。
8時頃、3人の警察官が到着した。
「コ•ドレアヌさん、法廷から避難するよう命令が出ています。」
「わかりました、紳士諸君、出発します。」
私たちは階段を下りて建物を出ます。驚いたことに、そこで私は半円を描いた憲兵、検察官、裁判官、警察官の一団を見た。
そう言って私は先へ進み、中庭の真ん中に座った。当局が私のところに来てこう言いました。

「あなたは刑務所に行かなければなりません。」 "私は行かない。"
彼らは私を抱き上げて車に乗せ、ゆっくりと刑務所に移送し、その後に憲兵が徒歩で続きました。私たちが刑務所の門を通過する最後の瞬間、息子たちは私を解放しようとしましたが、職員の銃が彼らを阻止しました。

それは法律に対する抗議でしたか ?いいえ、それは不義のくびきに対するものでした。

逮捕されることを頑なに拒否していた私には、冷たい刑務所の壁の中に私を導く道を歩むと、やがて訪れるであろう多くの苦しみの予感のように思えました。私はイースターの前夜まで一週間そこに滞在しました。
刑務所での最初の日々 !道徳的に言えば、私は彼らのことを非常に厳しく受け止めました。なぜなら、国民のために戦っているときに、また人民と戦う者の命令によって誰かが逮捕されるということが理解できなかったからです。

解放されて、家に帰りました。多くのルーマニア人が駅まで私を迎えに来て、私に同情を示し、闘争を続けるよう励ましてくれましたが、それは人民の闘争であり、最終的には勝利するものです。

農民から知識人に至るまで、国民全体が、あらゆる面で、この芸術に関する悲しい知らせを大きな痛みを持って受け止めた。 7 修正。しかし目が覚めると疲れ果て、指導者たちに裏切られたため、彼にできることは何もなかった。私たちの頭にはどんな呪いがかかっているのだろうか、そしてどんな罪が私たちルーマニア人をそのような邪悪な指導者の一員に運命づけたのだろうか？

私たちはここで、2つの異なるロマニアで、2つのグループの人々と同じ問題を抱えた2つの歴史的瞬間に直面しています。1879年にリトルルーマニアで開催された非常に小規模な憲法制定議会は、ヨーロッパからの圧力に抵抗する勇気を持っていました。 1923年、大ルーマニアでは、ヨーロッパ自体の圧力の下で、卑劣な卑劣さから、国民全体の命を屈辱にし、危険にさらすことを躊躇しない私たちの血の犠牲から生まれました。

ルーマニアの偉人たち、1879年

そして

忘却のベール

この本の読者は、それに続くページで、1879年にヨーロッパ全土でルーマニア人の権利を求めて激しく戦った我が国国民の思想、愛国心、性格などのさまざまな頂点の著作からの一連の抜粋を見つけて少々驚くだろう。 , これらの抜粋を含めることは、この巻の通常の展開に負担を与え、複雑にしますが、として使用する 、そのような問題で通常従う規則に反して、私はそれらを歴史的な議論ことを望んでいるわけではなく、これらを再び明るみに出すためにそれらを含めています。ユダヤ•フリーメーソンのオカルティズムの陰謀が彼らに影響を及ぼした偉大な先祖たちの推論と表現の真珠

彼らは真のルーマニアの巨人のように書き、考え、戦ったというだけの理由で、迫害され、重い封印と忘却の銘板の下に閉じ込められた。
私たちの世代の学生は、ユダヤ人の危機から政治的退位を経て50年を飛び越え、1879年と同じ信念、感情、性格を同一視しており、この神聖な結合の瞬間に感謝と影への畏敬の念を込めて頭を垂れる。彼の偉大さについて。

ヴァシルアカウント

1879年に私たちの偉大な会計が下院で行った態度を考えてみましょう。
50年前、ルーマニアの哲学者は、非の打ちどころのない論理体系に基づいた揺るぎない科学的議論で、国家の基盤にあるべき人種的真実の堅実性を実証した。この理論は、50年後に1879年にユダヤ人に公民権を与えることを強制した同じベルリンによって採用された。

このことから、新しいドイツのイデオロギーに触発されたとして国民運動を攻撃する人々の主張の脆弱さがわかるが、実際には、長い年月を経て、ヴァシーレ•コンタ、ミハイル•エミネセウ、そしてベルリンの路線を引き継いだのはベルリンだった。その他。

私たちがユダヤ分子と戦わなければ、国家として滅びるでしょう。国家が存在し繁栄するための第一の条件は、その国家の国民が同じ人種、同じ血を持っていることであるということは、今日私たちを攻撃する人々によってさえ認識された事実であり、これは容易に理解できます。まず第一に、似たような人種の個人は、一般に自分たちの間でのみ結婚します。そうすることでのみ、人種の統一を維持できるからです。そして、結婚は個人間の最も強く最も永続的な絆である家族感情を生み出します。そして、これらの家族の絆が州のすべての国民を包み込むように広がっていることを考えると、これらの家族が一般的な愛の感情、いわゆる人種的同情によって惹かれていることがわかります。さらに、民族のすべての構成員の静脈には同じ血が流れていることを念頭に置くと、これらすべての構成員は遺伝により、同じ感情、同じ傾向、さらには同じ考えを持つことになることが理解されます。そうすることで、危険な時代、特別な機会に、彼らの心臓は一つに鼓動し、彼らの心は一つの意見を採用し、全員の行動は同じ目的を追求するでしょう。言い換えれば、単一の人種によって形成される国家の重心は 1 つだけになります。そして国家はそのような国民で構成されており、その国だけが抵抗力、耐久力、進歩の最良の状態にあるのです。

したがって、種の維持と同様に、国家の存在のための第一の要件は、その国民が同じ人種であることです。さて、これが国籍原則の根拠となる真実であり、文明世界で多くのことが言われている根拠となっています。もちろん、この国籍の原則は人種のみに言及しており、「人種に関係なく国家の臣民」と呼ばれるものには言及していません。その場合、この原則は適用されないからです。

さて、この原則は現在、政治家であれ一般市民であれ、すべての人々の良心の中に深く根付いており、今日、文明世界のすべての国家はこの原則のみに基づいて存在し、あるいは再構成されています。

したがって、ユダヤ人の広報担当者やユダヤ人の愛好家は、国家の基礎が単に国民の共通の物質的利益であるなどとはもう言わないでください。なぜなら、それどころか、まさに今、私たちの世紀こそが、国籍。これは今日ますます普及しています...外国人が支配的な国家に同化するという条件で、このことが国の市民権を取得することを妨げるものではないことは事実です。つまり、最終的に国家が同じ単一の血からなるように、融合することである。

「これらが帰化に関する唯一の科学的原則です。帰化が有用かつ合理的で科学的基準に適合するためには、先住民との結婚を通じて同化するか、同化する意思がある外国人にのみ帰化が認められるべきである。そうでなければ、支配的な人種の血に同化する傾向を持たない、あるいは持つことができない個人に市民権を与えると、国が相反する傾向の間で絶え間なく闘争にさらされる結果となることは容易に理解できるだろう。

私は、どの国にも存在する複数の人種が時として共通の利益を持つことが不可能であるとか、同じ状況下ではある人種の遺伝的傾向が他の人種の遺伝的傾向と同じように優遇されるべきだと言っているわけではありません。

この状況が続く限り、先住民と帰化人は間違いなく平和に暮らすだろう。しかし、状況は変化し、それに伴ってさまざまな人種の利益も変化する可能性があります。そして今日でなければ明日です。明日ではなくても、明後日には、帰化人の傾向は先住民の傾向と対立し、一部の人々の利益は他の人々の利益と対立し、一部の人々の利益は他の人々の利益を犠牲にすることなしには満たされない。 ;そして、その後、私たちは2つの種族の間で生存競争をすることになり、激しい戦いは国家を完全に廃止するか、どちらかの種族が完全に潰されて再び1つの支配的な種族だけが国家に残ることによってのみ終わらせることができました。 .... さて、私たちの国の歴史と日常の経験は、私たちのところに来るすべての外国人の中で、トルコ人、特にユダヤ人は決して私たちと結婚しない人たちであることを証明しています。

外国人 :ロシア人、ギリシャ人、イタリア人、ドイツ人は、一世ではないにしても、二世、三世の間に結婚して私たちと融合しますが、最終的には、血の点でも、これらの外国人と私たちの間に区別がなくなる時代が来ます。あるいは郷土愛。しかし、ユダヤ人にとってはそうではありません…。

「…この問題がどのように提示されようと、どのように解釈されようと、もしユダヤ分子と戦わなければ、我々は国家として滅びるだろう。」
(1879 年 9 月 4 日に開催された臨時議会下院で行われ、1879 年 9 月 17 日水曜日のオフィシャルモニター No. 201 に掲載された、憲法条項の改正に反対する演説より、5755 ページ- 6)

ヴァシル•アレクサンドリ

議場にいる間、ヴァシーレ•コンタは上院で前述の演説を行い、連合の詩人ヴァシーレ•アレクサンドリはルーマ 、 で
ニア人の感情を次のように表現した。

今日、ルーマニアは歴史書を手にして私たちのところにやって来ます。私たちがそのページに自国民の屈辱と喪失、あるいは彼らの尊厳と解放を書き記すことができるようにするためです...

世界の歴史の中でも前例のないこの状況に直面して、私たちは情熱を持たず、暴力を使わず、しかし冷静な精神と啓発された愛国心と崇高な勇気をもって、自分の心と精神を義務の高みまで高める方法を知らなければなりません。それがあなたの国の運命を決めるために召された男たちに期待されています...

この新たな行き詰まりとは何でしょうか ?この新たな侵略とは何でしょうか ?
侵略者は誰ですか ?彼らはどこ出身ですか ?彼らが望むこと ?そして、ドナウ川のほとりにあるこのティトネにある新しい約束の地に彼らを導く新しいモーセとは誰なのでしょうか ?

侵略者とは何ですか ?活発で知的な民族であり、使命を果たすことに飽きることはありません。最も盲目的な宗教的狂信の信奉者。地球上のすべての住民の中で最も排他的であり、世界の他の民族と最も同化できない...

「彼らは私たちに何を求めているのでしょうか ?

今日のガリシアとブコヴィナの一部の農民のように、この国のかつての領主を奴隷に変えて、この人々の土地の所有者になること。
この国は美しくて豊かです。この国には大都市、道路、高度な機関があり、ラテン系の人々と同じようにやや予測不能な人々がいる...この国の住民を置き換えて、それによってすべてをイスラエルの所有物に変えることより簡単なことはないでしょうか？

もしこれが現在の侵略者の計画であるとすれば、すべてが私たちに信じさせているように、イスラエル国民の進取の精神を再び証明するものであり、非難に値するどころか、現実的な人々から拍手と賞賛を集める可能性が高い。

もし私たちルーマニア人が、私たちの無関心や致命的で不条理な人道理論の適用によって、この計画の実現に加担していたとしたら、責任はあるでしょう。これらの理論に騙されたり、理論を裏から理解したり、あるいは想像上の脅威の影響で想像上の恐怖に囚われたりした場合、私たちはその責任を私たちの頭に負うことになります。ルーマニアの祖国が私たちの祖国から託された神聖な埋蔵物であることを私たちは忘れてしまうでしょう。父親たち。傷一つなく、私たちの子供たちに伝えられますように...

では、そのような状況を作ってしまったら、国全体はどう言うでしょうか？祖先の土地の独立のために喜んで戦ったルーマニア人は何と言うでしょうか？
私たちの国は痛みを感じて私たちから目を背けるでしょう。
ルーマニア人はこう言うだろう、「流された血が祖国を分断し国家の尊厳を低下させるだけなら、今後は私の血を求めないでください。」

これらのことを考慮して、ルーマニアが今日、そのページに拒否権を刻むために歴史書を鞄の中に入れて私たちの前に立っているとき、私はこの国を辱める碑文が書かれる予定のページを引き裂き、もう一方のページを私は引き裂きます。あなたの尊厳、あなたの解放を、私の心を込めて書きましょう！」

(1879 年 10 月 10 日に召集されたルーマニア上院臨時会で行われた、憲法第 7 条の改正に反対する演説より。オフィシャル モニター No. 230、1879 年 10 月 11/23 日木曜日、pp に掲載) .6552-8.)

ミハイル•コガルニセアヌ

ここに、1869年に内務大臣であったミハイル•コガルニチャヌが、ユダヤ人問題に対する威厳のある態度と海外から加えられた圧力が示されている。ミハイル•コガルニチャヌは、今日、私たちを抑圧する人々を拷問する命令が発せられる場所となった同省の名目上の長官である。国民を守るために戦います。

「自国に積極的な利害関係を持つ人々は皆、ユダヤ人が国民を搾取するのを防ぐことに関心を持ってきた。

ルーマニアでは、ユダヤ人の問題は宗教的な問題ではなく、国家的な問題であり、同時に経済的な問題でもある。

ルーマニアでは、ユダヤ人は異なる宗教共同体を構成しているだけではありません。彼らは、言葉の完全な意味で、ルーマニア人にとっては、その出自、言語、服装、習慣、さらには感情までもが異質な国籍を構成している。

したがって、これは宗教的迫害の問題ではありません。なぜなら、もしそうであれば、イスラエル人は崇拝の実践において妨害または制限に直面することになるでしょうが、実際にはそうではありません。
彼らのシナゴーグはキリスト教会の近くに自由に立つことを許されない。彼の宗教指導やカルトの宣伝も容認されないでしょう。

公国、特にモルダビアを訪れた人々は皆、私たちの都市に住んでいたポーランド系イスラエル人によって明らかにされた、悲しいというよりも悲しい側面に怯えていました。
この群衆の商業、産業、生計をさらに詳しく観察すると、これらの旅行者はさらに恐怖を感じた。なぜなら、ユダヤ人は生産者ではなく単なる消費者であり、彼らの最大の、そして私が言うべき主要産業であることがわかったからである。酒類の小売りです...

私は、国のすべての法律によれば、セルビアの場合と同様、ルーマニアのイスラエル人には村に居住する権利がないという単純な理由で、ユダヤ人を居住地から追放したことはありません。

私は、ユダヤ人、特にガリシア人やポドリ人と呼ばれる人々による将来の居酒屋やナイトクラブの賃貸を制限しました。この措置は、組織法と総会で投票され、その後ミハイ•ストゥルザ王子によって認可された法律で正当化され、その後今日に至るまで廃止された法律はないが、逆に、以前はすべて内務大臣の法律であった。そして大会後も維持され、実行されます。この証拠は、私の前任者たちの命令です。すなわち、コスタ•フォル大臣時代の1861 年 6 月 17 日と 28 日の命令です。 1866 年 2 月 5 日のフロレスク将軍の署名。 1866年3月11日と4月11日、ディミトリエ•ギカ王子などによってラムニクル•サラト県に発行された。

このような状況では、私と私の前任者以外には、たとえ10人でも後を継いだ大臣は何もできませんでした。

立憲主義国家であるルーマニアの大臣、我々は国民の意志に従わない限り統治することはできません。

私たちには、この国のニーズ、欲求、そしてある程度は偏見さえも考慮に入れる義務があります...

これは、深い苦しみと正当な懸念から生じるルーマニア国民の大きな苛立ちを正当化するものであり、それは自国に脅威を感じている国民の声であるからである。そしてその経済的利益。外国人がその声をかき消すことはできるが、ルーマニアの閣僚がどの政党に属していても、その声を聞かないことは許されない。だからこそ、今日だけではなく、常に、いつでも、どの政権下でも、ルーマニアのすべての支配者、すべての政治家、自国に真の利益を持つすべての人々が、資源の搾取を止

める必要性を懸念してきたのです。異民族であるユダヤ人によるルーマニア人。 」

(1869 年 6 月、ユダヤ人問題に関して外務大臣に宛てたミハイル•コガイニセアヌ内務大臣の通信より。1870 年まで制定されたルーマニアの新旧立法コレクションに掲載、ローン M. ブジョレアヌ著、ブカレスト 1873 年、ルーマニアの労働者の新しい印刷機、パート F。タイトル「規定と回覧」、第 X 章、813-6 ページ）。

ミハイル•エミネスク

「今日、彼らがまだ完全な市民権や政治的権利を持っていないときに、彼らがモルダビアのすべての商業とすべての小規模産業を乗っ取ったとしたら、もし今日彼らがルーマニアの平原に恐ろしい姿を現したとしたら、そして今日彼らが都市の中心部に巣を作ったとしたら、勤勉なオルテニア人、明日、彼らに平等の権利が与えられ、ルーマニア人を名乗ることができるようになり、この祖国が私たちのものであるのと同じように彼らのものであるという正式な権利が法律に刻まれるのはいつになるだろうか。 ！」

（全集、イスラエル人の質問、489ページ、ヤシ、ロネスク•ゲオルゲスク書店、1914年。アレックス•ナウムによる引用）。

そして481ページにはこうあります。

「彼らはどのような努力や犠牲を払って、ルーマニア国民との平等を目指す権利を獲得したのでしょうか？彼らはトルコ人、タタール人、ポーランド人、ハンガリー人と戦った人たちなのでしょうか？彼らは古い条約が破棄されたときに罰せられた人たちなのでしょうか？この国の名声が広まり、この言語が過去のベールから発掘されたのはあなたの努力のおかげですか？
ルーマニア国民が日光を受ける権利を勝ち取ったのは彼らのうちの誰かだったのか?」

イオン ヘリアーデ ラドゥレスク

「イギリスとフランスのキケリーが、ルーマニアの市民権を同じ宗教者に要求しているだけではなく、特権や優越性を要求しているのが分からないのか。彼らは金の貴族、黄金の子牛の貴族を確立したいのですか？

彼らは、私たちが最後の一人まで死んでも与えられないものを要求します。
イギリスとフランスのキケリ家は信じているのだろうか、君たちも信じているのだろうか、ルーマニア人が彼らの間で最も卑劣で不潔で最も下品な貴族階級、道化師、ユダヤ人、拝金主義者の支配を清算するのを冷静に見守っているということを、彼らと共に信じているのだろうか。悪党？

このような忌まわしい支配は、どのような称号で、どのような権利によって、法廷で、滅びの子たちを除く全人類が花嫁として神聖な花婿の前に来ることになる20世紀の門の前で確立され得るでしょうか？

イギリスとフランスのキケリー家は、あえて平等に基づく人間の権利を提示しながら、自分たちの特権と優位性をふりかざす大胆さを持っているだろうか？

そして、彼らはその権利を行使することができないので、あえてイスラエル人の儀式に関するルーマニアのパラドックスを作り、ヨーロッパの君主の名において私たちを脅迫するところまで彼らのユダヤ人特有の大胆さを押し上げるつもりなのでしょうか？
それでは、ユダヤ人は何によって私たちを征服するのでしょうか？あなたの数字、あなたの強さから見てみましょう？
私たちは、パレスチナの地における民族とユダヤ人自身の再生の名の下に、彼らに善いことを願い、願い、彼らを憐れみ、傷を負った全人類の救いを願うキリスト教徒として、彼らに忠告します。キリストは、ご自分を苦しめる者たちを十字架から赦されました。そのようなことを何もしようとせず、あえてそれを熟考することさえせず、ましてや彼らを誘惑したサタンの天使によって引き起こされた不安の現代においては何も主張しませんでした。ルーマニア人が自己保存の本能を持つ国民としての権利を守るために、正当かつ神聖な怒りをどこまでぶつけられるかは神のみぞ知るのだから、そんなことはしないほうがいい！」

(1. Heliade Radulescu 著、ブカレスト、1859 〜 69 年発行、「アンチテーゼまたは精神と物質の間の均衡」より抜粋。第 3 部、「イスラエル人とユダヤ人」と題し、第 X 章、380 〜 3 ページ)。

ボグダン•ペトリシク•ハイデウ

したがって、タルムードではユダヤ人の私たちに対する行動の 2 つの形態が規定されています。

「あなた方がキリスト教徒より強いなら、彼らを絶滅させてください。」

「もしあなたがクリスチャンより弱いなら、彼らを褒めなさい…」

「しかし、私より弱い人が、いつか私より強くなるためには、まず私と同等になる中間段階を通過する必要があります。」

「ユダヤ人にいわゆる政治的権利を与えるということが何を意味するか、理解できたでしょうか？」

（「ユダヤ教の研究。イスラエル民族の信仰告白としてのタルムード」より抜粋、ルーマニア歴史文書館長、ブカレストのルーマニア図書館道徳•政治部門所長、BP•ハイデウ著。発行者テオドールVaidescu、Bossel House No. 34、1866; pp. 30-1.)

コスタチェ•ネグリ

「我々の総人口の7分の1を占めるユダヤ人は、我々の弱さ、先見性の欠如、そして強欲さが我々を非難する最も悲しいハンセン病患者である。」
（1869 年 1 月 12 日付けのオクナからルパスクに宛てた手紙より、『ヴェルソス、散文、C. ネグリのカルタス』の巻に掲載され、E. ガルレヌによる彼の人生と著作の研究、編集者「ミネルヴァ」、3 Academiei Blvd
ブカレスト 1909 年、p. 1 16）。

ADゼノポール

私たちは、ヤシ大学の教授である偉大な歴史家AD Xenopolの意見を、同じ抜粋の中で紹介することを許可します。これは、自分の発見の痛ましい現実を生き、自分の目で見た科学者の否定できない権威を考慮してのことである：「ルーマニア人が店を開こうと決めたら、ユダヤ人は敷居をまたぐことはない。そうすれば、彼はユダヤ人によって迂回されるだろう」「顧客が多い一方、ルーマニア人はユダヤ人から買うことを嫌がらない。価格操作がなくても、ルーマニアの商人や商人の抵抗を打ち破ることができるのは明らかだ。後者が『』という意味であれば、ユダヤ人は決してルーマニア人を自分の店に受け入れないだろう」そこから何かを学びましょう。というのは、ルーマニア人は使用人かポーターとしてのみユダヤ人の家庭に受け入れられるからである。この独占システムは根強く残っています。モルドバの端から端まで広がる無数のユダヤ人の作業場や商店には、労働者、職長、会計士、レジ係、セールスマンなど、キリスト教徒やルーマニア人の見習いは一人もおらず、「ユダヤ人はルーマニア人に対して最も厳格な経済的排他主義を実践している」彼らは自分たちの宗教によって規定されているので、放棄することはできません。」

（AD XenopolによるLa question israelite en Roumanie、La renaissance latine、25 rue Boissy-d'Anglas、Paris、1902年、17ページから引用）。

学生ゼネストは続く

復活祭の後、戦闘が再開された。 LANC の面では、クザ教授が新聞を通じて活動を続け、私たちの残りが組織の世話をしました。
都市や町での一連の会合が始まった。生徒の前で、芸術の修正。憲法の7条が変更される。学生リーダー

ブカレストとクルージュは、学生運動がやがて政府を説得して学生たちの正当な要求を認めさせるだろうと信じていたが、政府が彼らの要求を何一つ認めないだけでなく、ユダヤ人に権利を認めていることを見て激しく失望した。彼らはますます降伏しようと考えた。

クルージュでは大統領が会議を開き、学校に戻るのが最善だと提案した。学生集団は彼の提案を拒否し、自分たちは名誉を守るために戦っているのであり、戦いは抵抗の限界まで戦わなければならないと宣言した。この論文の支持者は、Ion Mota、Corneliu Georgescu、Isac Mocanu、および私たちのすべてのグループでした。

アレクサ氏が辞任し、後任としてペトル•マイオール学生センターの会長にイオン•モタ氏が新たな委員会とともに選出された。

学生を授業に戻そうとする政府の攻撃も今回も失敗したが、指導者たちは犠牲となった。イオン•モタと他の6人は、その強硬な態度によりすべての大学から永久追放された。

ブカレストでは、シミオネスクとダヌレスクが率いるグループが、ますます優柔不断で弱体化しつつあった指導部に代わって活動を始めた。ここでも政府はイースター後に授業を開始しなかった。

1923年6月

さらに 2 か月にわたる英雄的な抵抗、悲惨さ、プレッシャーが続き、学生たちは疲れ果てました。ブカレストでは、ユダヤ人と反逆者の学生に限り、大学が試験を再開した。開校初日、大学に軍隊が駐留した。

前線では学生同士の衝突が起こったが、戦力が弱すぎてもはや開戦を阻止できなかった。政府の計画は、ヤシを最後に残し、三つの大学が機能しているという既成事実をヤシに提示しながら、大学を一つずつ開校するというものだった。 1週間後クルージュで、数日後にチェルナウティで、ブカレストと同じ条件下で軍の駐留のもとで大学が開校した。あと一週間もすればヤシに苦難の時代が訪れるだろう。それは政府によって単独で孤立し、学生数は大幅に減少した。

開校前夜、明日の朝に軍隊が大学に入ることがわかっていたので、私たちは夜間に大学を占領する計画を立てました。

暗くなる前に、私は信頼できる生徒をホールに送り込み、2つの大きな窓のボルトを見つけられないように引き、外から押されて開くようにしました。この計画をまだ誰にも共有していないので、私は午前9時にBejan Hallで100人の学生が集まる会議を招集しました。午前10時に私たちは大学を占拠します。私たちはそのファサードにかぎ十字が描かれた国旗を掲げましたが、その直後に大学の学長であるシン•ドネスク教授が到着しました。彼は入院した。彼は私たちに大学を去るよう勧めるように話しかけました。私たちは彼に私たちの動機を説明することで答えました。数時間後、彼は立ち去った。私たちは警備の任務を組織し、一晩中そこに滞在しました。

翌朝、学生たちが大挙して大学に到着した。
元気を取り戻した彼らは、満場一致で戦いを続けることを決意した。

ユダヤ人の新聞は私たちを激しく攻撃しました。 2日後、クルージュは闘争の中で憲兵隊から大学を奪還しようとした。さらに2日後、ブカレストとチェマウティも追随した。これらの闘争は新たな学生の反乱とすべての大学の閉鎖につながりました。
学年が終わりました。この若いルーマニア人は、持久力、人格、団結力というユニークなテストに合格した。

多くの打撃を受けながらも、その堅固さによって、世界の大学の歴史の中で未だに比類のない集団的意志の例を示した学生団体に敬意を表します。学生たちが一つの魂に団結し、すべての責任とすべてのリスクを引き受け、維持することができるのをこれまでに目撃した国はありません。

彼らの信仰を証明するために1年間のゼネストを行い、その表明を通じて全体の良心を目覚めさせようとしました。この国は、その存立上最も深刻な問題に直面しています。

これは美しいページであり、ルーマニア国家の本の中に、この若者の苦しみによって書かれた英雄的なページです。

ローマ国家に対するユダヤ教の計画

ルーマニア国民に対して

ユダヤ人は、風に導かれ、運命に押されて、偶然ここにやって来た可哀想な不幸者だと想像する人は誰でも間違っています。世界中のすべてのユダヤ人は、血とタルムードの宗教によって団結した大きな集団を形成しています。彼らは非常に厳格な国家で構成されており、法律、計画、そしてそれらの計画を立てる指導者がいます。最下位はカバルです。だから私たちは直面しない

少数の孤立したユダヤ人ですが、構成された権力、ユダヤ人コミュニティです。数人のユダヤ人が定住するすべての市場町や村では、すぐにカバル（そこでのユダヤ人コミュニティ)が形成されます。このカハルには独自の指導者、個別の裁判制度、税金などがあり、その地域のユダヤ人人口全体がその周りにしっかりと団結しています。

ここ、市場または都市のこの小さなカハルで、すべての計画が立てられます。どのようにして地元の政治家や役人を説得するか。治安判事、役人、高官など、興味のある特定のサークルに潜入する方法。ルーマニア人の手からこれこれの商業部門を奪うために何を使うつもりなのか。地元の反ユダヤ主義者を潰す方法。ユダヤ人の利益に反対する可能性のある地方自治体の腐敗のない代表者をどのようにして潰すか。住民が抵抗を超えて反乱を起こし、反ユダヤ主義運動が爆発した場合、どのような計画が適用されるのか。次のような方法が使用される。

、ここではこれらの計画については詳しく説明しません。一般に、次のような

I. 地元の政治家を説得するには: 1.
ギフト; 2.
個人的な好意; 3.
プロパガンダ、ビラ印刷、旅費などの政治機構への資金提供。街に銀行家や裕福なユダヤ人が複数いる場合、それぞれが特定の政党に割り当てられます。

II.地方自治体を征服するには: 1. 汚職、贈収賄。モルドバの最も小さな町の警察官は、国から受け取る給料に加えて、月にさらに1、2ドルの給料をもらっている。彼が賄賂を受け取ると、彼はユダヤ人の奴隷となり、命令に従わない場合、彼らは彼に第二の武器を使用します: 2. 脅迫、彼が従わない場合、賄賂の受け取りが明らかになります。

3. 3 番目の武器は破壊です。あなたが支配されたり征服されたりすることができないと彼らが見ると、彼らはあなたの弱点を探してあなたを破壊しようとします。あなたが飲酒すると、彼らはアルコールを通じてあなたを危険にさらす機会を探します。あなたがスカートチェイサーなら、彼らはあなたを危険にさらすか、あなたの家族を破壊する女性を送り込むでしょう。あなたが本質的に暴力的である場合、彼らはあなたを殺すか、あなたが殺して刑務所に行くであろう別の暴力的な男をあなたに送り込むでしょう。 4.
あなたにこれらすべての欠点がない場合、彼らは嘘、ささやき、または印刷された中傷を利用して、あなたを上司に報告します。ユダヤ人が
侵入した町や市場町では、地方当局が賄賂、脅迫、破壊行為を行っている状態にある。

III.さまざまなサークルや少数の高い地位にある人々の周りに浸透するために、彼らは次のことを使用します。 1. 卑屈さ。 2. 取締役会。 3. 個人的な好意の根拠。 4. お世辞。

それで、すべての政治家はユダヤ人の秘書を雇います。なぜなら、彼らはお世辞を言い、自分に取り入りながら、買い物をしたり、靴を磨いたり、赤ん坊を揺り動かしたり、ブリーフケースを持ったりするのに役立つからです。ルーマニア人はそれほど優秀ではない。なぜなら、彼は洗練されておらず、不誠実でもなく、鋤を離れ、そして何よりも忠実な兵士、管理人になりたがっているからである。

創造されることを拒否することで彼の名誉を傷つけたのです。

IV.ルーマニアの商人を破滅させる計画。
1. ルーマニア人を 1 人か 2 人のユダヤ商人で側面攻撃する。
2. 原価以下の商品の販売。損失はカハルが提供する特別資金で相殺されます。
こうしてルーマニアの商人たちは次々と破滅していったのです。

これらに以下を追加できます。

Google による機械翻訳

a) ユダヤ人の商業的優位性。これはルーマニア人の商業慣行よりもはるかに古い商業慣行から生じたものである。 b) カバールの保護下で競争するユダ

ヤ人の優位性。ルーマニア人はルーマニア国家の保護を受けておらず、ニュースによって腐敗した地方自治体によって課せられた悲惨な状況だけを享受している。ルーマニア人は隣国のユダヤ人と戦うのではなく、カハル人と戦う。そのため、もし彼が連合軍と戦えば急いでしまうであろうことは容易に理解できる。ルーマニア人には、彼を育て、助言し、助けてくれる親国家も誰もいない。彼は孤立し、運命に委ねられ、強力なユダヤ連合と対峙することになります。 「ルーマニア人が商人になれますように」というミハラチェのカテゴリーに属するすべての政治家の公式を繰り返すのは簡単です。

これらのルーマニアの政治家たちに、国家の支援を受けたルーマニアの一人の商人、銀行員や事務員ではなく実際に商人を教育することを目的とした単一の学校を見せてもらいましょう。
彼らが設立した、わずかな資本を援助したり、ビジネススクールの若い卒業生を商業の道に導いた機関を一つだけ見せてもらいましょう。

通商の道を放棄したのはルーマニア人ではなく、国家の指導者や顧問としての義務を放棄した政治家たちだった。

ルーマニア人は指導者たちに見捨てられ、組織化されたユダヤ人の連合、不正な策動、そして誠実な競争に一人取り残され、敗北した。しかし、これらの指導者が次のことについて説明しなければならない時が来るでしょう。

あなたの間違い。

ルーマニアの土地に対して

もう一度繰り返しますが、私たちが見ているのは、避難所を求めて一人でここをさまよった一部の貧しい人々ではありません。

私たちはユダヤ国家、つまり私たちを征服するために私たちの土地に侵入してくる軍隊に直面しています。ユダヤ人の人口移動は、確立された計画に従ってルーマニアに対して行われ、ユダヤ人大評議会はおそらくバルト海からポーランドとチェコスロバキアの一部に広がり、その後ルーマニアの半分をカバーする土地に新しいパレスチナを設立しようとしている。黒海まで到達し、そこから他のパレスチナと容易に水上接触を確立することができた。 「ユダヤ人の大規模な人口移動が計画外に起こると信じることができる世間知らずな人がどこにいるでしょうか？」彼らは計画通りにやって来ますが、少なくともこれらの特性によって、この土地に対する何らかの権利を正当化するために、戦い、立ち向かい、危険を冒し、血を流す勇気を持っていません。

これらの計画をどうやって知ることができるのでしょうか?敵の動きから結論を導き出すことで、私たちはそれらを確実に知っています。敵の行動を注意深く監視している部隊指揮官は、自分が追求している計画を理解しています。初歩的な質問です。この世界のすべての戦争において、敵の綿密な計画に参加したために敵の計画を知っていた指導者がいたでしょうか?いいえ !彼は敵が何をしたかによって彼らを完全に知っていました。

ルーマニア人民のあらゆる抵抗力を打ち砕くために、ユダヤ人は真にユニークで極悪非道な計画を適用するだろう： 1. 彼らはルーマニア人と天と地との精神的な絆を断ち切ろうとする。
私たちと天国との絆を断ち切るために、彼らは無神論を広めるだろう。

ルーマニア国民、あるいは少なくとも神の指導者の一部を分離せよという命令。それらを分離する

神とその死者を滅ぼすことができるのは、剣ではなく、霊的生命の根を断つことによってです。

国の存在の物質的な源である土地と私たちを結びつけている絆を断ち切るために、彼らはナショナリズムを「時代遅れ」とレッテルを貼り、祖国と土壌の考えに関連するあらゆるものを攻撃し、国家の糸を断ち切るでしょう。ルーマニアの人々をその溝に結びつける愛。

2. これを成功させるために、彼らは報道機関を支配しようと努めるだろう。
3. 彼らはあらゆる機会を利用してルーマニア陣営に不和をまき散らし、誤解や口論を広め、可能であれば互いに争う派閥に分裂させるだろう。

4. ルーマニア人のほとんどの生計手段を掌握しようとするだろう。
5. 彼らは組織的にルーマニア人を放縦に扇動し、彼らの家族と道徳心を破壊するだろう。

6. 彼らはあらゆる種類の飲み物やその他の毒で毒を与え、気絶させます。
民族を征服して破壊したい人は誰でも、このシステムを使ってそうすることができます。天と地との絆を断ち切り、口論や兄弟殺しの争いを引き起こし、不道徳と放縦を助長し、物質的な破滅、肉体的な中毒、酩酊など、国家を破壊するあらゆるものを引き起こします。何千もの大砲で爆破されたり、何千もの飛行機で爆撃されるよりも。

ルーマニア人たちに、このシステム、つまり真に殺人的なシステムが彼らに対して正確かつ執拗に使用されなかったかどうかを確認するために少し振り返ってみましょう。過去40年間、ユダヤ人の支配下にあったマスコミを読むことにルーマニア人が目を開きますように。アデヴァルル（「真実」）、ディミナータ（「朝」）、ルプタ（「闘争」）、オピニア（「意見」）、ルメア（「世界」)などを再読させて、各ページから、その計画が常に現れるわけではありません。

ルーマニア人が目を開いて、今日のルーマニアの公共生活における不和を認識できますように。彼らに目を開けてよく見てもらいましょう。ユダヤ人はこれらの計画を、戦争における毒ガスのように、自国民に対してではなく、敵に対して使用するために使用します。彼らはルーマニア人に無神論を広めていますが、最も細かい宗教的戒律を尊重すると熱狂的に主張しているため、彼ら自身は無神論者ではありません。彼らはルーマニア人を土地への愛から引き離したいのですが、彼らは土地を奪います。彼らは国家理念に反対して立ち上がるが、自国に対して排外主義的な忠誠心を持ち続けている。

学生運動に反対

ユダヤ権力勢力には学生運動などの計画がないと信じている人は大間違いであり、彼らの期待はあまりにも間違っており、ユダヤ人たちは一瞬混乱した。
彼らは共産主義運動の労働者、つまり他のルーマニア人を操って学生たちに反対しようとしたが、成功しなかった。なぜなら、一方ではこれらの労働者は無力であり、他方では彼らも私たちが戦っていることを認識し始めたからである。彼らの権利のために、そしてルーマニア国家によって苦しむのです。彼らの多くは心の中では私たちの味方でした。

ユダヤ人たちは、労働者たちを我々の邪魔にできなかったことを悟り、政府とすべての政治家を学生たちに敵対させた。

それはどういう意味ですか?
政党は海外からの資金と融資を必要としている。そして権力を握ると投票する。反対しているときに好意的な報道をする。
ユダヤ人は、さまざまな政党による選挙活動に必要な資金を削減すると脅した。政府の借入を減らすためにユダヤ人の国際金融に協力すると脅迫された。公民権を手に入れた今、民主主義制度を通じて勝敗を決めることができるという手段で、大量の票をコントロールすると脅迫した。報道機関を操作すると脅しており、報道機関はほぼ全面的に支配されており、報道機関の支援がなければ政党や政府は敗北する可能性がある。

お金、報道、投票が民主主義における生死を決定します。ユダヤ人はそれらすべてを支配しており、彼らを通じてルーマニアの政党はユダヤ権力の手中の単なる道具となっている。

つまり、ユダヤ人と戦い始めた私たちは、突然政府と戦うことになるのです。

政党、地方自治体、軍、一方ユダヤ人は黙って傍観している。

ユダヤ人の議論と態度

「私たちを野蛮な行為に引き戻すルーマニアの反ユダヤ主義運動について、諸外国は何と言うだろうか ?科学者や文明人は何と言うだろうか ? 」
わが国の政治家たちは、あらゆる新聞に毎日掲載されているこのユダヤ人の「主張」をあらゆる段階で私たちに繰り返すだろう。8年後、ついにドイツは、そのあらゆる文明と文化にもかかわらず、ユダヤ人に対して立ち上がり、アドルフ•ヒトラーを通じてヒドラを打ち破るだろう。この議論は放棄されます。それから彼らは別の質問を持ってきます :「あなたは反ユダヤ主義に従事するためにドイツ人からお金をもらってドイツに奉仕しています。その資金はどこから調達していますか ? 」

そして再びルーマニアの政治家たちは、魂もなく、人格もなく、名誉もなく、ユダヤ人マスコミのメロディーを真似る :「お金はどこから来るのですか ?ドイツから給料をもらっているのです。 」

1919年、1920年、1921年、ユダヤ系マスコミ全体がルーマニア国家を攻撃し、あらゆる場所で無秩序を解き放ち、政権、政府形態、教会、ルーマニアの秩序、国家理念、愛国心に対する暴力を扇動した。

今、あたかも奇跡のように、同じマスコミが同じ人物によって統制され、国家秩序と法律の擁護者となった。暴力に反対することを宣言します。私たちは「国の敵である右翼過激派」、「ルーマニアの敵の給料と奉仕」などになります。そして最終的には、私たちはユダヤ人によって資金提供されているということも聞くでしょう。

私は自問します。すべてのルーマニア人がユダヤ人の嘘と不誠実な議論を理解し、それらを悪魔起源のものとして拒否する日はいつ来るのでしょうか ?彼らがこの種族の倒錯性を理解する時はいつ来るのだろうか ?

1922年4月23日の帰化ユダヤ人連合の公式機関紙イスラエル•ポスト紙の「ファントム」と題された社説で、3人のルーマニア人大学教授、ACクザ、パレスク、スムレアヌがどのように扱われたかは次のとおりである。犯罪者たちが集まって悪者の集団を形成した。そして国の恥ずべきことに、その中には我が国の大学の教授が3名も含まれています。

「そして、これらの見本、これらの後進的な亡霊たちは、反ユダヤ主義を復活させようとしています…そして、公式の反ユダヤ主義が消えつつあり、普通選挙も必然的に私たちの国民と国民の民主化をもたらす今、一部の後進的な道化師たちはこれに成功するでしょう。 」社会生活 いいえ! 彼らが働くのは無駄です! これらの幽霊は人類の行進を止めることはありませんし、鋭い棒で彼らの心臓を突き刺す必要もありません。* 彼らの裏切りの嘲笑は彼らを永久に終わらせるでしょう…

「私たちは以前、いわゆる「全国キリスト教同盟」(約5人半の愚かな人物で構成されている)によって引き起こされた野蛮な行為について報告した。

彼らをきっぱりとその悪名高き態度で非難し、依然として悪行者が存在することをユダヤ人に注意を喚起する。そこにいて、彼らはそれに対して自分自身を守らなければなりません。 」
つまり、ピエロの一団、公の犯罪者、犯罪者の集団、標本、亡霊、裏切り、荒々しい行動、悪名高き態度 - tbis は、ルーマニア語の教授であるクザ教授、パレスク教授、スムレアヌ教授のものです。そして国を救うためのあなたの行動とは !

私たちは怒りに次ぐ怒り、嘲笑に次ぐ嘲笑、平手打ちに次ぐ平手打ちを受け、ついにはこの恐ろしい状況に陥ったのです。ユダヤ人はルーマニア人の擁護者とみなされ、不快感から守られ、平和で豊かな生活を送っているのに対し、私たちはルーマニア人の敵とみなされています。私たちと共にある国家

自由と生命が危険にさらされ、あらゆる当局によって狂犬のように狩られている
ルーマニア人。

私はこの時代を目の当たりにし、生きてきましたが、心の底から悲しくなりました。惨めさと飢えに耐えながら、涙のように純粋な心で祖国のために何年も戦い続けてきたのに、突然国の敵と認定され、同族から迫害され、お金をもらっているから自分は正しいと言われるのは恐ろしいことだ。外国人、見てください

すべてのユダヤ人は自分たちの土地を支配し、ルーマニアの擁護者、ルーマニア国家の管理者の役割を引き受け、この国の若者であるあなたたちに脅かされています。
私たちは毎晩このような考えに悩まされ、時には嫌悪感を覚え、非常に恥ずかしく感じ、そして悲しみでいっぱいでした。

私たちにとって、外の世界へ出て行ったほうが良いのではないだろうか、それとも、私たち全員と、ルーマニアの裏切り者とユダヤ人のヒドラの頭領の両方に対して、死ぬことになる復讐を求める方が良いのではないだろうか。

Googleによる機械翻訳

* 一般に広まっている迷信によれば、幽霊が生者の平穏を乱すのを防ぐために、「頭は掘り起こされ、心臓は害で突き刺される。 （Tr.）」

学生運動指導者会議

IASI、1923 年 8 月 22 日から 25 日まで

ブカレストの限られた委員会では、1年間の闘争の末、学生運動の指導者と代議員による最初の大会が開催されることが決定された。
この会議は 1923 年 8 月 22 日と 25 日にクルージュで開催されました。ペトル マイオールの学生センターの会長であるモタは、地元当局からこの会議を禁止する命令が出されたと通知を受けたと私たちに手紙を書いています。私たちヤシ人は、たとえ政府が会議を禁止したかったとしても、この会議がヤシで開催されるよう責任を負うとクルージュ氏や他のセンターに返答した。私たちの提案は受け入れられ、既知の40人の代表者が四等分されるよう手配する義務を果たしました。 8月22日の朝、私たちはイオン•モタ率いるクルージュ代表団、次にトゥドセ•ポペセウとカルステアヌ率いるチェルナウティ代表団、そしてナポレオン•クレトゥ、シミオネセウ、ラペアヌ率いるブカレスト代表団を迎えるために駅へ行きました。 10時に私たちは祈りのために大聖堂に行きました。

戦争で殺された学生たちを追悼するレクイエムが祝われ、その中には学生センターの元会長ステファン•ペトロヴィチ大尉も含まれていた。

しかし、非常に残念なことに、大聖堂の門は鎖で施錠され、憲兵によって警備されていたことに気づきました。そうこうしているうちに、老教授ガヴァネスクルもやって来た。
それから私たちは頭を覆い、異教徒のトルコ人ですら祈りたい人には門前払いをしていなかった教会の前の通りの真ん中にひざまずきました。たまたま通りかかったシュテューベイ神父が、私たちがひざまずいているのを見て、近づいてきて、いくつかの祈りを読み上げました。

それで、私たちは裸頭で、無言で、とても悲しそうに、ユダヤ人の視線がドアや店の窓から矢のように私たちに向けられている中、通りの真ん中を歩きながら大学までの距離を歩きました。

大学の階段で私たちを待っていた地元当局は、多数の警察に囲まれながら、国際関係省が会議の開催を禁止したと私たちに知らせました。検察官は立ち止まり、私たちに解散するよう警告した。イライラして私はこう答えました、「弁護士先生、私たちが法治国家に住んでいることは承知しています。憲法は私たちに集会の権利を保障していますし、大臣は法によって保障されたこれらの権利を大臣が取り消すことはできないことを私よりもよくご存じです。」したがって、憲法の名のもとに、私たちではなくあなた方が従わなかったのですから、あなた方には退席していただくようお願いします。」

教会の門に鎖がかけられ、祈ることができなかったとき、その1時間前に犯された冒涜によって心を硬化させられました。私たちは今、私たちの本拠地である大学への立ち入りを妨げられるという二度目の不当で屈辱的な挑発に直面しています。これらの措置の規模は明らかな違法であり、私たちは行く手にあるものすべてを
焼き払い、いくつかの闘争の末に大学を武力占領しました。

その直後に到着した第13連隊が大学を包囲した。私たちは身を隠してすべての入り口を守りましたが、各窓の外には銃剣を抜かれた三人の兵士が配置されているのが見えました。

この不利な状況の中、悪天候の中、正午に法学部講堂で大会が開会した。代表者らは憤りで青ざめ、大聖堂とここで起きた出来事の苦痛に沈黙し、人気のない回廊に深い悲しみの空気を感じた。誰もが大学への軍隊攻撃の可能性と避けられない結果を心配していました。

私たちは何もスピーチをしませんでした。議会は状況の深刻さを誤って判断し、深刻な影響を懸念した。

私は初日に社長に選ばれました。私たちはその日の出来事を非難し始めました。数人は議場で抗議を求めた。そこで私たちはこの運動についての話し合いを始めました。

新しい学年が始まったとき、私たちはどのような態度をとるでしょうか。私たちは降伏するでしょうか？難しい！一年中苦労しても結果は出なかった。それどころか、恥ずかしがり、屈辱を与え、殴られました。私たちは次へ行きます？またまた、難しい！学生たちは疲れきっています。彼らは2年目の戦いを続けることはできない。

それでも、モタ、トゥドセ•ポペスク、シミオネスク、そして私は戦いを続けるよう懇願した。犠牲を乞うがいい、屈服からは恥と屈辱以外何も得られないからだ。そして、犠牲を払ったからといって、より良いものが我が国に実を結ばないということはあり得ません。 8時にはもう真っ暗でした。街に出ると騒音や喧騒が聞こえてきます。

1919年に活躍したベテランレスラー、コンスタンティン•パンクーが学生たちに囲まれて外に立っていました。大勢の町民がたいまつを持ってカフェ•トゥフィーに集まり、私たちに数袋のパンを届けるために大学に向かって丘を登ろうとしました。

私たちは皆、窓に飛び乗って外を眺めます。抗議者たちはトゥフリ•カフェの非常線を破り、丘を駆け上がった。コロイウ通りの2番目の非常線も激しい戦闘で破壊された。 「万歳」の爆発音が聞こえます。同様に、第 3 の非常線も突破されました。私たちは内側から攻撃して抜け出す準備をしていましたが、外側からの人々は第4の非常線を突破することができませんでした。足元にパンの入った袋を置きながら、「彼らは私たちの子供たちだ」というパンクーの声が聞こえた。

私たちは喜びの涙を流していました。私たちが戦うのはこれらの人々のためであり、それが私たちを失望させることはありません。
9時に

ナポレオン•クレトゥを通じて私たちと当局との間で交渉が始まりました。私が引き渡される限り、生徒全員は即時自由が約束されました。学生たちは拒否した。 11時頃、彼らは私たちに3人グループで出発してもよいと告げ、当然、出発時に私を逮捕するつもりでした。承ります。 1分ごとに3人のグループが出発しました。入り口で、彼らは4人のコミッショナーと代理人によって綿密に検査された。私はすぐに民族衣装を脱いで同志に渡し、彼の服を着ました。私はシミオネスクと3人目の生徒と一緒に出発しました。

ドアが開いたとき、私はポケットから小銭を取り出しました。歩道に着くと、スチュワード全員が下を向いて尋ねた。

「諸君、何を失った？」
私たちも首を傾げながらコインを探していましたが、「お釣りはありません」と答えました。

私が逃げている間、シミオネセウは彼らと話し続け、マッチを擦ってお金を探していました。

私たちは会議の続きを市郊外のセタトゥイア修道院で極秘裏に二日目に予定しました。私は機関車の火夫に変装してそこに忍び込みましたが、幸運なことに保安官にも気付かれませんでした。

イオン•モタが主宰。

戦略的な位置に監視員を配置することで、1 キロメートル離れた場所から誰かの接近を検知することができました。私たちは黙々と働き、その日は遅くまでそこに残りました。提案が行われ、決定が行われました

Googleによる機械翻訳

ソケット。 12月10日がルーマニアの学生の国民の祝日と宣言されたのもこの会議でした。

3日目もガラタ山の小さな森で審議が続けられた。多数決によりストライキ継続が決定された。すべての大学の学生運動全体の行動を指揮するために、5 人からなる行動委員会が選出されました。委員会のメンバーは、クルージュのイオン•モタ、チェルナウティのトゥドセ•ポペスク、ヤシのイリエ•ガメタタ、ブカレストのシミオネセウ、そして私でした。この委員会の結成により、情報が不十分で優柔不断だったブカレストの古い学生指導部は完全に崩壊した。彼はその名を引き継いだが、もはや指揮を執ることはなかった。初めて、この運動に新たな方向性を与えることが正式に決定された。一方では、私たちが国から遠く離れていると考えていた政党と闘い、他方では、新しいルーマニアの運動への信頼を強めることである。それは学生によって正式にサポートされるべきです。勝利を目指す「キリスト教国防同盟」。

議会は4日目、キャロル•ストリートにあるギカ夫人の自宅でその活動を終えた。夕方、全員が大学へ出発し、私はクザ教授と運動の指導者全員が参加するブコビナでの LANC 会議を主催するためにカンプルンへ向かいました。逮捕状が発行されていたため、そこに行くのは困難でした。

旅行中、私は私たちの意見の精神に沿った議会の決定すべてに満足していましたが、何よりも、私たちが味方を獲得したからです。クルージュのペトル•マイオール•センターの所長、イオン•モタです。

カンプルンでの LANC 会議

カンプルンでの会議は 1923 年 9 月 17 日月曜日に開催されました。
政府がそれを禁止しており、その法令を執行するために大佐の指揮の下、チェルナウティから軍隊を派遣したため、私たちは激しい戦闘の後にのみそれを保持した。都市の各入り口には軍隊による強力な非常線が張られました。

私たちはポジョラータのサドヴァから市の西の入り口に全軍を集中させた。
そこで私たちはヴァトラ•ドルネイとカンドレーニの射手のおかげでコードを解いて、数百台の荷馬車からなる船団全体を通過させるのに丸一時間を与えてくれた。

会議は市の墓地で開催された。講演者は、C教授、ウザ氏、私の父、カタリン博士、ブコヴィナLANC会長、トゥドセ•ポペスク氏でした。次に、オクタフとヴァレリアンのダニレアヌ兄弟が、カタリン博士の協力を得てこの素晴らしい会議を熱心に企画しました。白いシャツと粗末な布地の上着を着た、長い髪をした誇り高き山の農民たちは、長い山笛の音を聞くと、かつてないほどの嵐の中で、自分たちの街に群がりました。彼らは、何世紀にもわたって待ち望んでいた、ルーマニア人が自分を吸い込んでいたヒドラを踏みにじり、現れて祖国、その山、その川、そしてその都市の主としての権利を引き受ける時が来たと考えた。彼らは戦争の重荷を背負っていた。あらゆる戦線でのあなたの血の犠牲が偉大なルーマニアを築きました。しかし、彼らの悔しさと失望に、大ルーマニアは彼らの期待に応えられませんでした。

なぜなら、大ルーマニアは、長い間彼らを苦しめてきたユダヤ人の奴隷制度の鎖を断ち切ることを拒否したからである。
大ルーマニアはさらなるユダヤ人搾取のために神話を放棄し、盗まれた歴史的権利を主張しようとすると刑務所に送る政治家の鞭を彼らの頭に振り下ろした。

ブコヴィナの森、かつては正教会に属していた山々があり、現在は政治に染まって遠く離れた山々は、1立方メートルあたり10レイという前代未聞の価格で薪を搾取するためにユダヤ人のアンバウブに与えられた。ルーマニアの農民は 3.50 レイを支払わなければなりませんでした。

山林は容赦のないユダヤ人の斧にさらされます。ルーマニアの村々に貧困と悲しみが広がり、山々は不毛の岩と化す一方、アンハウとその親族は絶えず精力的に金の詰まった金庫を国境を越えて運び続けている。何千人もの農民の悲惨さを利用したこのユダヤ人の犯罪パートナーは、その莫大な利益の分け前をむさぼり食ったルーマニアの政治家だった。

このデモでは、カタリン博士とヴァレル•ダニレアヌ博士の指導の下、30人の重要な農民がブカレストに派遣され、首相に会って彼らの山の荒廃に対して行動を起こし、アンハウ教会の契約を破棄して愛と感謝を示すよう要請した。彼らを戦いに目覚めさせた若者たちに、学校に「上腕骨クロースス」を置くよう祈ってください。トゥードセ•ポペスクと私も、ブカレストへの30人の農民に同行する集会に選ばれました。

*
ルーマニアの通貨単位。 (Tr.)

初めて国の首都に来た農民たちが学生たちに歓迎されるようにするため、私は彼らより先にブカレストへ向かいました。これらの農民たちは、私たちの大義と彼らの大義を守るために、非常に純粋な心、非常に多くの痛みと非常に多くの期待を持ってブカレストに近づきました。旅費は彼らの乏しい資源に比べて不釣り合いに高額でした。

ブカレストに到着すると、生徒たちはルーマニア国民の歴代の王である彼らを高貴に迎え、目に涙をいっぱい浮かべながら聖都で列車を降りました。しかし駅の裏では、ラスカヌ検事、警察本部長、そして憲兵の列が彼らの通行を阻止しようと待ち構えていた。憲兵と警察長官は私たちを攻撃するよう命令されました。

ライフルの胴体や棒が農民たちの白い頭と穏やかな顔に打撃を与えた。
すると、激怒した学生たちは、年老いた農民たちをグループの真ん中に置き、eを攻撃した。最初の非常線を破り、工科大学に向かって突進し、そこで2番目の非常線を破り、さらに3番目の非常線を破ってマタチェ•マチェラル広場に逃げた。農民たちは泣きました。そのうちの一人は、抑えきれない憤りに駆られ、シャツを引き裂いた。翌日、私たちは首相の歓迎を受けるために閣僚会議のためにルア•ゴグ•カンタクジノに行きました。

私たちは翌日に延期されました。最後に、3日目に歓迎されると言われました。私たちは来ました。私たちは廊下に出て、黙って小声で話したり、つま先立ちしたりしながら、約1時間待ちました。事務所の所長が現れた。

「諸君、お帰りください。首相はあなたたちを迎えることができません。首相は閣僚評議会に入室中です。」

「しかし、私たちは長い道のりを歩んできました」と私たちは言おうとします。ドアは私たちの目の前で閉まりました。私は考えていました。各人はチケット代だけで 1,000 レイを費やしたのです。何もせずに帰るつもりですか ?彼らはもはやブカレストに滞在することはできません。私はドアを両手で掴み、力いっぱい振り始めました。 「中に入れてください。さもないとドアを破壊して無理やり入ってきます。」と声を張り上げて叫びました。
私は足でドアを蹴って開けました。農民たちは叫び声を上げ、ドアに肩を預けました。ドアが開くと、髪の毛が逆立ち、顔が黄色くなり、驚いた10人ほどの人々が現れた。彼らはジャーナリストだったと思います。「皆さん、何がお望みですか？」彼らは尋ねた。

「首相に、もし入れてくれなかったらここを全部壊して強行突破すると伝えてください。」数分後、目の前のドアが開き、私たちは中に入りました。私たちは階段を上がっていきました。廊下で背を高くして立っている

イオン•ブラティヌがポールのようにまっすぐに立っていました。彼の後ろにはアンヘレスク大臣、フロレスク大臣、コンスタンティネスク大臣、ヴィンティラ•ブラティアヌ氏などが続いた。

「善良な皆さん、何が欲しいのですか？」彼は尋ねた。

私たち二人の若い学生はまだ憤慨しており、グループの雰囲気を最も正確に伝えるためにもっと激しく見せたかったのですが、大理石の階段と豪華な敷物を田舎靴で踏みしめた農民たちは和らぎました。

「殿下、首相、私たちはあなたの手にキスをし、敬意を持ってあなたの足元に立っています。私達は何が欲しいのか？屋根に雨漏りがあり、それを覆うためのタイルすら不足しています。もう子供たちを学校に留めておくことはできません。ユダヤ人は私たちの学校にも定員を満たしており、私たちの子供たちは彼らの年季奉公労働者となるでしょう。」

それから他の農民たちが話しました。イオン•ブラティヌは耳を傾け、前室での私たちの混乱については何も言及せず、最後に農民たちが「私たちは大学生たち、私たちの子供たちにも、彼らの要求どおりに数条が実施されるようお願いします」と付け加えた後、こう答えた。森林問題については調べてもらうので、我慢してください。ヌメロス•クローサスに関しては、これは不可能です。

それを導入したヨーロッパの州を 1 つだけ教えてください。この施策、私も提示させていただきます。

しかし、ヨーロッパはわずか 10 年後に目覚め、ヌメルス•クローススを導入し、私たちの大義を認めました。しかし、イオネル•ブラティヌは約束を守るほど長くは生きないだろうし、彼の後継者は我々を攻撃しようと拳を振り上げるユダヤ教の下級奉仕者に過ぎないだろう。

異星人の主人の命令で私たちを殺してください。

私たちは皆、希望を持たずに去っていきます。何も行われません。公聴会の直後の数時間後、代表団を率いたカタリン博士とヴァレル•ダニレアヌ氏が逮捕された。その夜、学生グループが内務大臣の自宅前で敵対的なデモを行った。学生のウラジミール•フリムさんは逮捕され、ヴァカレシュティ刑務所に投獄された。私たちの残りはカンプルンに向けて出発しました。

Googleによる機械翻訳

1923 年 10 月の生徒の作品

何世代にもわたって模範となる復讐の試み
未来

モタも私に加わるためにカンプルンに来て、ララウ山の混乱にあるペトルの庵に登りました。 - 私が特に大好きな山です。レアーズが登るにつれて、モタは自分の内面を私に教えてくれた

「学生たちは来秋からはもう授業を続けることができない。1年間の闘争の末に私たち全員が恥ずべき降伏を受け入れるよりも、授業を再開するよう彼らに促し、彼らを率いる私たちが自らを犠牲にしてこの運動を気高く終わらせる方がよいだろう」
ルーマニアの国益を裏切ったとして最も有罪であると我々が考える者全員を連れて行く。
」

「銃を探して撃ちましょう。ルーマニアの歴史の中で長い間記憶に残るひどい前例を示しました。この後、私たちがどうなるか、死ぬか刑務所で残りの日々を過ごすかは、もはや問題ではありません。
」

私は、私たちの闘争の最終行為は、私たちの破滅と引き換えに、自らが担っていた重大な責任の立場を放棄し、屈辱を与え、ルーマニア国家を言いようのない危険にさらしたピグミーに対する懲罰となることに同意した。

その瞬間、私たちは、国民が受けてきたあらゆる不当行為と、長く続いた屈辱への復讐を求める血が血管の中で湧き上がっているのを感じました。

その後間もなく、彼らはサヴェセウ•サン•イオン•モタ12番地にあるブトナル氏の家、コルネリュー•ジョルジェスク、ヴェルニチェスク•フロッリ•クルージュで会った。ヤシ出身のリー•ガメタ、ラドゥ•ミロノヴィチ、レオニダ•バンダック、そして私。そしてチェルナウティのトゥードセ•ポペセウス。私たちが直面しなければならなかった最初の問題は、主犯が誰であるかを判断することでした。ルーマニア人かユダヤ人か、国全体を襲った悲惨な状況に最も責任があるのは誰でしょうか ?最初にして最大の犯人はユダの銀貨のために自国民を裏切った裏切り者のルーマニア人たちであるということに我々は満場一致で同意する。ユダヤ人は私たちの敵であり、そのため私たちを憎み、毒を盛り、絶滅させます。
あなたのキャンプに侵入するルーマニアの指導者は敵よりも悪いです、彼らは裏切り者です。最初の最も暴力的な懲罰は、まず裏切り者に、次に敵に下されなければなりません。もし私に弾丸が 1 発しかなく、敵と裏切り者に直面した場合、私は裏切り者にそれを持たせるでしょう。私たちは、祖国を裏切った数人の名前、すなわちジョージ•マルシェスクを筆頭に6人の閣僚の名前について合意した。

結局のところ、自分たちを何の反応もできない民族の絶対的な支配者であると考えている国で、自らの行為の責任を問われなければならないとは想像もしていなかった悪党たちにとって、それは驚くべき時であり、命をもって答えなければならない時だったのだ。 。
今回、国家は目に見えない魂の絆を通して復讐者たちを送り込んでいた。

次に、2 番目のカテゴリー、つまりユダヤ人を想定します。 200万のうちどれを選ぶべきでしょうか ?私たちは熟考し、議論し、最終的にはルーマニアに対するユダヤ人攻撃の真の指導者はラビであり、すべての商業都市や村のラビであるという結論に達しました。

彼らはユダヤ人大衆全体を攻撃に導き、ルーマニア人がどこに転ぶとしても、それは偶然ではありません。彼はラビにマークされたために転んでしまいます。身売りした政治家の背後には、根回しをし、カハルかユダヤ人の銀行家に取引をまとめて返済するよう命じたラビの頭脳があった。中傷、嘘、扇動を煽るあらゆるユダヤ新聞の背後にはラビがいる。しかし、私たちは少数なので、ブカレストの「大きな猫」だけを選びます。もし私たちに数的戦力があれば、絶対にすべてを奪っていただろう。

次に銀行家を選びました。アリスティドとモーリシャス•ブランクは、すべての政党とすべてのルーマニアの政治家を理事会に入れ、金を注ぎ込んで腐敗させた。自由党に資金を提供したベルコヴィシ（ブランクは特に国民農民党を担当し、自由党も買収できると感じた）。

しかし、もし

次に、報道におけるユダヤ人に目を向けます。最も傲慢な、魂を毒する者たち：

Google による機械翻訳

*
モルダビアの統治者、1527年から1538年。 1541〜1546年。 (Tr.)

ローゼンタール、フィルダーマン、ホニギナン（ファーギュレ）、新聞社のディレクター、ディミナータ（『ザ•モーニング』）、アデヴァルル（『真実』）、ルプタ（『ザ•ファイト』）、これらすべてはルーマニア主義の敵である。
私たちはグループでブカレストに向けて出発し、ヤシに永遠の別れを告げました。私は生徒たちに手紙を書き、その中で私たちの行動の正当性を説明し、別れを告げ、授業に戻るよう促しましたが、最終的な勝利まで信念を持ち続けるよう促しました。
私たちは皆、両親や戦友に手紙を書きます。

ブカレストではダヌレスクの家で再会する。私たちは彼をしばらく前から知っていましたが、彼は私たちに良い印象を与えてくれました。彼はこのチームには含まれていませんでしたが、喜んで私たちをもてなしてくれました。私たちはその夜の8時に彼の家を出て、9月13日通り41番地にあるドラゴスに行き、そこで詳細を明らかにし、いつ行動を開始するかを決定することになっていました。私たちがかろうじて集まったとき、青ざめた顔のドラゴスが部屋に入ってきて、「兄弟たち、警察が家を包囲しました」と言いました。

これは 1923 年 10 月 8 日の夜、午後 9 時頃のことでした。会話する時間すらない混乱の時代でした。ただ探求する視線をお互いに向ける。

それから私はホールに出ると、ドアをこじ開けようとしているニコレアヌ将軍とその委員たちの姿が見えました。次の瞬間、ドアが開き、家は委員でいっぱいになった。ニコレアヌ将軍は「手を上げろ！」と叫んだ。

しかし、我々には時間がなかった。各選手が2人のスチュワードに掴まれてラインに並べられた。右サイドに私、次にモタ、コルネリュー•ジョルジェスク、トゥドセ•ポペスク、ラドゥ•ミロノヴィチ、ヴェルニチェスク、ドラゴス。 「リボルバーをひっくり返せ！」
「何もありません」と私たちは答えました。モタだけがブローニング6.35とヴェルニチェスクを持っていた。
それから彼らは私たちを一人ずつ家から連れ出し、二人の客室乗務員に腕を掴まれ、一人ずつ待機中の車に乗せられました。

私たちの後ろ、家の中でドラゴスの年老いた母親が泣いていました。車が動き始めた。彼らは私たちをどこに連れて行ったのでしょう ?私たちは何も言いませんでした。私たちを捕らえた人々には質問しませんでしたが、彼ら自身も沈黙を守りました。いくつかの通りを歩くと、警察本部に到着します。彼らは私たちを立ち去らせ、部屋に行き、そこで私たちのポケットを調べました。彼らは私たちの首輪やネクタイも含め、私たちが持っていたものすべてを持ち去りました。振り向かれたり、首輪をはがされたり、スリのような仕打ちはとても屈辱的でした。
しかし、私たちはこの屈辱の道の始まりにすぎませんでした。壁に顔を向けて、首を向けることもできず、「しばらくこの位置に留まった」状態で、私たちはこう考えました、「数時間前、誇りを持って私たちの人々の鎖を断ち切る決意をしていた自由の人々よ、私たちがどうなったかを見てください - 何人か哀れで無力な哀れな者たちが、何人かの惨めな警察官の命令で壁を固々と見つめ、泥棒のように捜索され、私物を剥ぎ取られたのです。」

この屈辱から私たちの大きな苦しみが始まり、徐々に私たちの心は打ち砕かれました。尊厳と名誉を持って生きる戦闘員にとって、武装解除され屈辱を受ける以上の苦しみはないと思います。死は常にそれよりも甘いです。

それから私たちは部屋に連れて行かれ、5メートル離れたベンチに座りました。隣にはエージェントがいて、お互いを見ることは禁じられていました。尋問に呼ばれるまで、私たちは何時間もそのように座っていました。その長くて苦痛な時間の参加者は、私の他に、モタ、トゥドセ•ポペスク、ラドゥ•ミロノヴィチ、コルネリュー•ジョルジェスク、ヴェルニチェスク、ドラゴスでした。しばらくすると、私たちは一人ずつ、検察官、予審判事、ニコレアヌ将軍、そして数人の政府代表がいる大きな部屋で尋問を受けるよう呼び出されました。夜明けに私の番が来た。そこで彼らは私の前に私の一部を置きました

手紙と、おそらく非常に安全な場所に隠されていたすべてのリボルバーが入った2つのバスケット。彼らがどうやってそこにたどり着いたのか分かりませんでした。私たちが捕まったのは理解できましたが、武器がどこに隠されたか誰が言いましたか？

私の尋問が始まりました。私は他の人たちが何を宣言したのか全く知りませんでしたし、このような状況に陥るとは夢にも思っていなかったので、何を宣言すべきかについて私たちの間に事前の理解がありませんでした。そこで私は状況を考慮し、最善と思われる決断を下しました。

交差点で1分。最初の質問をされたとき、私は部屋に入ってから 3 分が経過していましたが、まだ状況を十分に評価できず、決断を下すことができませんでした。私は倦怠感に圧迫され、深く動揺しました。そして、返答を求められたとき、私はこう言いました。「皆さん！返答する前に少し考えてください。」

問題は、否定するか、否定しないかということだった。その瞬間、私は心と魂のすべての力を振り絞って、何も否定しないことに決めました。本当のことを言え。そして、臆病や後悔ではなく、勇気を持って：

「はい、これらは私たちの武器です。私たちはこれを使ってユダヤ人の牧師、ラビ、大銀行家を撃ちたかったのです。」

彼らは私に名前を尋ねました。

私が彼らに、アレクサンドル•コンスタンティネスクから始まり、ユダヤ人のブランク、フィルダーマン、ベルコヴィチ、ホニグマンで終わる名前を付け始めると、その場にいた全員の顔がますます大きくなり、恐怖を感じました。私の前で尋問された同志たちはすべてを否定したのではないかと私は疑った。

「それではなぜ彼らを殺すのでしょうか？」

「前者は祖国を裏切ったからだ。後者は敵で腐敗者だ。」 「それで、今は後悔してないんですか？」

「いいえ、私たちは何も後悔していません…私たちが落ちたとしても、それは問題ではありません…私たちの後ろには同じように思っている何万人もいます！」

そう言って、私はすべてを否定していたらさらに深く沈んでいたであろう謙虚さの岩から解放されたように感じました。今、私は自分をここに導いてくれた信仰にしっかりと立ち、自分の運命と、生死を賭けているかのように見える人々に誇りを持って向き合っていました。もし私がすべてを否認していたら、私は自分に向けられた告発に対して守勢に立たされ、寛大な対応を懇願し、審問官の好意を勝ち取らなければならなかったでしょう。

その後の裁判では、彼が所有していた書面による証拠に基づいて、私たちは自分の書いたものや自分の信念を否定し、真実を否定するという痛ましい恥ずべき試練に合格しなければならないことになり、それは私たちの良心と信念に反するものでした。私たちの運動の名誉です。

偉大な学生運動の代表者である私たちは、自分の行動と信仰に責任を取る勇気が欠けているのでしょうか？

その場合、国も国外の同志も我々の意図を知ることはなかったでしょうが、我々の苦しみの唯一の成果は、それがどんなに長かったとしても、まさに国が少なくとも敵のことをもっとよく知るために自らを啓蒙したことだけでした。

それから彼らは私にこれらの陳述を直筆で紙に書くよう要求しました。やった。最後に「日程はまだ決まってませんでした。

私たちがこれについて話し合っているときに彼らは私たちを捕まえました。私は一、二週間以内に引っ越すことを提案しました。」そこで、取調官は私がこれらの詳細を書き留めないようにとますます主張するのを阻止しました。

私がこの主張の理由に気づいたのは、後になってからでした。なぜなら、私の最後の文が、私たちの弁護である訴状全体の法的価値を爆発させたからです。なぜなら、陰謀には 4 つの要素が必要だからです。 1. 目的を念頭に置いた個人の集まり。

2. 被害者の指定。
3. 武器の入手。
4. アクションの確立された日付。

しかし、計画の実行時期はまだ決まっておらず、まだ検討段階でした。日付を確定することは非常に重要でした。なぜなら、2週間以内に私たちは病気になっていたかもしれないし、犠牲者が亡くなっていたかもしれないし、政府が倒れるか屈服していたかもしれないからです。私たちの法的弁護はすべてこの点に基づいていました。

私の証言の後、捜査官たちは私を地下室に連れて行き、そこで私は一人で独房に入れられました。ドアは外側から施錠されていました。私は仲間たちが隣の独房を占拠しているのではないかと想像した。他に誰がいるのかと思いながら、拳で壁を叩きました。 「モタ」という答えが返ってきた。それから私は死ぬほど疲れていたが、睡眠をとるためにボードの上に横になりました。

厚手のコートを着て寒さに震えた。それからシラミが私を噛み始めました。彼らは何千人もの私に群がりました。私は板を反対側にひっくり返し、シラミがその上に来て、昼光が当たったと思うまでこの操作を数回繰り返しました。

ドアのところで物音が聞こえました。それは開かれ、他の人たちのものも開かれ、そして私たち全員が連れ出されました。その後、各車両に憲兵2名と委員2名が同行し、車に乗せられた。車は次々と出発した。そして、同じ質問が私たちの心をよぎりました。「どこに行きますか？」

ヴァカレシュティ刑務所にて

私たちは見慣れない通りをいくつか通りましたが、そこでは好奇心旺盛な通行人が私たちを見ていました。私たちは首都を後にし、車は「ヴァカレスティ刑務所」と書かれた大きな門の前で止まりました。

私たちは銃剣を持った兵士たちに10メートル離れて車から降りた。鍵と鎖の軋む音が聞こえ、大きな門が勢いよく開いた。私たちは一人ずつ道を横切り、中に入り、二階の刑務所の事務所に案内され、そこで逮捕状が手渡されました。私たちは国家安全保障に対する共謀罪で逮捕され、特定の刑罰として強制労働を課されたことに気づきました。

それから私たちは別の中庭に連れて行かれ、その真ん中に高い教会が建っていました。周囲はすべて壁であり、それに沿って細胞が配置されていました。私は奥の幅4フィート、深さ2フィートの独房に入れられ、外側から鍵をかけられました。
中には木製のベッドがあるだけで、ドアの近くには小さな鉄格子の窓がありました。仲間はどこにいるのだろうと思った。それで私は板の上に頭を置いて眠りに落ちました。震えながら2時間後に目が覚めました。寒くて、独房には太陽の光が一本も差し込まなかった。私は唖然として周囲を見回しましたが、自分がどこにいるのか信じられませんでした。よく見ると独房の悲惨さが分かりました。

私は「大変な状況だ」と心の中で言いました。痛みの波が私の心を引き裂きました。しかし私は「これは国民のためだ」と自分を慰めました。

そこで、ウォームアップのために腕の体操を始めました。午前11時頃、足音が聞こえました。警備員がドアを開けた。私は彼を見た。もしかしたら、どこかの時点で彼に会ったかもしれない、と私は願った。しかし彼は奇妙で気性の荒い男だった。彼は私を邪悪な目で見ました。彼は私にパンとボルシチを一皿くれました。私は彼に尋ねました： - 警備員、タバコを吸ってもらえますか？ 「いいえ、私ではありません！」

彼は再び私に鍵をかけて立ち去りました。私は黒パンをちぎって、スプーン数杯のボルシチを飲み込みました。そこで私はそれらをセメントの床に置き、自分の考えをまとめ始めました。彼らがどうやって私たちを見つけたのか理解できませんでした。私たちの中の誰かが、私たちのプロジェクトについて誰かに話すほど不注意だったでしょうか?誰かが私たちを裏切ったのでしょうか ?彼らはどうやって私たちのリボルバーを見つけたのでしょうか？

またしても足音が聞こえた。窓の外を見ると、司祭と数人の男が私の独房に近づいてきました。彼らは言いました、「皆さん、あなたが教育した若者がそのようなことができる可能性はありますか？」

「このルーマニア国民がユダヤ人に侵略され、指導者の裏切り、放縦、嘲笑によって抑圧されて滅びることが可能であるならば、我々がやったこともまた可能だ。」

「しかし、あなたには素晴らしい手段がたくさんあります！」

「私たちはこれまですべての合法的な道を通過してきました。もしその1つだけが私たちに開かれていれば、私たちはこの独房にたどり着くことはなかったかもしれません。」

「それで、それでいいのか？自分の行いのせいで苦しむことになるんだよ！」

「もしかしたら、私たちの苦しみの中から、この人々にとってより良いものが生まれるかもしれない」彼らは去った。

4時ごろ、警備員が私に、みすぼらしい毛布と、マットレスの代わりに藁がいっぱい入った大きな袋を持ってきました。私はできるだけ早くバッグを引き上げました。それからまたパンを食べて横になりました。私は司祭との会話を思い返しながら、次のように考えていました。それはいつも苦しみだった

その結果、彼に良い収入がもたらされました。」

私はなんとか苦しみの目的を見つけることができ、同時にこの悲しい時間に対する精神的な支えを見つけることができました。それで私は立ち上がって、ひざまずいて祈りました。「主よ、私たちはこの国の罪をすべて私たちに負っています。今私たちのこの苦しみを受け入れてください。この苦しみを乗り越えてこの人々がより良い日になるようにしてください。」

それから私は母と、私の運命を聞いて私のことを考えているかもしれない故郷の人々のことを思い出しました。私は彼らのために祈り、横になって眠りました。

彼は服を着て毛布で覆われていましたが、寒くてわらのマットレスの上でよく眠れませんでした。午前8時に目が覚めたとき、警備員がドアを開け、数分間外に出てもいいかと尋ねました。外に出てウォームアップのために体操をしました。

私の独房も含めて、その独房の列は他の独房よりもわずかに高かったので、中庭全体が見えました。突然、民族衣装を着た人が囚人たちの間を歩いているのが見えました。それは私の父でした。でも信じられませんでした。彼はここで何をしていたのですか？彼も逮捕されたのですか？私がいくつかの合図をすると、彼は私に気づきました。警備員は私を呼び止めました、「先生！合図は禁止ですよ。」 「彼は私の父親です」と私は答えた。

「その可能性はあるが、合図は禁止されている」

私は彼を見て、「同志よ、神が私たちに与えてくださった苦しみは神の配慮に任せてください。これ以上加えないでください。」と言いました。そして私は独房に戻りました。

昼食後、また連れて行ってもらいました。彼らは私を銃剣で挟み、刑務所の外に連れ出しました。そこで私たちは道路上で、2本の銃剣の間にそれぞれ10メートル離れた一列に並べられました。父は銃剣を手に二人の兵士の間で縦隊を先導した。

新しい受刑者も何人かいた。クルージュのトライアン•ブレアズ、ヤシとダヌレスクのレオニダ•バンダク。私たちは顔を向けたり、お互いに合図したりすることを許されませんでした。ほんの一瞬の間、私は哀れに苦しんでいる同志たちの沈んだ顔を垣間見た。私の心を苦しめたのは、父が受けていた不当な扱いでした。彼には何の罪もありませんでした。この国の生涯にわたる戦士であり、中等学校の教師であり、戦争中ずっと最前線で活躍した元大隊少佐であり、無名ではなく国会議員を何度も務めた彼は、今では銃剣に挟まれてブカレストの街を練り歩いた。。それで私たちは法廷に向かって行進する隊列を組んで出発しました。ルーマニア人たちは無関心な目で私たちを見た。しかし、私たちがユダヤ人地区に着くと、ユダヤ人は全員ドアや窓から出て行きました。中には私たちに法外な視線を投げかけたり、笑ったりする人もいました。大声でコメントする人もいれば、唾を吐きかける人もいた。

私たちは頭を下げて、ずっと苦しみながら、こうやって歩いていきます。

法廷では私たちの逮捕状が支持されました。私たちの訴訟を弁護するために名乗り出た最初の弁護士であるポール•イリエスク弁護士が私たちの弁護をしてくれました。その後、私たちは同じ隊列で同じ道を通って送り返されました。ニューススタンドでは、ディミナータ（「ザ•モーニング」）や他のユダヤ系新聞の「学生の陰謀。共謀者逮捕」という見出しを見ることができた。そしてまた携帯電話にたどり着きました。私はそこに2週間寒い中滞在しましたが、他の人々のことも外からのニュースも知りませんでした。

2世紀のように感じられた2週間後、私たちは独房から連れ出され、暖房の効いた部屋に3人ずつのグループに入れられました。一緒に料理をしたり、食事をしたりすることができました。

再び会ったときは、まるで本当の休日のようでした。ドラゴスとダヌレスクと同室になるはずだった。一方、学生キリスト教協会の会長であるガルニータは、私たちの数を 13 人に増やすために自首してくれました。父は一切の罪から解放されました。モタ、ガルネータ、トゥドセ•ポペスク、コルネリュー•ジョルジェスク、ラドゥ•ミロノヴィチ、レオニダ•バンダック、ヴェルニチェスク、トライアン•ブレアズ、そして私は共謀罪で起訴された。ドラゴスとダヌレスク、私たちを連行したために逮捕されました。

これらに加えて、内務大臣の家の前で私たちがデモをしたときに逮捕されたウラジミール•フリムもいました。私たちはプリムスストーブを手に入れ、親戚や友人が海外から送ってくれた食べ物を調理しました。通常の刑務所の食事は恐ろしいものであり、囚人たちの生活の悲惨さは筆舌に尽くしがたいものだった。

父は私たちが毎朝7時に中庭の教会に祈りに行くことを刑務所管理者から許可を得ました。私たちは皆祭壇の前にひざまずいて「私たちの父よ」と言い、トゥドセ•ポペスクはプレア•スファンタ•ナスカトアレ•デ•ドゥムネゼウ（「至聖なる聖母マリア」）を歌いました。

そこで私たちは悲しい刑務所生活の慰めと明日への希望を見つけました。私たちはそれぞれ自分自身の仕事のスケジュールを立てています。モタは近づいている裁判に関連する問題で忙しかった。ダヌレスクさんは健康診断の勉強をした。私は全国闘争で若者を組織する計画に取り組んでいました...学生センター、村の若者、中等学校の生徒を組織しました。私はクリスマスの時期までにそれを細部まで練り上げ、刑務所から出たらそれを実行できるようにしました。そうでない場合は、外部からそれを実装する人を見つけることにします。

これは政治部門となる連盟の枠組みの中で行われるべきであり、私たちの部門は青少年の教育と闘争を担当することになる。
11月8日、聖大天使ミカエルとガブリエルの祝日に、私たちはこの青少年団体の名前の候補について話し合っていました。私は「『大天使ミカエル』にしましょう」と言いました。

父は「教会の祭壇の左側の扉に聖ミカエルの像があるよ」と言いました。
"様子を見よう！"モタ、ガルニアタ、コルネリュー•ジョルジェスク、ラドゥ•ミロノヴィチ、トゥードセと私は見に行き、本当に驚きました。そのアイコンは私たちに比類のない美しさで見えました。
私はどんなアイコンの美しさに惹かれたこともありません。しかし今、私は全身全霊でこの天使とつながっていると感じ、大天使が生きていると感じました。それ以来、このアイコンが大好きになりました。教会が開いているのを見つけるたびに、私たちは中に入り、そのアイコンの前で祈りました。私たちの心は平和と喜びで満たされました。法廷への私たちの旅行の拷問が再開されました。銃剣の間で、泥の中を、すり減った靴と濡れた足で歩いて。私たちが歩いていると、国から数億レイをだまし取ったユダヤ人の犯罪者たちが裁判所に追い込まれていました。多くの場合、私たちの旅行は私たちを困らせるためだけに不必要に行われました。私は25回法廷に呼ばれましたが、予審判事から尋問を受けたのは2回だけでした。

最初の紹介文の一部は変更していません。

「誰が私たちを裏切ったのか？」という考えが常に私たちを悩ませていました。
私たちは毎晩この謎を解こうとしました。私たちはお互いを疑うところまで来ました。ある朝、私はアイコンの前で祈るために教会に行きました。

裏切り者を明らかにする。その夜、夕食をとりながら私は仲間たちにこう言いました。 - 悲しい知らせを伝えなければなりません。裏切り者が特定されました。彼は私たちと一緒にテーブルに座っています。誰もが他の人を見ていました。モタと私は、リードを期待して全員の顔を追った。私はシャツのポケットに手を入れて「さあ、証拠をお見せします」と言いました。

その瞬間、ヴェルニシューは立ち上がって、少しためらいながら、バンデに食料箱の鍵を渡し、「出発します」と言いました。

私たちは彼の立ち退きに当惑しましたが、私が何も持っていなかったので提出を拒否した証拠についての議論を再開しました。私たちがテーブルを離れると、ヴェルニチェスクが一人でいた。
同氏は米国に対し、「コドレアヌは私を疑っている」と語った。

私は彼に、誰も疑っていないと言いました。こうして私たちは和解した。

何週間も経ち、私たちの刑務所生活は長く続きました。私たちは毎日、壁に鉛筆で印を付けました。自由の身として生まれ、尊厳を持って生きてきた男にとって、刑務所での生活は困難で、疲れ果てた。高く敵対的な壁の内側で、愛する人たちから遠く離れ、何の音も聞こえない鎖につながれていると感じるのは恐ろしいことでした。そして、ここでも、4分の3の時間は独房に閉じ込められているため、あまり動くことはできません。毎晩、ドアにボルトがねじ込まれる不気味な音が彼を悲しみの気分に陥らせた。この国の敵は外では自由で、尊敬と良い生活を楽しんでいたが、私たちは道徳的侮辱に加えて、しばしば空腹で床に就き、板とわらのベッドで一晩中震えていた。しかし、ついに幸せな日々がやって来ました。 2か月の投獄後、父とダヌレスクの釈放命令が出されたという知らせが届きました。私たちにとって、そうです、大きな喜びです。私たちは彼らの荷造りを手伝いましたが、すぐに彼らは連れ去られてしまいました。

私たちは彼らが出て行くのを彼らが通り過ぎるまで見守った

最初の門。私は父に、母や他の人たちに心配しないように伝えてほしいと頼みました。

どのような人の救出も、残された者にとっては大きな喜びです。みんなが幸せだ。おそらく、誰かが解放されることで、それぞれが自由を手に入れようと強くなるのだろう。しばらくして、ドラゴス、バンダック、ブレアズ、ヴェルニチェスクは事件から外され、父とダヌレスク同様に去っていきました。

私たちのうち6人だけが残り、「国家の安全に対する陰謀」の容疑で告発された。数日後、ドラゴスは私たちを裏切ったのはヴェルニチェスクであるとの知らせを送った。彼はまた、ファイルに保管されていた後者の証言のコピーも作成した。
私たちはこの知らせを胸が苦しい思いで受け取りました。私たちの国には常に裏切り者が存在しました。

外

どの大学でも学生は授業に戻った。一瞬方向感覚を失ったようだった。 2か月間、彼らはユダヤ人マスコミの恐怖の下で暮らしました。ユダヤ人マスコミは、私たちの復讐の試みの重大さと、それが国にもたらす「悲惨な」結果を絶えず誇張していました。それは、私たちが「文明世界」の信頼を失ったと叫びました。私たちがバルカン半島の国だったということ。彼らは常に「ベルリンは何と言うでしょうか？」と尋ねました。 「ウィーン？」「パリ？」そして、「国家の恒久的利益」の擁護者に変身したユダヤ人は、国の指導者たちに対し、「最大限の暴力で」鎮圧しなければならない民族運動に対して抜本的な措置を講じるよう毎日勧告した。

1年前､マックス•ゴールドスタインが上院議事堂に爆弾を仕掛け､警察が共産主義系ユダヤ人を逮捕していたとき､同じマスコミは次のように叫んだ｡

憲法はどこにありますか ?法律はどこにあるのでしょうか ?憲法で保障された自由はどこにあるのでしょうか ?国家がこのような制限措置を講じた場合､外国は何と言うでしょうか ?逮捕､刑務所､銃剣､テロでは国家は存続できない｡国家が行使するこの暴力は､群衆や孤立した個人によって報われるだろう｡力には力で応えます｡

恐怖､恐怖で｡そして非難されるのは彼らではなく､彼らを挑発した国家だ｡ 」

そして今､同じマスコミは､目隠しをしているだけで見えていないことを残念に思いながら､次のように書いた｡「これらのテロリストを逮捕するだけでは十分ではない｡彼らは見せしめとなるような形で非難されなければならない｡それでも十分ではありません｡我が国に多大な損害をもたらす反ユダヤ的な「思想」を広める者は全員逮捕されなければなりません｡この反ユダヤ主義の雑草は根ごと引き抜かれなければなりません｡そしてこの問題は容赦なく､容赦なく対処されなければなりません｡ 」

この敵意の奔流に対して､全国マスコミは激しい抵抗に遭った｡
国民の良心の表明に対して常に正しい態度を表明したUniversul (「O Universo」)に加えて､ナショナリスト運動は以下の新聞の支援を受けていました｡ブカレストの学生たちのCuvantul Studentesc（「学生の声」）｡彼はつい最近､自由になった不屈の同志たち､つまりシミオネスク､ラペアヌ､ファニカ•アナスタセスク､ダヌレスクらの編集者になったばかりだが､名前は私には分からない｡ダチア•ノウア（「新しいダチア」）､クルージュの学生オルガン､スイアガ､モカヌ､詩人であり『学生たちの歌』の著者であるイウスティン•リエスが指揮

賛美歌」｡

Cuvantul Iasului (「ヤシの言葉」)､ヤシの学生のオルガン｡チェルナウティの学生オルガンであるディサプタ•テ•ロマネ（「目覚めよ､ルーマニア人よ」)は､カタリン博士とダニレアヌ博士が指揮し､最近カンプルンに移転しました｡ブカレストにある LANC の公式機関である Apararea Nationala (「国防」) には､パレスク教授の比類のない記事が掲載されており､そこから以下の一文を転載します｡

「…ボリシェヴィキ系ユダヤ人が利用して成功した､寒さ､飢え､恐怖による同じ制約が､学生たちにも利用された｡」
「ルーマニア国家の花である私たちの子供たちが､閉じ込められている全ルーマニア人の統一の祝日を祝わなければならない時代が来るとは誰が想像したでしょうか｡

どこかの刑務所の地下室にいるのか､それとも寒さの中で避難場所も食べ物もなく追われているのか？ 」
「おそらくあなたは､ルーマニア全土に対して戦争を行っていることに気づいていなかったでしょう｡」 Unirea (「The Union」)､LANC の機関紙､ヤシ､Cuza 教授が監督､不滅の論理の記事を収録｡ Nationalistul (「国民主義者」)､ヤシの連盟の人気オルガン｡モタ神父所有のオラスティの人気新聞「リベルタテア」(「自由」)は､私たちのしぐさを真の光で明らかにし､最初の瞬間に私たちを包んでいた沈黙のカーテンをためらうことなく最初に切った｡

生徒会は私たちの犠牲を理解してくれました｡だからこそ､学生運動は､各学生センターの代表者が投獄されていたヴァカレシュティ刑務所の壁の周りでますます結集しているのである｡

農民たちも私たちの運命を心配し始めました｡彼らは私たちにお金を送ってくれて､特にリベルタテア（「自由」)が忍び寄ってきたブコヴィナの山々やトランシルヴァニアの教会で私たちのためにミサを開催してくれました｡

以下に小さな例を示します｡

ヴァカレシュティの学生のためのモティ•ミテ

(Cuvantul Studentesc No. 7、II 年、1924 年 3 月 4 日)

ヴァカレスティ刑務所に投獄されている学生たちが各地の農民から受け取った金銭の贈り物の中で、他のものよりも輝かしく貴重なものが一つあり、それはアプセーニ山脈のモティから送られたものである。彼らは革ベルトのポケットの底やハンカチの端をこすって、2、3、または5レイを集め、かつての擁護者であるランクーが歩いた道に沿って引換券を送り、心臓とともに送りました。頂上からは山を越えてヴァカレスティまでの長い長い道があり、そこで子供たちが悲惨と不当、貧困と失恋から救いたいという理由で投獄されていると聞きました。これらの寄付は我が国の最も貧しい地域から送られてきたもので、歌では「金は私たちの山の中心にある」と苦々しく悲しい気持ちで、私たちが戸別訪問で尋ねるように歌われています。

「最も貴重な贈り物がヴァカレスティの生徒たちに送られた。それは一握りのコインと、「飢え、裸で、宿泊施設もなかった」乞食の魂の断片、ぼろ布の下に隠れた魂、彼の最大の宝物、道徳的健康だった。艱難は民を救います！

、偉大な時代にその無尽蔵の力の源は

モティは生徒たちのことを考えています !あなたの魂は理解し、動き始め、新しい理想を築き始めます。これは最高かつ最も雄弁な兆候です。バイア•デ•クリス近くのリスカの町から、彼らの名前をいくつか聞いてください。「ニコラエ•オプレア、2レイ、ニコラエ•フロレア、3レイ、 .N.
ハラガス、アロン•グレク、タイガン•アダム、A•ヘンティウ、N•ブルグ、イオン•アシリュー、アル。ヴラド、N. ボルザ、N.
ルシアン、アントニー•フロレア、A. ルシアン、各 5 レイ。 N.シスカット、A.リスクタ、イオン•アンク、サリュー•フォー、各10人。N. フロレア司祭と N. ルス、それぞれ 15 レイ。公証人N.バイアとドゥトゥ•リスクタ、それぞれ20レイ。合計210レイ。 」

農民たちはすぐに理解し、正義の時を待って、強くて忍耐強い魂で私たちの側に来るでしょう。

新しい生活への思い

クリスマス休暇がやって来ました。ヴァカレスティ刑務所では、私たちは常に故郷の家族のことを考えており、特に眠れない長い夜の間は絶えず心配しています。
私たちの側はいつ勝つのだろうか ?いつここから出られますか ?もし私たちが10年から15年の刑を言い渡された場合、私たちは刑務所に抵抗することができるでしょうか、それとも死ぬまで苦しみや心配が日々私たちの健康を蝕むのでしょうか ?

私たちは未知の世界に飛び込みます。この不確実性の状態が私たちを消耗させました。

私たちは、どのような運命が私たちを待っているかをできるだけ早く知ることができるよう、判決の日付がきっぱり決定されることを望んでいます。

私たちが待ち受けていた苦しみと共通の運命は私たちの距離をますます近づけ、提起された数多くの問題についての議論は私たちに同じ結論をもたらし、徐々に統一された思考パターンを形成していきました。国民運動に関する些細な疑問に、私たちは何時間も何日も夢中になった。そのとき、私たちは深く考え、細部に至るまで問題のあらゆる影響を追求することを学びました。私たちはユダヤ人問題とその原因、解決の可能性についての研究を再開しました。私たちは組織と行動の計画を策定します。

しばらくすると、議論は打ち切られ、法則、議論の余地のない真実、公理の話に移りました。

私たちのグループの外側にいるルーマニア人が、私たちの国家問題に手探りで入り込み、新聞や組織のパロディを生み出しているのを見ました。彼らが教義の問題について誤った結論に達し、組織の問題について不確実で、行動の問題について独自のアイデアがまったく欠けていることがわかりました。より深く熟考した結果、私たちは次のことをますます良く認識します。

Googleによる機械翻訳

1. ユダヤ人問題はユートピアではなく、ルーマニア国家にとって深刻な死活問題であり、政党によってグループ化された国の指導者たちはますますユダヤ人操作者の手の中のおもちゃのようになっている。

2. この現在の政治制度は、その生命概念、その不道徳性、そしてその起源となっている民主主義の形態を通じて、ルーマニア国民に降りかかった正真正銘の呪いとなっている。

3. ルーマニア国民は、まず自分たちの政党の問題を解決しない限り、ユダヤ人問題を解決することはできない。ルーマニア国民を抑圧し、絞め殺すユダヤ勢力を打倒する途上のルーマニア国民が達成すべき最初の目標は、この政治体制の打倒でなければならないだろう。国にはユダヤ人とそれにふさわしい指導者しかいない。蚊が沼地にのみ定着して繁殖できるのと同じように、前者はルーマニアの罪の沼地でのみ繁殖できます。言い換えれば、それらを克服するには、まず私たち自身の欠陥を根絶する必要があります。問題はクザ教授が示したよりもさらに深い。この戦いの使命はルーマニアの若者たちに託されていた。もし彼らがこの歴史的使命に挑戦したいのなら、生き続けたいなら、国を持ち続けたいのなら、彼らは先頭に立って準備を整え、力のすべてを結集しなければならない。戦いと勝利。私たちは、神の助けを得て刑務所から出所するときは、離ればなれにせず、団結してこのただ一つの目標に人生を捧げようと決心しました。

しかし、私たちは自国民の過ちを気にする前に、まず自分自身の罪を吟味することから始めます。私たちは長い会議を開き、お互いが気づいた他の人の欠点を共有しました。そして私たちはそれらを修正するよう努めます。

人間は自分の欠点に対する批判を軽々しく受け止めないように作られているので、これはデリケートな問題でした。誰もが自分が完璧であると信じているか、それを示したいと思っています。しかし、私たちはこう言います。まず自分の罪を知り、正さなければなりません。それから、他の人を改善するために努力する権利があるかどうかがわかります。

こうして休暇は過ぎ、そして冬がやって来ました。春が来た。私たちはまだ、これからの運命について何も知りませんでした。しかし、それを阻止しようとするユダヤ人マスコミの必死の努力にもかかわらず、私たちの大義を支持する外側で、私たちに有利な大きな大衆の流れが生まれました。この流れは学生、町民、農民の間で着実に成長しており、トランシルヴァニア、ベッサラビア、ブコヴィナ、古王国時代でも一様に強かった。今、私たちは世界中から支援と激励の手紙を受け取りました。

ついに春が私たちに大きな喜びをもたらしてくれました。裁判はイルフォフのアサイズ裁判所で3月29日に予定された。私たちは準備を始めました。しかし、どのような準備ができるのでしょうか ?私たちはすべてを認めます。私たちは言うべきことはすべて言いました。私たちの弁護活動に登録した弁護士たちが訪ねてきました。彼らは、私たちの証言に関する私たちの立場の深刻さに注意を促し、私たちの態度全体だけでなく、その立場を変えるよう提案しました。それは否定した方が賢明でしょう。私たちはきっぱりと拒否し、裁判の結果が何であれ、私たちの証言の枠組みの中で私たちを弁護するよう彼らに求めましたが、私たちはそれを少しも変えるつもりはありませんでした。

万が一、私たちが無罪になったとしても、毎朝その前で祈る聖像なしでどうやってやっていけるでしょうか ?私たちは画家を見つけるまで囚人全員を調べました。
私たちは彼にコピーを作ってほしいと頼みました。そして、彼は 3 週間で、高さ 6 フィートの、私用に小さいものとまったく同じレプリカを作りました。

私のことを続けて、母のために中型のロザリオを贈りました。モタさんも両親のために作ってもらいました。

そして、私たちの証言に基づいて、少なくとも5年間は確実に猶予されることがわかり、私たちはアイコンの前にひざまずいてこう言いました。「全能の主よ !私たちはこの5年間が自分たちのために失われたと考えています。
もし私たちが無罪になったら、私たちは彼らを国家の大義のために聖別することを誓います。」
私たちは、もし無罪になったら、91人がヤシに移り、そこに活動の中心を置くことに決めました。そこから、私たちが立てた計画に従って、高校生の男女から始めて最年少の生徒に至るまで、全国の若者全員を組織し始めました。師範学校、専門学校、神学校、実業学校の学生、そして最後に村の若者たちです。その後、大学センターは改革されることになる。私たちは、これらすべての若者が、私たちを活気づける信仰の精神の中で成長し、若者として政治の舞台に入り、そこで私たちの闘争の運命が決定され、さらに強化されることを望んでいます。毎年新卒者が次々と押し寄せてくる攻撃は、止まることなく押し寄せる波のようだ。

政治家の孤立

政治システムが私たちの国民生活に感染しました。彼らを政治システムの感染から守り隔離するためには、若者のさらなる自己教育の必要性を強調するとともに、若者の組織が必要である。ルーマニアの若者の感染を放置することは、我が国にとっては滅亡を意味し、イスラエルにとっては決定的な勝利を意味します。

さらに、私たちの若者の組織は、若い新兵の不足により飢えに陥る政治制度自体の問題にも対処します。若い世代全体のスローガンは次のとおりであるべきです。

若者は決して政党の門をくぐってはなりません。こんなことをする人は、彼の世代と国家に対する裏切り者だ。確かに、彼の存在、名前、お金、仕事によって、彼は政治家の権力を強化しているからです。そのような人は、兄弟の側を離れて敵の陣営に行く裏切り者であるのと同じように、裏切り者です。射手に水を持ってくるだけなら銃で反撃することはできないが、彼は裏切られた仲間の虐殺の共犯者であり、結果として彼の大義に対する裏切り者となる。

政党を改善するために私たち全員に政党に参加するよう促す理論は、たとえ政党が悪いふりをするとしても、誤りであり、不誠実です。世界の始まり以来そうであったように、昼も夜も途切れることなく、何千もの川から黒海に流れ込むのは淡水だけであり、塩辛い海水が甘くなることは決してなく、むしろその逆です。私たちが汚水溜めに入るのと同じです。私たちは政党を改善しないだけでなく、政党を腐敗させるでしょう。

私たち。

これらは、私たちが無罪になったときに実行するために私たちが最も念頭に置いていた考えと決意でした。私たちの組織体制は準備が整いました。私たちの行動計画は細部に至るまで策定されました。全員のパートが決まりました。創刊される新聞はGeneratia Noua (「新世代」) と呼ばれ、私たちの組織全体は大天使ミハイル (「大天使ミカエル」) と呼ばれることになります。私たちのすべての旗には、ヴァカレスティ刑務所教会の大天使聖ミカエルの像が描かれるべきです。

私たちの見解では、若い世代全体を対象とするこの組織は、この若者の教育を目的とするノースカロライナ州ロサンゼルスの政治組織の若者部門となるでしょう。
私たちにとって、ヴァカレスティ刑務所の壁の中で考案されたこのプログラムは、新しい人生の始まりでした。それは、私たちがこれまで考えていたものとは異なり、インスピレーション、組織、行動計画において完全なものを表していました。それは新しい世界の始まりであり、私たちが今後何年にもわたって構築できる基盤でした。

私たちが刑務所を出たら、すべての大学センターに行き、私たちの決定を学生たちと共有し、私たちの新しい計画の前では街頭デモや衝突はもはや存在する理由がないことを示さなければなりません。私たちは過去の表現に固執し、それを自分のものとして否定せず、

彼らを恥じないでください。しかし、もう時間切れです。私たちは今、勝利をもたらす大きな組織的任務に取り組まなければなりません。

裏切りと裁きを避ける

モタが思慮深いのが見えた。彼は私たちに、一度外に出たら裏切り者を罰しない限り何の進歩もできないと常に言い続けていました。国の強さを損なうのは常に反逆罪であったが、私たちルーマニア人は裏切り者に銃を向けたことは一度もなかった。これが、裏切りが根付き、生活のあらゆる領域で裏切り者が増えた理由です。だからこそ、ルーマニアの公的生活は国民に対する永久の裏切りに他ならなかったのである。この裏切りの問題を解決しなければ、私たちの仕事は危うくなるでしょう。

裁判が始まる前夜、私たちはとても興奮していました。
ついに、私たちの運命が決まることになった。朝、私たちは家族に会うために事務所に連れて行かれました。コルネリウ•ジョルジェスクの両親はポイアナ•シビウルイ出身でした。
そのすぐ後にヴェルニチェスクが入ってきた。モタさんは何か言いたそうに腕を掴み、二人は近くの部屋に入った。
数分後、7発の銃声と悲鳴が聞こえた。ホールに出ます。モタは裏切りの罰としてベミチェスクを射殺した。

モタが警察と役人に囲まれて脅迫されていたとき、私はモタの側に飛びついて彼を守りました。騒ぎが静まると、私たちはすぐに連れ去られ、別々の独房に入れられました。小さな窓から、ヴェルニチェスクが担架で病棟から病院に向かう途中で運び出されるのが見えた。

私たちの独房では、彼が刑務所の門を通って消えるまで、私たち全員が闘争賛歌である「大ルーマニアのクリスチャン学生」を口笛で吹き始め、彼に寄り添いました。
2時間後、パパドポル捜査判事が到着した。彼は私たちを一人ずつ引き上げて彼の前に現れました。私たちは皆、モタと共通の大義を作りました。

翌日、セメントの床で寝て一晩過ごした後、私たちは法廷に連れて行かれました。私たちの状況は非常に深刻でしたが、法廷の地下で私たちはいつも戦いの歌を歌いました。

裁判は一時に始まる予定だった。午前10時から数千人の学生や市民が法廷の周りに集まった。正午頃、群衆を制圧するために首都のすべての連隊が招集された。一時に私たちは査定裁判所に連行されました。会長はMr.

Davidoglu氏とプロモーターはRacoviccanu氏でした。弁護側にはパウルスク教授、パウル•イリエスク教授、ネル•イヨネスク教授、テオドレスク教授、ドンカ•マネア教授、ターチェ•ポリクラト教授、ナウム教授らがいた。多数の陪審員の抽選の後、大静寂の中で最終的な令状が読み上げられた。私たちは聞きます。私たちは自分たちの運命が決定されつつあることに気づきました。次に私たちが話す番になりました。取り調べが始まりました。私たちは最終決定以外はすべて認めます。私たちは日付を決定しませんが、この行動に至った理由を示します。私たちはユダヤ人問題の脅威を示し、政治家が国家を腐敗させ、裏切っていると非難します。何度も司会者に中断されましたが、私たちは最後まで証言を続けました。

その後、検察官による厳しく、しばしば不当でほのめかした告発が行われた。
私たちはバランスがあなたに有利に傾いていると感じました。しかし、検察の成功は長くは続かなかった。パレスク教授は、彼の偉大な威信と聖人的人物によって課せられた教会のような沈黙の中で彼の陳述を読み上げた。それは短い陳述だったが、肘掛け椅子に恥ずかしそうに沈んでいた検察官にとっては衝撃的な陳述だった。

凹みができました。もう午後8時だった。外で待つ群衆の数はますます増えていました。ネル•イヨネスク、ターチェ•ポリクラトら、そして最後にはパウル•イリエスクが素晴らしいスピーチをした。この時点ですでに朝の5時でした。
検察官は新たな告発によって立場を取り戻し、法廷を征服しようとした。

私たちの弁護士が彼に返答しました。 6時に私たちは最後の言葉を言いました。それから私たちは連れ出されました。陪審員たちは審議を始めた。 30分以上待ちましたが、半年くらいに感じました。少しして「万歳」の音が聞こえます。警察官が私たちに「あなたは無罪になった！」という知らせを持ってきました。

それから私たちは法廷に連れ戻され、そこで無罪判決が読み上げられました。外ではまだ人々が待っていました。
私たちがそうだったと知って

無罪が確定すると、彼らは「万歳」を歌い始めた。私たちは車に乗せられ、慣れない道を通ってヴァカレスティに戻りました。

通常の退院手続きを完了すること。私たちは持ち物やイコンを集め、長い夜の混乱と苦しみを伴う墓を離れる準備をしています。しかし、可哀想なモタは、いつまでここにいて、これからも一人で苦しむことになるだろう。私たちは彼に別れを告げます。私たちは目に涙を浮かべながら彼を抱きしめ、深い痛みの中で彼と別れました。私たちは自由になることを目指しました。彼は再び独房に入った。ああ、彼はあと何週間、あのセメントの中で一人で横たわっていなければならないのだろう！

出発後すぐに私たちがしたことは、ダヌレセウとドラゴスの家族に私たちが引き起こした迷惑に対する許しを求め、投獄中の私たちへの配慮に感謝することでした。

それから私たちは家に向かいました。そこでは母親と家族全員が涙をいっぱい浮かべて喜んで私たちを待っていました。

Googleによる機械翻訳

IASIにて

ヤシでは、若い仲間たちが待ちわびていました。そこではもうクラスメートの誰にも会わなかった。昨秋以来、彼らは皆故郷に広がりました。私は自分のアイコンを聖スピリドン教会に持ち込み、祭壇の中に安置しました。次々に友達を見つけて、また会えて嬉しかったです。しかし、私たちの喜びは長くは続かず、私が二人の姉妹と約10人の学生たちと一緒にラプスネアヌ通りを散歩していたとき、警察が青空から私たちを飛び降りさせ、ゴム警棒で頭を殴ったり、お尻で殴ったりしました。 。彼らのライフルの。

私たちが数多くの戦いを見てきたヤシで、このように挑発され、理由もなく攻撃されたのでしょうか？ 1919年、1920年、1922年に大学でユダヤ共産主義を打ち負かしたヤシでは？私たちが彼らの代わりにユダヤ教とその報道機関を粉砕し、何年も抑制していたヤシでは？自分の家に襲われたの？

それから私は答えようと振り返った。憤りは私にライオンのような力を与えてくれるようで、私は警察全体を相手にすることができたでしょうが、学生時代の友人たちは私にしがみつき、ある者は腕に、ある者は足にしがみつきました。このようなフィールドで、私はライフルの尻でさらに数回の打撃を受けました。傍観者たちは警察にブーイングをしたり叫び始めた。私は意気消沈して家に帰り、私を抱きしめた人に激怒しました。しかし、彼らは私にこう言いました。

「彼らはあなたを挑発し、もし報復するなら射殺するよう命令を出しています。」午後、私はガルニータとラドゥ•ミロノヴィチとともに学生寮に行き、学生リーダーたちが大きな部屋に集まっていました。彼らは、私たちが会わなかった6か月間、どのように喧嘩したのか、そしてそれにどれだけの時間がかかったのかを話してくれました。彼らはどのようにして授業に戻り、屈辱を与えないようにどのように状況を管理したのか。開校日の11月1日、講堂で全生徒と教師たちの前で礼拝が行われた様子と、そのとき生徒のラザレスクが次のように言ったことについて。私たちの教授たちと大学上院に宛てた覚書で、満足のいく返答を待っています。

」

次に彼は、この覚書がどのようにして導入されたのか、そしてバカログル首相率いる大学教授たちがどのようにして覚書のほとんどの点を譲歩したのかを語った。 11月6日、生徒たちは授業を再開した。教師たちは、自分たちの信念のために一年間戦ってきた生徒たちが不当な屈辱を受けるのを避ける方法を知っていた。

彼らは続けて、内務大臣マルシェスクがいかにして自分の男を警察長官に迎え入れ、ヤシの学生運動と国民運動を鎮圧する自由を与えたかを語った。この男が警察全体の助けを借りてどのようにこの仕事に従事したか。

生徒たちが授業に戻り、沈黙が戻ったため、どうすれば栄冠を勝ち取り、給料をもらえるのかわからず、彼は生徒たちをからかい始めた。
彼らはまた、12月10日、大聖堂に向かう女子生徒たちを酔った警官が迎えに来て、ゴム警棒で殴り、教師たちの目の前で髪を掴み、泥の中を引きずり込んだ様子も語った。道路で。生徒たちが一人ずつ殴られた様子。 12月10日、合唱団長の学生ゲオルゲ•マノリュ氏が棒で足首を殴られ、その後逮捕された様子。彼と同じように、警察によってひどい悲惨な状態に置かれ、

黄疸を発症し、病院で死亡した。
ヤシの生徒たちはこの６か月間、大変な思いをしてきた。

私たちは今度は彼らに自分たちの苦難を語り、モタを刑務所から連れ出すことが私たちの義務であることを思い出させました。最後に、私たちは将来の計画について説明しました。

私たちは全世代をどのように組織し、英雄的な精神を持って育て、教育すべきでしょうか。若者が政治制度の仲間入りをしないように政治制度をどうやって孤立させなければならないのか、どうすれば彼が敗北するのか、そして教授とLANCはどのようにしてできるのか。
クザは入ることができた。国家主義政府を通じてのみ、私たちの意志を表現するのと同じように、
ルーマニアの良心、強さと健康、問題

Googleによる機械翻訳

ユダヤ教問題は、ルーマニア分子を保護するために法的措置を講じ、ユダヤ人の侵略を阻止すること
で解決できる可能性がある。私たちの世代にはこれを復活させるという偉大で神聖な使命があるので、

意識、この強さ、この活力。私たち「ヴァカレスティアン」は、私たち全員がヤシに来て、大天使聖ミカエルの保護下に置くこの活動の中心をここに設立することを決定しました。私たちの同志たちは私たちの将来の計画を聞いて、大喜びで受け入れてくれました。会合終了後、私たちはクザ教授、ガヴァネスクル教授、スムレヌ教授らを訪問し、彼らと感想を共有しました。

素晴らしい一年

5月のテスト
1924年 - 1925年5月

キリスト教の文化の家

私たちが従おうとしていた計画を考えると、私たちには自分の場所がなかったため、会議は開催するのが困難でした。私たちは皆貧しかったので、青少年の組織化を始めるために少なくとも 2 部屋を借りる余裕はありませんでした。私たちはギーカ夫人の戦争で残された木造兵舎にいることに気づきます。ある日、私たちはいくつかの部屋のある家を建てることにしました。

しかし、これはどうすればよいでしょうか? 1924年5月6日、私は約60人の若者、大学生、高校生（ヤシで設立された最初の十字架の兄弟団*のメンバー)を集めました。 「親愛なる同志の皆さん、私たちはいつまでこの兵舎で会議を開催して汗を流すつもりですか ?これまで、ルーマニアの学生には自分の大学の建物で会議をする権利がありました。しかし、私たちは追放されました。

Googleによる機械翻訳

昨日まで、私たちは被付与者同士で会う権利がありました。私たちもここから追い出されました。今日、私たちは雨が降る荒廃した兵舎にいることに気づきました。どの都市でも、学生は崇高な追求において援助を受けています。
ここでは、私たちを助けてくれる人は誰もいません。なぜなら、私たちの周りの住民は多数の敵対的なユダヤ人や感情のない政治家で構成されているからです。私たちのルーマニア人は都市の郊外に追いやられ、そこで黒人の悲惨な生活を送っています。私たちだけです。私たちの新たな運命を切り開く力は、今も明日も、私たち自身の中にのみ見つかります。

私たちは、神と私たちの間には誰も私たちを助けてくれないという考えに慣れなければなりません。「だか

ら、必要な家を自分たちの手で建てる以外に解決策はないのです。確かに、私たちの誰も家を建てたり、レンガを作ったりしたことはありません。私たちが育った精神性、つまり精神性を打ち破るには、まず勇気が必要であることは理解できます」学生になって二日目で街で荷物を運ぶのが恥ずかしいという若い知識人の精神には、ゼロからスタートし、障害を打ち抜き、困難を克服する勇気と意志が必要です。」

プルス川沿いのウンゲニに家を所有していた、小さな心の持ち主であるオリンピウ•ラスカーは、私のアイデアを励ましてくれて、次のように言いました。「皆さん、私の土地があるウンゲニに来てレンガを作りに来てはいかがでしょうか。 「私はここを離れますので、彼らを残してください。私の家もあなたの自由に任せます。」

あなたの提案を受け入れます。しかし、私たちにはウンゲニへのチケットを支払うお金がありませんでした。 20人くらいで300レイ必要でした。このお金もオリンピウ•ラスカーから私たちに提供されました。
*

「イルマンダデス•ダ•クルス」は、若い「十字架の兄弟」が中学校に集まる「巣」です。 「大天使ミカエルの軍団」セクションの「組織の初期の始まり」の章、p.244 も参照してください。 p.248 の脚注も参照してください。 (Tr.)

最初の作業キャンプ 1924 年 5 月 8 日

5月8日、私たちはウンゲニに向けて出発しました。ある者は電車で、ある者は徒歩で行きました。私たちは26人いました。私たちは何も持っていませんでした。シャベルも、どんな道具も、お金も、食べ物もありませんでした。待っていたラスカーが出迎えてくれた。 「ようこそ、紳士諸君！ ウンゲニの市場町は蜂の巣のようにユダヤ人でいっぱいだ。もしかしたら、あなたたちの姿を見て、彼らは生意気な態度を少しでも緩めたのかもしれない。
私たちクリスチャンは、彼らのことを恐れているのはほんの一握りです。

「最後に、私たちはいくつかの代表団を結成してキリスト教徒の家に行き、シャベルやシャベル、その他必要な道具を借りようとしました。
翌日、私たちはプルス川のほとりにある土地に行きました。地元の司祭はこう言いました。 」私たちの不運だったのは、多かれ少なかれ長年にわたって市の住民がゴミをそこに捨て、場所によっては厚さ約2メートルの層を形成したことだったからです。私は古いキロスカを懐かしく思い出します。私たちは粘土を使ってレンガを作り始めました。私たちは 5 人のチームに分かれ、それぞれが 1 日に 500 個のレンガを作り、合計 3,000 個のレンガを作りました。

その後、人数が増えると、朝の 4 時から夜まで働き、さらに収入が増えました。
大きな問題は

食べ物。最初に私たちを助けてくれたのはウンゲニの人々でした。その後、食料品もヤシから送られてきました。私たちの元教師であるクザとスムレアヌは、私たちの取り組みをある種の疑いの目で見ていました。彼らはそれが子供っぽいと思い、私たちが成功しないだろうと考えていました。しかし、しばらくすると、彼らは私たちの努力を評価し始め、助けてくれるようになりました。

コルネリュー•ジョルジェスクが1年間の薬学を修了したクルージュ大学を出てヤシに来たとき、他の人たちの同意を得て、私たちはヴァカレスティに投獄されている間に寄付した1万7000レイを陶器に引き渡しました。わたしたちのため。しかし、食糧問題が深刻だったので、ギカ夫人はウンゲニで必要な野菜を栽培するために、他の学生チームが植えた2エーカーの土地を私たちに貸してくれました。私たちの仕事は 2 つの場所で行われ、1 つの学生グループはウンゲニで、もう 1 つの学生グループは庭園内のヤシで働き、3 ～ 4 日ごとに交代しました。
私たちの最初のフィールドワークは、当時の考え方に革命を引き起こす効果をもたらしました。農民、労働者、そして知識人など、どこからでも誰もが好奇心旺盛に私たちを観察しに来ました。これらの人々は、学生たちが自由時間にラプスネアヌ通りをおしゃれに着飾って散歩したり、ビアホールのテーブルの周りで喜びの歌を歌ったりするのを見ることに慣れていた。

今彼らは、腰まで泥だらけになりながら足で粘土を動かしているのを見た。プルス川からバケツに川の水を汲み上げる。太陽の熱さの中、シャベルの上に腰をかがめて。
これらの人々は、これまで支配的であった概念、つまり、知識人が手を使うこと、特に重労働は恥ずべきことであり、以前は奴隷や卑劣な階級のものと考えられていた概念が崩壊するのを目撃していた。この観点から田舎の価値を最初に理解したのは、まさに賎民階級の人々でした。社会的に他のカテゴリーから切り離され、自分たちの仕事が評価されないことに恥ずかしがっていた農民や労働者たちは、自分たちの骨の折れる仕事に対する感謝の表れと彼らへの尊敬の表れを一目で見て、自分たちの魅力を顔に表した。彼らは光栄に感じ、おそらく将来自分自身と子供たちにとってより良い日々を想像したのでしょう。

それで、彼らはなけなしのお金から、毎日私たちに喜んで食べ物を持ってきてくれました。
学生生活は穏やかに過ぎていきました。街頭デモや事件はなくなりました。
私たちは、もうすぐ自分の家が手に入るだろうと思いながら、喜びと希望に満ちて働きました。

新しい息吹

ある日、父がヤシに行き、そこで父に会いました。午後10時頃、私は帰宅途中でした。ユニオンスクエアのレストランで物音が聞こえ、何が起こっているのか立ち止まって見ました。バルラド君のトゥトベアヌ兄弟という二人の学生が、コンスタンティネスク=ヤシ教授と口論していた。警察署長が現場に到着し、生徒たちに手錠をかけ、警察署に連行し、暴行を加えた。私は何も言わず、ただ悲しい気持ちでその光景を眺めていました。そのとき、クロ長官が3、4人の警官を伴って私に向かってくるのに気づきました。彼は私から二歩離れたところで叫びました、「こんな時間に路上で何をしているんだ、役立たず野郎！」

困惑して、私はただ彼を見つめた。彼は私を長年知っていたので、彼が私にそのように話しかけるとは想像できませんでした。彼は私を別の人だと思ったのだと思いました。しかし、首を掴まれて押し戻されたような気がした。そしてまた、「もう私を見つめているの？トランプ…詐欺師！」

私は何も言わず、ただ立って彼らを見つめていました。それで、四人の警官に押されて、私はスミモフの角まで30メートル以上「連れて行かれた」のです。
ここで私は帽子を脱いで彼らに敬礼し、「諸君、ありがとう」と言いました。

深く傷つき、痛みと恥辱に打ちひしがれながら、私は家に帰り、その夜を苦しみながら過ごしました。私が殴られたのは人生で2度目で、2回とも同じ月にでした。私は自分自身をコントロールしました。しかし、全世界の抑圧者たちには自制力が欠けています。自分をコントロールする者は、いつかひどく爆発するでしょう。次の日、私は父に自分に何が起こったのかを話しました。 「彼を放っておいてください」と彼は言いました。 「何もしないでください。そのような人の顔を二回平手打ちしても、彼らの手が汚れるだけです。彼らに正義の時が来るでしょう、安心してください。彼らはおそらくそうする運命にあります」

あなたをからかいます。しかし、自分をコントロールして、もう一人で外出しないようにしなければなりません。 」
あなたのアドバイスに従いましたが、殴られてもやり返さない男は、もはや男ではないようです。彼は恥ずかしく、屈辱を感じている。私はこの不名誉を大きな石のように心の中に抱えていました。しかし、最悪の事態はその数日後に待っていた。

庭の打撃で抑制される

庭はすべて荒廃していました。私たちはトマトを入れるためにウンゲニから来ました。 5月31日午前5時、50人の学生が作業を始める準備を整えた。
まだ編隊の途中で点呼を終えたとき、私は庭の後ろに数人の兵士がいるのに気づきました。その後、200人以上が武器を持って中庭に突入した。
彼らは私たちを取り囲みました。私は少年たちに「みんなじっとしてて。反応しないで」と言いました。
同時に、門の周りに40人ほどの男たちの集団が、拳銃を手に、叫び、罵りながら猛スピードで走っているのが黒い雲のように見えた。
それはマンシウ市長と警察だった。彼らはすぐに私たちの側に来ました。 2人の長官と警察署長が3本の銃身を私の額に押し当てました。彼らは血走った目で私を見て悪態をつきました。マンシウは「手を後ろで縛れ！」と叫んだ。

彼は私をぶった。他の二人が私に突進し、私のベルトを引っ張り、手をしっかりと縛りました。その時、後ろからの一撃が私の右顎を捉えました。もう一人のヴァシリュー•ヴォイネアが近づいてきて、私の耳元でささやきました。

「日が落ちる前に、私たちはあなたを殺します !あなたはユダヤ人を追い出すために生きてはいけません！」
彼は私を罵り、蹴りました。それから風が私の顔に降り注ぎ、いくつかは私の顔に唾を吐きました。
今や私たちの前線全体がライフルとリボルバーの間に遮られ、動けずに立って、力なく私の助けを求めて見つめていた。

ドナ•ギカが降りてきて、「市長さん、これはどういう意味ですか？」と尋ねた。
そして彼はこう答えた。

「お前も逮捕してやる！」
少し横で、ブゼア検察官が現場を目撃しているのが見えました。所持していた銃や拘留されていた銃が捜索された。動いた者は殴られて地面に叩きつけられた。その後、固定銃剣を持った8人の憲兵が両脇を固め、彼らは私を10ヤード前方に追いやった。他の部隊も同様に200人の憲兵が両側にいた。そして彼らは私たちを連れ去りました。私は前にいて、手を後ろ手に縛られ、顔に唾を吐き、他の人たちが続きました。こうして私たちはキャロル通り沿い、大学前、ラプスネアヌ通り、ユニオンスクエア、クザヴォダ通りを通って警察署まで護送された。

市長と職員は手をこすりながら歩道を歩いた。ユダヤ人たちは店の前で歓喜し、敬意を持って彼らに挨拶した。

悲しくて目の前がほとんど見えず、これですべてが終わってしまったと感じました。
通りすがりの高校生数名が立ち止まり、私に帽子を傾けました。彼らはすぐに逮捕され、虐待され、米国の残りの地域に収容されました。このように街の中心をユダヤ人たちの前で 1キロ以上もパレードさせられた後、まったくの屈辱の状態で、私たちは警察署に連行されました。彼らは私を縛ったまま不潔な小屋に放り込みました。残りは裏庭に保管されていました。

2階、市長室にて

若い囚人たちは一人ずつ市長室に連行され、尋問された。市長は机に座り、他の尋問官30人以上は市長の周りの椅子に座っていた。 「コドレアヌは何と言ったのですか？」彼は要求した。

「彼は私たちに何も言いませんでした、市長」と学生か若い大学生が答えた。 「彼があなたに話したすべてを今すぐ宣言してください！」

取調官の靴は脱がされ、足首は鎖でつながれた。二人の間に銃を突きつけられ、彼は逆さまに持ち上げられ、銃は二人の兵士によって肩に担がれていた。
マンシウさんはコートを着ずに、牛の腱で被害者の足の裏を叩き始めた。かわいそうな子供たちは、頭を下げ、足を殴られ、痛みに耐えられずに、
悲鳴。
彼らは、ルーマニア国民の子供たちが敵から金をもらった悪党たちによって拷問されているという恐ろしい状況を嬉々として嘲笑する手下委員たちに直面しており、彼らのために叫び、彼らのために介入できるような心は遠く離れていることを認識して、彼らは叫んだ ：

"ヘルプ！"
それからバシリュー長官は、彼らの苦痛と絶望の叫びが外に聞こえないよう、水の入ったバケツに頭を下げた。ついに痛みが耐えられなくなり、体がもう耐えられないと感じたとき、彼らはすべてを認めると叫びました。
知事は自白を期待して机に向かうと、足が自由になった被害者たちは呆然と周囲を見回した。それから彼らは泣き出し、市長の前にひざまずき、「許してください、しかし、私たちは何を宣言してよいのか分かりません。」と言いました。

「いいえ？ したくないですか？ もう一度彼を持ち上げてください！」彼は委員と憲兵に命じた。
そして、哀れな子供たちは皆、凍りついた心で、苦しみの準備が新たに始まるのを眺めていた。
再び銃の上に逆さまに持ち上げられ、再び足を殴られました。再び、彼らは市長の一撃が自分たちの足に次々と降りかかるのを感じた。彼女の足は血まみれで黒檀のように黒く、靴が履けないほど腫れ上がっていました。拷問を受けた人々の中には、現イルフォフ郡検察官の息子ディミトリウもいた。アンブロジー少佐の息子で、鼓膜が壊れていたが、後に同県警察の長官になった。

このように殴られた後、彼らは別の秘密の部屋に連れて行かれました。
9時ごろに呼ばれました。両手を縛られ、麻酔をかけられたまま、2人の憲兵が私に付き添って市長室まで向かいました。そこで彼はテーブルの後ろに座り、彼の周りには30人以上の委員、補助委員、代理人が座っていた。私は彼女の目を見ました。
おそらく私はその中に慈悲の心を見つけることができるでしょう。しかし、私は全体的な満足感しか得られませんでした。警備部長のボテス、局長のディミトリウなど、誰もが笑顔だった。

県、

バシリュー委員長、クロたち。市長は一枚の紙を取り出した。私は自分の名前を書き留めてから、次のように言いました。

「あなたの名前は正確には何ですか？」
「私はコーネリュー•コドレアヌです。法学博士課程の候補者で、あなたと同じ弁護士の弁護士です。」
「彼を倒せ！」
卑劣な悪党である三人が私に向かって突進し、私を机の前に押し倒しました。 「彼の靴を脱いでください！」
彼らは、各靴につき１人ずつ、靴を脱ぎました。 「彼に鎖をつけろ！」

彼らは私の足を鎖で縛りました。私は彼らに言った、「主よ。
市長、今あなたは最強であり、生と死の支配者です。でも明日、ここを出るとき、私はあなたと私を呪った人に復讐してみます。」

その時、廊下で物音と声が聞こえました。
クザ教授は、スムレヌ教授と子供たちの両親であるナデイデ大佐、ドゥミトリウ少佐、ブナリウ少佐、アンブロジー少佐らとともに、検察官で監察医のボグダン教授とともに到着していた。

市長と他の人々は椅子から飛び起きてホールに飛び込みました。市長がこう言って
いるのを聞きました。
「ここに何がしたいのですか ?出て行ってくださ
い！」その時、クザ教授の声が聞こえた。「あなたは
誰を追放していると思いますか ?私たちはあなたが私たちを追放するためにあなたに会いに来たのですか ?私たち
はあなたに対する内部告発者として検察官に同行して来ました。」
「憲兵、彼らを追い出してください！」と市長に命じた。

スムレアヌ教授は被害者たちが閉じ込められていた部屋のドアに立ってこう言った。

「検察官、この部屋が開かれるまで、私たちはこの部屋から出ません。」委員数名。

「この部屋には誰もいません。空いています。
スムレアヌ教授：「今すぐこの部屋を開
けましょう！」
弁護士の介入により部屋が開けられ、6人の若者が両親に助けられ市役所に連行された。検視官のボグダン教授は全員
を検査し、診断書を発行した。数時間後、庭にいた全員が解放された。私はさらに 2 日間拘留され、その後予審判事に送られました。

彼は私を解放してくれました。私は彼に、「閣下、も
し正義が行われないなら、私が自分で正義を果たします。」と言いました。
私は家に帰りました クザ教授とリビウ•サドヴェアヌが私に会いに来ました。
「あなたが法律を自分の手で掌握したいと言ったと聞きました。そんなことは絶対にやめてください。
私たちはこれを内務省に報告し、調査を要求します。私たちが満足しないということはあり得ません。」

ララウ山にて

私は道徳的に打ちのめされました。私の計画はすべて失敗しました。私は陶器と庭園を運命に任せ、ブコヴィナのカンプル
ン行きの始発列車に乗り、そこで緑の小道を通って、心の重荷と昨日の屈辱を抱えながらゆっくりと山を登った。未来に関する
謎めいた苦しみとして。私には山、庵のあるララウ以外に友人がいないように思えました。高度約4500フィートになっ
たとき、私は立ち止まりました。

何百マイルも続く山や丘を眺めましたが、目の前に何の代わりにもならない景色はありませんでした

私が仲間とともにさらされた中傷と屈辱のイメージ。彼女のすすり泣きが今でも聞こえて、痛かったです。暗くなってきた。
周りに生きた魂はいません。不毛の崖の周りにはハゲワシが鳴く木々が生えているだけだ。

私が持っていたのは厚手のコートとパン一斤だけでした。パンを食べて、岩から流れ出る水を飲みました。私は木片を集めてシ
ェルター、小屋を作りました。私はこの部屋に一ヶ月半住んでいました。私に必要なわずかな食べ物は、ピティカル老人の囲い
から羊飼いたちが持ってきてくれました。

私は不機嫌で、人の中に入るのが恥ずかしかったです。私は自問しました。これほど壮大で美しい計画を立ち上げようとしていた
今、神が私の頭にこの不幸をもたらすとは、私がどんな罪を犯したということでしょう ?モタさんはこう書きました。

「何が私を悩ませているのか分からない。どうやら私は自分ではないみたいだ !運が私を見捨てた。しばらくの間、不幸が
私を追い続けてきた。一歩一歩、何を始めても失敗する。そして、運命が役に立たなくなったとき」 「戦いでは、周囲の人々が
あなたを見捨て始めます。30 回の勝利を犠牲にして彼らを結集させますが、1 回の敗北で彼らはあなたから離れるのに十分です。」

私の魂は疑惑に悩まされていました。私は岐路に立っていました。私たちは国のために戦ったのに、国民の敵として扱われました。私たちは政府、警察、憲兵、軍隊から容赦なく攻撃を受けました。

武力行使もすべきでしょうか？彼らは国家です。何万単位、何十万単位で。苦難、飢え、寒さ、刑務所によって肉体的に疲弊している一握りの若者である私たちは、わずかな勝利の可能性を願うために、どれほどの力を象徴しているのでしょうか？もし私たちが試みたとしたら、私たちは押しつぶされてしまうでしょう。そして最終的には、ユダヤ人マスコミに唖然とした国が、我々は気が狂っていると言うだろう。彼らのように武力や暴力を行使しないでしょうか？
彼らは部下を挑発し、拷問し、蹴散らし、あなたを殺します。私たちは自分自身が殺されることを許すべきでしょうか？しかし、私たちの年齢ではまだ何も書いていませんし、なぜ彼らが私たちを殺したのかさえわかりません。私たち全員が国を出た方が良いです。外に出て呪うこと。のために

世界中を放浪します。私たちにとって、ここ自分たちの国で徹底的に辱めを受けるよりは、国から国へと物乞いをする方が良いのです。
さもなければ、銃を手に、この山から降りてきて、正義を貫いてください。そうすれば、道をふさぎ、私たちの国の命を窒息させる獣に終止符を打つことができます。しかし、その後の計画はどうなるでしょうか？私は努力して死ぬか、刑務所で死ぬかです。なぜなら、私は投獄される体制に耐えられないからです。私は自由が大好きです。それがなかったら死んでしまう。しかし、モタはどうでしょうか？なぜなら、そのような動きは私の殉教とモタの殉教を意味し、無罪の可能性は完全に消滅するからである。私たちのグループ全体が潰されてしまうでしょう。私たちのすべての善意の考え、すべての組織化計画は無駄になるでしょう。なぜなら、それらはすべてここで終わっていたからです。

山の上で6週間、私はこれらの考えに悩まされ、解決策を見つけることができませんでした。心配と苦しみの重みで胸が痛くなり、自分の力が衰えていくのを感じました。

私は誰にも屈しない衝動的な男でした。私は自分自身に自信があり、自分の力に自信を持っていました。どこへ行っても、私は勝ちました。

今回は、現在の困難が私を屈服させました！山から下りてきました。私はすべてを運命に任せました。解決策が見つかりませんでした。しかしそれ以来、私は最初のちょっとした挑発に使用するつもりでリボルバーを持ち歩いていました。誰も私をその決意から遠ざけることはできませんでした。陶芸場に行ってきました。そこでは、作業の責任を任されたグリゴレ•ギカが模範的に責任を果たしました。保管されているレンガの数が大幅に増加しました。

それぞれ 40,000 個のレンガを収容できる新しい窯が 2 つ建設されました。
それは7月15日頃のことでした。少年たちは私を温かく迎えてくれました。裏庭では何も異常は起きなかった。

しかし、ヤシでは変化が見られました。以前はかろうじて靴を履いていた警察長官も、今では自分たちが絶対的な達人であると感じるユダヤ人によって、上から下まで靴を履かれている。県警察はユダヤ人から提供された車を自由に利用できた。

彼らは、共産主義運動の最中の1919年以来、革命前夜に自分たちを想像し、ヤシやプルースにいたすべての小さなユダヤ人が人民委員のような雰囲気を持っていたとき以来見られなかった生意気さを示した。

ブロックを分割する取り組み

ユダヤ自由主義勢力は私たちのグループのこと、ヴァカレスティでの私たちの投票のことを聞き、このブロックの周りで学生たちが団結するだろうと認識していました。ユダヤ人にとって、他人の中での完全な団結、つまり運動や民族における感情の団結ほど恐ろしいものはない。
だからこそ、彼らは常に国家の敵にとって唯一の利点がある「民主主義」を支持するでしょう。なぜなら、民主主義は国民の統一と精神を破壊するものであり、ルーマニアとその他の世界のユダヤ教の完全な統一と団結を前に、かつては民主主義政党に分裂し、こうして細分化された人々は敗北することになるからである。

Googleによる機械翻訳

これは学生運動にも当てはまりました。私たちには完全な団結がなかったので、ユダヤ人たちはフリーメーソンのやり方で、つまり私たちの団結を崩壊させる以外の目的のないあらゆる種類のアイデアを彼らに提案することによって、説得できる派閥や指導者を見つけました。

あるいは、今回私たちのグループが、学生運動全体を自分たちの周りに集める可能性を伴う揺るぎない団結を示したとき、私たちは、モタを私や他のグループから引き離すという目的を持った、終わりのない一連の嘘と慎重に織り込まれた陰謀に直面しました。 。

ユダヤ人たちは生徒たちの中に、知らず知らずのうちに道具として利用されかねない弱い要素があることを発見した。
ユダヤ人たちは重大な秘密を共有しているふりをして陰謀を開始し、生徒の親たちさえも巻き込み、中には子供たちとこのグループとの関係を断つことを最も猛烈に主張する者もいた。

私たちはどうやって抵抗することができたのでしょうか？ Vacaresti がそれを実現できたのは、私たちの計画を先見できたからです。私たちは、フリーメーソンとユダヤ教によるこの典型的な攻撃が私たちに向けられるだろうと最初の瞬間から悟りました。準備はできていました。ですから、それが始まった瞬間、私たちは近親者でさえ抵抗しました。職場に興味をそそる人物を見つけるとすぐに、私たちは集まってグループ全体に知らせました。

私は現在、どこでも一般的に使用されているこのシステムに注意を払うよう、ここにいるすべての組織にアドバイスをしています。攻撃を回避するには: 1. 偏った情報は、それがどこから来たものであっても、決して信じないでください。
2. 陰謀の試みを問題のグループ、関係者、リーダーに直ちに報告します。このようにして、攻撃を撃退することができます。

私のベトロタ

1924年8月10日、ウンゲニ窯で、友人たちと両親に囲まれながら、私とアンゲニ氏の娘エレナ•イリノイウ女史の婚約が発表されました。
コンスタンティン•イリノイウ、機械工、彼はとても親切で、心の優しさを持った人でした。その後、私は彼らと一緒に引っ越しましたが、彼らは5人家族であったにもかかわらず、両手を広げて歓迎されました。この家族は、私が奮闘していたとき、常に私を支えてくれました。あなたの私に対する気遣いと愛が私を支えてくれました。 9月13日にフーシの家に行き、実家で誕生日と名前のお祝いをしました。 25歳になったばかりだった。

Googleによる機械翻訳

モタ=ヴラド裁判

モタとリボルバーを入手した学生レオニダ•ヴラドの裁判は1924年9月26日に予定されていた。ヴラドは銃撃の数日後に自首し、モタとともにずっと刑務所に拘留されていた。

私はブカレストに向けて出発し、そこで評議会で審議が始まりました。モタは反逆罪は処罰されるべきであるという持論を精力的に擁護した。裏切り者にうんざりした世論は、裁判の経過に強い関心と熱意を持って注目した。
彼はモタのジェスチャーに裏切り者に対する行動の開始と道徳的健全性の証拠を見た。彼の偉業は、何世紀にもわたって人民の利益のための戦闘員が倒されてきたルーマニアの生活の暗い側面に光のように輝いた。

裏切りを通して。
ajl大学の学生全員が彼の無罪を求めて大規模なデモを行った。
ブカレストの裁判所の周囲には、再び、祖国のための新しい生活を望み、モタの自由を要求する何千人もの人々が集まった。

夜が明けると、民衆の正義が無罪判決を下し、国中で熱狂的に受け入れられた。モタは両親に会った後、私たちの誓いに従ってクルージュを離れてヤシに向かい、そこに定住した。

庭で起こったことについて

5月31日の違法行為中に私たちが受けた屈辱と不名誉は、私たちを道徳的に打ち砕いた。開いた傷になってさらに深くなった

ますます私たちの命を消耗し、墓場に近づいているように見えます。

自分や自分のものが不名誉な扱いを受けたときに感じる屈辱は、深い痛みを感じさせ、人に見られることを恥ずかしく思って人を避けるようになります。あなたは、この世界があなたを軽蔑し、世界の名誉を守ることができないために顔面笑いしていると感じているようです。あなたは、抑圧者が罰を受けることなく、気まぐれに応じて社会の名誉を傷つけ、傷つけることができると、あなたの卑劣さによって信じ込ませ、社会そのものを危険にさらしているのです。

法的救済を得ようとする私たちの努力が冷笑的な態度で拒否され、私たちを絶望に陥れるにつれて、これらの痛みは比例して増大しました。
満足を求めて訴訟を起こした被害者は、今度は法務官庁の壁の中で、さらには裁判官の前で、再び警察に殴られる危険にさらされた。しかし、最終的に有罪判決を受けたのは原告側であった。 5月31日に起こったことは影響を与えなかったわけではない。

私は新聞から、この事件がルーマニア社会に与えた反響と、その非道に対する満足を得ようとする試みを再現します。

1924 年 6 月 8 日の Universul (「宇宙」) は次のタイトルで印刷されています。

IASI警察

生徒たちは警察に殴られた

私たちは、ヤシ警察署長のマンシウ氏を、暴力と残虐行為で象徴される前世紀で最も悪名高い警察官の一人であると想像していますが、マンシウ市長は、ヤシのような大学都市でわずか1年の経験しかない警察官ではありますが、ヤシ氏は昨年、大学教授会議で時代錯誤の警察暴力制度を発足させた。彼が大学教授の会議をなんとか中止させたのは、警察の衝動が彼にそうさせたからである。

この最も著名な知識人集団に与えられた侮辱に対するその後の抗議活動は、ヤシ警察長官が政治的支援を受けて行動したため、無駄に終わった。

それ以来、マンシウ氏は警察の手法を熱心に続けており、それがここ数日間特に発揮されている。殴るときは渇きを感じて殴り、熱意を持って殴り、陰険に学生たちを流血させ、それから部下たちに真似するよう命令するのだ。同じ残忍な熱意を持って。

ヤシの生徒たちが何をしたとしても、もし彼らが殺人者であれば、彼らは殴られるべきではなかった。

そもそも捜査が行われるべきであり、検察庁に通報されるべきであり、彼らは逮捕されるべきであり、おそらく鎖につながれたが、徹底的に殴られるべきではなかった。

マンシウ市長は職務遂行上、「動物の保護」に関する一定の規制を適用する義務があるのは確かだ。私たちは彼がそれらを強制しているとさえ信じています。

「言い換えれば、彼は馬が殴られないように、豚が拷問されないように気を配っているのです。

しかし、マンシウ氏は学生時代に刑法を学んだはずであり、残酷な制裁の廃止を説いた我が国の著名な刑罰医、ユリアン•テオドレアヌ氏から勧められたであろう刑事文献をいくつか読んだはずである。内で

刑務所では、学生を個人的に殴り、拷問し、血まみれにした。
しかし、殴られた生徒たちが告発されている不条理に対して何の罪も犯していないとしたらどうなるでしょうか?
だから何 ?逆に彼も負けるべきでしょうか ?
確かに司法調査は必要だ。
しかし、マンシウ氏が生徒たちの頭の筋肉を強化することを不可能にするための制裁も必要だ。 」

B. セクロピド

Googleによる機械翻訳

新聞は1924年6月9日にこう続けている。

IASIの学生は虐待されている

彼らは警察からからかわれ、理由もなく拷問を受け、残忍な警察署長に責められました。
マンシウ氏は解任されるべきだ。

私たちは前号で、氏による山賊行為について書きました。
学生たちに反対するヤシ警察署長のマンシウ氏。
今日は学生たちが内務省に送った覚書からいくつかの抜粋を転載します。

学生建設者たち 覚書にはこう書かれている。「私たちヤシ大学のクリスチャン学生は、一ヶ月前に自分たちの労働力で文化的な家を建てることを決意した…」

警察長官の挑発 私たちが集まるとすぐに、憲兵の中隊とマンシウ市長が率いる警察機構全体に取り囲まれた。

私たちが武器を広げて立ち止まっている間に、彼らは私たちに襲いかかり、罵り始め、可能な限り最も野蛮な方法で私たちに切りつけました。
彼らは私たちに武器を見つけるだろうと思って私たちを捜索しましたが、私たちの誰も何も見つかりませんでした。
捜索中、彼らは同僚のコルネリュー•ゼレア•コドレアヌのポケットにリボルバーと数枚の書類を入れようとしたが、彼はこれに抗議した。だからこそ、彼はマンシウ巡査、クロ警部、バシリュー長官に殴られ、他の捜査員たちとともに最悪の泥棒であるかのように縛り付けられたのだ。同じことが、そこにいた多くの私たちにも起こりました。私たちは逮捕され、軍の非常線に囲まれ、警察署に連行されました。 '

路上の子供たちさえも殴られました。 「途中、私たちは監督の指示に従ってオイナ（ルーマニア野球 - トルコ)の練習をするために運動公園に向かっていたさまざまな高校の数人の生徒に会いました。彼らは全員逮捕され、当然のことながらマンシウ巡査自身と他の警官に殴られた後、私たちと一緒に警察本部に連行され、全員が見守る中だった。彼らは警察本部でも終日拘束された。

私たちの中には気を失うまで殴られ、その後釈放された人もいました。強要されて供述をした者もいたが、何の供述も行われずに釈放された者もいた。 「そして結論として、ウニヴェルスル氏は次のように付け加えた。」前述の行為は処罰されないわけにはいかない。

マンシウ警察長官は、工作員の挑発者であることが判明し、ヤシで高位の学生や少年たちを拷問した罪で有罪となり、そのような悪行に対して処罰されなければならない。

特に、1924 年 6 月 10 日号の Universul には次のように印刷されています。

知事の恐怖にさらされるIASI

警察「…警察の地下牢に移送された学生たちは、最も恐ろしい拷問にさらされました。」中には逆さ吊りにされたり、牛すじで足の裏を殴られたりした者もいた。学生のコルネリュー•コドレアヌさんは警察署長自ら縛り上げられ、平手打ちされ、拷問を受けた。彼の健康状態は揺さぶられた。 」

「他の逮捕された学生も重傷を負っている。」
「300人の学生が上記の事実を司法長官に報告し、拷問を受けている同僚の状況を検死官に調査するよう要求した。」

AC CUZA教授の言葉

1924 年 6 月 1 日の新聞 Unirea (「連合」) の特別号で、AC クザ教授は次のような賢明な記事を掲載しました。その記事から私は抜粋します。ルーマニアの学生たちがテロの最中に心配するほど犯された
「ヤシのような都市を警察官に任命させ続ける政府は何を望んでいるのか？」という2つの疑問が強く投げかけられているが、警察官自身は何を望んでいるのか？

「彼らは、日常的に引き起こされると思われるこの継続的なフラストレーションの結果として、無思慮な反応が生じることを望んでいるのだろうか？」
「この挑発は、ますます品格に欠け、腹立たしいものである。なぜなら、同時に警察官のマンシューがユダヤ人協会「マカビ」の会合に出席し、白と青の旗を掲げて、表向きはスポーツ志向のマカビーズを遠足に案内しているからである。

「そして、あなたは彼が毎日自分の車の中で休んでいるのを見ることができます - 先日シウレアへ旅行した車ではなく - イスラエルのヤシコミュニティが公共のサブスクリプションを通じて彼のために購入したと思われる新しい車、同じカハルです彼は報道機関や機会あるごとにキリスト教徒の学生に対する態度を奨励している。

「この継続的な挑発行為に対して最大限の憤りを持って抗議し、ヤシもキリスト教徒の学生ももはや容認できない、品位のない危険な事態を終わらせるために上級当局が介入するよう要求する。」

AC クザ

満州に対する抗議集会

6月3日と5日

次のような電報が送信されました。

国王陛下へ

「毎日のように殴られ、侮辱されている学生や子供たちに対するマンシウ警察の違法行為に抗議するために団結したいと考えていた私たちは、検察が私たちの行為を許可したにもかかわらず、警察と憲兵に止められました。
ミーティング。

「私たちは謹んで陛下に苦情を提出し、保護されるようお願いします。」 (1200 名の名前が続きます)。

外務省へ

内部「私たちの子供たちは路上から連れ出され、マンチュー警察市長によって暴力的に虐待されました。私たちは即時調査とその後の制裁を要求します
厳しい。

「親の感情に傷つき、忍耐力を失った私たちは、遅滞なく正義を期待しています。」 ss。少佐1。
ドゥミトリ

ウ、アンブロジー少佐、D. ブトナル、エレナ•オラネスク、オアルザ大尉、ゲオルギュウ、
等

アクティウネア•ロマネスカ (「ローマ•アクション」)

初年度第 2 号、1924 年 11 月 15 日

1924 年 11 月 15 日版の Actiunea Romaneasca は、著名な人物の署名の下に発行されました。

作家イオン•イストラテ博士：「

1924年6月8日、タモスキ将軍の名誉議長の下、ベジャン•ホールで印象的な大衆抗議集会が開催された。マンシウの行為には以下の人物が特徴的だった：大学教授ACクザ、キリスト教学生の代表を務める学生グリゴレスク職人アルトゥール•ルス、冶金学者C.パンクー、警察署で見たものについて印象的な説明をした医学部教授C.スムレヌ。鼓膜、肥大化した車、血まみれの目、マンシウの野蛮人の牛の腱で打撲された腕と足の骨折。彼は、もし自分の息子が警察を率いる野蛮人によってあんなに拷問を受けていたら、「悪党の脳を吹き飛ばすことを一瞬たりとも躊躇しなかっただろう」と断言した。

それからドゥミトリウ少佐はこう語り、「この国の正義が我々を満足させると信じている」と締めくくった。そうでなければ、私はここで皆さんの前で誓います、そして私は自分のバンドに正義を尽くすという私の誓いを尊重する方法を知るでしょう。

「弁護士のバカログル氏、当時の職人クリステア氏、弁護士のネル•イオネスク氏、イオン•ゼレア•コドレアヌ教授も講演しました。結局、抗議動議が採決され、一方では法務省の満足が求められ、他方では政府に対してマンシュー氏の罷免が求められた。

無駄な警告

1924 年 6 月 15 日のタラ ノアストラ (「私たちの国」) 第 24 号では、有名な作家 Al.O. Teodoreanu は、最後の一節を転載する記事を公開しました。

「デモを呼び出された法廷は、『逮捕された学生』全員が無罪であると宣言し、即時釈放されるべきであると決定した。

それにもかかわらず、学生ゼレア•コドレアヌは共謀罪で拘留され、弁護士でもあるマンシウ警察によって裁かれている。

最も初歩的な法律マニュアルや常識によれば、結婚、決闘、陰謀においては、一人の人間では判断できない。

人に上記のようなレッテルを貼るためには、そのレッテルを貼る人は、少なくとも2倍のものが見えるような特定の酩酊状態にある必要があります。

言い換えれば、あなたは彼と話すことができません。

しかし、私たちは、議会や報道機関の臆病な代表者たちを誰にも偏見なく喜んで排除する、中傷されたルーマニア国民全体を代表して、マンシウ氏の（避けられない)処罰をマンシウ氏の裁量に委ねたほうがよいと考えるかどうかを政府に尋ねる。被害者、あるいはそれを避けるチャンスです。

正義の決定的な言葉に力づけられた私たちは、ためらうことなくヤシの「陰謀」を危険な陰謀とレッテルを貼ります...

AO テオドレアヌ

行政調査が命じられる

この事件から生じた多数の抗議活動の結果、ヴァラル行政監察官が事件の調査のために派遣された。アンブロジー少佐からあなたに送られたメモは次のとおりです。

メモ

警部殿、私たちの

子供たちの拷問に関する電信報告についての真実を完全に確かめたいとの思いから、内務大臣はあなたを調査のために派遣しました。私たちはあなたが全力を尽くしたいと信じているので、

この事件の暴露を受けて、私たちは事実の説明を含むこの覚書を作成しました。この出来事は次のように行われた。ヤシでは、生徒たちがヤシに自分の家を建てるためにウンゲニでレンガを作り、庭仕事をしていることは、学校長も生徒の両親も知っていた。キャロル通りのギカ夫人によって自由に配置された 高校生と男子生徒の一部は週に一度、生徒コルネリュー•Z•コドレアヌの指導の下で集まり、仕事の割り当てがなされた。すなわち、40人の生徒がレンガを作るためにウンゲニに送られた。 、そして20～25人の男子高校生が庭の水やりに派遣されました。

警察署長はこのことを知っていた。しかし彼は、「特にヤシの新聞が実質的に彼の所有物であり、結果として彼のゲームに嵌る場合には特に、陰謀のようなセンセーショナルなものをでっち上げるかもしれない」と空想した。否や言うほどない。 1924 年 5 月 31 日、午前 4 時半から 5 時の間、約 65 人の学生がギカ夫人に働きに来ていることを知ったとき、警察全軍と多くの武装部隊が彼らに対して突然攻撃を加えました。でっち上げられた「陰謀」の深刻さ。高校生や少年たちが普通の犯罪者と同じように一斉検挙され、その場で工作員や軍人、さらにはマンシウ巡査自身によって激しく殴打されたときに何が起こったのか、人間の心は理解しようとしない。

30分後、彼ら全員はコリリュー•ゼレア•コドレアヌに率いられ、厳重な護衛を受けて大通りを警察本部に向かって歩いていた。途中、彼らは教師の命令でコポウにイオイナで遊ぶ予定だった別の高校生のグループに出会った。彼らは、鎖につながれた人々に挨拶するという贅沢を自分たちに許したために、前者の共犯者として直ちに逮捕され、殴打され、警察本部に連行された。

市長はそこに着くと、事態の深刻さをわざわざ公立省に知らせることもなく、単独で「一般的な」尋問を始めた。すなわち、彼はこれらの高校生と少年たちを殴り、虐待し、拷問して、彼らが陰謀の一部であるという供述を強要し、彼らが知っていることを話させた。しかし、そのようなことを何も知らなかったとき、彼らは何を言うべきだったのでしょうか？

ほぼ全員が殴られましたが、最も重傷を負ったのは次のとおりです。 1. 私の息子、セザール•アンブロジーは教育神学校の学生で、頭を牛の腱で殴られ、最終的には寄付をしなかったために市長によって個人的に鞭打たれました。予想通りの答えが左耳に当たり、鼓膜が破れた。

、だった

2. 高校生のドゥミトリウ•スプリンティ、ダーニトリウ少佐の息子。彼の足は鎖でつながれ、逆さまになって、軍曹が持つライフルにぶら下がった。コジョカルと伍長。テオドロイウ。彼は市長直々に牛の腱で足を殴られ、気を失うまで殴られた。

3. GH 男子高校生。グルグタさんは手足を縛られた。それから彼は地面にうつ伏せに置かれ、牛の腱で殴られ、叫び声を消すために顔の下に水の入ったポットが置かれ、最も大きな叫び声を上げたとき、そこに配置されていた警察官が彼の顔を水に突っ込んだ。

この拷問の間中、ヴェルシウ大尉と中尉という2人の憲兵も立ち会っていた。彼らがそのような仕打ちを目撃するのはふさわしくなかったので、兵士としての富田の威厳が彼らに真実を明らかにすることを妨げないことを我々は望んでいる。軍隊を拷問に使用すること、およびその用途がわかっている場合に軍事兵器を拷問の手段として使用すること。

高校生や少年らの報告によると、マンシウ巡査がこうした作戦に従事している間、クリアヌ検事とブゼア検事が彼の執務室の前を通りかかったという。彼らは真実を語るだろうと私は信じています。

その後、次のような委員会の要求に従ってカチチ第一検察官が警察本部に来たとき、殴打と拷問は完全に止んだ。クザ教授とスムレアヌ教授、弁護士のバカログル、ナデイデ大佐、検視官のボグダンは、子供たちを診察し、警察署でこの報告書に添付された診断書に記載されている傷害を法的に立証した。

」

ご覧のとおり、監察官、私たちは今日まで法的手続きに従ってきました。
1. 私たちは、最初の検察官と検死官に、学生たちの傷を確認するために市役所に行くように依頼しました。
2. 私たちは第 11 地方裁判所に拷問者に対して訴訟を起こしました。

3. 私たちは、検視官の報告書も送られた検察庁に次のように通知します。

この事件は捜査のためレサヌ判事に付託されている。
4. 士官として、我々はマンシウ氏に武器による満足を要求したかもしれないが、決闘でシウレイ大尉との面会を拒否したことでマンシウ氏は失格となった。正直に言うと、それが真実です。
どうかどうか、機嫌を損ねた両親のうち、私たち二人は高官であり、合法的に行動したために暴露されているということを、今日まで誰も私たちに満足を与えてくれないので、十分に考慮していただきたいと思います。
我々は、内務大臣がマンシウ市長をその悪行で法廷に提訴することで我々を完全に満足させ、マンシウ市長が未成年の予備士官であったにもかかわらず、上官の子供たちを意図的に拷問したことに対して陸軍省に介入してくれると信じている。同志たち。

アンブロジー少佐 (ss)

調査の結果は次のとおりでした。 1. マンシウ市長はステアウア•ロマネイ (ルーマニアの星) に司令官の階級を授与されました。

2. 私たちを拷問した警察長官は全員昇進しました。
3. これらの措置に勇気づけられて、警察は私たちに対するさらなる迫害を開始し、今度はモルドバ全土に広がりました。街路や本社にいるパルプは、自分の行動について誰にも答える必要がありません。

運命の日

このような状況であったため、1924 年 10 月 23 日、私はマンシウに拷問された学生コマルザンの代理人として、同僚のダンブラバとともに弁護士としてヤシ第 11 地区の法廷に出廷しました。

市長はチーム全員とともに現れ、本会議で弁護士とスピリ•ドナヌ裁判長の前で私たちに向かって体当たりをした。

このような状況下で、私はすべてを賭けて、20人の武装警察に押しつぶされそうになり、銃を抜いて発砲しました。

私は一番近くに来た者を狙った。
最初に倒れたのはマンチューだった。 2人目はクロ警部。 3人目ははるかに罪の軽いコミサックス•フサヌだ。

残りは消えてしまいました。
あっという間に法廷前に数千人が集まりました
*
　マンシウ中尉は第 10 山岳歩兵連隊に所属していたが、動員中は第 3 軍団の修理工場での任務を避けていた。

ユダヤ人たちは集まり、手を空に上げ、指を憎しみの曲がった爪のようにして、私が引き裂かれるのを待っていました。
まだ5発残っていた銃を右手に持った私は、ヤシの弁護士ビクトル•クリメスクの腕を掴み、法廷に同行するよう頼んだ。

私たちはその場を立ち去り、銃を見て立ち去ろうとする良識を持ったユダヤ人の大声で群衆の中を通りました。

私は途中で憲兵に捕まり、クリメスクさんと引き離されて警察署に連行されました。ここで委員たちは私に飛びかかり、この屈辱の真っ只中に私が持っていた唯一の友人の銃で私を武装解除させました。私は5分ほど抵抗して力を振り絞った。結局のところ、私は圧倒されました。

それから彼らは私の手首を後ろ手に鎖で縛り、銃剣を抜いた4人の兵士の間に私を置きました。

しばらくして、彼らは私をそのオフィスから中庭の奥に連れて行き、高い柵の前に立たせました。憲兵たちは撤退し、私はそこに一人残された。彼らは私を撃とうとしていたのではないかと思いました。私は夜遅くまでそこに数時間滞在し、撃たれるのを待ちました。ただし、この待ち時間は私には影響しませんでした。この悲劇的な復讐のニュースは電光石火の速さで広まりました。

それが学生寮に到達すると大爆発を起こした。
すべてのカフェテリアや寮から、学生たちがユニオンスクエアに向かって通りを走り始めました。そこで彼らは歌いながら長い間デモを行った後、警察署に行こうとした。しかし、現場に到着した軍隊はなんとか彼らを阻止した。鎖につながれていたとはいえ、彼らの歌声を聞くことができてうれしかったです。なぜなら、それは彼らが暴君から解放されたことを意味していたからです。

一日の終わりに、私は同じ拷問室の二階に連れて行かれ、そこで予審判事のレサヌが机の後ろに座っていました。この男は、私が4か月前に正義を求めて告訴したのと同じ男でした。彼は私に簡単に尋問し、その後、私の逮捕状を発行しました。

それから私は米車に放り込まれ、ヤシの上の丘にあるガラタ刑務所に移送されました。そこはペトレ•セヒオプル（MXP-T)が建てた修道院の近くで、私は他の10人の囚人と同じ部屋に入れられ、そこで鎖でつながれたのです。削除されました。同房者たちが私にお茶を一杯くれました。それから横になって寝ました。翌日、私はセメントの床、板のベッド、毛布も枕もない部屋に独房に入れられました。ドアには南京錠がかかっていました。

部屋には窓が 2 つあり、その窓ガラスの外側は白塗りでした。何も見えませんでした。ある壁はとても濡れていて、水が流れ落ちていました。その部屋に来た初日、マテイの衛兵のおじいさんが私に黒パンを持ってきてくれました。彼は入ることを許されていなかったので、ドアをひび割れて開け、パンに手を差し込みました。まったくお腹が空いていませんでした。夜はボードの上で体を伸ばし、コートを羽織りました。私の下に置くものは何もありませんでした

頭。私は震えました。

朝、彼らは私を2分間連れ出し、その後再び閉じ込められました。同じく投獄されていた学生の一人、ミルタ•ポポヴィチさんは、日中なんとか私の窓に近づき、指先ほどの大きさのガラスを掃除して、外が見えるようにしてくれました。それから彼は立ち去り、約18メートル離れたところで、指で私に注意深く合図しました。彼がモールス信号を使っていることが分かりました。こうして私は、逮捕できなかったコルネリュー•ジョルジェスクを除いて、モタ、ガルニーアタ、トゥドセ•ポペスク、ラドゥ•ミロモヴィチといったヴァカレスティ人全員が再び逮捕されたことを知った。彼らも同じ刑務所に連れて行かれ、同じ部屋に入れられました。私の父もそこに連れて行かれたことを知りました。二日目の夜はさらにひどかった。とても寒くて眠れませんでした。私はほぼ一晩中独房で過ごしました。

朝、私は再び2分間外に連れ出され、その後再び鍵をかけられました。マテイ爺さんは私にもう一つパンをくれた。正午に私は手錠をかけられ、カートに乗せられ、逮捕状の確認のため裁判所に連れて行かれました。この手続きの後、私はガラタに戻り、同じ暗い部屋に連れて行かれました。外では天気が悪くなってきました。熱はなく、震え始めました。

ボードの上で眠ろうとしましたが、骨が痛かったので一度に30分程度しか昼寝できませんでした。セメントの床から伝わってくる寒さのせいで、腎臓が痛くなり始めました。体力の衰えを自覚し、自分の意志と体操を訴えた。

私は一晩中、1時間ごとに起きて10分間運動し、体力を維持するために粘り強く努力しました。

次の日、気分が悪くなりました。私の決意と意志にもかかわらず、私の力は目に見えて衰えていました。

力。次の夜、寒さはさらにひどくなり、私の意志はもはや機能しませんでした。私は心が折れそうになり、目の前が真っ暗になって気を失いました。私の意志が続く限り、私は心配しませんでした。
しかし今、自分の体調がかなり悪いことに気づきました。震えて止まらなかった。終わりのない夜がどれほど辛かったことでしょう。

翌日プロモーターが私に会いに来ました。私は自分の体型を隠そうとしました。
「ここの様子はどうですか？」
「とても良かったです、先生。」
「何も報告することはないんですか？」 "いいえ、別に。"
私はこのように13日間を過ごしました。それで彼らは私のために小さな火を起こしてくれました。彼らは私にベッドリネン、毛布、そして壁に掛けるいくつかのマットをくれました。 1日1時間は外に出ることが許されていました。ある日、私は庭の裏でモタとトゥドセを見かけたので、彼らにサインをしました。そのとき、父が釈放されたことを知りました。同様に、リビウ•サドベアヌ、イオン•サヴァ、そして逮捕された別の学生も同様だった。

満州事件に関連する 2 つの記事

タルグル•ククルイでの出来事の翌日、クヴァントゥル•イアスルイ（「
1924 年 10 月 27 日の「ヤシの言葉」には、法学生協会の元会長で弁護士のネル•ロネスクが署名した記事が掲載されました。
そこから引用します。

「C•マンシウ氏の死に関してリベラルなユダヤ人マスコミが行ったコメントは偏向的で悪意に満ちている。それらは事実の重大な改ざんから始まる　虐待と不正義の体制の避けられない結果にすぎない事実　は、手段にすぎなかった男をどんな犠牲を払ってでも英雄に変身させ、それを架空のファシストの反ユダヤ主義陰謀のせいにする

。

学生たちは祈るために大聖堂に入ることを強制的に阻止された。彼らはレストランで一緒に食事をすることを妨げられた。彼らは残忍な暴力を受け、街を歩くことを妨げられた。彼らは自分の大学や協会の事務所であえて会うことを妨げられた。で働くことが妨げられた

あなた自身の使用のためのあなた自身の庭。路上、警察の地下室、公共の広場で、最下位の警察官から最下位の警察官に至るまで、警察全体によって殴打された。

昨日この市の警察署長だった人だ。
学生たちは、称賛に値する自制心と、自分たちを尊重する正義への信頼を示し、深刻な残虐行為、職権乱用、個人の自由を理由にマンシウ市長とその部下に対する一連の訴訟を起こした。

生徒たちのこのジェスチャーは理解されませんでした。そして残念ながら、正義と秩序の最も純粋な感覚に動かされた世代全体が正義にかける期待に応えていない、と言わざるを得ません。

1923年12月11日、セルの家前のキャロル通りで白昼、マンシウに背中を蹴られた男女共学のシルビア•テオドレスク。ヴェルサは、何人かの目撃者によって宣言され、証明された事実であるが、彼女は第一地区裁判所でマンシウに有罪判決を下すことができなかっただけでなく、裁判でそれが知られていたため、原告として名誉毀損で有罪判決を受けることになった。キック中に彼女はマンシウに「これは野蛮だ」という言葉を伝えたという。

1923年12月14日の夜、ガラツィ出身の法学生レフターは、居住していたホテル•ベジャンに入ると、理由もなく警官と憲兵の一団に囲まれ、マンシウと一緒に彼の命令で銃を殴った。棍棒、杖、ライフル銃、尻、蹴り、拳で殴られ、ついには意識を失い地面に倒れ込み、脇道に引きずり込まれ、落とされて何も助けられずに放置された。

レフター氏は訴訟を起こしたが、マンシウ氏は証人を提出する必要がなく、無罪となった。
防衛。

しかし、ギカ寮の庭で働く学生たちに対して行われた昨夏の野蛮さと野蛮さはどうだったのでしょうか?!

25人の学生が一日中泥棒のように足の裏を殴られたが、この事実は捜査の根拠にもならないほど取るに足らない架空の陰謀であり、第一検察官と病理学者によって確認された。

それだけではなく、昨年の夏、行政調査を求める学生の要求に直面して、ヴァラル氏によって行政調査が実施されたとき、彼は自ら確認した虐待行為に大きなショックを受けた。しかし、ヴァラルが適切な省に報告した結果、マンシウはステアウア•ロマネイ（ルーマニアの星)を授与されることになった。

つまり、これが亡くなった男です。人々は死者のことをよく言いますが、だからといって私たちが真実を語ることを妨げるものではありません。
マンシウ氏は会議を中止した。マンシウは大聖堂に入ろうとする人々を止めた。マンシウは路上、警察、公共の広場で学生を殴った。彼は不平を言った人々を侮辱し、彼の支持者を脅迫した。マンシウは警察と憲兵の列に守られ、取り憑かれたような獣姦で学生たちを殴った。縛られて徒歩で、唾液の雨と発狂した部下からの打撃の中で彼らを返すことはできたが、ただ軽蔑した一時的な表情を浮かべただけだった。辞任。

見よ、この任務の男と、この男がどんな命令を下していたのかを見よ！
世論はコルネリュー•コドレアヌの側にある。彼は彼の男らしいしぐさが好きで、このしぐさが政権に警告し、理念に奉仕するという優れた動機を高く評価し、そのような行為に対する通例の有罪を免除し、それを完全に正当化し、実際、世論もそれを承認している。

個人的に、私はコルネリュー•コドレアヌの英雄的な行動に敬意を表します。彼は再び名誉の問題に関しては妥協せず、尊厳が関わる場合には毅然とした姿勢を保っています。 」

数日後、1924年10月の新聞Unirea（「ユニオン」)は、
クザ教授の記事:

満州の死を監督する

致命的なシステムとその結果

「ここ1年、ヤシ警察は本当の悲劇を経験しており、その最後の行為は誰もが知っています。事態の致命的な展開により、以下の犠牲者が発生しました。

マンシウ市長、クロ警部、フサヌ副長官、そして博士候補者コルネリュー•ゼレア•コドレアヌ。

マンシウ市長が死去。フサヌ副長官は死ぬほど苦闘する。クロ警部は深い傷を負った。コルネリュー•ゼレア•コドレアヌは依然として刑務所に収監されている。
多くの犠牲者を出したこの悲劇とは何なのか？これらの出来事の致命的な展開についてどのように語ることができるでしょうか?犯人は誰ですか?
マンシウはヤシのマルゼスク警察署長で領主だった。彼がここに連れてこられたのはこの立場だけであり、彼が有罪であったあらゆる行き過ぎにもかかわらず、最後まで留め置かれたのである。これにより、あなたの行動が承認されたことが非常に明確になります。それが承認されたこと、彼を支援したGGマルゼスク氏からの直接のインスピレーションによって事前に確立された計画に従って機能したことの豊富な証拠は、彼に与えられた栄誉、つまり彼の任務の「功績」とスタッフの昇進です。

マンシウによって触発された致命的なシステムは、ユダヤ人を満足させ、「秩序」が「精力的な手段によって」維持できることを証明するための、キリスト教徒の学生のテロリズムでした。

特別な才能を持たなかった不運なマンシウ氏は、大学教授に関してさえ異常な残忍さで致命的なシステムを動かしてしまった。ヤシで開催されたルーマニア大学教授協会の総会の機会に彼のキャリアをスタートさせた1923 年 9 月 23 日から 9 月 25 日にかけて、私たちの著名な同僚である I 教授の議長のもとで開催されました。

ガヴァネスクル。

マンシウ市長は大学を侮辱し、無実の学生を残虐に扱って投獄し、教授らに抗議して満足を求めるよう強要した。

ブカレスト出身のフルムゼスク教授によって設立された4つの大学委員会。スムレアヌ医師、ヤシ。 M. ステファネスク、クルージュ;そしてハエマン、チェルナウティは、ガヴァネスクル教授が署名した次の電報を会議中に編集し、次の宛先に送信した。
閣僚評議会議長。 2. 内政大臣。 3.
公共指導大臣 ルーマニア大学教授総協会は、開会
総会において、ヤシ警察の不穏な介入を非難し、会長と
の完全な同意のもと、上級当局に対し通常の調査
と完全な満足を要求する。

協会会長 (ss) L. ガヴァネスクル 同委員会は次の文章を編集し、
ヤシ市長に送った：「市長様、一般大学教授協会は、開会会合において、大学教
授に対する積極的な措置の結果として、
氏による私たちの大会。

ヤシ警察市長は、残念ながら、この状況では市庁舎主催の晩餐会に出席できないことをお知らせし、皆様の善意に感謝いたします。 」

協会会長 (ss) L ガバネスカル

「学生たちを恐怖に陥れるという命令を受けたマンシウは、運命論の道を歩むという自らの目的と定められた計画に従って行動した。起こった出来事を簡単に列挙する。

1. 1923 年 12 月 10 日の大学への警察と軍隊の導入。
その後の学生デモ中に、学生のG•マノリューさんは警察にひどく殴打され、黄疸を発症し、数日後に死亡した。

2. 駅での残虐行為。イオン•ゼレア•コドレアヌ教授が刑務所から釈放された後、ヤシに到着した際、マンシウ市長はまったく不当にも、彼を迎えに倉庫に来た市民や学生に自らと警察と軍を投入し、残忍な暴行を加え、追いかけた。まるで彼らが犯罪者であるかのように立ち去ります。

3. キャロル王子の訪問。この訪問の機会に、マンシウ氏は他にもスキャンダラスな虐待行為を行い、学生たちに殿下に苦情を申し立てさせた。

4. シドリ劇場でのスキャンダル 引退したルーマニアのオペラ芸術家たちがヤシに到着した後、学生たちに歓迎され、彼らへの同情のショーを上演した。この完全に平和的なデモは、マンシウ市長が新たなスキャンダルを引き起こすのに十分な理由だった。彼は生徒たちを虐待し、憎しみに満ちた残虐行為で彼らを散らした。

5. キャロル•セントの陰謀 コンスタンタ•ギカ夫人のご厚意により、学生たちは自活するために専用の菜園に野菜を植えました。
今年の5月31日、学生たちが仕事を始めるために集まっていたところ、マンシウ市長が職員全員と固定銃剣を持った警察官とともに現れ、その場にいた学生全員を逮捕した。コルネリュー•ゼレア•コドレアヌさんは両手をベルトで後ろ手に縛られ、他の高校生や少年ら25人とともに街を渡って警察本部に連行され、そこで残酷な暴行を受けた。

法学博士号候補者で予備士官のコルネリュー•ゼレア•コドレドヌは顔を平手打ちされ、最も品位を傷つける下品な言葉でひどく侮辱された。

アンブロジー上級少佐の息子である高校生アンブロジーは、鼓膜が破れるほど強く平手打ちされたが、この事実は病理学者のGh博士が署名した診断書によって裏付けられている。ボグダン。
他の高校生や男子生徒らは吊り下げられ、頭を下げて足の裏を鞭打たれた。叫び声を止めるために、彼らは水の入ったバケツに頭を下げられました。拷問を受けた子供たちの親は、アンブロジ少佐、ディミトリウ、ブトナルらで、マンシウ市長に対する嘆願書を内務省に送り、彼を告訴した。しかしマンシウ氏は裁判官の前でも反抗的な態度を示し続けた。

マンシウ知事はその職に留まっただけでなく、その態度が報われ、致命的な体制を続けるよう奨励されたため、ユダヤ系マスコミは毎日彼を賞賛し、彼を法と秩序の救世主であり優れた存在であると宣言した。

ヤシを代表者とする政府は、ヴァラル警部の結論を受け入れる代わりに、ステアウア•ロマネイ（ルーマニアのスター）をマンシウの胸に釘付けにし、マンシウが違法行為に利用した職員を昇進させた。例えば、最も有罪の一人であるクロ長官は警察警部に昇進した。

マンシウ氏の支持者である同じGGマルゼスク氏が長官を務める司法省は、行われた虐待に対して精力的かつ迅速に介入する代わりに、被害者を非難した。

ヤシのユダヤ人たちは喜んでマンシウに自動車をプレゼントし、マンシウはそれを受け取ったが、ルーマニア人全員がスキャンダルを起こし、特に街中を誇らしげにユダヤ人の車を運転するマンシウの反抗的な傲慢さを目にした学生たちの間でさらなる憤りを引き起こした。

このように支持され励まされ、立場を維持されたマンシウ市長は、自制心のない衝動的な気質により、自分のシステムを適用することで栄光の頂点に達したと想像した。

この一連の出来事が、マンシウ市長にこの悲劇の最後の幕を下ろすきっかけとなった。
コルネリュー•ゼレア•コドレアヌは正当防衛を行った。

マンシウ市長の死の責任は主に、マンシウを警察署長に据え、彼を支援した人物、すなわち法務大臣、GG•マルゼスクにある。責任はユダヤのマスコミと、彼を扇動し、激励し、致命的なシステムを適用したことを祝福したすべての人々にある。

」

ハンスト

クリスマスの約10日前、60日前に何の罪もなく逮捕されていたモタ、ガルニーアタ、トゥドセ、ラドゥ•ミロノヴィチの4人は、飢えと渇きのストライキを行った。彼らは言った：

私たちの自由か死か。様々な当局による彼らへの連絡努力は失敗に終わり、彼らは独房にバリケードを築き、誰も立ち入ることを許さなかった。

これらの若者は長い間、ルーマニアのすべての学生のイメージとなってきました。シンボル。彼のストライキのニュースを聞いたとき、生徒たちと他の誰もが、彼のよく知られている決意の強さを考慮して、彼の行為の重大さを理解しました。

この若者たちはガラタの壁の中で死ぬべきでしょうか？

ヤシとクルージュでは、霊魂が非常に興奮していたので、暴徒が責任を負う者たちに対して大規模な復讐が行われたであろう。学生だけでなく、社会に定着した高齢者も「ここで子供たちが全員死んだら銃撃を始めよう」と声高に要求した。

政府は、緊張と全体的な決意に直面していることを認識し始めた。この国が意志と威厳を示し始めたとき、父はヤシ誌でマニフェストを発表し、私はそこから次の一節を転載します。

リソース

「ルーマニアの兄弟たちよ、

学生: イオン 1. ガラタ刑務所に 2 か月間拘留されているモタ、イリエ ガルニータ、トゥドセ ポペスク、ラドゥ ミロノヴィチの 4 人は、火曜日の午後 1 時に飢えと渇きのストライキを宣言した。

彼らがこの難しい一歩を踏み出したのは、自分たちが完全に無実であること、無実であると同時にヴァカレシュティで逮捕されたこと、そして特定の政治家が彼らを投獄することで徐々に彼らの健康と生活を破壊したいと考えていることに気づいたからである。

この国の将来を代表する花であるこれらの若い英雄たちは、神によって鋼鉄の意志をはじめとする資質を授けられました。したがって、バンカーで死ぬという彼らの決意は、まず自分たちが被害者である不当な行為と、特定の政治家の助けを借りたユダヤ人による我が国の奴隷化に抗議するという決意は冗談ではなく、重大な決断である。」

自由か死か

ルーマニアの兄弟たち、二日か三日後に、英雄たちの遺体が入った四つの棺が通りを運ばれるのを待ってみませんか？

老いも若きも、考えてみてください、私たちは四人の学生の死体について話しているのではなく、子供たち、そして私たち全員の死について話しているのです。

この政府に対して、平和的かつ合法的かつ精力的かつ断固とした抗議行動を迅速に講じ、この不法行為を阻止し、子供たちの殺害を阻止することは、私たち全員の義務です。

11日間の飢えと渇きに耐えた後、クリスマスに彼らは解放された。しかし、彼らは衰弱していたので、担架で刑務所から直接刑務所に連れて行かれました。

病院。今回の逮捕のわずか数カ月前に刑期を終えた者もいたが、モタは一年連続で刑を終えるわずか 1カ月前だったため、体力を消耗していた。

このストライキの影響は、10年経った今でも彼らの一部が感じているが、哀れなトゥードセは彼らを墓場まで持って行った。

ガラタでひとり

同じじめじめした暗い独房の中で、ベッドの固い端に座って、腕を胸の上で交差させ、思考の重みで頭を下げ、分ごとに時間がゆっくりと過ぎていきます。

孤独はなんと恐ろしいことでしょう！

残念ながら、私は次の聖句を思い出します。
「ガウデアムス•イギトゥール」少年のダム
スムス。

ですから、若いうちに喜びましょう !あらゆる世代の学生の若者たちを温め、励まし、喜びの冠をかぶせた詩。人生が困難や心配でいっぱいになる年齢が来る前に、明るく楽しく過ごすことは若者の権利です。

どんどん大きくなっていきます。この権利は私に与えられたものではありません。楽しむ暇もなかった。
みんなで楽しく歌った学生生活は私にとって終わりました。いつ過ぎても気付かなかった。私の若い頃には、心配事、困難、打撃が早すぎて、それらすべてが私の人生を引き裂いてしまった。彼に残されたものは、これらの冷たくて暗い壁によってさらに消去されます。今では彼らは私から太陽さえも奪います。この暗闇の中にいて何週間も経ちましたが、太陽の光を浴びることができるのは1日に1時間だけです。

私の膝は常に凍っています。セメントの床の冷たさが骨の中にしみ込んでいくのを感じます。時間はゆっくりと過ぎていきます。とてもゆっくりと。昼と夜に少しずつ食べます。もう食べられない。しかし、本当の苦しみが始まるのは特に夜です。眠りにつくのは午前2時か3時頃です。外は嵐です。ここ、丘の上は風が強いです。雪が風に乗ってドアの隙間を通って、独房の面積の4分の1を覆うまで吹き飛ばされます。朝になると、いつもかなり厚い層ができています。夜の重い静寂を破るのは、教会の塔に住むフクロウと、時折、全力で叫ぶ警備員の声だけです。

「1番 !OK !2番 !OK！」

私は考え、疑問に思い、心配していましたが、その謎を解くことができませんでした。1 か月? 2ヶ月 ?
1年 ?いくら ?一生 ?私の人生の残りの部分？

はい、私の逮捕状は私に一生重労働を課すという脅迫でした。裁判は開かれるのでしょうか ?確かに;しかし、それは厳しいテストになるだろう。それは、私に対して団結する勢力が 3 つあるからです。政府は、特に誰かが銃を手に抑圧者と対峙したのはルーマニアで初めてであることを考慮して、私の懲罰の例を示そうとするでしょう。国家権力の権力原理の名の下に、彼らの尊厳を踏みにじり、名誉を傷つけ、肉体を引き裂いたのである。
ルーマニア国内のユダヤ勢力は、私を手中に留めるためには手段を選ばない。金、融資、圧力による海外からのユダヤ人の権力。これら 3 つの勢力はすべて、私がここを離れることを阻止することに興味を持っています。彼らに敵対するのは学生とルーマニア民族主義運動である。誰が勝つ ?自分の判断力はむしろ力試しであることに気づきました。たとえ私の考えがいかに正しかったとしても、敵軍が我が陣営より少しでも強ければ、一瞬たりとも躊躇せずに私を滅ぼすだろう。彼らが私を捕まえるのを待ってから何年も経ちました、私は彼らの計画のすべてに身を投じたからです。彼らは私が彼らから逃げられないように全力を尽くします。で

家に帰ると、母は毎年恐ろしいニュースをたくさん聞いており、検察官による夜間の家宅捜索と残忍な委員による家宅捜索で、次から次へと打撃を受けていた。

このような悲しい運命をたどった私の人生を振り返り、彼女は聖母マリアのアカシストを私に送り、42夜連続で真夜中にそれを読むよう勧めました。私はこれを実行しましたが、目標に近づくにつれて敵が後退し、危険が減少するにつれて、私たちの側が力を増しているように見えました。

テストは FOCSANI に転送されます

私は1月に、裁判が職権によりフォクシャニに移管されたと知らされた。
フォクシャニは当時、国内最大のリベラル派の拠点だった。ヴァイトイアヌ将軍、NN•サヴェアヌ将軍、チルクレスク将軍の3人の閣僚がこの都市から来た。全国で民族主義運動が広がらなかった唯一の都市だった。何かを達成しようとする私たちの努力は失敗に終わりました。そこには、新聞サンティネラ（「ものみの塔」紙)を発行するベテランの愛国者ティタ•パベレスク夫人以外には誰もいなかった。風が吹く中で説教をしていた。

ヤシの学生たちはこの転校を知り、非常に心配しました。
列車が出発するたびに、多くのグループが私をフォクシャニまで同行させるためにヤシ周辺の駅で待っていた。この移動の際に、私が逃げようとしているという口実で護衛が私を撃とうとするという噂があったからである。 。 2週間後、警備責任者のボテス氏が数人の職員を連れてやって来て、2台目の車が護衛する車に私を乗せた。

私たちはヤシを離れ、パクラリの障壁を通ってククテニ鉱床へ向かいます。そこで学生のグループに会い、停車した電車には別のグループがいました。しかし、私は彼らの誰とも話すことができませんでした。警察が私を囚人の車に乗せるとき、彼らは私を支持してくれました。私たちはほとんど旅行しました

一晩中。私はフォクシャニに自分の非難を確信して近づきました。地元の警察と刑務所の所長が警察署で私を待っていました。私はすぐに連行され、投獄されました。当初、この体制はヤシよりも厳格でした。

郡長のガブリレスクは悪人であるかのように見えたが、「いかなる理由もなしに　市長には刑務所制度に干渉する権利がないため　私に厳しい制度を課そうとしたのだ。」彼は私の独房にも入ってきて、そこで私たちは非常に不愉快な口論になりました。私も、特に私をフォクシャニに連れて行った人たちも予想していなかった奇跡は、私が到着してから 3 日後、政党を問わず、そして私に敵対させようとする当局側のあらゆる努力にもかかわらず、国民全員が、自然に私の側に来ました。

リベラル派の政治家は自身の支持者だけでなく家族からも見捨てられた。たとえば、チルクレスク大学の女の子たちは私に食べ物を送ってくれたり、他の女の子と一緒に地域の国民服を縫ってくれたりしました。父親と一緒にテーブルに座って食事をすることを拒否したとさえ聞きました。私がフォクシャニの最も尊敬される人物であるマクリデスク将軍に会ったのはその時だった。フリスターシュ•ソロモン、そこそこ裕福な不動産所有者だが、敵さえも脱帽するほどの道徳的権威を持つ人物。ゲオルギカ•ニクレスク氏。ブレズ大佐、幼い娘フルチュラスを通じて私に食料を送ってくれた。Vasilache、Stefan、Nicusor Graur。オルテアヌ、シウディン、モンタヌ、フィーリョ、クリストポリ少佐、カラス、グリタ•ステファニウ、ニコラウ、トゥドロチェスクなど。これらすべて、そして他の多くの人たちから、私は父親以上の配慮を受けました。しかし、私の健康状態は良くありませんでした。

腎臓、胸、膝が痛いです。

裁判の日付は1925年3月14日に設定された。これを念頭に置いて、数千枚のビラがすべての大学センターで印刷され始め、またカップ州クルージュの他の都市でも印刷され始めた。ベリュータがそれを印刷し、

これらのパンフレットは何万部も全国に配布されました。国家主義戦闘員に昼夜を問わず開放されていた彼の家は、本当の本部に変わった。オラスティのモタ神父の印刷工場では、数万部の人気詩のパンフレットと数十万部のチラシが印刷されました。

ここでも、私の同志たちは、ヴァカレスティ刑務所で私が書いた手紙の一部を、「学生囚人からの手紙」というタイトルの小冊子として印刷させてくれました。

政府は反対の事項を発表し、近くや遠くにばら撒かれた。しかし、国民感情の波が堂々と抗しがたいほど高まったため、それらは効果がありませんでした。裁判開始の2日前から、国中から何百人もの人々や学生がフォクシャニに到着し始めた。ヤシからだけでも300人以上が列車を乗り継いで到着した。私は当局によって馬車で裁判が行われる国立劇場まで移送されました。しかし、陪審員は選ばれたものの、延期された。彼らは私を刑務所に連れ戻しました。

しかし外では、裁判の不当な延期に対して国民の怒りが爆発し、すぐに午後から夜まで続く大規模な街頭デモに発展した。

歓声を上げる群衆を鎮めようとする軍の努力は無駄だった。デモはユダヤ人と政府に対して向けられた。その後、ユダヤ人たちは、この事件でのあらゆる圧力が裏目に出ることに気づきました。この実証は私の裁判の結果にとって非常に重要でした。

これによりユダヤ人たちは戦いから遠ざけられました。なぜなら、彼らは私の非難がユダヤ人たちに悲惨な影響を与える可能性があることに気づいたからです。ユダヤ人は完全には撤退していないものの、当局に対する圧力は弱まった。その間、私は釈放を求める請願をするよう提案され、釈放されるという約束を受けましたが、私はそれを拒否しました。

イースターがやって来ました。私は独房で一人で復活を祝いました。町中のすべての教会の鐘が鳴り始めると、私はひざまずいて、花嫁と私、母と家、死者の魂と外で戦っている人々のために、神が彼らを祝福してくださるようにと祈りました。 、それらを強化し、すべての敵に対する勝利を与えます。

トゥルヌル•セヴェリンにて

ある夜の2時頃、誰かが鍵を開けようとしていたので目が覚めました。私の裁判は政府の介入により予期せずルーマニアの反対側にあるトゥルヌル•セヴェリンに移されたため、刑務所職員が私を迎えに来た。

急いで少ない持ち物を集めました。それから私は警備員に囲まれてトラックに乗せられ、市郊外の線路近くまで運ばれました。そのすぐ後に電車が止まり、私はブラックマリアの車両に乗せられました。

したがって、私はこのフォクシャニ市を離れることになった。このフォクシャニ市は、適切なタイミングで役人の多大な圧力に勇敢に立ち向かい、その市民は政党の絆、時には家族を打ち破り、見事で否定できない全会一致の感情を表明した。

旅行中に、トゥムル セヴランでどんな人に会えばいいのか知りたいと思いました。私はそこに行ったことはなく、その街には誰も知りませんでした。
電車が止まったところはどこでも、人々の話し声、笑い声、電車を降りたり乗ったりする声が聞こえましたが、私が乗っていた車両には窓がなかったので何も見えませんでした。私を他の世界、自由から隔てていたのは、ほんの一インチの壁でした。おそらく、それらの駅で線路を渡った人の中には、私を知っているか、私の友人だった人がたくさんいたでしょう。

しかし、彼らは私がその車の中にいることを知りませんでした。みんなどこかへ行ってしまいます。ただ、どこへ行くのか私には分かりませんでした。誰もが軽やかで喜びを持って歩いていますが、私は石臼よりも重い、この未知の計り知れない重荷を魂に抱えています。私は刑罰を受けなければならない

人生のために ?もっと安く ?私は黒くて醜い刑務所の壁から出るべきでしょうか、それともそこで死ぬ運命なのでしょうか ?私は自分の判断が正義の問題ではなく、強さの問題であることをよく知っています。どちらか強い方が勝つだろう - 私たちの国家主義の流れが強いのか、それともユダヤ人政府の圧力が強いのか? でもそんなはずはない !正しい人がより強くなり、必然的に勝利することになります。そして電車が進むにつれて、痛みがさらに強くなりました。私の心は明らかにモルドバのすべての石に執着していて、どんどん残していったとき、その一部が徐々に削り取られていくように感じました。

一日中、私は一人で刑務所の車に閉じ込められて、このように旅をしました。バロタに到着したのは夕暮れ時だったと思います。捜査員を伴った警察官がやって来て、私に立ち去るように言いました。彼らは私を駅の裏に連れて行き、そこで車に乗って出発しました。彼らはとてもいい人のように見えて、私と会話を始めたり、冗談を言ったりしようとしていました。しかし、私は別の考えやニーズに重荷を負っていたので、話す気はありませんでした。私は喜んで、しかし簡潔に答えました。

トゥルヌル•セヴェリンに入ります。

いくつかの通りを歩きながら、再び通りを歩く人々を目にしたとき、私は心の中で真の喜びと喜びを感じました。

私たちは刑務所の門で立ち止まりました。再び、私の後ろで鍵のかかった門が開いて閉まりました。

監督やスタッフの皆さんが私を名誉あるゲストとして迎えてくれました。私に割り当てられた素敵な部屋の床は以前のようなセメントではなく木の床でした。
ここでも、他の刑務所でのときと同じように、囚人たちは愛情を込めて私に近づきました。そして私はその後、彼らの終わりのない物質的、道徳的悲惨さの中を助けました。

翌日、中庭に出てみました。そこから通りが見えました。
正午ごろ、6歳から7歳までの200人以上の小さな子供たちが刑務所の門の前に集まっているのに気づきました。子供たちは私が通り過ぎるのを見て、スカーフをかぶった人や帽子をかぶった人など、小さな手を私に振り始めました。彼らは私がトゥルヌル•セヴェリンに来て刑務所にいるということを聞いた小学生たちでした。
この子供たちはそれ以来、私に同情を示すために毎日そこに来るようになりました。彼らは私が通り過ぎるのを待って、小さな手を振りました。

法廷では、ヴァルラム大統領はとても親切な人で、私にとても丁寧に接してくれました。
とりわけ検察官コンスタンティネセウスは、彼自身も知事マリウス•ヴォルヴォレアヌとともに私の有罪判決を獲得すると考えていたと言われているが、私はそれを信じなかった。最初はかなり厳しいものでしたが、その裏に悪意を感じました。しかし、世論の波や子供からお年寄りまでの熱意によって、彼らは少しずつ和らぎました。当時、誰もがルーマニア人であると感じ、私たちの戦いをこの国の将来のための神聖な戦いであると考えていました。彼らは私の不幸を知っていて、私のしぐさに人間の尊厳に対する反逆のしぐさ、自由人なら誰でもするであろうしぐさであるとみなしました。

何世紀にもわたる屈辱から国の名誉を守るためにピストルを振りかざしたイアンク•ジアヌとチュードル•ウラジミレスク大尉の子孫であるこれらの人々は、ヤシで何が起こったのかをすぐに理解していました。どんな議論も彼らを動かすことはできませんでした。検察官と市長が叫んだのも無駄で、私は市内のすべての家族の配慮と愛情に囲まれていた。その中には、私が検察官のために捜査を行ったコルネリュー•ラドゥレスク市長のような公的な役割を果たした人々も含まれていた。

大いに賞賛します。しかし、私は、他のどこにもないほど、特に私の艱難に対する子供たちの愛と理解に囲まれていました。彼らはトゥルヌル•セヴェリンで私に代わって最初に声を上げてくれた人たちでした。年配の子供たちが定期的に刑務所の前に集まり、手を振っているのを見て、辺縁部から来た、歩くこともほとんど知らない小さな子供たちがやって来始めた様子を懐かしく思い出します。私は、彼らがやらなければならないプログラムのように、特定の時間にすべての部分からそれを組み立てるのを見ました。みんな静かで行儀がよかったです。彼らは演奏も歌もしませんでした。彼らはただ眺めていて、私が隙間を通り抜けるのを待っていて、私に手を振ってくれました。

自分;それで彼らは家に帰りました。彼らはこの刑務所には何か悲しいことがあるということを理解しており、彼らの常識ではここには笑うべきことは何もないことがわかりました。ある日、憲兵が彼らを追い出し始めた。次の日、もう彼らの姿は見られませんでした。彼らの到着を阻止するために監視員が配置された。

判決

公判期日は5月20日に設定され、裁判所長は私の弁護を希望する全国の弁護士から19,300名の署名を受け取りました。裁判の2日前に、大勢の学生が電車で到着し始めた。フォクシャニと同様に、ヤシの生徒数は 300 名に達しました。同様に、ブカレスト、クルージュ、チェルナウティからも多くの学生が来ました。出席者の中には、3月14日にフォクシャニ陪審を代表する弁護人として登録したミハイル•カラス前陪審委員長が率いるフォクシャニ代表団も含まれていた。検察側証人、ヤシ警察官も到着した。この手続きはヴァリアム参事官が議長を務め、国立劇場で始まった。私の隣の被告席には、モタ、トゥドセ•ポペスク、ガルニアタ、コルネリュー•ジョルジェスク、ラドゥ•ミロノヴィチがいた。守備ベンチで

座った :クザ教授、ガヴァネスクル教授、ポール•イリエスク、スムレヌ教授、エム。
Vasiliu-Cluj、Nicusor Graur、トゥルヌル-セヴェリンバー全体 劇場は 、等

満員で、その周りや外には1万人以上の人が待っていました。
陪審員が選ばれました。以下が描かれました :N. Palea、GN、Grigorescu、J. Caluda、I. Preoteasa、GN Grecescu、D.1。ボラ、VB jujescu、C. ヴァルガトゥ、C.
Surdulescu、Adolf Petayn、P. 1. Zaharia、GN Boiangiu、I. Munteanu、GN Ispas。彼らは宣誓をし、厳粛に席に座った。起訴状が読み上げられた。
尋問が続いた。私は起こったことをありのままに話しました。他の5人も同様に彼の尋問に答え、公判では事件に全く関与していないと真実を語った。検察側の証人はユダヤ人とヤシ族の警察官だった。

その過程で、彼らはすべてを否定した。何も真実ではありませんでした。すべての殴打、すべての拷問、まったくの捏造。彼らは病理学者のボグダン教授が発行した診断書さえ否定した。彼らの態度は、真実を、そして真実だけを伝えるという十字架上の誓いを立てたことを考慮すると、法廷全体の憤りを引き起こした。

証人の一人であるヴァシリュー•スランチウ長官は、最も慈悲深い存在に変貌したのを今私が見たが、何も見ておらず、何もしなかった。私は立ち上がって、裁判長の許可を得て、憤りに満ちた声で彼に尋ねました。「夫人の顔を殴ったのではありませんか？」

「ギーカの庭？」 「それは私ではありません。」

「生徒たちの頭をバケツの水に浸し、頭を下げて足の裏を鞭打たれたのはあなたではありませんでしたか？」

「私はその時そこにはいませんでした。私はダウンタウンにいました。」

彼の顔、すべてのしぐさ、すべての行動で、彼が嘘をついていることがわかりました。彼は十字架上で誓ったのに、嘘をつきました。劇場の群衆全員が憤慨して沸き立った。
突然、あたかも群衆の集団的な怒りが望んでいたかのように、聴衆の中の男が飛び上がり、長官を腕に抱き上げ、体を抱えて担ぎ上げた。ティリカ•イオアニドさんでした。私たちは、長官を階段から突き落としながら彼が「ここから出て行け、悪党、命の保証はしないから！」と叫ぶのを聞いた。戻ってきた彼は、ヤシの他の委員たちにこう言った。「あなたは自らの手で、この子供たちを残忍に拷問しました。もしあなたがここトゥルヌル•セヴェリンでそのようなことをしていたら、人々はあなたを虐殺していただろう。この街におけるあなたの存在は、この街を汚します。始発電車に置いておかないと不幸が降りかかるよ。」

人々が動揺していたため、このジェスチャーは実際には歓迎されました。全体の緊張した雰囲気を和らげてくれました。拷問者たちは屈辱を受け、今では歩きながら地面に頭を下げて人々に挨拶し、トリコロールのバンドの最も謙虚な着用者に少しでも注意を払ってくれるように懇願しました。 「あたかも私たちが善良なルーマニア人ではないかのように !私たちはどうするつもりだったのでしょうか？
私たちには命令がありました。」

「違います !悪党ども !あなたには父親の心もルーマニア人の心もありませんでした。あなたには名誉も法律への敬意もありませんでした。命令があったと言うのですか ?違う !あなたには裏切り者の心がありました。」
そうやって人々は街中で彼らを叱りました。
それから約2日間、弁護側証人の証言録取が続き、その中にはヤシ大学のイオン•ガヴァネスクル高齢教授も含まれており、彼自身もマンシウ市長が主宰する大学教授会議で虐待を受けた。また、軍事学校や歩兵学校の士官、私の元上司や教師もいた。その後、被害者とその両親は、裁判官の前で、彼らが受けた痛ましい屈辱の場面をほぼ涙ながらに再現して証言した。

対象となりました。民間監視員は首都にあるフリーメーソンのロッジの代表コスタ•フォル氏だった。

弁護人は以下の順序で話した。ポール•イリエスク、ターチェ•ポリクラット、ヴァレル•ローマン、ヴァレル•ポップ、サンドゥ•バカログル、Em.バシリュー クルージュ、カナナウ、ドンカ マネア、

ミトゥレスク、ヴァージル•ネタ、ネアグ•ネグリレスティ、ヘンリエッタ•ガブリレスク、教授博士。
スムレヌ氏、イオン•ガヴァネスクル教授、AC•クザ教授。ミハイル•カラス、ヴァシレーセウ•ラスカル大佐、ブカレストの老司祭ドゥミトレスク、カトゥナヌ大佐が簡潔な声明を発表した。ヤシ、クルージュ、チェルナウティ、ブカレスト、ファルシウ郡、

トゥルヌルとセヴェリンはそれぞれ。海軍マノレスク大佐、ヤシのキリスト教徒商人のアレクサンドル•ヴェントニッチ。次にコスティカ•ウングレアヌ、ペトル•ヴァシリュー、グレシア、戦傷病兵ペテウ＝プロエスティ大尉、そしてM•ネグル＝キシナウ。最後に話したのは私でした。私はこう言いました。「陪審員の皆さん。私たちが戦ったすべては、祖国とルーマニア国民に対する
信仰と愛からでした。私たちは最後まで戦う義務を負っていました。これが私の最後の言葉です。」

これは私の裁判の6日目、1925年5月26日のことでした。私たち6人は判決を待つために部屋に連れて行かれました。私たちはあまり興奮していませんでしたが、どういうわけか同じでした。数分後、大ホールから万雷の拍手、叫び、歓声が聞こえてきます。ドアが開き、群衆が私たちを会議室に案内したとき、私たちにはこれについて考える時間はありませんでした。
私たちが肩を背負って登場すると、みんな歓声を上げてハンカチを振りました。

ヴァルラム判事も、抗うことのできない熱意の波に襲われました。裁判員たちは全員着席し、今度はかぎ十字のついたトリコロールの襟テープを身に着けていた。

無罪判決が読み上げられるとすぐに、私は一万人以上が集まっている外に担ぎ出されました。彼らは皆、私たちを肩に担いで街路を歩く列に倒れ込み、歩道の人々は私たちに花のシャワーを浴びせました。ティリカ•ロニード氏に到着したとき、私はあなたのバルコニーから人々に一言、トゥムル•セヴェリンのルーマニア人が裁判中に私に示してくれた大きな愛に感謝の意を表しました。

IASIに戻る

トゥルヌル•セヴェリンの数家族が訪問し、私を養子にしてくれたことに感謝した後、私は翌日ヤシ行きの特別列車に乗りました。特別列車は私のためではなく、裁判に出席した300人以上のヤス人のためのもので、フォクサニアン、バルラディアン、バスルイアンの車両が連結されていた。何千人もの人々が私たちを見送りに駅に来て、私たちの列車を花で飾りました。

電車は出発しました。後ろでは、群衆がハンカチを振り、愛と闘いを続けたいという願いを表明し、空気を響かせた「万歳の声」。私は窓からあの大群衆を眺めました。誰も以前は知りませんでしたが、まるで何年も前から私たちを知っていたかのように目に涙を浮かべて私たちと別れました。私は心の中で祈り、主が私たちに与えてくださった勝利を感謝しました。

車から車に乗り移る今になって初めて、ヤシの同志たちが一人一人と話し、神が私たちを勝利に導き、敵全員が私を危険から救ってくださったことを一緒に喜んでいる姿が再び見えました。ない。逃げられるだろう。

コンパートメントで私はクザ教授とスムレアヌ教授夫妻を見つけた。
彼らは私たちの愛に包まれて幸せでした。
どの部屋も花と緑で美しく装飾されていました。そして、トゥムル•セヴラン郊外の最初の停留所では、農民と司祭、教師と生徒たちが、全員民族衣装を着て、新しい花の山を持ってきました。

各駅にはたくさんの人が電車の到着を待っていました。
公式のような冷酷な対応ではなかった。これらの人々をもたらしたのは、義務でも恐怖でも私利私欲でもありませんでした。泣いている群衆の端に老人たちがいるのが見えました。

Googleによる機械翻訳

なぜだろうか ?彼らは電車の中で誰も知りませんでした。未知の力が彼らを強制的に来させたようで、不思議そうにこうささやきました。人々のために、人々のために走るこのものを除いて、他のものはすべて、それに乗る人の利益のために動きます。」

群衆は時々人々の魂と接触します。一瞬のビジョン。群衆は死者と過去のすべてを抱えたこの国を見ている。彼らの栄光の瞬間も、敗北の瞬間も感じてください。彼らは未来が沸き起こるのを感じることができます。不滅の国民全体の魂とのこの接触は、熱狂的で震えに満ちています。

それが起こると、大勢の人が泣きます。おそらく、これは国家の神秘性であり、それが何であるかを知らないために批判する人もいれば、体験できないために定義できない人もいます。

エクスタシーを目指すキリスト教神秘主義が、「人間性から神性への飛躍」(Crainic *)を通じた人間と神との接触であるとすれば、国家神秘主義は人間、あるいは多数者との接触にほかならない。彼の民の魂とともに。 、個人的な関心事から人々の永遠の命へと飛躍するという手段によって。それはどんな歴史家でもできるような知的なことではなく、魂を込めて行うことだ。

旗や緑で飾られた列車がクラヨバに停車すると、駅のホームは1万人以上の乗客で満員となった。私たちは肩に担がれて倉庫の奥まで運ばれ、そこで住民の一人が出迎えてくれました。

クザ教授が話した。そして私も簡単に。
私たちは大小のすべての駅でこのように迎えられましたが、主にピアトラオルト、スラティナ、ピテシュティの都市でした。鉄道沿線のこれらの町のほとんどには国家主義団体はなく、駅に人々を呼び寄せるためのビラを配る者もいなかったが、ホームはアメリカに敬礼する数千人もの人々で埋め尽くされた。

ブカレストに到着したのは午後8時頃でした。もう一度私は迎えに来て、意気揚々と肩に担がれて駅を通って正面まで運ばれました。そこでは広場全体が海で、工科大学のはるか向こう、グリヴィタ巡礼路に沿って広がっていました。 5万人以上の人が集まったであろう、何ものも息苦しいほどの熱狂を見せていた。クザ教授は彼らに話しかけた。そのため実際、国中に愛国的な潮流が非常に強力に蔓延しており、それがLANCを権力の座に導いた可能性がある。しかし、この運動が二度と見ることのない、こうした有益で戦術的、政治的に偉大な瞬間は、掴まれなかった。

クザ教授は、政治運動ではめったに見られない大きな戦術的機会を利用する方法を知りませんでした。

政治的対立に詳しい客観的な観察者の目には、LANCの運命は今や決定されている。

私たちは出かけた。一晩中、人々が停留所で私たちを出迎えてくれました。フォクシャニには午前3時の時点で1,000人以上がおり、前日午後4時から待機していた。彼らは私たちがそこに一日立ち寄ってほしいと言いました。しかし、私たちは続けました。フリスタシュ•ソロモン、アリストテル•ゲオルギュウ、ゲオルギカ•ニクレスクらからなる代表団が列車に乗車した。彼らは私にこう言いました。「あなたの裁判を私たちの街で主催するのは幸運ではなかったので、あなたはフォクシャニで結婚する必要があります。6月14日の早朝にあなたはフォクシャニにいるはずです。すべてが解決されるでしょう。」私が予定通りフォクシャニに行くと約束した後、代表団はマラセスティで列車を降りた。私たちは朝、とても疲れてヤシに到着しました。駅には学生や町の人たちがいて、私たちを肩に担いで市内を通って大学まで連れて行ってくれました。そこで私たちは憲兵の非常線に出迎えられました。群衆はどよめいて大学に入り、私たちを円形劇場に連れて行きました。そこでクザ教授が演説し、その後人々は平和的に解散した。みんなはベビーベッドに行きました。私は8か月前に残したフラワーズストリートの小さな家を見直しました。翌日、私は湖西へ向かいました。そこで母は玄関で泣きながら私を待っていました。

数日後、市役所で私の人前結婚式が執り行われました。

*ニチフォル•クラニッチ（1889-1972）、ルーマニアのジャーナリスト、神学者、哲学者。（Tr.）

1925 年 6 月 - 1926 年 6 月

私の結婚

母、父、兄弟姉妹、花嫁、義父母に付き添われ、私は6月13日にフォクシャニに向けて出発しました。そこで私たちはマクリデスク将軍の家に客として来ていました。その夜、私たちを訪れた結婚式の組織委員会から、すべての準備が整っており、他の都市からすでに3万人以上の人々が全員収容されており、その夜にはさらに多くの人が来ると知らされました。フォクシャニの住民全員がこれらの客人を喜んで迎え、喜んで歓迎したことを。

翌朝、プログラムで要求されているように、私たちの古い民俗の伝統に従って馬が私のために連れて来られ、花嫁の家を通り過ぎた後、私は街の外のクラング（グローブ）まで列を率いました。道の両側には人がいて、木々の間には子供たちもいた。私の後ろには、華やかな馬車に乗った花婿の付添人たちが続いていました。クザ教授とマクリデスク将軍、フリシャチ•ソロモン、コロネル•カンブレアヌ、トゥドロチェスク、ゲオルギカ•ニクレスク、バグレスク少佐ら。次に6人が引く花嫁の馬車がやって来た。

牛と花で飾られた後、ゲストのカートが続きます。合計 2,300 台のワゴン、馬車、自動車が花で飾られ、民族衣装を着た人々が集まりました。私はフォクシャニから 4 マイル足らずのクラングに到着しましたが、縦隊の後尾はまだフォクシャニを離れていませんでした。結婚式は、この目的のために特別に建てられたプラットフォームで行われました。 8万人から10万人が出席した。宗教的な儀式の後、私たちはホラやその他の民族舞踊を踊り、祝賀会は芝生の上での祝宴へと続きました。フォクシャニの住民は自分たちのためだけでなく、町外からの客人のためにも食料を持ってきました。

パーティー全体は、民族衣装や装飾されたワゴンが見事に展示され、彼らのダンスと熱意が撮影されました。数週間後、この映画はブカレストの映画館で上映されたが、内務省がフィルムとプリントを没収し焼却したため、2回だけ上映された。

パーティーは夕暮れ時に、全体的に友愛と活気に満ちた雰囲気とともに終了した。その夜、私は妻と何人かの仲間と一緒にバイレ•エルクラネへ出発し、そこで古い友人であるS•マルタログの家族と一緒に2週間を過ごしました。

モタは今度はヤシに行き、エンジニアのグリゴレ•ベジャンから寄付された土地にキリスト教文化会館の基礎を掘り始めた。

シオラスティの洗礼式

8月10日、フォクシャニ近郊のシオラスティで、私はプトナ郡とその周辺でその月に生まれた100人の赤ん坊の洗礼式の名付け親を務めた。洗礼はフォクシャニで行われることになった。しかし政府はそれを阻止するために現地包囲令を布告した。
多くの障害を乗り越えた後、私たちはシオラスティに後退し、そこで銃剣の影で子供たちの洗礼を行うことができました。

1年後に仕事が再開される

私はヤシに戻り、仲間と一緒に家の建設に取り組みました。私たちは古い建設計画と青年組織計画の両方を推進しましたが、運命によってほぼ 1 年間中断されました。

寄付金も届き始めた。ドロホイのモルッツィ家は 100,000 レイを寄付しました。カンタクジーノ将軍はセメント貨車 3 台を寄贈した。アメリカに住むルーマニア人は、新聞「リベルタテア」(「リバティ」)を通じて40万レイ以上を寄付した。トランシルヴァニア、ブコヴィナ、ベッサラビアの最も辺鄙な村の農民たちは、なけなしの資源の一部を愛情を込めて「ヤシの家」と呼んでいました。

これらすべての寄付は、当時私たちの運動があらゆる社会階層で享受していた共感のおかげで届きました。学生や学生たちが自分の家を建てている様子を示す写真は、大きな熱意を呼び起こしました。これは今までになかった全く新しいものでした

私たちの国内または海外で以前に見られました。この活動はヤシで非常に共感を呼んだため、オフィスで働く人々は一日の終わりに仕事を終えると、上着を脱いで建設現場に行き、シャベル、つるはし、またはセメントの手押し車を手に入れました。ベッサラビアのクルージュとブカレストのブコヴィナから来た学生たちは、この種の仕事に携わっていました。十字架の同胞団はすでにモタの監督下で多くの都市で組織されていたため、若い高校生たちが遠くから働きに来て、私たちの精神で教育を受けて帰国しました。

ルーマニアのすべての若者に共通する2年間の学生闘争、動揺、苦しみは、偉大な奇跡を成し遂げた。それは、古い世代が融合して統合する能力のなさによって脅かされていた国家の精神的統一を再確立することだった。大規模な全国コミュニティと一体です。今、全国各地から集まった若者たちは、国のために学校での共通の努力を通じて、この魂の統一を強化し、神聖化しつつありました。

政治運動を脅かす危険

全国を横断するこの流れは恐るべきものだった。これほど異常な人気の流れがこの国に存在したことはこれまで何度もなかったと思います。組織力の不足と行動計画の欠如により、チャンピオンシップはうまくいきませんでした。さらに、この大きな流れの結果、一部の妥協的で危険な分子が運動に侵入する可能性があるという脅威がありました。運動は外部の敵の打撃によって決して死ぬことはなく、他の人間の有機体と同様に、内部の敵のせいです。通常、外的要因（電車や車にはねられる、射殺される、溺れるなど）で死亡する人間は 100 万人に 1 人程度です。人間は体内の毒素に屈し、毒で死にます。

実際のところ、ヴァカレシュティ、フォクシャニ、トゥルヌル＝セヴェリンの裁判の後、希望する人は誰でも私たちの仲間に加わることができました。
一部の人々は、購読料を集めたり、パンフレットを販売したり、貸し出したりするなど、詐欺行為に参加するために団結し、これらの人物がどこに登場しても、常に運動を危険にさらしました。政治的登山者として団結していた他の者たちは、指導者の地位や議会の議席などをめぐって互いに口論や非難を始めた。また、誠実ではあるが規律に欠け、上司の命令に従うことを拒否した者もいた。これらの人々は、それぞれの指令について際限なく交渉し、それぞれが独自に行動しました。再び誠意を持って私たちの仲間に加わった他の人たちは、私たちの精神に溶け込むことができませんでした。

私たちのような組織に溶け込むことができず、したがって内部から自分たちの存在そのものを危険にさらすほどの道徳構造を備えた非常に優れた個人がたくさんいます。生まれつき興味をそそられる人もいます。彼らが団結するものは何でも、物語を語ることで破壊します。

固定観念を持っている人もいます。彼らはすべての解決策の鍵を見つけたと心から信じており、その価値をあなたに納得させようとしています。ジャーナリズムの悪に悩まされ、病気になっている人もいます。彼らは、何としてでも新聞社の取締役になりたい、あるいは記事の最後に自分の名前が掲載されることを望んでいます。どこに行ってもなんとか妥協するような行動をとる人もいます。

闘争全体、そしてそこで組織が享受していた信頼を損なうことで。
最後に、陰謀やスパイ活動に従事するために特別に報酬を受け取り、国家主義運動のあらゆる崇高な努力を危うくする者もいる。
それでは、運動の指導者は、自らの指導下に就くことを望む人々に対して、どれほどの注意を払い、どれほど慎重にならなければならないことでしょう。彼らを教育するためにどれほど多くのことをしなければならないか、また彼らに対してどれほどのたゆまぬ監督をしなければならないことでしょう。これらの予防策がなければ、ムーブメントは絶望的に危険にさらされてしまいます。

Googleによる機械翻訳

悲しいことに、クザ教授はこれらの義務をまったく認識していませんでした。そのスローガンは「誰でもリーグに参加できるが、残れる人だけがリーグに参加できる」だった。

そしてその態度は本当の災いをもたらすでしょう。実際、数カ月後、リーグは陰謀のるつぼ、まさに地獄と化した。

当時の私の信念は、今でも変わりませんが、組織は「入りたい人なら誰でも」入れるのではなく、「入るに値する」人だけを入れるべきであり、その人たちだけが、そしてその期間だけ、そこに留まることを許されるべきだというものでした。彼らは、正しく、勤勉で、規律正しく、忠実です。

組織内で上記のような壊疽の兆候が明らかな場合は、直ちに隔離し、より多くのエネルギーをかけて切除する必要があります。そうしないと、感染が癌のように運動器官全体に広がり、原因がわからなくなります。あなたの献身的な使命と未来。彼は死ぬか、何も達成できずに生死の境をさまようことになるだろう。この状況を改善するようクザ教授を説得しようとした私たちの努力は失敗に終わりました。その理由は、一方では、彼が運動を行うためのこれらの基本原則をまったく知らなかったためであり、他方では、陰謀によって私たちも彼から孤立させてしまったためです。その結果、私たちが彼に与えた可能性のある影響力を麻痺させることになります。

私たちバカレスティアンは、これに気づき、クザ教授から私たちを引き離す目的で私たちを襲う絶望的な攻撃、陰謀の波を見て、彼の家に行き、再び彼に忠誠を誓い、私たちがすべてを行うと信じてほしいと頼みました運動内の現状を正すのは私たちの力です。私たちの試みは無駄であることが判明した。組織と行動計画の両方に関して、さらには私たちの運動の基本的な教義に関してさえ、私たちがまったく異なる観点から物事を見ていることに彼が気づいたからである。私たちは、数字、選挙、民主主義の数字としてではなく、人間の道徳的本質という考えから出発します。しかし、彼は、私たちが陰謀者の犠牲者だったから、この考えを維持したと確信していました。

リーダーの批判

この事態の責任は誰にあったのでしょうか?もちろんリーダーです。この運動には偉大なリーダーが必要であり、下にある運動の波に気付かない優秀な主義主張者ではありません。運動を支配し制御する印象的なリーダー。

誰もがこの役割を果たせるわけではありません。それにはプロフェッショナル、生来の資質を備えた人、組織の原則だけでなく発展と闘争についても理解している人が必要です。このような運動を担当するには、有名な大学教授であるだけでは十分ではありません。ここには優れた舵取り手、私たちを波の上に導いてくれる熟練した船長、法律を知っていてそのようなリーダーシップの秘密を熟知している人が必要です。風や海の深さを知っている人、危険なサンゴ礁を知っている人、最後にしっかりとした手で舵を握る人。

トランシルヴァニアがルーマニア人のものであることを証明した人物が、それを征服するために出動する軍隊を指揮する権利を持っているというだけでは十分ではありません。ユダヤ人の危険の存在を理論的に証明できるという事実だけでは、この問題の解決を目指す民衆の政治運動を指揮する権利を彼が持つのに十分ではないのと同じように。ここには 2 つのまったく異なるレベルの活動があり、関与する個人にはまったく逆の適性と資格が要求されます。

私たちは、標高 1,000 メートルを超える最初のレベル、理論の領域、法律の抽象的な領域を想像できます。そこで理論家は真実とその理論的定式化の研究に従事します。彼は、具体的な現実の基礎から、創造的な領域で法則を策定するために基礎から始めます。

もう一つのレベルは地球上です。ここでは、リーダーとしての資質に恵まれた男が、力ずくで真実を押しつける芸術に従事している。彼は高みに到達する

法と調和することですが、その実践の場はここ戦場、戦略と戦術の分野です。

1 つ目は理想を作成し、目的の概要を示します。後者はそれらを実行し、満たします。
分業の自然原理により、これら 2 つの機能の性質が 1 人の個人に見られる例外は次のとおりです。

極めてまれな。

クザ教授は何よりも理論家です。理論レベルでは、太陽のように輝きます。
あなたの仕事は次のとおりです。

a) 国籍法の真実の研究と策定。 b)
国籍の敵の発見と完全な特定。ユダヤ人。 c) ユダヤ人問題の解決策を仮定する。

以上です !しかし、これは途方もない成果です。なぜなら、すべての科学的証拠が彼の側にあるにもかかわらず、科学者全員が彼に反対し、あらゆる方向から彼を攻撃し、彼の発見を覆そうとしているからです。しかし、彼は抵抗します。この最初のレベルでは、人間や人間の力を使う必要はありません。それどころか、最初の飛行機に乗っている男性は人々を避けます。しかし、第 2 の計画にはまず人が必要です。ただ誰でも ?確かにそうではありません !しかし、リーダーとなる人々は人間的な力に変えなければなりません。

つまり:

1. 特定の厳格な原則に従ってそれらを組織する方法を知る。
2. 彼らの力を高めるために、ただ人間を人間の力に変えるために、彼らに技術的で英雄的な教育を与えてください。
3. 組織され、教育されたこれらの部隊を戦略的および戦術的な戦場に導き、有用な目的を達成するために、他の人類勢力、または自然そのものと戦う。

教義者が真実を研究し定式化する科学を習得することが期待されるのであれば、政治運動の指導者は人々を組織し、教育し、指導する科学と技術を習得することが期待されており、第一線で卓越した卓越した人物であるクザ教授です。現実的なことに落とされたとき、彼は子供のように無知で、不器用で、世間知らずで、組織化することも、支持者を技術的かつ英雄的に教育することもできない、言い換えれば、人間の軍隊を率いることができないことが判明しました。

理論上の面では著名な人物でも、第 2 の面では決して勝利を収めることはできません。彼は敗北するか、せいぜい周囲の人々が彼のために得た小さな成功に満足するでしょう。

政治運動のリーダーが持つべき特徴的な精神的特性は何ですか?私の意見では、それらは次のとおりです: 1.
内なる引力。世界には独立した自由な人々は存在
しません。太陽系でそれぞれの星が、より大きな引力を中心に回る独自の軌道をたどるのと同じように、人々、特に政治活動の分野では、少数の魅力的な人物に引き寄せられるのと同じです。それは思想の領域でも同じです。外側には、興味を示したくない、考えたくない人たちがいます。

リーダーにはこの吸引力が必要です。中には10人以上の社員を抱えているため、その人だけのリーダーになる人もいます。村全体や郡全体に関するものもあります。州全体、国全体にわたる人もいます。単一の国の国境の外にさえある人もいます。個人が導く能力は、その人の内なる吸引力の程度によって制限されます。それは一種の磁力であり、人間がこれを持っていなければ、人を導くことができなくなります。

2. 愛する能力。リーダーはすべての戦友を愛さなければなりません。
彼らの愛は運動のコミュニティの隅々まで浸透しなければなりません。

3. 組織に対する知識と感覚。運動の軌道に引き込まれる人々は組織化されなければなりません。

4. 人々についての知識。組織では、分業の原則が考慮され、各自の適性に従って各自がその位置に配置され、能力のない者は受け入れられません。

5. 英雄的行為を教育し、鼓舞する力。

6. リーダーシップの法則をマスターする。首長が組織化され教育を受けた軍隊を持っている場合、政治的戦場で他の軍隊と競争するために彼らをどのように導くかを知らなければなりません。

7. 時間の感覚。ボスは戦闘のタイミングを判断する特別な感覚を持っている必要があります。内なる直観があなたに「今だ！」と告げるはずです。今この瞬間、遅くもなく、早くもなく。

8. 勇気。リーダーはこの内なる命令を聞いたとき、剣を抜く勇気を持たなければなりません。

9. 正義と道徳の目標の意識は、正直な手段によって追求されるべきであり、リーダーが持つべき兵士としてのすべての美徳、犠牲の精神、忍耐、献身などに加えて、指導者は高尚な精神によって生かされるべきである。なぜなら、正義と合法性に基づいていなければ永続的な勝利はないからです。

意識の事例

実のところ、クザ教授には連盟が陥った混乱状況の責任はありませんでした。彼が私たちの組織化活動に反対したとき、彼は自分の理論的能力と政治面での力の欠如を明確に認識していたと私は思います。責任があるのは私たちであり、特に私でした。なぜなら、私たちが彼の意志に反して、彼の苦手な行動を強制したからです。実際、彼は2年間の戦闘中に行われたすべての重要な行事に欠席していた。国全体を震撼させ、ルーマニアの大衆を高揚させたすべての闘争は、クザ教授の助けなしに始まった。確かに、そのどれにおいても彼は大いに助けてくれましたが、いつも最終的に主導権は彼のものではありませんでした。

私は間違っていました。そして、それを犯した人たちに即座に敵対しない間違いはないように、私の間違いも運動と同様に私たちを追求するでしょう。そしてそれは、クザ教授が私たちのことを理解できず、私たちの支援なしに単独で研究しているときに起こります。

今年も彼にとっては困難な年だった。ヤシ大学で30年間献身的に働いた後、政府は彼を教授職から外すという前例のない不当行為を行ったが、行われた概略調査でクザ教授が学生を扇動した疑いで告発されたとき、クザ教授は次のように答えた。

「私は国家エネルギーの扇動者です。」
ルーマニア国家のために戦い続けた生涯と輝かしい教育は、ユダヤ人政治家に率いられた国民側のこのような報酬によって終わりを告げた。
このひどい打撃に、彼が路上で一人でいたときに挑発され、ユダヤ人の拳で顔を殴られたという事実も加わった。この非道な大胆さが知られると、学生たちはあらゆるパブに行き、出会ったユダヤ人全員を同じ方法で殴りました。このデモ中に、モタとルリアン•サルブを含む学生10人が逮捕され、懲役1か月の判決を受けた。彼らはガラタで奉仕しました。学生のウルジセアヌさんは、有害な暴力行為を道徳的に扇動したとされる人物に向けて数発発砲した。

フランスの学校で
出発とストラスブールでの最初のステージ

1925 年 9 月 23 日、私たちは学生寮の礎石を据えました。この年齢で国家主義運動に全力を尽くしてきた私が、教育を終えるために海外に戻るのが好機だと考えたとき、その壁の高さは約1メートルで、健康状態があまり良くなかったのでなおさらだった。私が通過してきた困難な試練の中で、連盟の組織と戦闘計画についての自分の見解がやや孤立していると感じていたという事実によっても、この決断をするようになりました。私は自分自身に言い聞かせていました。 「私が間違っている可能性もあるし、最終的には良いものになるかもしれない視点の発展を妨げない方が良いだろう」 特に最近リーグが獲得したという事実を考慮すると、 (1) ヴァレル•ポップやティトゥス•マライ神父のような著名なトランシルヴァニアの知識人を私たちの側に連れてきたカトゥネアヌ教授率いる「ルーマニアの行動」に参加することによる新たな力。 (2) 規模は小さいが健全な組織である「The National Fascia」と協力すること。願わくば、リークエ指導部の無実の欠点が、非常に多くのエリートの存在によって改善されることを願っているが、その中には、ブカレスト出身の私たちの弁護士パウル•イリエスクも含まれており、多くの知識人が注目を集めている。マクリデスク将軍、フォクシャニからの別のエリートグループを率いる。チェルナウティ大学の社会学の高名な教授、老国家主義者、トライアン•ブライレアヌ。そして、ヤシ大学の教育学の著名な教授イオン•ガヴァネスクルは、教育学の教授として生涯を通じて国家理念を説いていたにもかかわらず、これまで私たちの運動に参加していませんでした。

また、ブカレスト大学の博学な生理学教授ニコラエ•パレスクも同行し、首都における国民運動に光を当てたユダヤ•フリーメーソンの操作に関する比類のない専門家であった。

私たちの運動を称賛し、それに比類のない威信を与えてくれたこれらの著名人たちに、モタ神父が編集し、最も広く読まれ評価されているルーマニアの大衆紙であるリベルタテア (「リバティ」)の貴重な援助が加わりました。
クルージュ大学から追放された私の同志モタ (モタ神父の息子)はまだ二年生で、法律の勉強を終えるために私と一緒に海外へ行くことに決めていた。

私たちは二人とも、フランスの小さな都市の一つに行くことに同意しました。
私たちはグルノーブルを選びました。私は小冊子『行き詰まった学生からの手紙』の売り上げと結婚祝いで60,000 レイを稼ぎました。モタさんは毎月自宅から手伝いを受けていた。

故郷の家族に別れを告げた後、私たちはクザ教授とその仲間たちに敬意を表します。それから私たちはララウ山に登って庵に祈り、旅を始めます。妻と私が先に出発しました。モタも2週間後に続いた。チェコスロバキアとドイツを通る長い旅を経て、ベルリンとイエナで数日過ごした後、私たちはフランスに入り、ストラスブールに立ち寄りました。私を大いに驚かせたのは、この都市が私の予想に反して、ユダヤ人感染症のまさにスズメバチの巣と化していたという事実でした。列車を降りたとき、私は比類のない勇気で何世紀にもわたる歴史を刻んだガリア民族の人々に会えるのではないかと期待していました。

その代わりに、鉤鼻の利益に飢えたユダヤ人が私の袖をつかんで自分の店やレストランに引き込み、駅周辺のレストランのほとんどは彼らが経営しているのを見ました。同化したユダヤ人のフランスでは、すべてがコーシャでした。私たちはキリスト教徒を見つけるために次から次へとレストランに入りましたが、どのレストランでも「コーシャ•フード」というイディッシュ語の看板を目にしました。ようやく見つけたフレンチレストランで食事をしました。タルグル•ククルイユダヤ人とストラスブールユダヤ人の間に違いは見つかりませんでした。同じ姿、同じマナー、専門用語。それは、人が礼儀正しい視線の下で、プレーへの熱意を読み取って発見するのと同じ悪魔のような目だ。

グルノーブルで

さらに一晩の旅で、朝グルノーブルに到着します。なんと驚くべきことが私たちの目に開かれたのでしょう !なんて景色でしょう !はるか昔、アルプスの麓にあった都市。巨大な岩が街の中心部を真っ二つに切り裂くように突進してきた。灰色でがっしりとした大胆な色が家々を支配しており、何階も高いにもかかわらず、対照的に小さな蟻塚のように見えました。街から遠く離れたところに、古い要塞、塹壕、胸壁でいっぱいの別の山があり、巨大な要塞に変わりました。

遠くの背景では、何よりも名誉のように白く、堂々とした巨大なアルプスの冬と夏に雪が輝いていました。

私たちが見たものに感銘を受け、まるで物語に出てくる魔法の城を歩くように歩きながら、「これは勇気の街だ」と心の中で言いました。そして案の定、歩き続けながら、読んだ像の前で立ち止まった自分が正しかったと確信した。 「バヤードよ、反逆罪のない騎士よ。」バヤールは 15 世紀の偉大な叙事詩の戦士で、生涯にわたる戦いの後、致命傷を負い苦しみながら横たわった剣を握りしめましたが、その柄は今や十字架に変わり、勇敢な老人が死の瞬間に受け取ったものでした。 、最後の祝福。私たちはグルノーブル旧市街に部屋を借りています。新しくてモダンなグルノーブルもあります。

しかし、私たちは古いセクションの方が好きです。モタは少し遅れて到着した。大学に登録します。
彼は、法学の学士号を取得しました。私は経済学の博士候補者です。 1年生と2年生の授業を受講し始めましたが、何もわかりませんでした。それが最初のレッスンでした。一言しか聞き取れませんでした。

しかし、粘り強く受講を続けていると、クリスマスの頃にはかなり理解できるようになりました。博士号取得候補者は 8 人しかいなかったため、これらのクラスでは学生と教授の間に緊密な絆を持つ家族的な性格が形成されました。

教授たちは非常に良心的で、教えるだけで、政治化もしませんでした。

私たち3人の食事は妻が作ってくれました。休日には、市内を小旅行するようになりました。城跡と古代の塔に感銘を受けました。これらの古代のものに誰が住んでいたのか知りたいですか?きっとみんなから忘れ去られているはずだ。彼らを訪ねてみましょう。私はこれらの遺跡に入り、何時間も邪魔されない沈黙の中でそこに立ち、死者たちと話をしました。私は街の郊外にある 4 世紀に建てられた小さな教会、サン•ロレンソ教会を訪れました。そして驚いたことに、その青みがかった天井に 50 以上のかぎ十字を見ました。市内では、市庁舎、司法宮殿、その他の施設で、フランスに対するユダヤ人のヒドラの絶対的支配の象徴であるフリーメーソンの星が見えたので、私はグルノーブルの旧市街に戻りました。十字架のある教会は、時間と忘却によって暗くなりました。私は現代の映画館、劇場、カフェに背を向け、バヤードが住んでいたのではないかと思われる遺跡の中で楽しみを見つけました。私は、とても幸せなことに、歴史的なフランス、キリスト教徒のフランス、国家主義のフランス、ユダヤ•フリーメーソンの無神論的で国際的なフランスではなく、バヤールに住んでいた過去に沈みました。レオン•ブルムのフランスではありません !フランス人が 「マルシェ•デ•ピュス」と呼んだ広場はユダヤ人でいっぱいで、それがその名前の説明になっています。実際、大学も彼らに支配されていた。ルーマニア人5人に加えて、ルーマニアから来たユダヤ人の学生50人がここで学んでいました。無神論政府によって1,000人の修道士が追放された旧修道院 「グランド•シャルトルーズ」も訪れた。いくつかのアイコンには、石を投げられた跡がまだ見えました

フランス革命 (1789 年) 中に群衆によって神の像が切断されました。

物質的な懸念が私たちを圧倒するのに、それほど時間はかかりませんでした。私の現金は底をつき、家に帰れるとは期待していませんでした。多額の節約にもかかわらず、モタが受け取ったものを私たちだけで管理することはできませんでした。

私たちはコースのスケジュールを中断せずにお金を稼ぐ方法を何時間も考えました。フランスでは刺繍が高く評価され、高給を得ていることに気づき、私たちは妻から刺繍を学び、このルーマニア刺繍を販売してみようと決心しました。私たちは数週間かけてこの取引を学びました。私たちは暇なときに刺繍をしました。

ショーウインドウに商品が陳列され、モタが家からもらったものにそうして得たわずかなお金を加えて、私たちはなんとかつつましく暮らしていました。

総選挙が帰国
1926年5月

復活祭の時期になると、私たちが定期的に受け取る自宅からの手紙や新聞は、自由党の失脚とアベレスク将軍の出現のニュースをもたらした。
新たな総選挙は5月中旬に行われる予定だった。リーグにとって、これは初めて大きな戦いを繰り広げる機会となった。私は自分に言い聞かせていました、「この戦いに参加するには家に帰らなければなりません。そして学校に戻らなければなりません。」

私はクザ教授に手紙を書き、チケット代を求めました。返答がなかったので、私は氏に手紙を書きました。
フォクシャニのフリスタシュ•ソロモン。彼は私に 10,000 レイを送ってくれましたが、その一部を妻に残しておきました。
残りを持って家に帰りました。
私がブカレストに到着したのは、選挙活動期間中の5月初旬頃でした。
私はすぐにクザ教授のところに行きましたが、彼は私がそこにいるのをあまりうれしく思っていないようで、私が来なくても運動はうまくいくから来る必要はないと言われました。
自分。
少し痛かったですが、怒ることはありませんでした。リーダーに叱責されてイライラする議員の居場所は政治組織にはない。

この警告が正当であるかどうかはわかりませんが、決して怒ってはなりません。これは、どのような組織においても人を導くべき原則です。

その後、私はスムレアヌ教授を支援するためにドロホイ郷へ向かいました。そこから私は他の郡、カンプルン、ヤシ、ブライラなどを訪れました。一方、パレスク教授から受け取った手紙とマクリデスク将軍の強い勧めにより、私はフォクシャニでの選挙に立候補することにしました。そこで私は、私にとって最も嫌で望ましくない状況にありました。私のために投票を懇願するために外出していたのです。どこ ?群衆の中には、まさに最も神聖な感情に駆り立てられるべき時、つまり自分たちの国とその将来がかかっているのに、選挙担当者が豊富に提供した飲み物に呆然とし、悪霊に取り憑かれている人々がいる。政治家の悪霊が解き放つ情念。村での穏やかで清潔な生活の最中に、政治的腐敗の波が押し寄せるその瞬間。

この地獄は国中に広がり、そこから1年、2年、3年、または4年かけて国の次の指導者が誕生します。それは

この腐敗の山から、民主主義　「神聖な」民主主義　が国のリーダーシップを生み出すのです！

私はフォクシャニに到着しましたが、そこはシオラスティの洗礼以来包囲下にありました。作戦を続けるには、守備隊司令官が発行する自由通行証が必要で、私はそれを要求して受け取りました。午前10時頃、フリスターシュ•ソロモン氏らに付き添われ、車 2台で出発した。しかし、市街から500メートル離れたところで、道路の反対側に2台のワゴンでできたバリケードが設置されており、近くには数人の警察官がいる。

私たちが立ち止まると、憲兵が近づいてきて、通行は許可されていないと言われました。私は将軍の命令書を作成し、彼らに見せました。彼らはそれを読んで、「それでも、合格することはできない」と言った。

私は仲間たちに道を開けるよう命じた。短い乱闘の後、道路は通行可能になった。
車はゆっくりと動き始めた。私たちの数メートル後ろにいた憲兵たちはひざまずき、狙いを定めて発砲を始めた。私は言いました：

「動き続けてください、彼らは空中で撃っています。」
弾丸がバンパーに命中した。もう一つ、私たちの近くにあります。私たちは運転を続けました。しかし、2発の銃弾が私たちを止め、1発はガソリンタンクに穴をあけ、2発目はタイヤに穴を開けた。
私たちは運転を続けることができませんでした。私たちは下車して歩いて戻りました。もう一度、我々は通行許可を発行してくれた将軍のところへ行き、マクリスデスク将軍も
同席して何が起こったのか報告した。　「旅行するのは自由です。私は誰もあなたを止めないよう命じました。おそらく行政当局だったのでしょう。」と彼は答えた。そこから私たちが行ったのは、

市庁舎とマクリデスク将軍。郡長はニトゥレスクという粗暴で粗暴な男だった。私たちはとても落ち着いて彼のオフィスに入りました。マクリデスク将軍がこの出来事を報告した。しかし、市長は最初の瞬間から私たちを非常に失礼に扱いました。彼はその高い地位から延々と演説を続けた。

「諸君、国家の最高利益が要求している…」

「この国には法律があります。私たちは法律の範囲内にいます。私たちには権利があります...」 En.マクリデスク氏は説明しようとする。しかし市長は続けた、「この困難な時期にカウントは要求している…」

マクリデスク将軍は再度説明を試みた。権限のある市長「国の意思は…」

「聞いてください、市長さん」私はかなり動揺してさえぎった。 「あなたが合理的な会話を理解したくないのはわかります。明日の朝、私は遊説に出発します。もし再び憲兵が私たちに向かって発砲したら、ここに戻ってあなたのオフィスに戻ってあなたを撃ちます。」

そして答えを待たずに、他の人たちを置き去りにして振り返った。数時間後、私は軍評議会に呼び出されました。私は行った。王室委員*が私を尋問しました。私は何が起こったのかを正確に書面で述べました。彼らは私を逮捕しました。そして私は言いました、「紳士諸君、実際に私を撃った人たちには何もしませんが、やると言いました私は逮捕してください！」

それで私は再び連隊兵舎の控室にいました。 3日後、私は将軍から呼び出されました。警官が私を彼のオフィスまで案内してくれました。

「コドレアヌさん、あなたはフォクシャニ市を離れなければなりません。」

「先生、私はここの候補者です。私に対する退去命令は法律違反です。もちろん、それができないからこの措置に反対するつもりはありませんが、この命令は書面でお願いします。」

「それなら私はブカレストに行き、この仕打ちについて文句を言うつもりです。」

将軍は始発列車で出発するという私の名誉の言葉で私を釈放した。そして始発の電車でブカレストへ向かいました。

翌日、私は内務大臣オクタヴィアン•ゴガ氏に自己紹介をしましたが、彼は私を快く迎えてくれました。私は彼に自分に何が起こったのかを話し、正義を要求しました。彼はこの事件を調査するために行政監察官を派遣すると私に約束し、翌日もう一度会いに来るように言いました。私が来た。彼は私を次の日まで延期してくれました。

しかし、時間がなくなり、投票日が近づいてきたので、4日目に私は去りました。

再び大将から自由通行許可を得て、再び運転を開始しました。選挙まであと2日となった。私たちが最初の村に到着すると、選挙の前夜と同じように数人の村人が集まっていましたが、彼らは蔓延する一般的な恐怖におびえているようでした。憲兵たちが現れて、「あなたはこの人々と話すことを許されていますが、ほんの一分間だけです。これが私たちの命令です！」

私は一分間話し、それから話を続けました。他のすべての村でも同じで、それぞれの村でほんの1分間でした。この国の正義と合法性は貧弱だ !ある人には投票する特権が与えられ、別の人にはその特権を行使するよう求められます。投票に来なければ罰金を科せられ、投票に来たら敗北となります。ルーマニアの政治家は、リベラル派であれ、アベレスク支持者であれ、国民の農民であれ、スローガンを掲げた暴君の集団にすぎない。

* ルーマニアの軍事司法において、裁判官または戦争評議会で検察官を捜査している。 (Tr.)

「合法性」、「自由」、「人間の権利」など、恥じることなく、恐れることなく、すべての法律、すべての自由、そして国全体を踏みにじる。

Googleによる機械翻訳

あなたのすべての権利。将来のためにどのような資源が残されているのでしょうか?

選挙当日、私たちの代議員たちは殴られ、血まみれになり、投票所に行くことを妨げられました。村全体が投票所に近づくことができなかった。結果: 私は負けましたが、フォクシャニ市ではすべての政党に勝ちました。

「そんなことは関係ない」と私は自分に言い聞かせました。 「もし私が勝っていたら、勉強を続ける計画が中断されていたでしょう。」 2日後、嬉しいことに全国の選挙結果を知りました。連盟は12万票を追加し、クザ教授とガヴァネスクル•デ•ヤシ教授という10人の議員を議会に送り込んだ。ドロホイのスムレアヌ教授。私の父はラダウティ出身です。カンプルンのポール•イリエスク。

スチャバのカラン教授。ボトシャニの医師ハララム•ヴァシリュー。ヴァレール•ポップ•ド•サトゥ•マーレ。ピアトラ•ニーント出身のエンジニア、ミス•フロレスク氏。そしてルニウ•レッカ•デ•バカウ。まさに、民族主義運動を讃えるエリート集団が選出され、人々は限りない愛と生きた希望を持って尊敬していた。これらの 120,000 票は、ルーマニア国民の最も善良で純粋な国民を代表しました。有権者は投票所に到達するまでに、あらゆる脅威、あらゆる誘惑、あらゆる障害を克服してきました。しかし、連絡が取れなかった人は非常に多く、連絡が取れた人よりも多かった。

さらに少なくとも12万票が投票箱から破壊されたり盗まれたりした。

私は結果に満足してフランスに戻りましたが、常に次の疑問を心配していました。もしすべての政府が民意に反して汚職、窃盗、国家権力を行使してこのような方法で選挙を実施したら、どうやって勝つことができるでしょうか？

アルプスで

フランスに到着したが、6 月のセッション試験を受けるには遅すぎた。私は深刻な問題に直面していました。モタは秋には兵役のため帰国しなければならない。私たちの刺繍が一人分どころか、二人分の魂にもかろうじて足りる量だったら、私たちはどうやって生きていけばいいのでしょうか...私は都会で何でもいいから仕事を見つけようとしました。不可能。それで、都会に近い田舎だったら何か手に入るかもしれないと思ったんです。モタと一緒に、私は仕事を求めてさまざまな方向に進みました。しかし、夕方になって戻ってきましたが、うまくいきませんでした。ある日、私たちはグルノーブルから約6マイル離れたウリアージュ•レ•バンまで路面電車に乗りました（そこでは、山の滝によって豊富な電気エネルギーが生成されているため、路面電車は町の中だけでなく屋外の全方向に最大19マイルも走ります）)。

ウリアージュからはいくつかの小道をたどって山を登ります。約30分後、私たちはセント•マーチン島に到着します。この村は、よく舗装された道路、手入れの行き届いた石造りの家、いくつかの倉庫、そして美しい高い教会のある、かなり大きな村です。しかし、私たちは合格しました。さらに1時間、汗だくの暑さの中を登り続けた後、私たちはピネ•ドゥリアージュという小さな村に到着しました。

私たちは高度約 2600 ～ 2700 フィートにいました。頭上には雪をかぶったアルプスが素晴らしい展望を私たちの目に見せてくれました。私たちがいる場所から数マイル離れたところで雪が降り始めたようだ。私たちの左側、ヴィジール城に向かって、美しい渓谷が広がっていました。グルノーブルに向かって右側にもう1つあります。谷に沿って曲がりくねった舗装道路は、太陽に洗われた川の水のように輝いていました。

畑では働く人々の姿が見えました。私たちは、常雪から数マイル離れた山の中腹で、どうして小麦が人の背丈ほども成長するのだろうかと不思議に思っていました。オート麦や大麦、その他あらゆる種類の野菜。おそらく穏やかな気候と岩のない土壌のせいでしょう。実際、その土壌は肥沃度が低く、むしろ貧弱でした。しかし、農民は肥料や肥料を使い続けました。

彼らが畑で働くのを見て、私たちは他の村と同じ問題に直面しました。それは、私たちが仕事を探していることを彼らに伝えるためにどうやって彼らに話せばいいのかということでした。私たちは彼らに話しかけることもせずに彼らの前を通り過ぎました。さらに上にはさらに数軒、5,6軒の家がありました。私たちはそこに行きました。
最後まで行きました。彼女を除けば、私たちと巨大なベルドナの間には、観光客用の小屋を除いて、他の人間の居住地は現れませんでした。近くではおじいさんが草刈りをしていた。私たちは彼と話す必要がありました。私たちは彼に挨拶して話し始めました。彼は私たちが外国人であることに気づき、私たちが何者なのか尋ねました。私たちはルーマニア人であること、ここがとても気に入っていること、屋外で数か月間過ごすために部屋を借りたいことを伝えました。

老人は誇りに思っていて、おそらく多くのことを学べる人を見つけたと思ったのだろう、私たちに来て一緒に来て、渋い黒ワインのボトルと、自分で満たしたグラスを 3 つ置いた外側のテーブルに座るよう頼んだ。 。

それから彼は私たちに質問を始め、私たちの反応を非常に興味深くフォローしました。

「それで、あなたはルーマニア人だと言うのですか？」
「はい、ルーマニア人、ルーマニア出身のルーマニア人です。」
「ルーマニアはここから遠いですか？」

「ほぼ2000マイルです。」
「あなたの国にもここと同じような農民がいますか？」
「たくさんいるよ、ペレ•トラック」、これが彼のものだから名前。

「あそこにも干し草が生えているの ?牛がいるの？」
牛 ?馬？"
私たちは最終的に彼のすべての質問に答え、すぐに彼と友達になりました。

しかし、私たちが困るようなことは何も話さなかった。老人は私たちが礼儀正しい「紳士」であることを理解していたからであり、もし私たちが仕事を探していることを彼に伝えていたら、彼はすべての幻想を失っていただろうからである。

私たちは彼に、どこか借りられる部屋を知っているかどうか尋ねただけです。彼は私たちに住所を教え、私たちを送ったのは彼、ペレ•トラックであることを所有者に伝えると主張しました。

帰り際、私たちは感謝の気持ちを表し、またカットを手伝うために戻ってくることを約束しました。私たちは彼が教えてくれた住所を丘の中腹にあるいくつかの家で見つけました。そこは、身なりの良い70歳の元下士官で現在は退役しているチェネバス•ポール氏の家だった。彼は村で唯一の年金受給者であることを誇りに思っていました。彼は隣り合った二軒の家を所有していましたが、一人だったのでそれを完全に自分のために使用していました。彼の親戚は全員亡くなった。

彼は私たちに小さな家を貸してくれました。その家は、下に大小 2 つの部屋と、上に 1 つの部屋から構成されていました (すべての家には 2 階がありました)。階下の部屋には調理用のストーブがありました。

上の階にはシンプルな内装でベッドがありました。これらすべてが空虚の様子を伝えていました。そこには長い間誰も住んでいなかったことが明らかでした。
私たちはクリスマスまで（つまり6か月）400フランで合意します。グルノーブルでは月に150フランを支払いました。私たちは3か月分を前払いし、数日以内に引っ越しすると言いました。そして、いい気分で街に戻ります。

博士課程に必要なレジデンシーコースの仕事を終えた今、私はそう感じました。このプログラムでは、ここで試験の勉強をし、試験を受けるためだけにグルノーブルに行きました。

ピネ•デュリアージュのフランス農民の間で

数日後、妻とモタと私は荷物を背負って、新しい住居に向かって同じ道を登っていました。ようやく落ち着きました。モタは私たちに別れを告げてルーマニアへ向かいました。私たちはポケットに数フランしか残されていません。ひどい状況です！

どうやって食べるつもりでしたか ?翌朝、かなり落ち込んでいた私はペレ•トラックに行きました。一日中草刈りや干し草の積み込みを手伝いました。彼は私に正午と午後に一緒に食事をするように頼みました

Googleによる機械翻訳

夕食の時間。妻にも何か持っていけたら完璧だったのですが、手ぶらで帰ってきたので、翌朝また行きました。今度は彼のために働いてくれる人がいた。その男は、もじゃもじゃの赤い髪、明るく落ち着きのない目をした背が低く、優しさのかけらも私には見分けられなかった。彼は悪人に見えた。彼女の名前はコルベラでした。

おそらく公用語および文語ではコルベルでしょう。しかし、この地域の農民は全員「パトワ語」、つまり発音も単語構造も公用語とは大きく異なる農民の方言を話します。この違いは非常に大きいため、都会のフランス人は「パトワ」を話す田舎のフランス人を理解することができません。しかし、彼らは公用語も知っています。

私たち三人は、主婦のおばあさんに誘われて、昼に彼女の家で食事をしました。彼女は家の老婦人と同じような老婦人でした。フランスでは、我が国の農民のように、昼に葦の山と一緒に玉ねぎを食べることはありません。原則として、野菜料理、肉料理、そしてチーズが続きます。そして普通のグラスワイン。食事に誘ってくれたことに感謝しましたが、食べないと言いました。私は恥ずかしいと感じましたが、彼らは主張しました。そこで私は、金曜日なので夕方まで断食することを伝えました。それは私にとって古い習慣であり、最初にヴァカレシュティ刑務所に収監されて以来、3年間忠実に守り続けてきました。

コルベラは私が断食していることを聞くと、鋭く尋ねました。

「でも、なぜ断食するのですか？」 「私は神を信じているからです。」

「どうして神の存在がわかるのですか ?イエス•キリストを見たことがありますか ? 」彼は続けた。 しかし、私たちは彼を見ました。 」
「いいえ、私は彼に会ったことはありませんが、それが私のありようです。私はあなたがイエスが存在しないと言っているとは信じませんが、十字架に釘付けにされたときに「あなたは私たちを殺してもよい ! 」と叫んだ無数の殉教者たちを私は信じています。ああ、司祭たちよ !ペテン師たちよ !私はかかとの下でそれらを押しつぶし、ウォリアを押しつぶすように床の上で彼を押したり回転させたりします。」

彼がとても興奮しているのを見て、私は議論をやめた。
その夜、私は老人がくれたジャガイモとベーコンの入った籠を持って家に帰りました。その土曜日も同じように働きました。日曜日に私は教会に行きました。たくさんの人がいた、おそらく村全体だった。祭壇の隣の傍席には、聖人のように厳かに、コルベラを思い出させる男性が立っていた。もう一度見てみた。彼は司祭に非常に密接に従った。ある時、彼は司祭に近づき、非常に謙虚に彼を助けました。

それは彼だった、コルベラ !歌手、セクストン、ピーラー。

その後、村人たちと仲良くなり、コルベラとの出会いについて話しましたが、私たちは皆大笑いしていました。

「私たちにも愚か者がいるのです」と私は言われました。 「彼らは教会を憎む重要な人々の意見に耳を傾けます。しかし、私たちフランスの農民は、父親から学んだように神を信じています。」

広大な文化を持ち、哲学と神学の博士でもあるこの司祭は、司祭を敵として迫害する無神論国家から給料も受け取れず、極度の貧困の中で暮らしていた。
後者は少数の村人からの援助だけで暮らしています。翌週、私は別の人の下でジャガイモ狩りの仕事をし、その人が私にしばらくの間私たちの生存の基盤となったジャガイモをさらにくれました。私は別の農民に交代して、滑車と小麦の脱穀を手伝いました。各村には、全員が使用する共通の脱穀機があります。収穫量は豊富で、黄金のように美しいです。

村人は皆、農業全般、野菜作り、牛の飼育、養蜂などに関するアドバイスが満載の農業週刊誌を購読しています。彼らはこれらの雑誌を隅から隅まで熱心に読み、このアドバイスを最善の方法で適用するための素晴らしいコンテストのように努力しています。彼らはそれが可能であり、それを大いに活用しています。彼らの馬小屋は、家と同様に手入れされています。牛は毎日ブラッシングを受けているため、寒さや飢えから十分に守られています。だからこそ彼らは良いものを持っている

見た目は、一生懸命働いてたくさん生産することができます。私は彼らの厩舎で「動物たちを愛せよ、私たちの仕事のパートナーです！」と書かれたボール紙をよく見かけました。

1か月ほど経つと、村人たちは私に慣れ始めました。私は「le roumain」（ルーマニア人）として知られていました。彼らは私が博士課程の学生であることを聞き、夜に話をすることになりました。彼らは、哲学、政治、国際関係、政治経済の問題、特に価格、需要供給の法則、価格を決定するその他の法則、価格変動の原因や市場投入の適切な時期などに興味を持っていました。彼らの製品。 。 25 歳から 40 歳の農民はこれらのテーマについてよく理解していて、さらに重要な問題について話し合うことができました。彼らはそれらを完全に理解していました。

しばらくして、私は試験勉強を始めました。モタは6月の試験に無事合格していた。私は昼も夜も働き、夜はできるだけ勉強しました。
その最初の年に、私は政治経済、経済原理の歴史、産業立法、金融立法という 4 つの科目を履修しました。しかし、2ヶ月も経たないうちに体力が落ちてきました。私たちの食べ物は不十分であることが判明しました。最近、私たちはほとんど茹でたジャガイモだけを食べてダイエットしていました。 2､3日に1リットルの牛乳と肉、週に1回、時々チーズ。私が働いて得られるのはそれだけでした。

しかし、私よりもさらにひどいのは妻で、貧血になりました。 10月に試験を受けましたが、主要科目の政治経済では最高点を獲得し、その他の科目では合格点を獲得しましたが、不合格でした。金融立法では9点しか取れず、博士号の合格点は10点でした。その瞬間、私は方向感覚を失いました。

私は勉強に関しては決して明るい方ではありませんでしたが、平均的な学生の一人と考えられていたため、これまで試験に落ちたことはありませんでした。我が国の厳しい経済状況を考えると、これは深刻な打撃でした。難しかったのは、試験を 3 か月後にすべての科目でしか再受験できないことでした。私は意地になって、最初からやり直すことにしました。畑での農作業も終わりました。地面は雪で覆われていました。唯一できる仕事は森の中で薪を割ることだった。私の支払い

そこには木がいっぱい積まれたワゴンがありました。
しかし、私たちはモタ神父から経済的な援助を受け始め、私の名前で融資を受けました。

私たちは冬の間とクリスマス休暇を農民たち、主にベルメイン•デイビッド一家と一緒に過ごしました。博士1年目の2月に再度受験し、全て合格しました。私はすぐに 2 年生の勉強を始めました。行政法、法哲学、フランス法史、国際民法です。春に、私は庭の一部を借りて、自分で取り組み始めました。しかし1927年5月、私はモタらフォクシャニからも学生たちからも、リーグが二つに分裂したためすぐに帰国するよう求める絶望的な手紙を受け取った。モタとフリスターシュ•ソロモンも旅行のためにお金を送ってくれました。でも試験まであと一ヶ月ありました。学部長が緊急事態であることを伝え、私にルーマニアへの帰国を要求し、定例会の前に試験を受ける許可を求めているのを見ました。私の請願は承認されました。 5月16日に試験を受けて合格しました。 5月18日、私はほぼ1年間暮らしたピネの住民たちに別れを告げてルーマニアへ出発しました。私たちが帰るとき、彼らのうちの何人か、年長の子供たちは泣きました。他の人たちはグルノーブル駅まで私に同行してくれました。

世界中で何度も報告されているように、私は不道徳で腐敗した退廃的な人々を見つけることを懸念してフランスに来ました。しかし私は、フランス人は農民であれ国民であれ、道徳心のある国民であるという結論に達しました。

厳しい。不道徳行為をするのは甘やかされた外国人、パリやその他の大都市に惹かれるあらゆる国籍の富裕層です。私の意見では、支配階級は絶望的に妥協しており、ユダヤ•フリーメーソンとその銀行家の影響下で、そしてもっぱらその影響下で考え、生活し、行動している。ユダヤ•メイソンリーはパリを世界本部として使用しています（スコットランド儀式のあるロンドンは単なる子会社にすぎません）。この指導的階級はフランスの歴史やフランス国家との関わりを失った。だからこそ、彼はフランスを離れることで、フランス国民とフランスのフリーメーソン国家との間に大きな変化をもたらしたのである。フランス国民のために、私は愛だけでなく信仰も心の中に持ちました。彼らを悩ませ、理性を曖昧にし、力を吸い取り、名誉と未来を危険にさらすヒドラに対する彼らの復活と勝利において、その信仰は決して揺るがされることはありません。

ブカレストで

キリスト教国防リーグ崩壊

二

ブカレストに到着しました。それは災害だった。リーグは二つに分かれた。この国の希望は崩れ去った。歴史上の困難な瞬間に疲れきった力を振り絞って、生存の最大の危機と闘ってきた国民全体が、今、すべての希望を打ち砕かれて地に倒れようとしている。このような災害は、何千人もの戦闘員の勇敢な心に、過去のすべての犠牲とすべての希望が一瞬のうちに崩れ去るのを目の当たりにし、私たちの運動の外部にいる人々にも深い痛みの感情を引き起こし、これまでに見たことのない悲しみを引き起こしました。より一般化されたもの。

セヴェリンからフォクシャニ、カンプルンからクルージュまでの熱狂の波は、今や悲しみと絶望の波に変わった。

私はクザ教授に会いに国会へ行きました。驚いたことに、全体的な痛みの中で、彼は唯一の陽気な男でした。この男はクザ教授だった。私たちの会話をできるだけ正確にここに掲載します。
「おかえりなさい、親愛なるコーネリュー」彼はそう言って、腕を伸ばして私に向かって進んできた。 「君は良い奴だ。今まで通り仕事を続ければ全てうまくいくよ」

「先生、私たちに降りかかった不幸にとても落ち込んでいます。」

「しかし、不幸は起こらなかった。リーグはこれまで以上に強力になっています。昨日ブライラから戻ってきました、素晴らしかったです。そこで私はバンド、ドラム、鳴り止まない歓声で歓迎されました。その国の気候がわかります。それがどのようなものかご存知でしょう。国全体が
私達と一緒に。 「私たちはさらにいくつかの言葉を言ってから立ち去りました。

唖然として、私は自問した、「軍隊が痛みに引き裂かれ、真っ二つに引き裂かれ、絶望に取り憑かれているのを目の当たりにして、指導者が完璧な気質と上機嫌を享受できるだろうか？自分の下で惨事が沸騰しているのが見えないのだろうか？しかし、おそらく彼はそうするだろう！もしそうなら、それではどうして彼は喜ぶことができるのでしょうか？」

どうしたの？

リーガの議員10名が任務中に行った議会および議会外での活動には、期待すべき点が多く残されていた。彼らは弱い男たちだったのだろうか？絶対に違います！彼らは悪意を持っていたのでしょうか？絶対に違います！彼らは絶対的な誠意を持っていましたが、連盟の最年少メンバーだったため、あるいは、少し気が重くて行動が遅く、右派だったため、ユダヤ人問題に関する知識という点で小さな欠陥がありました。最古のもの。しかし、そのような欠点は組織に集うすべての人間に内在しており、リーダーは愛情を込めて巧みに矯正しなければなりません。では、このような事態を招いた本当の原因は何だったのでしょうか？

私の意見では、1.
議会活動と議会外活動の調整の欠如。
2. 精神的な統一性の欠如。内部の不和を利用しようとする敵に四方八方を囲まれたこのような組織には絶対に不可欠な統一性。

しかし、これら 2 つの欠点は基本的に、本当の原因、つまりリーダーシップの欠如、リーダーの間違いの結果です。リーダーは、信奉者からの思想の統一を達成するために、常に自分の意見を周囲の戦闘員全員に明らかにしなければなりません。行動計画を策定する。部下の行動を指示する。運動の団結の永続的な奉仕者となり、愛、発言、叱責を尽くして、組織内に内在する誤解や不和を解消するよう努力すること。彼の信奉者たちに対して常に義務を果たす模範となること。問題を公正に扱う』と述べ、彼に課せられたリーダーシップ規範を尊重し、それに基づいて支持者を集めた。

しかし、クザ教授はそれらのことを何もしませんでした。彼は部下を教育しませんでした。彼は彼らに相談さえしなかった。 「相談しましょう、先生、私たちがどのような行動をとるべきか、議会でどのように自分自身を主張すべきかを知るために」と彼らの何人かは促しました。

「私たちは政党ではないので協議する必要はない。
彼は誰にも決して指示を出しませんでした。貴重な書籍、クザ教授が書いた数十冊のパンフレット、数百件の記事が見つかります。しかし、私は誰かに、1923 年 3 月 4 日の設立から 1927 年 5 月 20 日の廃止の瞬間までに、最も問題のある政治組織に与えられた組織命令または行動命令を 10 冊私に持ってきてもらいたいと思います。

10 個も、5 個も、あるいは 3 個も見つかりません。クザ教授は他の人たちに勧めたが、彼自身は信者たちに行動を促すことはなかった。彼は他の人を罰しましたが、そのとき、問題を賢明に処理しなかったため、大きな災難を引き起こしまし
た。一方で、確かに、このように提示された状況を考えると、物事が思うように進んでいないと感じた一部の議員は不満を表明した。彼らは、運動が徐々に破滅に向かっていること、特に時折指示がなかったことに加えて、議会でのクザ教授のある種の暴言が運動全体に壊滅的で当惑させる影響を及ぼしたことに気づいた。例えば、議会開会直後、連盟の議員の一人がフォクシャニに課せられた包囲状態と前例のない虐待に対して抗議したとき、クザ教授は立ち上がって政府にそうするよう命令した。同じことをしたのは、人々が

Google による機械翻訳

ユダヤ人のせいで動揺した。別の機会に、国会への本当のメッセージについて議論し、国民農民党の議員（ちなみに彼らは当時野党だった)に答えて、彼は次のように宣言した。「人民党はシステムを通じて統治要素になることができる」アヴェレセウス将軍がキリスト教国防同盟の教義を採用した場合、自由党との輪番制。 」

このような声明は、殴られ、拷問され、不当な扱いを受けている何千人もの男性が、自分たちが犠牲になっている政府を非難する言葉を、自分たちの苦しみからの弱い救済として心配して待っているときに、議会のトリビューンの高座から発せられ、むしろ雰囲気を広めた。一般的な落胆のこと。

以下に、先ほど述べたスピーチの一節に関する公式モニターの発言を引用します。

「したがって、現在、国家のために、互いに補い合い、憲法の仕組みが正常に機能することを確保している、秩序の党、議題の党、政府政党という二つの成熟した政党、すなわち人民党と自由党が存在している。 。

「どちらも強固な基盤に基づいており、異なるものではあるものの、一般的で現実的かつ永続的な生産的利益によって支えられており、その存在とその行動の有効性を確実にしています。この国の政治的および憲法的組織の新たな仕事は、政府または野党として果たした責任と役割の尺度において、それぞれが協力した組織におけるパフォーマンスです。人民党は、国家の強化と国家の完全な統一に必要な、誠実な実践と誠意によって示されるあらゆる改善を通じて、この取り組みを継続する。

「自由党はルーマニアのブルジョワジーの利益、国の幸福に不可欠な正当な金融、商業、産業の利益の代表者である。

「人民党は、国家の経済組織を完成させるよう求められ、現実の基盤に基づいて国家の優れた利益の範囲内ですべての人々のニーズに関心を持ち、農業生産という一般的、現実的、永続的な利益を何よりも支持している。 、これは私たちの経済生活の主要な要素です。

「国民党は、社会的調和の中で国中に最も深く、最も広範囲に根を下ろしている…土壌の主人である農民たちに、彼らが果たすべき役割を与えたいと考えている。
ナに値する
国家の経済はその仕事とその数字に応じて変化する。

」(『オフィシャル・モニター』、1926年7月30日、395ページ）。

国民運動の指導者のこのような態度は不当である。ナショナリスト運動が、ルーマニアに降りかかった災難であり、「政治的」によって定められた運命とは異なる、この国の新たな運命を築くために痛みを伴う犠牲を払って戦ってきた災難としてナショナリスト運動が非難している政党にそのような称賛を与えること。政党を非難することは、自らの運動を死刑に処することと同じである。

自由党とアヴェレスカン党に代表される輪番制を称賛し、

あなたが生涯を通じて人民の敵として非難するということは、あなたが率いた国民運動から勝利の可能性を完全に排除することを意味し、同時にあなた自身が国民運動を全く信頼していないことを証明することを意味します。戦い、最高の犠牲を払い、勝利を信じ、生き、そのために死ぬ準備ができている英雄的な軍隊の指揮官が、戦闘中に何千人もの負傷兵を前に演説するとき、何と言うでしょうか？敵軍を称賛し、あなたの勝利を予測しますか？

勝利への希望を語る激励の言葉を聞く代わりに、敵の素晴らしい勝利の見通しについて自軍の指揮官が語るのを聞く哀れな軍隊はどうなるでしょうか？

何が起こるでしょうか ?部隊は士気を失って散り散りになるだろう。そしてまさにそれが起こったのです。国民運動の最前線にいた多くの戦闘員が絶望して去った。この奇妙な態度のせいで、連盟の議員らは不満を露わにし始めた。彼らは間違っていたと思います。彼らには、大統領と限られた指導者の範囲内での場合を除いて、不満を表明する権利がなかった。しかし、彼らは限界を超えてしまった。
このような状況下では、ランダムに発せられるあらゆる言葉は、運動の指導者自身によって引き起こされた不幸に関連して、さらなる不幸を意味する。徐々に、次々とグループの間違いが起こり、彼らの関係は冷え込んでいきました。ある日、十分な理由もなく、事前の検討もなく、また組織の規範や法律を尊重することもなく、副パウロ•イリエスクはキリスト教国防同盟から追放され、さらにクザ大統領は国会議員の誰にもそのことを知らせなかった。彼の決定は支持されたが、単に名誉ある職からの辞任を発表し、同時に同議員を議会から追放し、カンプルンの議席を空席とすることを要求した。これは、貧しい連盟の議員たちの頭を雷が落ちたように襲った。 2日後、ヤシから急いでやって来たスムレアヌ教授は、他の議員、イオン•ゼレア＝コドレアヌ、ヴァラー•ポップ、リアラルム•ヴァシリュー博士、カーラン教授も署名した通信文を下院に提出した。彼らは、連盟の細則では除外は委員会によって宣告されると規定されているため、クザ教授の発言は確かに時期尚早であったと主張したが、この場合は完全に闇の中だった。彼はこの男に何の罪もないことを知っていたが、追放されないよう求めたのではなく、ただ自分を守るために最初に裁判を受けてほしいとだけ願った。言い換えれば、連盟の規定が尊重されることを要求した。すべての人が守ることを誓った法律が遵守されること。

同じ頃、クザ教授にも同じ依頼が持ち込まれた。これらの介入の結果、スムレアヌ教授と私の父を含む署名者全員が連盟から追放され、その中にはクザ教授よりも連盟設立の功績があり、スムレアヌ教授自身が副議長となった者もいた。リーグ会長。これらすべても同様に、裁かれることなく追い出されました。何も言われずに。近寄られずに。私の見解では、クザ教授が組織の会長としての立場で使用した手順は、組織の健全性に最大の関心を払い、組織の存続を危険にさらす可能性のあるあらゆる段階で細心の注意を払うことが仕事であったため、次のとおりでした。根本的に間違っています。実際、特にリーグを率いていたグループを代表していた関係者を考慮すると、これは不公平であるだけでなく、まったく不必要でした。彼らはこの組織の創設者でした。クザ教授は運動への影響を予見していなかったので、この措置は実証されなかった。

彼らの追放直後に発行された『国家防衛』の特別号は、スムレアヌ教授と私の父を筆頭にこれらの人々がユダヤ人に身売りしたと主張し、このほのめかしを全土に広めた。国。 。

四半世紀にわたりクザ教授の変わらぬ友人であり、模範的な正しさを持つスムレアヌ教授が、この特集号でクザ氏の指示と助言のもと、恐ろしく不謹慎な攻撃を受けている。フルさんは反逆罪で告発され、悲しみで息が詰まりながら街を歩いていた。その後、彼はこれに応えて、「一部の友人の裏切り」というタイトルのパンフレットを出版した。彼の答えは、クザ教授が犯した間違いの結果にすぎませんでした。

この場合、クザ教授は不公平であるだけでなく、それ以上に不公平であると私は思います。
追放された人々も同様に不当な攻撃を含むビラを印刷するという間違いを犯したが、彼らの間違いはクザ教授の間違いに続いた。
これらすべての攻撃と反撃は、

ルーマニア戦闘員の大きな絶望と、ユダヤ人の大きな満足と嘲笑。私がフランスから帰国したのはこの段階でした。連盟から除名された議員が任期を務めることを許されるべきかどうかの問題が議会で議論されていた。

私は今でもこう自問します。「クザ教授がこうした措置を講じたとき、彼は何らかの提案や陰謀の犠牲になったのだろうか、それともこれが正しいことだと確信していたのだろうか？」

数日後、クザ教授の措置に動揺した数人の連盟メンバーが、その無効と規約の尊重を要求した。その結果、マクリデスク将軍、トライアン•ブライレアヌ教授、リルスタッシェ•ソロモン、カトゥネアヌ教授などがそのグループの排除につながった。一般に、追放された人々は全員ユダヤ人に売られたという噂が組織的に広まった。これらの噂を広めた積極的なエージェントの中には、それぞれクザ教授の右腕と左腕であるネクイセア大佐とリビウ•サドベアヌがいた。

追放された人々はその後、キリスト教国防法定同盟を結成し、彼らが同盟の規定内にいることを示した。このとき、クイア教授はヤシのベジャン•ホールで大規模な国民集会を招集し、約1,000人が集まりました。

彼らは、追放されたメンバーがユダヤ人に身を売ったという誤った根拠に基づいて追放を承認した。当時の運動の状況を理解するには、紙に書いたことだけで十分であると考え、片面に印刷された内容についての発言は省略し、ここで終了します。時間の経過（9年が経過）により、クザ教授が間違っていたことが証明されたことだけを付け加えておきたい。なぜなら、スムレアヌ教授も、ユダヤ権力から瀕死の打撃を受けた私の父も、クザ教授の名誉のためにそれほど重傷を負ったわけではないからである。マクリデスク将軍も、ガヴァネスクル教授も、トライアン•ブライレアヌ教授も、カトゥネアヌ教授も、ヴァシリュー博士も、カルラン教授も、モタ神父も、苦しんだことを誇りに思う人はいない。ユダヤ人に身を売った人は一人もいない。数年後、この災害が連盟を壊滅させた後、クザ教授は、自分が無残にも殺した旧友スムレ
アヌ教授のところへ行き、こう言いました。

「親愛なるスムレアヌさん、私はあなたに対して何も反対しません。平和を作りましょう！」
しかし、スムレアヌ教授は振り返り、去り際に「もう手遅れだ」と言いました。
スムレヌ教授が自分が受けた残酷な打撃を許したくなかったからではなく、そこには運動の残骸とルーマニアの希望が見えたからである。

この現状に対する私の反応

国民運動を打ち砕いたこの災害の真っ只中にフランスから到着したとき、私はまだ救えるものは救おうと思っていました。私は急いでヴァカレスティのグループと4つの大学センターの学生青少年リーダーの一部をヤシに呼びました。

私は若い集団を形成している師団を見つけたいと思っていた。年長の世代の間で消えつつあった憎しみの雰囲気が若者たちを包み込むのを防ぐためだ。当然のことながら、私は何よりもこのブロックを、私たちの間の不和と憎しみが国民運動の死を意味するという認識に基づいて置きたかったのです。このブロックが形成されたら、私は退役軍人の熱心な隊列に私たちの努力を向け、団結を再確立し、状況を救うために一定の圧力を加えたいと考えました。しかし、私の計画は失敗しました。若者はすでに焼きつくような憎しみの炎に包まれていたため、ヤシでは、若者と私の間に存在するあらゆる絆にもかかわらず、私の提案は彼らの心に何の反応も見られませんでした。

ヤシの学生指導部はその瞬間に経済イニシアチブの合図を送ることができたかもしれないが、残念ながら多くの弱い分子がそれを支配し、彼らの否定的な傾向が私の提案の受け入れを妨げた。私の意見を支持してくれたのは若い人たちの中でヴァカレスティ•グループだけだったので、これにイアジア人の学生を加えなければなりません。
10人か12人
ほどで、その中にはベテランのイオン•ブラナル、イオン•サヴァ、イオン•ボルデイヌ、ヴィクトル•シラーギが含まれていました。他には新しく到着したトランシルバニア人のグループ、イオン•バンカ、エミール•エレメイウ、ミスが率いる

Googleによる機械翻訳

クリサン。この国の若者の中から、私たちの周りに集まってきたのはこれら全員でした。

私は自分の計画を実行しました。

私たちは双方を見るためにブカレストへ向かいました。私たちはまず「規約」を見に行き、運動の団結を再確立するために必要なあらゆる犠牲を払うよう求めました。数時間の議論の後、彼らは条件付きで同意し、犠牲を払うことも厭わないが、将来的には法令を尊重することを主張した。

それから私たちはクザ教授に会いに行きました。しかし、彼は私たちの嘆願と推論に従い、拒否しました。その際の議論については明らかにしない方がよいと思います。

私たちは出かけた。落胆が私たちの魂を支配しました。構築されたものすべて、昨日の運動のすべての輝きは、幸運からの贈り物として来たわけではありません。すべては戦いから一歩ずつ、一歩ずつ成長していきました。私たちは重大な決断の重みを背負っており、数え切れないほどの危険、リスク、身体的、精神的苦痛に直面しています。
他のものよりも感動的なものもあります。私たちは体の健康と心の血液を提供してきました。私たちは日々苦労し、犠牲を払っています。
今ではすべてが灰になったかのように見えた。

マイケルの軍団

大天使

大天使ミカエルの軍団

前述の状況に直面して、私はどこにも行かないと決めたのは、自分自身が辞任するつもりではなく、若者を組織し、自分の魂と頭脳に従ってこの責任を引き受け、降伏するのではなく闘争を続けるつもりでした。こうしたあらゆる問題や岐路のさなか、私はヴァカレシュティ刑務所で私たちを守ってくれた聖像のことを思い出しました。

私たちは隊列を閉じて、同じ聖なる象徴の保護の下で戦いを続けることにしました。それを念頭に置いて、私たちはそれを 3 年前に置かれていた聖スピリドン教会の祭壇からヤシの自宅に運びました。

Vacaresti グループは私の計画にすぐに同意しました。数日後、私は1927年6月24日金曜日、ヤシのフロリロール通り20番地にある自分の部屋で、ヴァカレスティのグループとまだアメリカに残っている数人の学生たちを招集した。

会議が始まる数分前に、私は次の議題に関する本を読みました。

「今日、1927年6月24日金曜日（洗礼者聖ヨハネの祝日）、夕方10時に、私の指導の下、『大天使ミカエルの軍団』が設立されます。私たちの仲間に加わってください。疑惑は傍観しておきます。私はここにラドゥ•ミロノヴィチを聖像の護衛のリーダーに指名します。」

コルネリュー•ゼレア•コドレアヌ

この最初の会議は１分間で、私が上記の命令を読むのに十分な時間でした。その後、出席者たちは、それまでの愛国者としての私の人生と仲間の捕虜たちの人生を例にする以外に、このような組織に参加するのに十分な決意と勇気があるかどうかを考えるために去りました。私は、ヴァカレスティのグループに、一度入学したら残りの人生、ためらうことなく前に進まなければならないため、彼らが疑問や躊躇を抱いているように熟考し、意識を高めるための時間を与えました。

軍団が生まれた内なる感情は次のようなものだった。我々は勝利するか征服されるか、あるいは死ぬかなど気にしなかった。
私たちの目的は異なりました。一緒に前進することです。神の助けとルーマニア国民の正義のもとに、統一戦線で前進することは、我々を待ち受ける運命が何であれ、敗北であれ死であれ、祝福され、国民に実を結ぶことになるだろう。ニコラエ•イオルガ教授はかつてこう述べた、「国家を眠らせるような勝利があるのと同じように、国家を目覚めさせる敗北や死もある。」

同じ夜、同じ登録簿に登録し、クザ教授への手紙とスムレアヌ教授への手紙を編集しました。翌朝10時に、ヴァカレスティア人全員が集まり、コドレスク通り3にあるクザ教授の家に行きました。長年にわたる戦いと困難な試練の後、私たちは今、別れを告げるために彼に会いに行き、戦争から解放してくれるように頼みます。私たちがやったことを誓います。クザ教授は、28年前の私の洗礼の際に私を迎えてくれたのと同じ部屋で私たちを迎えてくれました。彼は机の後ろに立っていました。目の前の私たち。私は彼に次のように読んだ

手紙：

「主よ、

私たちが最後にあなたのところに来たのは、別れを告げ、私たちが交わしたすべての誓いから私たちを解放してくださるようお願いするためです。」私たちはもうあなたが歩んだ道を信じていないので、あなたに従うことはできません。それは不可能です。なぜなら、戦いにおける私たちの熱意を刺激したのは信仰だったからです。」頭脳と心の力を尽くして孤独に戦わなければならないという誓いから解放されることを懇願しながら、クザ教授は私たちに次のように語りかけた。

「親愛なる友人たち、私はあなたたちを誓いから解き放ち、これから自分の力で人生を歩むなら、間違いを犯さないように忠告します。なぜなら、特に政治において、間違いは非常に高くつくからです。例としてペトレ•カープ2世の政治的間違いを挙げています。」それは彼にとって致命的な結果をもたらしました。

私としては、あなたの人生が最高のものになることを祈っています。」

それから彼は私たち全員と握手をし、私たちは去りました。私たちはこのように進むことが正しいと考え、これが戦闘員としての私たちの尊厳が私たちにそうせざるを得なかった名誉ある方法であると考えました。

そこから私たちはサウレスク通りのスムレアヌ教授のところへ行き、ほぼ同じ条件で書かれたもう一つの手紙を読みました。その中で私たちは彼と彼の「法令」に私たちも同意できないので、自分たちでそれを制定するつもりであると伝えました。これからは私たちなりのやり方で。彼を離れて、私たちは砂漠にいるかのように孤独であることを心の中で感じ、自分たちの力で人生の道を築いていきます。

アイコンにさらに近づきます。より多くの困難が私たちを襲い、同胞の打撃が頭上に広がるほど、私たちはサンミゲル大天使とその剣の影の保護を求めるようになります。私たちにとって彼はもはやアイコンのような存在ではなく、まさに生き生きとした存在でした。私たちはアイコンのところで、夜も昼も交代で火のともったろうそくを眺めました。

物質と精神

私たちがリビングルームに集まったとき、私たち5人に加えて10人ほどの1年生と2年生がいて、私たちの決定を伝える手紙を何通か書こうと思ったとき、ミスター•ジョンはこう言いました。
フリスターシュ•ソロモンと他の人々は、私たち全員が一緒になっても、封筒や郵便物を買うお金さえないほど貧しいことに初めて気づきました。それまではお金が必要なときは先輩のところへ行ってお願い
していましたが、今では頼れる人がいなくなってしまいました。全くの無一文で政治団体を立ち上げる !物質が全能であり、どんなに小さなことであっても、最初に「自分はどれくらいお金を持っているのか？」と自問せずに何かを始める人がいないこの世紀において、それは困難かつ大胆なことでした。神は、軍団兵の闘争と勝利において、問題は何の役割も果たしていないことを証明したかったのです。

私たちは大胆な行動で、すべてを支配する考え方に背を向けました。私たちは自分自身の中の一つの世界を殺し、空のように高く別の世界を立ち上げます。物質の絶対的な支配は打倒され、精神の支配、道徳的価値観に取って代わられるようになりました。

私たちは世界における物質の存在、機能、必要性を否定しませんでしたし、今後も決して否定しませんが、物質の絶対的な支配権を否定しましたし、今後も永遠に否定しません。言い換えれば、私たちは金の子牛を中心に据え、人生の主な目的とする考え方に打撃を与えていたのです。私たちは、このように精神と物質の価値観が逆転した道を進んでいたら、勇気、力、信仰、希望をすべて使い果たしてしまうだろうということに気づきました。最初の始まりの中で、私たちは唯一道徳的なものを見つけました。

その強さは、生命の本来の調和、物質を霊に従属させることによって、私たちは逆境を制圧し、私たちを滅ぼす目的で団結した悪魔の勢力に勝利することができるという、揺るぎない信仰によってのみ得られるものです。

理由

お金の不足に加えて、私たちのスタートのもう一つの特徴は、プログラムの欠如でした。

私たちにはプログラムがありませんでした。そしてその事実は間違いなく大きな疑問符を引き起こすだろう。理性、誰かの頭脳、または複数の人々から始まったプログラムのない政治組織について誰が聞いたことがありますか?

似たものを感じた人たちが集まったのではなく、似たものを感じた人たちが集まったのです。私たちの中で同じように論理的に考えた人たちではなく、同じ道徳的感情的思考を持った人たちでした。

精神的な構築。

これは、別の女神の像である理性が破壊される前兆でした。人間が神に対して提起したものを、私たちは捨てたり軽蔑したりするつもりはなく、神と人生の意味への奉仕として、適切な場所に置かなければなりません。もし私たちにお金も計画もなかったとしても、代わりに私たちの魂の中に神がいて、神は無敵の信仰の力で私たちを鼓舞してくださいました。

治療に反対

私たちの誕生は憎しみと嘲笑の嵐で迎えられました。リーグの2つの陣営、カジストと法定派は、我々との関係を断絶した。ヤシの生徒たちは全員私たちのもとを離れ、これまで法定者たちに向けられていたフージスト*の攻撃は今後私たちに向けられ、矢のように私たちの心に突き刺さることになるでしょう。

私たちは矢による傷によって害を受けることはありませんが、人々に何かを発見することを恐れるでしょう。つまり、私たちはこれまでに行ったことすべてに対して最も重い侮辱を受けて報われ、名誉を与えられ、次から次へと打撃を受けることになるのです。私たちは憎しみを感じるだけでなく、彼らの裸の中に人格の無さと魂の腐敗を見ることになるでしょう。すぐに私たちは自分たちの利益のために「国家理念の搾取者」になるでしょう。私たちはこんな人たちが信じられなかっただろう。

一年前、苦しみを装ったことへの報酬を求めて拳で胸を叩いた人々が、今なら私たちの面前で今述べた非難を投げかける勇気を持っているだろう。すぐに人々は我々がユダヤ人に売った事を知ることになるだろう」そして侮辱に満ちた記事さえ書かれ、信じる農民と我々に背を向ける人々が現れるだろう。不当だ！

以前は敵が恐れを抱いて私たちに対して決して行使しなかった侮辱が、今や私たちの友人たちから恐れることなく、恥じることなく発せられるようになりました。

あまりにも多くの苦しみを経験し、あまりにも多くの虐待に身体を耐えてきた私たちが、そのような悪名を轟かせることができる、つまり、自分たちを集団として敵に売り渡すことができるということが本当であるならば、そのとき、もう何も残されていないでしょう。私たちにできることは、この人々にダイナマイトを投げ込んで爆破することだけです。それ。このような子供たちを懐で産み育ててきた民族は、もはや生きる価値がない。

しかし、もしそれが真実でないとしたら、これらの嘘をでっち上げ、広めた者たちは、自国の将来と運命に対する国民の信頼を奪う悪党ということになる。
このような人々にとって、自国からのいかなる罰も十分に大きいものではありません。
もし彼らが取り組んでいる厳しい闘争の最中に、最も神聖な希望を託して腕に抱かれて育った私たち子供たちが彼らを裏切ったと聞いたら、この人民は勝利と将来にどれほどの自信を持つことができようか。 ？

私はこの日々を、その日々を生きた私たちの記憶の中にだけ残しておきます。当時の私の同志であり、当時の証人である彼らに、私はこう言いました。「このピグミーたちを恐れるな。そのような魂を持った者が誰であっても勝つことはできないからだ。いつか彼らがあなたの足元にひざまずくのを見るだろう。決してやめてください。」 「彼らを許してください。彼らがそうしないのは、犯した罪に対する後悔からではなく、裏切りからです。そして今、たとえすべての不純な幽霊を伴う地獄が私たちに直面しても、私たちは毅然とした態度でそれを克服します。」
」

その瞬間まで、私は人間の中に野獣があることを知っていました。今、私はその男の中に悪党を見ました。あなた自身とルーマニア国民の今日と明日の子供たち、そして世界中のあらゆる人々を、この恐ろしい疫病、つまり裏切りから守ってください。

私たちが裏切り者になりたいのであれば、あらゆる知性、あらゆる学習、あらゆる才能、あらゆる教育は役に立ちません。

友達に対しても最大の敵に対しても裏切り行為をしないよう子供たちに教えてください。
勝てないばかりか、負けるどころか、打ち砕かれることになるだろう。また、裏切り者とその裏切りのやり方に対して裏切りを使うべきではありません。なぜなら、彼らが勝てば変わるのは人々だけだからです。裏切りは変わらない。勝者の裏切りは敗者の裏切りに取って代わられるだろう。本質的には、同じ裏切りが世界を支配することになる。

* クザ教授一行（Tr.)のメンバー

世界の裏切りの暗闇は他の暗闇で置き換えることはできません。人格と名誉に満ちた勇敢な魂によってもたらされる光によってのみ置き換えられます。

しかし、この憎しみと裏切りの洪水のまさに始まりに、彼らに希望を与える避難所として私たちのところにやって来たのが、あの偉大な名誉と良心のある男、クライム技師、ハリスタシュ•ソロモンだった。
エンジニア•ブラナール、弁護士ミル•レフター、

アンドレイ•C•イオネスク、アレクサンドル•ヴェントニッチ、ドゥミトル•リフリム、コサチェスク、イオン•ブナル、イリエロディーコン•イシヒッチ•アントヒッチなど。

同盟のこれらすべての著名な戦闘機や退役軍人は、今や私に、海の真ん中で船が沈み、疲れて心配しながら私たちの小さな島に上陸した難破した魂のような印象を与えました。そこで彼らは心の平和と自信を見つけることができました。未来。

マクリデスク将軍は私たちにこう言い

ました。「私は年をとっていますが、私はあなたたちと一緒に行き、あなたたちを助けます。ただ一つの条件がそれです。名誉を持たない人々と握手をしないことです。もしそんなことをしたら私は嫌になるでしょうから」そうすれば私はあなたに対するすべての希望を失うでしょう。」

イオン•ガヴァネスクル教授は私たちと私たちがやっていることに対して興味を示し始めました。

軍団生活の始まり

私たちの最初の小さな人生には 4 つの行が記されていました。 1. 神への

信仰。私たちは皆、神を信じています。私たちの中には無神論者はいませんでした。私たちが孤立して囲まれるほど、私たちの関心は神に向けられ、私たち自身の死者や国民の死者たちとの関わりが強くなりました。

これにより、私たちはあらゆる打撃に対して無敵の強さと輝かしい静けさを与えられました。

2. 私たちの使命を信頼してください。私たちが勝利する可能性がある理由は誰にも説明できませんでした。私たちは非常に少数で、非常に若く、非常に貧しく、誰からも嫌われ、嫌われていたため、事実に基づいていない議論はすべて成功の見込みがありませんでした。それでも私たちは、おかげで先に進みました。私たちの目的に対する自信、私たちの使命と私たちの国の運命に対する限りない自信、3. 私たちの相互愛。私た

ちの中には、以前から知り合いで親密な友情を築いていた人もいましたが、会ったことのない大学 1 年生や 2 年生の若者もいました。最初の日から、まるで同じ家族の一員で、子供の頃からお互いを知っているかのように、愛情の雰囲気が私たち全員の間に確立されました。

これに抵抗するには、内なるバランスが必要であることは明らかでした。私たちの共通の愛情は、外部からの憎しみの波に匹敵するのと同じ強さと強さを持っていなければなりませんでした。この巣での私たちの生活は冷酷な公式生活ではなく、首長と兵士の間に距離があり、演劇的で修辞的な発言があり、リーダーシップをとっていると思われる雰囲気があった。私たちの巣は暖かかったです。私たちの関係はまったくカジュアルなものでした。誰かが寒い兵舎に入るのではなく、自分の家に、自分の家族の中に行きました。そして、人は命令を受けるためだけにここに来たのではなく、ここで愛の光、精神的な静けさの時間、励ましの言葉、安堵の言葉、不幸や困っているときの助けを見つけました。

軍団兵には、兵舎の規律という意味では、礼儀作法、信仰、献身、仕事への熱意といった規律があまり求められなかった。

4. 音楽。おそらく、私たちはプログラム、矛盾した議論、哲学的議論、講義を組み立てることによって理性の道を歩み始めていなかったため、私たちの親密な感情を表現する唯一の可能性は歌うことでした。私たちは自分の気持ちが満たされる歌を歌いました。 「そこ、黒い岩の上に」 シュテファン大王の歌は、そのメロディーが当時から今に至るまで、世代を超えて変わることなく残っていると言われています。 500年前、ステファン大王はこのメロディーを聞きながらスチャヴァの砦に意気揚々と入城したと言われています。私たちが歌っているとき、ルーマニアの壮大さと栄光の時代が生きているように感じました。私たちは沈みます

歴史上 500 年前、ステファン大王とその兵士や射手たちと触れ合いながら、しばらくそこに住んでいました。 「Like a Globe of Gold」、マイケル•ザ•ブレイブの歌。アブラム•イアンクの歌。 「ラッパをもう一度鳴らそう」、1917年の陸軍歩兵学校の行進。

Iustin Iliesu と Istrate によって書かれた「Rise Romanians」は、私たちが軍団の国歌として宣言しています。歌うことができるためには、ある心の状態、つまり内なる調和が保たれていなければなりません。誰かを盗もうと決意している人は歌うことができませんし、他の間違いを犯そうとしている人もいません。また、魂が仲間への妬みと憎しみに蝕まれている者も同様である。魂に信仰がない者も同様である。

だからこそ、今日と明日の在郷軍人兵の皆さんは、在郷軍人の精神に方向転換する必要を感じたときはいつでも、私たちの運動の基礎を形成する私たちの原点であるこれらの 4 つの行に立ち返らなければなりません。音楽があなたを導いてくれるでしょう。歌えなくなったら、病気があなたの霊的存在の底を蝕んでいるか、人生があなたの罪のない魂を罪で満たしていることを知らなければなりません。そして、これらの罪を取り除くことができない場合は、歌を歌うことができる人たちに自分の場所を残して、背を向けなければなりません。私たちは上記の方針に沿って人生を追求し、早い時期から行動を開始しました。私は命令を受け取り、命令を与える指導者を任命しました。

私たちは、派手なアクションを起こすことから始めたわけではありません。問題に遭遇したとき、私たちはそれを解決することに取り組みました。私たちの最初の行動は、サンミゲル大天使のアイコンが置かれていた家の部屋を修復することでした。

私たちは絵を描き、床を拭き、レジオネラの女の子たちはカーテンを縫い始めました。そこで軍団兵たちは、私が福音書や他の著作から集めたさまざまな格言を書き留めました。彼らは私たちの壁を美しくしてくれました。その一部をご紹介します。「神は私たちを勝利の戦車に乗せて運んでくださいます。」

「どちらが勝っても……私が彼らの神になります。」

「剣を持っていないなら、マントを売って剣を買え。」

「信仰のために勇敢に戦え。」

「肉的な快楽は避けてください。魂を殺すからです。」 「気を付けてください。」

「あなたの中のヒーローを壊さないでください。」

「幸運の兄弟たち…のように不幸。"

「死に方を知っている者は決して奴隷にはならない。」

「祖国の復活と裏切り者の大群の滅亡を楽しみにしている」など。

1週間後には本社が設置されました。

私たちの 2 番目の行動は別の性質のものでした。それは、外部からの攻撃に対して私たちがどのような態度を取るべきかに関するものでした。私たちは彼らに応じないことに決めました。それは私たち全員にとって非常に困難でした。私たちの道徳的存在は引き裂かれようとしていた。しかし、これは英雄的な抵抗の瞬間でした。もう一つの行動は、誰も誰かを軍団兵になるよう説得しようとしてはならないということです。

いつものマンゴーの引き抜きや枝釣りは私をいつも不快にさせました。この制度は、今も昔も軍団精神に反するものであり続けています。私たちの見解を簡単に述べさせていただきます。

入りたい人は誰でも来ます。そして受け入れられれば入ります。

しかし、誰が来ていたのでしょうか ?私たちと同じ精神的な本質を持った人々。

多くの ?とても少ないです。 1年後のヤシでは、初日よりも2人か3人しか増えていなかった。しかし、国の他の地域では、私たちの存在を知って参加する人が増えました。

私たちに近づいてきた人たちは皆、はっきりと目に見える 2 つの明確な線によって特徴付けられていました。 1. 素晴らしい魂の修正。

2. 個人的な関心の欠如。私たちの中には、何の利益も得られない人はいません。有望な展望は開けなかった。ここでは、誰もが魂、富、命、愛と信頼の能力を与えるだけで済みました。

たとえ、間違った人間や興味に動機付けられた人が参加したとしても、ここには良い環境が見つからなかったため、彼は私たちと一緒にいることはできませんでした。彼は自動的に去り、一ヶ月、一年、二、三年、後退したり、脱走したり、裏切ったりした。

私たちのプログラム

この若者の巣は軍団生活の最初の始まりであり、最初の礎石でした。彼は堅い地面の上に置かれなければなりませんでした。だから私たちは「ルーマニアを征服しましょう！」とは言わなかったのです。

村々を巡り、「新しい政治組織が結成されました。皆さん登録しに来てください！」と叫びましょう。私たちは、既存の 10 の政治綱領を超える新たな政治綱領を草案していませんでした。

この国は、著者や支持者の目にはどれも「完璧」です。そして私たちは村にプログラムを広めるために軍団を派遣し、土地を救うために人々にプログラムに参加するよう呼びかけません。

この点で、繰り返しになりますが、私たちはフージストを含む他のすべての政治組織とは根本的に異なります。彼らは皆、この国は良いプログラムの不足で瀕死の状態にあると信じていた。その結果、彼らはシームレスに統合されたプログラムをまとめ、支援者を集め始めました。だからこそ、誰もが「あなたのプログラムは何ですか?」と尋ねます。

この国が死につつあるのは、プログラムの不足のためではなく、人材の不足のためである。少なくともこれが私たちの意見です。言い換えれば、これは私たちが持つべき計画ではなく、政治家で構成され、ユダヤ人の影響に感染した今日の国民のあり方からすれば、人々、新しい人々が、最も輝かしい政治計画を危うくすることになるだろう。

私たちが歴史上知っているルーマニア政治の中で今日も生きているそのような男です。
彼の統治下で国々は滅び、国家は崩壊した。
ユダヤ人と政治制度が私たちに与えた最大の危害、彼らが私たちをさらした最大の国家的危機は、ルーマニアの土地と下土の横領でも、ルーマニアの中産階級や多数のユダヤ人の悲劇的な絶滅でさえない。私たちの学校や職業などにユダヤ人の数が含まれており、彼らが私たちの政治生活に及ぼす影響さえありません。ただし、それらのそれぞれはそれ自体が私たちの国民にとって致命的な危険です。最大の国家的危機は、彼らが我が国のダコ•ロマネスク的人種構造を歪め、醜くさせ、この種の人間を生み出し、この人間の排泄物、この道徳的欠陥を生み出したという事実である...我が国の高貴さと何の関係もない政治家が人々。もっと走ってください。もしこの種の男が「この国を指導し続ければ、この堕落した生き物の「策略」によって幻惑できる素晴らしい計画にもかかわらず、ルーマニア国民は永久に見て見ぬふりをし、ルーマニアは崩壊するだろう」不幸な群衆の目。

ユダヤ人の侵略によってもたらされたすべての疫病の中で、これが最も恐ろしいものです。

野蛮人の侵略以来今日に至るまで、私たちルーマニア人が接触し、戦ってきたすべての民族は、物理的、経済的、または政治的レベルで私たちを攻撃し、私たちの道徳的、精神的な遺産、つまり早かれ遅かれ生じた良心を手つかずのままにしてきました。私たちの勝利、外国のくびきの打ち砕き、たとえ彼らが私たちを大群で攻撃し、私たちの富をすべて奪ったときでさえ、彼らが私たちを政治的に統治していたときでさえも。

今、ルーマニア人は、我が国の歴史上初めて、剣ではなく、ユダヤ民族特有の武器で我々を攻撃する民族に対峙している。彼らはまずその武器で人々の道徳的本能を攻撃し、麻痺させ、その後組織的に広める。あらゆる種類の道徳的病を引き起こし、あらゆる反応の可能性を破壊します。これが、我が国の人々が武装解除され、敗北を感じている理由です。

この状況を見た結果として、軍団が立っている基礎となるのは政治的綱領ではなく人間である。政治的プログラムの改革ではなく、人間の改革です。
「大天使ミカエルの軍団」は、言い換えれば、政党というよりはスクールや軍隊となるだろう。この危機的な時期に、ルーマニア国家は多くの人が誤解しているような偉大な政治家を必要としているのではなく、悪の権力を打ち破り、悪者集団を鎮圧できる偉大な教育者であり指導者を必要としている。しかし、そのためには、まず彼自身と部下の中にある悪を征服する必要があります。この軍団学校からは、英雄的な資質を備えた新しい人間が現れなければならないだろう。の巨人

私たちの歴史は、祖国のすべての敵と戦い、征服するものであり、彼らの戦いと勝利は物質世界を超えて、目に見えない敵、つまり悪の力の領域にまで拡張されなければなりません。私たちの心が想像できる、霊的に最も美しいものすべて。私たちの種族が生み出すことができる、より誇りに満ちたもの、より偉大で、より公正で、より強力で、より賢明で、より純粋で、より勤勉で、より英雄的なもの、これこそが軍団学校が私たちに与えるべきものなのです !神によって人類の血の中に埋め込まれた人間の偉大さのあらゆる可能性が最大限に発揮される男。

軍団教育の成果であるこの英雄は、計画の立案方法も知っています。ユダヤ人問題の解決方法もわかるでしょう。彼は国家をうまく組織する方法も知るだろう。他のルーマニア人を説得する方法もわかるでしょう。そうでないとしても、彼は勝つために屈する方法を知っているでしょう、それが彼がヒーローである理由だからです。この英雄、勇気、勤労、そして正義の軍団長は、神が魂に植え付けた力を持ち、我が国を栄光の道に導くでしょう。

新しい政党は、それがたとえクージストであっても、せいぜい私たちに新しい政府と新しい政権を与えることができます。しかし、軍団学校はこの国に立派なルーマニア人を育てることができる。それは、私たちがこれまでに経験したことのない大きな何かを生み出す可能性があり、それは私たちの歴史全体を真っ二つに引き裂き、この人々が受ける権利のある別のルーマニアの歴史の始まりの基礎を築く可能性があります。

なぜなら、我が国の民族は、その苦しみやさまざまな苦悩のおかげで、魂の純粋さと勇敢さのおかげで、おそらく全歴史の中で、他国を侵略し征服するという罪を一度も犯さなかった世界で唯一の民族だったからです。

私たちは英雄的な人間が生まれ成長できるような雰囲気、道徳的環境を創り出さなければなりません。この媒体は可能な限り最高の精神的強化によって世界の他の部分から隔離されなければなりません。卑劣さ、汚職、放縦、そして国家を葬り個人を殺すあらゆる情念といったあらゆる危険な風からこの国を守らなければならない。軍団兵はそのような環境、つまり巣*、職場、軍団組織、家族の中で成長すると、生きるために、正しいことを学ぶために世界に送り出されます。戦うこと、勇敢さと強さを学ぶこと。働き、忠実であり、働くすべての人を愛すること。祖国への奉仕のために、苦しみ、強化し、犠牲を払い、私利私欲を克服することに慣れること。

どこに行っても、同じ性質の新しいメディアが作成されます。彼はその一例となるだろう。他人を軍団兵に変えてしまうだろう。そして、より良い日々を求めて人々が続きます。
新しく到着した人々は、軍団での生活と同じ規範を尊重し、生活しなければなりません。全員が同じ軍隊に集まり、戦って勝つための部隊を形成します。それが「大天使ミカエルの軍団」のあるべき姿です。

ルーマニアの公共生活の側面

次に、私は「大天使ミカエルの軍団」が形成されつつある最中、そしてそれに対抗して形成されていた私たちの公的生活の一般的な側面を紹介します。アベレスク政権は約1カ月前に崩壊していた。 1927 年 7 月 7 日、自由党が政権を獲得しました。
新たな選挙が行われ、いつものように政府が過半数を占めた。しかし政府は、いかなる手段を使っても国民農民党への大きな支持の流れを乗り越えなければならなかった。ルーマニア国民の貧しい大衆は、政党から党へ、約束から約束へと急ぎ、何世紀にもわたる信頼で最も誠実な希望を各党に結びつけたが、最終的には騙され落胆し、すべての希望が打ち砕かれた。そして、これは、ある日、彼らが利益と略奪のために窃盗団の手に落ちたことを最終的に理解するまで、当てはまり続けるでしょう。自由党、アヴェレスカン党、国民農民党の 3 つの主要政党と、いくつかの小規模政党がありました。基本的に、形式と個人的な利益の違い以外には、両者の間に区別はありませんでした。形式が異なっても同じものです。彼らには意見の相違を正当化する理由さえありませんでした。

彼らの唯一の本当の動機は私利私欲の宗教であり、国家のあらゆる願望やより高い利益は無視されていました。だからこそ、政治闘争の光景はうんざりするものだった。お金、個人的な状況、富と快楽、略奪の探求は、これらの闘争に容赦ない敵意の側面を与えました。政党は、お互いを憎み、略奪品を求めて争う本物の組織化されたギャングのように見えました。

祖国のため、あるいは個人的な利益、利己主義、欲望を克服する理想のための闘争だけが、情熱を盲目的に解き放つことなく、穏やかで、まともで、高貴です。
熱意を注ぐことはできますが、卑劣で盲目的な情熱を注ぐことはできません。
これらの闘争に含まれる憎しみと卑劣さは、それらが崇高で神聖な、または原則的な理想の領域ではなく、最も恥ずべき私利私欲の哀れな深みで戦われたことを十分に証明しています。

政治家の世界は、ますます士気が低下する国の背中に乗って、最も忌まわしい不道徳の中で、豪華でスキャンダラスなパーティーで展開されている。あなたのニーズに誰が注意を払うべきでしょうか?

これらの政治家は、家族や代理人とともに、政治的顧客を祝い、楽しませ、票と人間の良心を買うためにお金が必要です。彼らは一人、また一人と、略奪をするために大挙してこの国にやって来ます。結局のところ、それがあなたのルールの意味するところです。彼らは州、市役所、市庁舎の予算を空にします。彼らはあらゆる企業の取締役会にダニのように張り付き、そこから疲れ果てた労働者の汗と血で何百万ドルもの給与を難なく集めます。彼らはユダヤ人の銀行家の役員に名を連ねており、祖国を裏切った代償として数百万ドル以上の手数料を受け取っている。

彼らは同胞を驚かせるようなスキャンダラスなビジネスを生み出します。汚職は、最も卑しい使用人から大臣に至るまで、疫病のように公的生活に蔓延します。彼らは誰にでも自分自身を売り込みます。金があれば誰でもこの怪物たちに賄賂を渡すことができ、彼らを通じて国中を賄うことができる。だからこそ、圧迫された国が彼らにお金を与えることができなくなると、彼らは我が国の富を外国銀行家の連合体に一つずつ引き渡し、こうして我が国の独立を放棄するのです。ルーマニア中にはまさに無数のビジネスマンが蔓延しており、彼らは働かず、何も生産せず、国の活力を吸い取っている。

これらは政治家の搾取です。悲惨さ、士気の低下、絶望が下層階級に広がった。何万人もの子供たちが病気と飢えによってなぎ倒されて死亡し、疎外された政治家に支援され国家機構全体に守られている組織化されたユダヤ人に対する人々の抵抗力が弱まっている。少数の誠実な政治家、おそらくいくつかの点で、おそらく政党指導者でさえ、他のことは何もできません。彼らは、ユダヤ人マスコミ、ユダヤ人または外国の銀行家、そして彼ら自身の政治的同僚の手中にある哀れな操り人形のようなものです。

この混乱、この士気の低下、この感染は、この国で私たちに代わって私たちの富を完全に盗むために、私たちの破滅に関心を持つユダヤ人の集団全体によって段階的に支援されています。ルーマニアの印刷機関の役割を奪った彼らの印刷機関、何百枚もの汚い紙、不道徳で無神論的な文学、放縦を広める映画館や劇場、銀行を通じて、ユダヤ人は我が国の主人となった。

誰が彼らに反対できるでしょうか ?今日、彼らは災害とその出現の推進者であるとき。それは私たちの国家の死の兆候です、誰が彼らに立ち向かうでしょうか ?

国民運動は地面にひれ伏す。最近の選挙では、連盟の得票数は 7 万票少なく、総得票数は 5 万票未満、全国で 2% 未満でした。
昨日は10人の国会議員がいたが、今日は誰もいない。軍団兵がこの怪物にどう立ち向かうのか、そして生死を賭けた戦いでどう立ち向かうのかを知る日が必ず来るはずだ。彼は一人です。

Googleによる機械翻訳

この世界に対する私たちの思い

その全能の力の強さに比べて、私たちの少数のせいで、私たちはしばしば次のような疑問を自分自身に問いかけてきました。「非合法化されたらどうするのか?」もしこれらのヒドラが私たちの計画を実行するなら、彼らは私たちの前にあらゆる障害を置き、粉砕しようとするでしょう。

私たち。

彼の目は私たちに釘付けになっています。彼らは私たちを挑発する可能性があります。かつて私たちが静かに平和的にウンゲニで働き始めたとき、彼らは私たちに同じことをしました。それで彼らは私たちを深淵の端に連れて行きました、私たちの計画がすべて成功することを願っています。彼らが私たちを挑発したらどうするでしょうか ?刑務所で骨が腐って計画が失敗しないように、もう一度ピストルを抜いて発砲しましょうか。そのような見通しを垣間見て、ルーマニア人がすべての敵の大群と戦うことを受け入れた山への退却という考えが私たちの心の中に芽生えました。山は長い間、私たちの生涯にわたって私たちの近くにありました。彼は私たちを知っています。荒れ果てた恐ろしい牢獄で体が枯れ、血管の血も枯れるよりは、信仰のために山の中で最後の一人まで死んで命を終えるほうがよいのです。したがって、私たちは再び鎖につながれていることに気づくという屈辱を拒否します。私たちはそこから攻撃し、すべてのユダヤ人のスズメバチの巣を襲撃します。

* 軍団組織の基本単位。 (Tr.)

そこで私たちは木々や山の生き物たちをさらなる荒廃から守ります。そこに、私たちは死と慈悲を広めます。

私たちは捕らえられて殺されるために送られるでしょう。逃げよう、隠れよう。私たちは反撃します。そして最後には必ず打倒されるだろう。そこで。それはルーマニアの大隊と連隊から指名手配されている我々のうちの数名だろう。そうして私たちは死を迎えることになるのです。私たち全員の血が流れます。

この瞬間がルーマニア国民に向けた最大の演説となり、そして最後の演説となる。

私はモタ、ガルニータ、コルネリュー•ジョルジェスク、ラドゥ•ミロノヴィチに電話して、これらの考えを共有しました。私たちは今後の良い日も悪い日も考えなければなりませんでした。私たちは解決策を用意し、あらゆることに備える必要がありました。私たちを驚かせるものは何もありません。私たちはこの国の法律に従い、誰も挑発せず、あらゆる挑発を回避し、いかなる挑発にも応じません。しかし、私たちがもはや苦しむことができなくなったとき、または克服できない障害が私たちの前に置かれたとき、私たちの道は山に向かう必要があります。

大規模な反乱を試みることは得策ではありません。この日、彼らは大砲で殺され、不幸と悲しみが広がるだけになるでしょう。
それどころか、私たちは限られた人数で、自分自身の責任においてのみ単独で仕事をしなければなりません。

全員が同意した。

「私たちの血、20人の若者の血がこの国の罪を救わないはずがない」と彼らは言った。私たちのこの犠牲がルーマニア人に理解されないはずはなく、それが彼らの魂と良心を震えさせず、これがルーマニア人にとっての出発点、復活の点を構成しないはずはありません。

」

ルーマニア人。

このような形での私たちの死は、最終的には私たちの人生のすべての挫折した努力よりも、この人々にとってより良いことをもたらすかもしれません。私たちを殺そうとしている政治家でさえ、罰せられないわけではありません。

私たちの仲間の中にも私たちに復讐する人たちがいます。人生では勝てないが、死ぬことで勝つ。その後、私たちは死ぬという思いと覚悟を持って生きています。何が起ころうとも、私たちは勝利への正しい解決策を持っていました。それは私たちに心の平安と力を与えてくれました。それは、どんな敵や私たちを破壊しようとするあらゆる試みに直面しても、私たちを笑顔にさせてくれるでしょう。

Googleによる機械翻訳

軍団の発展段階

パマントゥル•ストラモシェスク(「先祖代々の土地」)

私たちは 1927 年 6 月 24 日に生まれました。数日後、私たちは本社を占領しました。今、私たちは自分たちの影響力の領域を拡大し、その中で私たちの生活の規範を定式化し、それを通して運動を方向付けるために、自分たちの出版物を持つべきだと感じました。何と呼べばいいでしょうか? 「新世代」が提案されました。それが気に入らなかったんです。それは定義のように感じました。私たちを別の世代と区別しましたが、それは機能しません。 「古代の土地」これをその名にしましょう。この称号は、私たちを祖先が眠る祖国の土地に結びつけるものです。守らなければならない土地。それは私たちを未定義の領域に深く落とし込みます。それは単なる名前ではなく、戦いへの絶え間ない呼びかけ、勇気への呼びかけ、そして私たちの種族の戦士としての資質の目覚めとなるでしょう。

さらに、数ページ前に述べた特質に加えて、このタイトルは軍団兵の魂のもう一つの構造的特徴、すなわち勇敢さ、それがなければ人間は不完全であることを強調しています。

なぜなら、ある人がただ公正で、正しく、献身的で、忠実で、勤勉であるだけで、不謹慎で不誠実で不当な敵と戦うことを可能にする英雄的な資質を欠いている場合、その人は彼らの手で死ぬことになるからです。ここで私たちはすでに動きの軸が定まっています。一方の端は私たちの故郷の土地に根付いており、もう一方の端は天、つまり「祖先の地」と大天使ミカエルに根付いています。しかし、役割にはお金がかかりますが、私たちにはありませんでした。何しようか ?私たちはモタ神父に手紙を書いて、オラスティエにあるリベルタテア(「リバティ」)の古い印刷所でクレジットで印刷してほしいと頼むことにしました。彼は受け入れた。彼は私たちの新聞を印刷し、私たちは購読料と売り上げとして彼に支払いました。 「A Terra Ancestral」第 1 号は 1927 年 8 月 1 日に隔月刊誌形式で発行され、表紙の中央にサンミゲル大天使のアイコンが描かれました。アイコンの左側には、聖ペテロのアイコンから次の言葉が転載されていました。

アルバイウリアの戴冠教会の大天使ミカエル:「最も純粋な主の宮に入る不純な心に、私は容赦なく剣を向ける。」

そして右側はコスブクの詩「デセバルと彼の民へ」の一節です。

「我々は神の子孫であるとはいえ、死という負債を負っている。若くして死ぬのも腰の曲がった老人になるのも同じだが、ライオンや鎖に繋がれた犬として死ぬのは同じではない!」下のルーマニアの地図は、ユダヤ人の侵略の範囲を黒い点で示しています。

初版の内容

「古代の土地」と題された主要記事は、連盟内の紛争後の国民運動の状況を掘り下げ、私たちの立場を説明するよう努めています。

嘆願で終わります。 「敵に立ち向かえ!」コルネリュー•Z•コドレアヌ、イオン•モタ、リー•ガルニータ、コルネリュー•ジョルジュスー、ラドゥ•ミロノヴィチの署名が入っている。 2 番目の記事には、「あなたの時間です、来てください」という私の署名があります。最初の記事で取り上げた同じ考え方の続きです。 3番目は、多くの学生運動の戦いに参加し、私たちに愛着を持ったが、軍団兵にはならなかった才能ある若い戦士、イオン•サヴァと署名した。見出しは「選挙結果」。

数日前に死去したフェルディナンド王の死を題材にした短い劇画が続く。彼の写真の上には黒枠で「私たちの王」というタイトルがあった。

彼は死んだ。

これに続いて Mota の記事が続き、その一部をここに再掲します。

アイコン別

「イコンと祭壇から始まり、それからしばらくは人の波に流されてさまよう」

* 1922 年 10 月 15 日にフェルディナンド国王とマリア王妃が戴冠式を行ったアルバ ユリアの教会の通称。(Tr.)

そして、私たちの衝動が純粋であるにもかかわらず、私たちは岸に到達しません。今、私たちは、重く、散り散り、引き裂かれた心を抱えて、唯一の温かさと慰め、力と安らぎ、力を与えてくれる避難所に集まり、イエス•キリストの御足もと、まばゆいばかりの天国の輝きの入り口に、アイコン。私たちは人生で一日たりとも政治に関与しません。私たちは宗教を持っており、信仰の奴隷です。私たちは彼の炎の中で身を焼き、完全に彼に従い、力の限界まで彼に仕えました。私たち自身にとって敗北や武装解除はありません。なぜなら、私たちが望むツールである権力は永遠に無敵だからです。

「現時点では、旧リーグ崩壊の原因について詳しく議論することはできない。
ただ言えるのは、新たな創造のこの瞬間に、誕生する新しいシステムの性格を刻み込むために、私たちは明確かつ断固としてこう言いたいということだけです。「ルス•デ•ルス……」

その後、記事は新しい組織についていくつかのヒントを与え、勝利への信念の表明で終わります。

Corneliu Georgescu の記事からの抜粋:

信仰の灯火を灯す

「古代の年代記は、その昔、神々がその罪のために古代ヘラスに厳しい裁きを下したと伝えています。アジアの荒野から、ギリシア軍よりも何倍も強力な大軍が嵐のようにこの国の平原に降りてきました。田畑を荒らし、都市を破壊し、寺院を荒らし、軍隊を引き裂きました。軍隊は勇敢ではあったものの、成功した抵抗に対抗するには数が少なすぎました。

それ以上の抵抗には遭わず、勝利したメディア人は、アポロンの最も有名な神殿の場所であるデルフィでギリシャの中心部に侵入しました。神殿の祭司たちは、間もなく敵が聖なる神殿を冒涜するかもしれないという恐怖に震えた。
大祭司だけが恐れませんでした。神の力に自信を持って、彼は仲間の司祭たちに向かってこう言いました…
「恐れるな、神には軍隊は必要ない。
彼自身が私たちを守ってくれるでしょう！'

「そして大祭司と他の者たちは祈り始め、彼らの祈りは奇跡をもたらしました。
自信に満ちたペルシア軍が神殿の数歩以内に近づくとすぐに、パルナッソス山が揺れ、耳をつんざくような雷鳴をあげて石を斜面に転がし、敵を打ち砕いた。どこからともなく落ちてくる稲妻が彼の破滅を完了させたので、ほんの一瞬前の大軍勢のうち、この天の奇跡について語る者はほとんど残っていなかった…

「ファイターズ！ 勝利と勝利が得られるという信仰の灯火を再び魂に灯せ
私たちのもの。"

次に、ラドゥ•ミロノヴィチから故郷の村にいる兄弟の一人に宛てた手紙が続きます。
彼が意気消沈していることを知っている彼は、「もちろん、私たちには悲しくて悲しいことはありますが、私たちには持っていない権利もあります。それは勇気を失って銃を捨てることです。」と彼に言います。

その後、彼は連盟の不和と軍団創設についてこう説明する、「皆で汗を流して建てた、避難所だった家が全焼してしまった…」

「煙で黒ずんだ数枚の壁だけが、古い家の痛ましい思い出として残っています。

「今私たちに何をしてほしいのですか？神に反逆しますか？それはあり得ません、「主は与えられ、主は取り去られます。主の御名が祝福されますように」。
「私たちは腕を組み、悲惨な寒さ、雨、風の中で死ぬでしょうか？いいえ！しかし、神への信仰をもって、私たちは仕事に取り掛かり、少しずつ自分自身で2倍美しい新しい家を建てなければなりません。これが「軍団」であり、私たちはそのために最初の礎石を置きます。」

Garneata の記事は次のとおりです。

兄弟間の意見の相違 - 敵の喜び

「遅ればせながらの困難に直面し、私たちを包み込んでいる不穏な思考の奔流を他の人たちと分かち合うために、後悔の念でいっぱいの
心でペンをとります...

「兄弟間の確執や指導者間の意見の相違があまりにも明白になったため、もはや隠すことはできない。その結果は多くの人を落胆させるだろうし、連盟を信頼していた人々の落胆は確実に後退であり、敗北への一歩である」 。

「これは非常に明白です。なぜなら、歴史上のどの時点においても、不和が不幸や災害以外の何かをもたらすことが示されていないからです。

「私たちは7年前に選んだ道を、同じ決意を持って歩む方法を知ることになるでしょう。
刑務所での過酷な生活と悲惨な生活に慣れている私たちの骨は、戦いの塹壕で敵に対抗する位置にいて快適に感じるでしょう。

「今日、自分たちの支配の時が来たと信じて喜ぶユダヤ人たちに、この国には、昼夜を問わず、顔を向けて軍隊が常駐している一角があることを知ってもらいたい。敵。"

この創刊号には、モルドバの LANC の元副社長であるエンジニア、ゲオルゲ•クライムによる記事「夢、希望、現実」とともにいくつかの情報が含まれており、その最後の部分を抜粋します。最終目標？

「有能な指導者に率いられ、献身的な助っ人たちに囲まれた戦士の軍隊。この問題に関しては、私に関する限り、はるかに年上ではありますが、若いコーネリュー Z の行動グループをフォローしています。
コドレアヌ、イオン 1. モタ ...

「明らかに、今日士気を失った現場に散らばっているすべての人々を含め、多くの人々の貢献が必要です。」したがって、もしルーマニアの片隅で誰かが、認可されたか否かにかかわらず、購読者のリストを公開したとしたら、その人に私の名前も入力させてください、それで私は命を捧げることができます。 」

軍団倫理の基本原則

『古代の大地』の第2号が8月15日に刊行されました。 「大天使ミカエルの軍団」と題された主な記事で、私たちは軍団生活の最初の倫理規範を簡潔に定式化しようとします。これは私たちが尊重し、厳格に肯定するつもりであり、それらを尊重するすべての人がその周りに集まなければなりません。

私たちの中に来て成長する人は誰でも、彼らを尊重して成長する必要があります。
この法令条文から、当時私が書いた順序でアイデアを選択します。最初のアイデアは「道徳的純粋さ」です。

2つ目は「戦闘への無関心」。
3つ目は「熱意」。

4つ目は「信仰、仕事、秩序、階級、規律」。
5番目：「軍団は我が国のエネルギーと精神力を刺激し、それなしでは決して勝利はあり得ません。」

6番目：「正義（軍団は正義の学校であり、それを即位させるエネルギーとなる）」。
7つ目：「言葉ではなく行動、演じるのだ !語るな！」
8番目：「この学校の終わりには、新しいルーマニアが立ち上がり、このルーマニア国民の待望の復活が、私たちのあらゆる努力、苦しみ、犠牲の目標である。」それらのいくつかについて詳しく説明したいと思います。

戦闘における不利益

Google による機械翻訳

私利私欲を打ち破ることは、軍団兵のもう一つの基本的な美徳です。これは、富裕層への貪欲、贅沢、放蕩、あるいは傲慢など、あらゆる堕落した副産物を伴った私利私欲だけが行動と闘争の唯一の動機である政治家の立場とは真っ向から対立するものである。
したがって、親愛なる同志の皆さん、これからは軍団員の命が存在する限り、戦闘員の魂であれ、あなた自身の魂であれ、私利私欲のうなり声がどこに届いても、そこで軍団は止まったことを知らなければなりません。存在する。そこで軍団兵は終わりを告げ、政治家が牙を剥き始める。

新参者の目を見つめて、その目に小さな利己的な光が見えたなら（それが物質的であれ、野心であれ、情熱であれ、誇りであれ）、彼は軍団兵にはなれないことを知ってください。

また、たとえその人が軍団運動を「ランダムに」理解したとしても、緑のシャツを着たり軍団式敬礼をしたりするだけでは軍団員になるのに十分ではない。ただし、軍人生活の規範に従って生活している場合に限ります。なぜなら、軍団は単なる論理体系や議論の連鎖ではないからです。それは「生きた信仰」です。福音を「知っていて」「理解している」場合にはクリスチャンではなく、そこで採用されている生活規範に従う場合、つまり「福音に従って生きる」場合にのみクリスチャンではないのと同じです。

規律と愛

人類の社会史全体は、2 つの大きな原則に基づいた闘争に満ちています。その 1 つは、権威の原則と自由の原則という、他方に不利益をもたらす場所をめぐる闘争です。権威は自由を損なうまで拡大しようとし、自由は権威の力を可能な限り制限しようと努めた。この二人が対面すると、対立を意味せざるを得ません。これら 2 つの原則のいずれかに従って運動を方向付けることは、社会不安と戦争の歴史的な路線を継続することになります。それは、一方では専制、抑圧、不正義の路線を継続することを意味し、他方では血なまぐさい反乱と永続的な紛争の路線を継続することを意味する。

だからこそ、私はすべての軍団兵、特に若い人たちに、誤解によって運動の方向から逸脱しないように注意を促したいのです。多くの場合、軍団兵にポストが与えられるとすぐに、彼は全身全霊で「権威」に身を固め、これまで仲間たちと結びついていたすべてのものを打ち破り、自分の功績で他人に「感銘」を与えなければならないと感じたということに私は気づいた。自分の権限の利用。

軍団運動は、権威の原則または自由の原則のいずれかのみに基づいているわけではありません。その基盤は愛の原理に根ざしています。彼の中には権威と自由の両方が根を持っています。

愛は、権威と自由という 2 つの原則の間の平和です。愛は彼らの真ん中、彼らの間、そして彼らの上にあり、彼らを最善のものすべてで包み込み、彼らの間の対立を取り除きます。

愛は圧制、抑圧、不正義、血なまぐさい反乱、社会戦争をもたらすことはできません。それは決して衝突を意味するものではありません。また、暴君やユダヤ人が実践する愛の原理という偽善的な概念もあり、彼らは継続的かつ組織的に同胞の愛の感情に訴え、その背後で平然と憎しみと抑圧を続けている。

愛を応用することは、社会と世界での心の平安を意味します。平和はもはや、永遠の戦争、つまり調和の不可能性を宣告されたアウトボイディアと自由という 2 つの原則の間の機械的で冷酷なバランスの貧弱な表現としては存在しません。

優しさと愛は私たちに正義ではなく平和を与えます。なぜなら、正義を完全に実現するのは非常に難しいからです。
たとえそれを完全に実現する手段が発見されたとしても、それを認識し評価する能力のない人間は永遠に不満を抱き続けるだろう。

2つ目は、自然や敵との戦いで成功すること。
100 人の男性が兄弟のように愛し合うことはできますが、何らかの行動の必要性に直面した場合、それぞれが異なる意見を持つ可能性があります。百の意見が勝つことは決してありません。愛

それだけでは決して彼らを勝利させることはできません。規律が必要です。勝つためには、全員が単一の意見、つまり最も経験のあるリーダーの意見を採用する必要があります。

規律は努力の団結を保証するので、成功を保証します。一つの命令に従い、全国民が団結してのみ克服できる困難がある。このような事態になった場合、規律が人格を傷つけるという口実で、他の民が一つになって同じ命令に従うのに、他の民と合流することを拒否する愚か者が誰なのか？

そのような場合、あなたの国が脅かされ、物事の性質上、生命や手足を危険にさらし、家族を引き裂き、子供の将来を危険にさらし、祖国を救うためにこの地球上で持っているすべてを放棄する必要があるとき。 、少なくとも誰かが「人格が傷つけられている」と言うのはばかげています。

規律は勝利につながるので、誰にも屈辱を与えません。そして、犠牲によってのみ勝利が得られないのであれば、規律への服従は、人間が国家の勝利のために払うことができるあらゆる犠牲の中で最も少ないものである。

規律が放棄であり、犠牲であるなら、それは誰にも屈辱を与えるものではありません。というのは、いかなる犠牲も誰かを高貴にするのであって、その人を貶めるものではないからである。我が国国民は多大な困難を克服しなければならないため、ルーマニア人全員が規律教育を喜んで受け入れ、明日の勝利への貢献を認識しなければなりません。

団結がなければ勝利はありません。そして規律がなければ団結はありません。したがって、我が国はこれを敵対行為とみなし、規律の規律から逸脱することは勝利と自国の生命にとって危険なものとして非難しなければならない。

分析を維持するための戦い

私たちのレビューの出版を確保するための闘いは、私たちの開発の第 2 段階でした。資源のない私たちの取り組みは、まるで実戦の様相を呈しました。実際、私たちは最初から「戦い」と呼んでいたのです。

私たちは次の 2 つの戦略を使
用します。 1. すべての努力を同時に同じ目標に集中します。 2つ目は、自然や敵との戦いで成功すること。

100 人の男性が兄弟のように愛し合うことはできますが、何らかの行動の必要性に直面した場合、それぞれが異なる意見を持つ可能性があります。百の意見が勝つことは決してありません。愛だけでは決して彼らを勝利させることはできません。規律は必要です。
勝つためには、全
員が単一の意見、つまり最も経験豊富なリーダーの意見を採用する必要があります。

規律は努力の団結を保証するので、成功を保証します。一つの命令に従い、全国民が団結してのみ克服できる困難がある。このような事態になった場合、規律が人格を傷つけるという口実で、他の民が一つになって同じ命令に従うのに、他の民と合流することを拒否する愚か者が誰なのか？

そのような場合、あなたの国が脅かされ、物事の性質上、生命や手足を危険にさらし、家族を引き裂き、子供の将来を危険にさらし、祖国を救うためにこの地球上で持っているすべてを放棄する必要があるとき。 、少なくとも誰かが「人格が傷つけられている」と言うのはばかげています。

規律は勝利につながるので、誰にも屈辱を与えません。そして、犠牲によってのみ勝利が得られないのであれば、規律への服従は、人間が国家の勝利のために払うことができるあらゆる犠牲の中で最も少ないものである。

規律が放棄であり、犠牲であるなら、それは誰にも屈辱を与えるものではありません。というのは、いかなる犠牲も誰かを高貴にするのであって、その人を貶めるものではないからである。我が国国民は多大な困難を克服しなければならないため、ルーマニア人全員が規律教育を喜んで受け入れ、明日の勝利への貢献を認識しなければなりません。

団結がなければ勝利はありません。そして規律がなければ団結はありません。したがって、我が国はこれを敵対行為とみなし、規律の規律から逸脱することは勝利と自国の生命にとって危険なものとして非難しなければならない。

分析を維持するための戦い

私たちのレビューの出版を確保するための闘いは、私たちの開発の第 2 段階でした。
資源のない私たちの取り組みは、まるで実戦の様相を呈しました。実際、私たちは最初から「戦い」と呼んでいたのです。

私たちは次の 2 つの戦略を使用します。1.
同時に同じ目標に向けてすべての努力を集中します。
2. 戦闘中、引用と表彰を通じて戦士を激励します。
この原則は私たちのすべての軍団活動に見られます。
これには次の利点があります。
望ましい目的の迅速な実現。 b)
すべての労働者の団結した行動と規律ある努力の教育。 c) 自分自身の力の認識、自分自身と自分自身の力への自信に目覚める。

経済的敗北、特に失敗した努力の記憶により、ルーマニア国民は諦め、自発性の欠如、自信の喪失につながった。私たちは彼らの自分自身への自信を目覚めさせ、苦痛な記憶を彼らの努力における成功の伝統に置き換えなければなりません。そして最後に、戦闘機を育成することで、エリート戦闘機幹部の熱意を発揮することができるようになります。私たちはレビューの中で、9月1日から10月15日までの間に攻勢に出て、一緒にできるだけ多くの新規加入者を獲得できるよう、すべての友人たちに呼びかけを開始しました。

この呼びかけの結果、若者、老人、農民、知識人など、誰もが積極的に参加する本当のアリのキャンペーンが始まりました。

最大45の署名を持ってきた人もいた(Constantin llinoiu)。

この最初の戦いの結果は、1927 年 11 月 1 日号に掲載されました。そのとき私が書いたのは次のとおりです。「10 月 15 日午後 6 時の時点で、応募数は 2,586 件に達しました。
軍団は彼の初勝利のために尽力したすべての人々に感謝します。」

この戦いに参加した全員がこの号で言及されています。まず、リベルテア(「自由」)を通じて私たちに好意的な宣伝をしてくださったモタ神父に感謝します。ここでもう一度、『古代の地』に掲載されている全員の名前を示します。彼らの中にはレジオネラにならなかった人もいますし、レジオネラの信仰の中で亡くなったためにもう私たちと一緒にいない人もいます。

そして私がここで彼らの名前を挙げたのは、彼らが最初から信者だったからです。彼らは優れた順にリストされています :マザー•パンフィリア•シオラック(ヴァラテック)、オクタヴ•ネグット(フォクシャニ)、アルヒマンドライト•アタナシエ•ポペスク(バルティ)、ヒエロモナ•イシヒエ•アントヒ(ネアムト)、ミハド•タナシェ、ヴィクトル•シラーギ、イオン•ボルディアン、u、ラドゥミロノヴィチ、キャプテン•V•トゥヘル(イヴェスティ)、コンスタンティン•イリノイウ(ヤシ)、N•グロス(ボトシャニ)、イオン•ミノドラ(フーシ)、グリゴリー•バラチ(モビリタ•プトナ)、アンドレイ•C•ロネスク(バラッド)、スピル•ペチェリ(ガラティ) 、エンジニア Mihai Ittu (ブカレスト)、エンジニア Gh 。クライメ (ヤシ)、イオン•T•バネア (シビウ)、イリエ•ガルニータ (ヤシ)、トトゥ•ニコラエ (ヤシ)、コマン•アレクサンドル (ガウリ•プトナ)、デセバル•コドレアヌ (フーシ)、ミハイル•マリネスク (ガラティ)、トライアン•レレスク (ピアトラ) Nearnt)、Sebastian Erhan (Campul-Lung、Bucovina)、N. Tecau (アメリカ)、Elena Petcu (Vaslui)、Dr. Socrate Divitari (Tecuci)、Ion Plesea (Orhei)、PI Morariu (Suraia-Putna)、Nanu Gavrilライレヌ (オルヘイ)、コティガ トライアン (フォクシャニ)、マリア ミテア (セヴェリン)、1. チョバニータ (ベルチェスティ)、カラウス (ヴォイネスティ)、ティニステイ ネアガ (オルヘイ)、ゾシム バルダス (タルナバ マーレ)、イオン ブラナル (フォクシャニ)、ルリウ スタネスク(マルサーニ=ドルジ)、コルネリウ•ジョルジェスク(ポイアナ=シビウルイ)、ファニカ•アナスタセスク(ブカレスト)、D•イフリム(ヤシ)、I•デュラック(P•ネアムト)、パクラル•Gh。 (ブカレスト)、アイザック•モカヌ教授(トゥルダ)、マリウス•ポップ(クルージュ)、N.

ヴォイネア(パンチウ)、NBムンセレヌ(ローマ)、グリゴリー•ベルシウ(ヴァルナ)、コルネリュー•クリステスク•バサ•エミル•エレメイ(コマネスティ)、アンジェラ•プレソイアヌ(セブン) 、ウ(ナサウド)。

8 年後、最初の軍団の戦いに参加した 59 人のうち、4 人が私たちを理解できずに去りました。実際、彼らは攻撃さえした
私たち。
8 匹は 1 ～ 2 年経っても生命の兆候を示さなかった。 22 件が最高評価を受け、

軍団司令官、補助司令官、または軍団上院議員になる。
7人は軍団員となり、揺るぎない信仰を持ち、あらゆる迫害をものともしなかった。

18 人は私たちの友人であり続け、今日まで私たちを助けてくれました。

この戦いの結果、『祖先の土地』の出版は、
年。

私たちのレビューの最初の質問で見つかった他の名前

Vasile State、商人、C. Vasiliu、年金受給者 (Adjud)、Gh.オプレア (サン•ニコラウル•マーレ)、イオン•スキオプ (プルンドゥル•バルガウルイ、弁護士ブデスク P. (バナト)、アドルフ•グライター、ミス•ステファネスク、ロシフ•ドゥミトル (「祖先の地」の最初の購読者)、イリエ•ベルリンスキ (イジェスティ•ブコヴィナ)、エレナ•ブラトゥ博士、ミル•レフター（ガラティ）、イオン•デミアン（トゥルダ）、ポペセウ博士（ヴァスルイ）、テオドロセウ•クラシウン、オーギュスティン•ルグナ、イヴァノビッチ、アダム•ブランゼイ、ソフロン•ロボタ（ドルナ）、バクタ•ボギセアヌ（フーシ）、バラン兄弟(ソベヤ)、C.
ゲオルギュ•コンタール、シアンク大尉、Gh. Postolache、Gheorghe Despa (Dorna)、Luchian Cozan (Dorna)、Dr. Crisan、エンジニア Camil Grossu、Chirulescu Victor、Lorde Nicoara、Ion と Alexandru Butnaru、Adriana と Teodora Ieseanu、Vasile Stan、Professor Razmerita、Craciunescu (Focsani)、イオンベルギー、グリタ•ステファニウ、ギータ•アントネスク、パンテリモン•スタタッシェ、オクタフ•パベレスク（フォスカニ）、ゲオルゲ•ポトレア（ベレスティ）、I.Gh.テオドシウ、マルガレータ マルク、I. Gh. Galati)、ダン タルノフスキー、シミオン トネア、エンジニア ストイコイウ、ポール カンブレアヌ大佐、アモス ホラティウ ポップ (ルドス)、ステファン ニコラウ、イレアナ コンスタンティネスク、エルビラ イオネスク、マリオアラ シディムデレオン、Gh.
アマンセイ、コカ•ティロン、ユリウス•イグナ、アリストテル•ゲオルギウ（Rm.-サラット）、D.ブンドゥク、ヴァレル•ダニレアヌ、コンスタンティン、ウルセスク、ヴァシル•タンパウ、C.ミエルラ、オクタフ•ダニレアヌ、ステファン•マンザット、コロネル•ブレズ、ユーフロシナ•シウディン、マザー•ゼナイダ牧師ラキス、Gh.リーグ、アナ•ドラゴイ（ガラティ）、マテイ•コリオラン教授。

新聞で頻繁に取り上げられるこれらの名前を私が言及するのは、読者の好奇心を満たすためではなく、特に最初の困難な時期に私たちを助けてくれた人々を常に記憶しておく必要があるからです。彼らのうちの何人かは死亡しましたが、他の人は今日に至るまであらゆる迫害に直面する戦闘員になりました。この本の後半で再びリストする機会がないかもしれないので、今急いでそれらをリストしました。

外から見た私たちの取り組み

最初の 1 時間から、私たちはこのユダヤ系フリーメーソンの政治家の憎しみの恩恵を受けました。
しかし、私たちを希望の光として心の中に迎え入れてくれた人たちもいた。以下は、『The Ancient Land』の初版に掲載された読者からの手紙です。

「雑誌に掲載されたときの喜びを長々と言い表すつもりはありません。私は、昨年の挨拶で、「神があなたを助けてくださいますように」と挨拶します。最近の出来事でこれらのセリフを掘り下げるつもりはありませんが、私はこう言います。「前進、常に前進、新しい人たち。大天使ミカエルの部隊は長生きしますように。悪者の一団がベルゼビュートの闇に飲み込まれますように。」 「大天使聖ミカエルは、ためらうことなく容赦なく攻撃しなければならないでしょう。それが『祖先の地』のページに示されている目的です。」

「サタンもその召使いたちも大天使の呼びかけに応えることはできないし、変装して誰かを騙せるなどと考えるべきでもない。裏切り者は敵よりも厳しい罰を受けるに値する。」

「決定的な時が何であるかを判断する成熟度に欠けている人はいないので、誰にも耽溺を見せてはなりません。」

「一時間早く勝利、大勝利を見たかったと思いながら列を閉じます。」ブレズ大佐

* 軍団上院議員、257 ページを参照。 (Tr.)

「かぎ十字の明るい太陽は、今回も私たちを混乱から救い出すのに失敗しませんでした。
神は私たちの救いのために、「大天使ミカエルの軍団」という慈悲の光を私たちに与えてくださいました。
これから、ルーマニア人の魂は、この神聖な運動が滅びないという信仰によって再び温められます。 」

「国家の理念が我々に義務を課すことになるだろう。」

「私たちを理解しない者は道に迷ってしまうでしょう。私はあなたの味方です。」
ML Lefter、弁護士、ガラティ担当LANC会長

「あなたたちは私たちの未来の希望です。私たちは私たちの未来と子供たちの未来を皆さんの足元に置いています。

私たちは皆、あなたの強力な組織に会えるのを待ちわびており、戦いに参加することを楽しみにしています。 「そして、私がこれを言うとき、私は自分が感じていることだけを言っているのではなく、他の多くの人たちに私が見ているものを話しているのです。」
「CNパドゥラル」

ナショナルカウンター、ブレイク、(ローマ字)。

「ルーマニア人の心が生まれ変わるのを見て、感じています。勝利が私たちのものになることを願っているだけでなく、私はそれを確信しています。」
イオン•バネア、学生、ヴルパール（シビウ）。

「クリスチャンの学生として、私自身とジウルの平原にいる友人たちに、始まったばかりの戦いで示している決意とエネルギーに祝福の言葉を送るのが私の義務だと感じています。」

イウリウ Gb.スタネスク、学生。

「私たち、ペトロザーニ社ヴルカニ村出身のルーマニア人は、今日でも大ルーマニアで会社の役人が私たちに課したくびきを背負っています。なぜなら彼らは全員外国人だからです。」
私、オーガスティン•イグナは結核に感染しました。
職業が鉱山労働者である私は、汚染された空気が体を痛めるため、鉱山で働くことができなくなりました。 」

「私は医師と連署して、階下ではなく屋外で軽い仕事をするよう請願書を送りました。そこでは数週間で人生を終えることになるからです。拒否された。頼れる人がいないので、今あなたに助けを求めています。
」

イグナ•オーガスティン

「レビューを送るのはやめてください。私の名前はアクセンテ•ポエナー、鉱山労働者、カルテジュ•デ•サスです。なぜなら私にはあなたに支払う十分なお金がありません。たとえ3か月でも、あなたを送り返すのは嫌だからです。」

「それでは、なぜ私にお金がないのか説明しましょう。ここは秋ですが、収穫の時期なので誰もが秋を好みます。つまり、私たち鉱夫以外の全員は、来たる冬に必要な服と靴が不足しているからです。そして私たちの子供たちは学校に通わなければなりません。

苦いパンから貯めたわずかなお金を、これらの必需品に費やさなければなりません。」

アクセンテ•ポエナール、鉱山労働者。

「我が国民の親愛なる子供たちよ。人生の夕暮れが近づくにつれ、その純粋で神聖な動き「大天使ミカエルの軍団」を見て、愛する国の復活への新たな希望の光が私の魂に宿る。偉大な天の王子。私は、我が国の人々が開花し、神によって定められた殉教者たちの冷や汗とおそらくは血に染まった苦労の収穫を楽しむまで長く生きられないことをとても悲しく思います。素晴らしい計画。それはとても苦しみながら練り上げられたものでした。もう手遅れです。疫病が蔓延し、私たちの墓が掘られ、墓掘り人たちは私たちを永遠に埋めるつもりです。そして私たちルーマニア人は、大なり小なり、

Googleによる機械翻訳

私たちは野心や空虚な見栄や朽ち果てる富について、ためらい、値切り、口論します。

* 私たちは引き続きあなたの名前を購読者リストに残します。

「私は無学だから黙っている、あなたは聡明だから黙っている、彼は政党に所属しているから黙っている、彼らは政権だから黙っている、だから私たちも黙っている、堕落の闇が私たちを包み込む」 「徐々に、そして私たちの民のたいまつが消えます。私は貧しい農民ですが、シャベルや鎌と同じようにペンも扱うことができます。私はお金とペンで、行為と言葉であなたを助けます、お願いします」私たちのレビュー「The Ancient Land」で少しコーナーを与えてください。 「我々はルーマニア人なのか、それとも滅亡の危機に瀕しているのではないのか？そしてなぜ？」という見出しで書いていきます。

「犯人は誰ですか？」
「原因の原因とは何ですか？」
「何が行われているのか、何をしなければならないのか？」 「すべてのルーマニア人は何を知っていて、何をすべきでしょうか?」 「VL オノフレイ、トゥングジェイ村（ヴァスルイ)の農家

形を超えて

実際、「祖先の地」にはこれらの文字がたくさんあります。軍団の設立に対する私たちの同胞からの貢献。なぜなら、Legion は、メンバー、本、指導者がいる組織以上のものだからです。それは心の状態であり、私たち全員が貢献する感情と人生の統一です。メンバー、上司、番号、ユニフォーム、プログラムなどが目に見える軍団を構成します。しかし、もう 1 つは目に見えませんが、最も重要です。目に見えないもののない目に見える軍団、つまりその精神状態や人生には何の意味もありません。それは内容のない単なるフォームになります。

私たちは、椅子に座った教授のように、批判によって、私たち「上司」や、その教えや理論を雑誌に掲載してもらっている「教授」と、それ以外に何もすることがない読者との間に障壁を設けることを提案したわけではありません。私たちの教えを学び、それに従うようにしてください。一方では私たち、他方では彼ら。いいえ、軍団を作るということは、軍服やボタンなどを与えるという意味ではありません。それは組織システムを作り上げることを意味するわけではなく、法律やリーダーシップの規範を策定し、紙の上で論理的に条文を列挙することを意味するわけでもありません。男性を育てるのと同じように、それは衣服を作ったり、行動原理を修正したり、活動計画を確立したりすることを意味するものではありません。

法令も綱領も教義も動かない。これらはその法律を構成し、その目的、組織システム、行動手段などを定義することができますが、運動そのものではありません。これらは科学者でも混乱する概念です。 「条例」や「綱領」などだけを作って、自分が「運動」を起こしたと思い込むのは、人を作りたいなら服だけ作るのと同じです。

運動を生み出すということは、まず第一に、冷静な論理的思惑とは何の関係もない、人々の心から、精神状態、精神からほとばしる熱意を生み出すことを意味する。
これが軍団運動の本質を構成するものである。この精神状態を作り出したのは私ではありません。それは私たちの感情への貢献と他の同胞の感情の融合から生まれました。

「祖先の地」というレビューは、私たちの願望と悩みが、私たちを知るルーマニア人の感情や考えと交わる出会いの場でした。

したがって、軍団の本質、つまり私たち全員が感じていた目に見えない精神状態は、私の創造物ではありませんでした。

それはコラボレーションの結果でした。
これは、以下の貢献を統合して誕生しました。

1. 最初の軍団兵の感情。
2. 他のルーマニア人の対応する感情。
3. 私たちの人々のすべての死者の意識の中の存在。
4. 祖国の土への願い。
5. 神の祝福。

私の考えが誰かに「私は軍服を着た軍団兵の一人ではない、精神的には軍団兵だ」と誤解されるのは望みません。

そんなことはあり得ません。

教義、綱領、法令、制服、活動は、すべて同じようにこの精神的な基盤に基づいて作成され、付属品としてではなく、運動の精神的な内容を固定する要素として作成され、運動に統一された形を与え、人々の意識の中でそれを生かし続けます。人々をサポートし、あなたを達成と勝利に導きます。軍団運動はこれらすべてを統合したものである。

ファシズム（黒いシャツ）、国家社会主義（茶色のシャツ)など、現代のすべての運動に現れた制服は、指導者の想像力から生まれたものではありません。
これらは、この心の状態を表現する必要性から生まれました。気持ちの統一感の表現。
それらは目に見えない現実の目に見える顔です。

国民運動と独裁政権

国民運動が言及されるときは常に、独裁への傾向が体系的にそれに起因すると考えられます。私はこの章で独裁制を批判するつもりはありませんが、今日のヨーロッパの国民運動、例えば軍団運動、ファシズム、国家社会主義などは独裁制でも民主主義でもないということを示したいのです。私たちと戦う人々は、「ファシスト独裁政権を打ち倒せ！」、「独裁政権と戦え！」、「独裁政権から身を守れ！」と叫んでいる。私たちを殴らないでください。彼らは目標を外して射撃しています。彼らが達成できるのは悪名高い「プロレタリアート独裁」だけだ。

独裁制は、国家内の他の臣民の意志を強制的に押し付けられた一人の人間の意志を前提としています。それは、二つの相反する意志、すなわち、一方では独裁者または集団の意志であり、他方では民衆の意志である。この意志が制約と残酷さによって課されるとき、独裁は専制政治となります。

しかし、98パーセントの過半数を有する国家が、言いようのない熱意を持って、6000万の魂を持つ国家、あるいは4000万の魂のうちの1つである国家が首長の措置を承認し、狂ったように称賛するとき、それは首長の意志とその意思との間に完全な一致があることを意味する。人々の。さらに、それらは完全に結合するため、もはや 2 つの意志は存在しません。あるのはただ一つ、国家の意志であり、その表現が主要なものである。したがって、国家の意志と指導者の意志の間には、ただ 1 つの関係しかありません。それは、両者の間には完全な関係です。

国民運動体制下で達成された全会一致が「テロ」や「異端審問の手法」によるものだと主張するのはまったくばかげている、なぜならそのような運動が起きた人々の間には高度に発達した市民的良心があったからである。彼らは戦い、血を流して、自由のために命を落とした何千人もの人々を残しました。彼らは外の敵にも内なる暴君にも決して服従しなかった。このような恐怖に直面した場合、なぜ彼らは今日も戦って血を流すべきではないのでしょうか？そして、票や多数派さえも武力やテロによって奪われる可能性があります。

涙を流したり、ため息をついたりすることもできます。しかし、熱意や熱意が力ずくで生み出されるということは、これまで聞いたこともなければ、今後も聞かれることはないでしょう。世界で最も遅れている国ですらそうではない。国民運動は本質的に独裁的なものではないので、

そこで私たちは自問します。「それは何ですか？」それは民主主義ですか？まったくそうではありません。なぜなら、リーダーは有権者によって選ばれるわけではなく、民主主義は選挙可能性の原則に基づいているからです。あるいは、国家体制においては、投票によってリーダーが選ばれることはありません。彼は黙認している。これらの政権が独裁制でも民主主義でもないとしたら、一体何なのでしょうか？それらを定義することなく、それらが近代国家における新しい政府の形態、すなわち創世記を表していることを認めなければならない。まだ発見されておらず、どのような名前が付けられるかは不明です。

私は、その精神状態、国民意識が高まった状態がその根底にあり、それが遅かれ早かれ国家という組織の周辺部にまで広がると信じています。それは内なる啓示の状態です。何だった

かつては人々の本能的な宝庫であったものが、今では人々の意識に反映され、偉大な宗教復興の場合にのみ見られる満場一致の啓蒙状態が生み出されています。この現象はまさに次の状態と呼ぶことができます。

国家エキュメニシティ。人々は全体として、自分自身、世界における自分の目的と運命についての認識を獲得します。過去の歴史では、この意識はほんの断片的にしか注目されていませんでしたが、今日、私たちはこれらの永続的な現象のいくつかに直面しています。

この場合、リーダーはもはや「主人」ではなく、自分の「やりたいこと」を実行し、「気まぐれに従って」指導する「独裁者」です。彼はその目に見えない精神状態の具体化であり、その意識状態の象徴です。彼はもはや「自分が喜ぶこと」をしません。それは「すべき」ことを行います。そして彼は個人や集団の利益によってではなく、人々の良心に浸透した不滅の国家の利益によって導かれます。これらの利益の枠組み内でのみ、そして個人的および集団的利益が通常の最大限の満足を得ることができるのはこの枠組み内だけです。

組織の最初の始まり

幹部の組織化は軍団運動の発展における新たな段階を構成する。

どのような運動も、無秩序なままにならないように、組織の型に合わせて形作られなければなりません。軍団の組織システム全体は「巣」、つまりリーダーの指揮下にある 3 人から 13 人までの集団の考えに基づいています。私たちには孤立した個人という意味での「メンバー」はいません。存在するのは巣だけであり、個々のメンバーは巣の一部です。軍団組織は複数のメンバーによって形成されるのではなく、いくつかの巣によって形成されます。このシステムは、その開始から現在に至るまで、本質的にはあまり変わっていません。組織は現実を考慮する必要があるため、必要な改善が行われることもあります。それは成長し続ける子供のようなもので、成長に合わせて服を常に調整しなければなりません。組織が最終段階でどうあるべきかを想像する人が、開発の最終段階でなければ適合しない衣服を最初から切り取って進めるのは間違いです。ちょうど、ある人たちが早い段階で緊密な関係を断ち切って、運動の成長の後半でそれを軽視して、もはや適合しなくなった方法で苦闘することを強いることが間違っているのと同じです。

この問題については「ネスト リーダー ハンドブック」で詳しく扱っているため、ここではあまり詳しく説明しません。しかし、なぜこのシステムを選んだのでしょうか？まず、運動のニーズです。リーグ創設時、あるシステムが使用されていたときと、軍団創設時、別のシステムが採用されていたときとの間には大きな違いがあります。リーグ創設当時、幅広い支持がありました。早急に活用する必要がありました。一方、軍団が発足したとき、私たちにはそのような支援の連鎖はなく、都市や町に散らばって孤立した人々だけでした。人が足りなかったため、郡委員会の設立を始めることができませんでした。また、小さな村をかろうじて組織することができれば意味がないので、人を捕まえて郡長と呼ぶこともできなかった。

運動のリーダーは現実を最大限の真剣に考慮しなければなりません。
私の基本的な現実は、どこかの村の貧しい農民である「独身男」が泣いているということでした。不幸な病人労働者、故郷を追われた知識人。

そして私は彼ら一人一人に、彼の能力に応じて、自分をリーダーとしてグループを作る機会を与えました。そこがリーダーのいる巣だった。巣のリーダーを指名したのは私ではありません。彼をそこに立たせたのは彼の功績だった。
彼がリーダーになったのは、私が「望んで」いたからではなく、彼がグループを結集し、鼓舞し、率いることができた場合に限ります。時間が経つにつれて、党
首が賜物に基づいて任命されることが多い他のすべての政党とは対照的に、私は指導者の特徴が明らかな「作られた」のではなく「生まれた」小さな指導者を集めることができました。だからこそ、軍団の巣のリーダーは信頼できる存在なのです。これらの巣の指導者のネットワークが軍団運動の骨格全体を形成しています。軍団組織の柱は巣のリーダーです。これらの巣が増えると、村、地区、郡、州の指揮下にグループ化されます。

より大きな部隊のリーダーを獲得するにはどうすればよいですか?私は村、郡、郡のリーダーを任命していません。私は彼らにこう言いました。「征服して組織化してください !組織化できればできるほど、あなたはボスになれるのです。」私は彼らが、彼らの力、資質、適性によって高められた地位のリーダーであることを確認しただけです。私たちは巣のリーダーから始まり、徐々に村、地区、市のリーダーへと成長していきました。

そして郡の指導者になり、1934年、つまり7年後に初めて地域の指導者になりました。ネスト システムには次の利点もあります。 a) アクティブで、運動の
すべてのメン
バーが行動に移されます。他の政党では、村または郡ごとに委員会と委員が存在し、活動するのは数人の委員だけです。残りの 1,000、2,000、10,000 は非アクティブです。私たちのシステムでは、所定の基準内での巣のリーダーたちの広範なイニシアチブのおかげで、また、巣全体の外部にそのような個別のメンバーが存在しないため、各巣の記録簿に可能な限り輝かしいページを書くという義務のおかげで、 。世界では、絶対にすべての軍団が機能します。 b) ローカルな問題をすべて解決します。

たとえば、村に小さな井戸を掘る、小さな橋を修理するなど、一人では処理できず、組織全体で検討するには大きすぎる項目が数多くあります。一人で;組織はそれらに対処することはできません。しかし、彼らを処刑するには6人、8人、または10人からなる部隊が最も適している。 c) ネストは簡単に交換可能です。戦闘ユニットから作業ユニットへ、またはその逆。 d)

多数の幹部を輩出し、その結果としてリーダーシップの術に特化した人材を形成する。

e) 脱走または裏切りの影響は局所的なままである、f)
最後に、巣は軍団の教育を受けるのに最適な場所です。それは、同じ年齢の男性、同じ範囲、同様の精神的構成を持った男性がそこにいるからです。
そこでは、みんな友達です。恥ずかしさからか、幼い頃から人生の困難や悩みを気づかせたくないためか、自分の苦悩を告白することも、若い男の前で魂をさらけ出すこともできなかった男が、ここ巣にいる。友人の間では、彼はそれができる。叱責や罰を受ける可能性があるのと同じように。

巣は愛に基づいた小さな軍団兵の家族です。 「巣のリーダーのハンドブック」の中で、私はこの家族が従うべき 6 つの法則を示しました (4 ページ、ポイント 3)。この家族は指導者の気まぐれに従って統治されるべきではありません。それは独裁政治になりますが、法律によるものです。

1. 規律の法則、レジオネラ!規律を正してください !そうすることでのみ勝つことができるからです。
良い時も悪い時もリーダーに従いましょう。

2. 仕事の法則。仕事 !毎日仕事をしましょう。心を込めて。
あなたの報酬が利益ではなく、軍団の建設とルーマニアの繁栄のためにまたレンガを積んだという満足感でありますように。

3. 沈黙の法則: ほとんど話さない。言わなければならないことだけを言います。必要な場合にのみ話してください。

あなたの弁論は言葉ではなく行動であるべきです。あなたは、他の人に話してもらうことを実行します。
4. 教育の法則: 他人にならなければなりません。英雄です。巣の中では完全に礼儀正しくなります。レギオンについてよく知りましょう。
返報性ベルプの法則..不幸に陥った弟を助けてください。放棄しないでください。
6. 名誉の法則: 名誉の道のみに従います。戦え、決して卑怯者にはならない、悪名の道は他人に任せろ。
悪名によって勝つよりも、名誉ある戦いに負けたほうが良い。

しかし、親愛なる軍団兵の皆さん、もう一度強調したいのですが、重要な点に注意を促したいと思います。寒冷な気候が蔓延すると、巣の発見は不完全です。 「何を達成しますか?」、「他に何を達成する必要がありますか?」、「あれやこれやをしましょう。」 "さようなら！"

魂を自由に操ってください。集会で彼らのために場所を予約してください。加熱しながら進みます。
人生で抑圧されている困難、不安、心配を解放し、心を開く機会をすべての人に与えてください。彼にあなたの喜びを分かち合ってもらいましょう。
あなたの巣を慰めと喜びを分かち合う場所にしましょう。巣での集会は、ある男が魂の重荷を下ろして家に帰り、民への信頼に満ちたときに成功します。 「Nest Leader's Handbook」でこの点を十分に強調していなかったとしても、今は強調しています。

巣での教育活動に関連して、「巣のリーダーのマニュアル」のポイント 54: 勝利の決定的な要素としての祈り、先祖への訴えから転載します。レギオンの勝利。

「私たちが神の意志とキリスト教会の祝福によってこの地球上に存在していることを忘れてはなりません。ルーマニア国民全体が私たちの教会の祭壇の前で

逃亡や迫害の最中に、数え切れないほどの女性、子供、老人がこの地に集まりました。ここが最後の避難場所であることを認識していました。そして今日、私たちルーマニア国民も、大きな危険の時のように祭壇の周りに集まり、ひざまずいて神の祝福を受ける準備ができています。

「戦争は、上から見えない世界から神秘的な力を呼び起こし、彼らの助けを確保する方法を知っていた人々によって勝利しました。これらの神秘的な力は、死者の魂であり、この土地に縛られていた私たちの祖先の魂です。私たちの溝、そしてこの土地を守るために亡くなった人々、そして今日もまた、ここでの人生の記憶によって、そして私たちを通してこの土地とつながっている人々、つまり彼らの子供、孫、曾孫たちです。しかし、何よりも死者の魂です。神です。

「これらの力が呼び出されるとき、彼らは私たちを助け、励まし、意志の力と勝利を達成するために必要なすべてを与えてくれます。彼らは敵の心にパニックと恐怖をもたらし、敵の行動を麻痺させます。結局のところ、勝利は物質的な準備や交戦者の物質的な強さによって決まるのではなく、精神的な力を確実に維持できるかどうかにかかっています。これは、私たちの歴史において、たとえ私たちの物質的な武器が明らかに劣っていたとしても、奇跡的な勝利をもたらした説明です。

どうすればこれらの勢力からの支援があると確信できるのでしょうか?
1. 彼の行動の正義と道徳によって、そして 2. これら
の権力に対して真剣かつ執拗に訴えることによって。彼らを召喚し、あなたの魂の力で引き寄せれば、彼らはやって来ます。
多くの人が集まって訴え、祈りをするとき、引き寄せの力はさらに大きくなります。

したがって、毎週土曜日の夜に全国各地で開催される巣会議では、祈りが解除され、すべての軍団兵は、毎週土曜日に教会に出席するよう促される。

Googleによる機械翻訳

翌日、日曜日。

私たちの守護聖人は大天使ミカエルです。私たちは家の中に彼のアイコンを置かなければなりません。そして困難な時には彼の助けを求めなければなりません、そして彼は決して私たちを離れることはありません。

これらの巣は、年齢または性別によって次のようにグループにグループ化されます。 *1. 十字架の兄弟団 a) 14 歳までの若者を集めます。十字架の兄弟たちです。 b) 14 歳から 19 歳までの若者、つまり十字架の兄弟たちを集めます。

2. 編制中の軍団兵。
3.軍団兵の就任。
4. 城塞、少女と既婚女性をグループ化し、または管理上の基準に従って町、町、郡をグループ化し、活動を指導するそれぞれのリーダーを配置し、統一性を保証します。これらすべての問題は、「Nest Leader's Handbook」で広範囲に扱われています。この入れ子システムには欠点がある可能性があります。運動の断片化によって運動の団結が破壊され、打ち砕かれているように見えるが、それは相互愛と軍団教育に注がれる多量の規律によって除去されるので、これは単なる脅威である。

最初の軍団兵の投票

1927 年 11 月 8 日、聖人の祝日。大天使ミカエルとガブリエルが近づいてきました。
その日、私たちは最初の誓いを立てることになりました。私たちは、私たちの運動の性格、先祖の土地、死者、そして天との結合を忠実に表現できるシンボルを探し、見つけました。

私たちはルーマニアの歴史におけるすべての輝かしい場所から少量の土地を 2,000 ドルで集めます。

* 「十字架の兄弟」とは、ルーマニア語の「フレッシュ•デ•クルーセ」を文学的に翻訳したもので、地元で人気の伝統的な儀式に従って、十字架の上で永遠の友情、相互扶助、忠誠を誓い合う若者たちを指します。この軍団運動は、この人気のあるイトマン帝国の組織に触発され、若い野心的な軍団員を「十字架の兄弟」と名付けました。 「十字架の同胞団」 ?したがって、彼らは「十字架の兄弟」のグループになります。

数年前、これをよく混ぜて小さな革袋に詰め、紐でしっかりと縛りました。

これらは誓いを立てる際に軍団兵によって受け取られ、胸の近くに着用されることになっていた。以下は、そのサービスの説明です。
1927 年 11 月 8 日号の「The Ancestral Land」から転載したものです。

1927 年 11 月 8 日の朝、ヤシの軍団兵全員が私たちの本部に集まり、他の数名がわざわざ他の場所からやって来ました。

数は少ないですが、神への揺るぎない信仰と神の助けへの信頼によって強いです。いかなる嵐に直面しても揺るぎない強い決意とひたむきな頑固さ。聞こえるすべてのものから完全に離れるという点で強いです。これは、物質的なものから大胆に離れ、ルーマニア国家と十字架の大義に奉仕するという私たちの願望と喜びに見られる事実です。

'

これは、軍団の攻撃の第一波を喜んで形成する誓いを立てる時を待ちわびていた人々の気分だった。そして、怒りの時のように白い服を着て私たちが団結したとき、これ以外の態度はあり得ないことは誰でも確信できます。イオン•L•モタ、イリエ•ガルニータ、ラドゥ•ミロノヴィチ、コルネリウ•ジョルジェスク - 刑務所から刑務所へ、過去5年間民族主義運動の重みを担ってきた人々

年。

祈り、

Google による機械翻訳

10時に私たちは皆、衣装を着て*胸にかぎ十字を掲げて列を組んで行進し、聖スピリドン教会に向けて出発しました。そこに、モルダビアの統治者、偉大なる者よ。勇者ミカエルの。ミルチャ•イオン•ヴォーダ著。ホリア、クロセア、クリサンの。アブラム•ヤンク。ドムヌル•チューダー。フェルディナンドさん。そして侵略してくる敵からローマの土地を守るために戦場で倒れたすべての統治者と兵士の記憶に。 '

誓いを立てる厳粛さ。

私たちは軍団歌を歌いながら行進しながら家に戻りました。そこでは、最初の軍団兵の感動的な厳粛な投票が行われた。

祖先の土地。この厳粛さは、トゥルダの勇敢ミカエルの墓から持ち込まれた土と、ステファン大王が最大の戦いを戦ったラズボエニのモイダヴィアの土と、私たちの祖先の血が大陸中に染み込んだ他のすべての場所から運ばれた土を混ぜることによって始まりました。激しい戦いで着陸し、彼を祝福します。土の包みが開かれ、テーブルの上で空になる前に、それを持ってきた人、または送った人たちの手紙が読まれました。

以下の方々が誓いを立てました：コルネリュー•ゼレア=コドレアヌ、イオン•I•モタ、イリー•ガルニータ、コルネリュー•ジョルジェスク、ラドゥ•ミロノヴィチ、この式典を主宰したフリスターシュ•ソロモン、G•クライム、ミル•レフター、イオン•バネア、ヴィクトル•シラーギ、ニコラエ•トトゥ、アレクサンドルヴェントニック•ドゥミトル•リフリム、パンテリモン•スタタシュ、ギータ•アントネスク、エミール
エレメイウ、イオン•ボルデイアヌ、M.
チョバヌ、マリウス•ポップ、ミス•クリサン、ポパ、ブトナル、ブデイウ、I•タナシェ、ステファン•ブデシウ、トライアン•コティガ、そして高校生のミハイル•ステレスク。

新たな戦い

1927 年 12 月 1 日号の「祖先の土地」で、私たちは旅行に使用する軽パネル トラックの購入資金を求める新しいユニットを設立しました。ここでも、同じ一般的な努力システムを使用します。在郷軍人たちはお祝いのコンサート、会議、クリスマス合唱団を組織し、資金を寄付し始めた。フォクサーニの「ヴランチャの十字架の同胞団」は、

*
カーリーラムで作った帽子。 (Tr.)

マクリデスク将軍主催のお祭りショーの結果として総額50,000レイが贈られた。このとき、私はその名を「ヴランスア」から「十字架の勝利の同胞団」に変更し、その名前で今日まで知られています。 1928 年 2 月 19 日、つまり 10 週間後、この動きは成功しました。

私たちはブカレストで新しいパネルトラックを 240,000 レイで購入し、そのうち 100,000 レイを支払い、残りの 140,000 レイを 12 か月の分割払いで支払いました。
私たちはブカレストを離れ、少年たちが名付けた「雌鹿*」を監督するステファン•ニコラウとバネア、ボルデイアヌ、ミロノヴィチとともにヤシに行きました。軍団兵と私たちの友人たちは市の郊外で私たちを待っていて、到着すると私たちは皆の喜びの中で歓迎されました。

毎月の支払いを賄うために、私たちは 100 人委員会を結成し、そのメンバーは 1 年間毎月 100 レイを寄付することになりました。その委員会は 2 か月で 50 名のメンバーに成長しましたが、そのほとんどは貧しい下働きの従業員、労働者、または農民で、月に 100 レイを寄付することで実際に犠牲を払っていました。

ヤシの「城塞」、特にガラティの「ユリア•ハイデウ城塞」の少女たちは刺繍を作り、それをお金で売り始めました。

ある種の素材の問題

彼らの小さなニーズに対して、運動は物質的な観点から非常にうまくいきました。
貧しい人々の働きと寄付から、私たちが生活し、活動を支援するのに十分なお金が集まりました。

寄付金はすべて「The Ancestral Land」に掲載されました。
日記には10レイや5レイをあげた人がいっぱいです。 50 レイや 60 レイを寄付する人はめったに見つからず、私たちの銀行家は月に 100 レイを寄付できる人、つまり 100 人の委員からなる委員会でした。

この委員会からランダムに選んでみましょう: # 16。
ニコラック•ヴォイネア•ド•パンシウさんは、2ヘクタールのブドウ畑に住む5人の子供を持つ家族。

#17。 D.ポペスク、退役准尉。
#18.イオン•ブラナール、昨日まで学生でした。今はエンジニアとして月収4,000レイ。
*
* 19. イオン•ブナル、ルーマニア鉄道の従業員。
* 20. ニスター•M•ティリンカ、協同組合セールスマン。
* 21. Ateliu Georgescu、両親の援助。
* 22. ラドゥ•ミロノヴィチ、親の助け。
23. イヨネスク•M•トライアン、林業技師。

これらの納税者が食料や衣料品への支出を課した経済からは、組織が賢明なお金の使い方でなんとか存続し、正常に発展するのに十分な額が集められました。しかし、ユダヤ人マスコミは叫びました...「この紳士たちはいくらのお金でパネルトラックを買うのですか ?[ユダヤ人は常に悪意を持って、私たちが持っていたものでいくつかのトラックを作りました]。誰がこの運動に資金を提供していますか ?」

おお !皆さん、誰もそれに「資金提供」しませんでした。ルーマニア人の無限の信仰を除いて、ヨブのように貧しい人は誰もいません。私たちは資本家から「資金提供」を受けていないだけでなく、健全な原則に基づいて運動を主導している人には、運動を存続させたいのであれば、資金提供の申し出はすべて断るようアドバイスします。なぜなら、政治運動は、そのメンバーの信仰と犠牲に基づいて、まさに生きて成長するために必要なものを自ら生み出すことができるように構成されなければならないからです。正常かつ健全な発展のために、運動はメンバーが供給できる量だけを消費する権利を有します。そしてその会員は、信仰、つまり犠牲のためにできる限りのお金を提供することしかできません。

十分な資金を提供できませんか?外部資金に頼らず、前進しましょう

メンバーの信頼を高めます。実際、会員からの寄付が不十分であるということは、信仰が薄いことを示しています。資金を提供しませんか ?組織は死んでいるので、すぐに崩壊します。信仰がなければ、信仰を持つ者たちに打ち負かされるでしょう。

*
Legionnaires が最初のパネル トラックに付けたキャッチーな名前。 (Tr.)

自分の運動のために外部からの資金を受け入れるリーダーは、薬を飲んで生きることに体を慣らしている人のようなものです。生物が薬を投与される限り、それは自ら反応することができないと非難されます。さらに、薬を飲まなくなると死んでしまいます。狂信者のなすがままです !同様に、政治運動もそれに資金を提供する人々のなすがままです。これらはいつでも資金提供を停止する可能性があり、運動は単独で生きていくことに慣れていないので消滅してしまう。個人の引越しと同じように、場合によっては多額のお金が必要になる場合があります。そうすれば、期日どおりに借りて返済することができますが、それは確実に実行できる場合に限ります。その結果、支配者の指導者諸君は これを私たちの後に来る者たちに向けて言いますが あなたが将来この種に遭遇した場合、当然のことながら、あなたの運動に資金を提供しようと申し出る善意の者たちを拒否します。

ルーマニアでは、今でも彼らは姿を消しつつあるようです。

金融を行うことができ、金融を行うすべての人々は、ユダヤ人の銀行家、大金持ちのユダヤ人、ユダヤ人の大穀物ディーラー、ユダヤ人の大実業家や商人です。彼らは自国のルーマニア人を絶滅させる政党に資金を提供している。

間もなく、融資に携わる人がいなくなるでしょう。この言葉は、銀行家、獲物、不正、そして猥褻の臭いを感じます。 - 誰でもない。ルーマニア人でも、ましてやユダヤ人でもない。銀行家や大物富裕層、ビジネス詐欺で富を得たビジネスマンのこの階級のために、人間社会に熱心に忍び寄るこれらの猛禽類は絶滅されるでしょう。善良な人や裕福な人は、良識の範囲内であればそれを持っているでしょうが、資金を提供することはできず、貯蓄で運動を助けるだけです。困難な時期に自国を助けるというこの義務はすべてのルーマニア人に課されており、それは永遠に続くでしょう。そしてその助けは今もこれからも大歓迎です。

しかし、私自身の物質的な状況と私の同志の状況はますます悪化し、切迫していました。私は哀れな義父の重荷となり、義父は私を除けば、少ない給料で5人の子供たちに食事を与えたり、着させたりするのがやっとでした。私たちは妻と 1 部屋を占め、家族の他の 7 人は残りの 2 部屋を共有しました。

部屋。

私の状況を理解し、ルーマニアの大義のために形成された彼の大きな愛のおかげで、彼は私に一言も言いませんでしたが、時間が経つにつれて、彼が困難の重みでますます頭を下げているのがわかりました。そこで私たちは、私がフルタイムで運動に専念し、モタがヴァカレスティ刑務所の他の3人の同志とともに法律事務所を設立して生計を立て、私を助けることに決めました。彼らは間もなく開始されるでしょうが、彼らは途方もない困難に直面するでしょう。私は振り返った。 10年前に大学に登録した私たちは、あらゆるクラスの学生が台頭してきたときに一緒に戦った。そして徐々に、彼らは皆、居場所を見つけて、自分たちで生きていけるちょっとした状況を作り出しました。私たちは、世界の道の真ん中で道に迷った狂人のように、社会の片隅に孤立して取り残されています。

たとえ有能な弁護士であっても、私の同志たちは微力ながら生き残ることができるだろう。彼らは鉄道、市役所、州によって雇用されることはできませんでした。そのような場所は、国民運動の隊列を離れて政党に移る人々のために確保されており、品性のない人々にとっては励ましとなる。私たちの命の名誉のために、彼らはユダヤ人の訴訟を起こさないように命じられました。

ルーマニア人は彼らを避けるだろう。彼らのオフィスに入るのは貧しい人々だけでしょう。
私たちにとってその道は困難で、祖国でも排斥され、生計を立てるのがほぼ不可能な状況に置かれていました。

1928 年の夏

私たちは冬の間ずっと巣を整えて過ごします。春になると、ウンゲニ陶器とギーカ夫人の仕事が再開されました。私たちはこの 2 つの場所でレンガを作り、野菜を育てています。
私たちは古い家に住み続けることができるか確信が持てなかったので、別の家を建てたいと思っていました。

私たちを立ち退かせるための手続きが開始されました。

この大変な仕事の中で、私たちはお互いの距離を縮め、一緒に働く人々をさらに身近に感じました。

他人の仕事で生計を立てている人々からはますます遠ざかります。
この作業は、どこかの大学教授の講義よりも、私たちの形成を完成させていました。そこで私たちは逆境を克服する方法を学びました。私たちは意志を強めます。私たちは体を強化し、厳しく厳しい生活様式に慣れました。そこでは、喜び以外に喜びはありません。

精神的な満足感。そのとき、ガラティの「十字架の同胞団」とトク、サヴィン、コステアが他の同胞団と同様に支援に来ました。
ラドゥ•ミロノヴィチは私たちのバントラックの運転を非常に上手に学び、エレメイウの助けを借りて、ヤシ、ヴァラテック、アガピア、ネアムツの修道院の間で有料の乗客を輸送しました。
しかし、夏はいつも貧乏なので、フシのアルビナ銀行に融資を求めなければならず、父の家を11万レイで抵当に入れ、陶器代と月々の分割払いに分けました。バン用と軍団の出版物の一部です。このローンは現在まで返済できず、私の借金は 300,000 レイに達しました。

その夏の間、私たちは軍団のためにお金を稼ぐために貿易にも取り組みました。
ユダヤ人はモルドバのほぼすべての市場で野菜の販売を管理している。軍団学生からなる 3 つのチームが野菜の取引を担当しました。これらのチームはヤシ市場で商品を購入しており、600ポンドから800ポンドを運んでいた。トラックの場合、ユダヤ人にとっては疫病のように落ち、価格は半額になった。

1928 年 8 月 1 日は、私たちの評論が出版されてから 1 周年でした。そのとき私が書いたのは次のとおりです。

「8月1日、『祖先の地』は定期刊行254周年を迎えます。
それは大したことではありません。数日前の 7 月 13 日から 30 日まで、カレアソンヌ市 (フランスの要塞) は創立 2,000 年を祝いました。もしかしたら、軍団にもあと2000年あるのかもしれない！しかし、その中で最も難しいのは、最初の溝を耕すために未使用の土壌を砕かなければならない最初の年です。最初の数日間、多くの困難が私たちに迫ってきましたが、私たちの日記は、時にはチカー、時には貧弱ですが、常に素晴らしく、しっかりと立ち上がってそれらを克服しました。

「1年前、無一文からスタートした国民運動の最も危機的な時期に、サンミゲル•アルカンジョのアイコンを表紙に飾ったとき、私たちは自分たちの批判は生き残ると確信した。」

悲惨との戦い

秋に向けて、個人的な物質的な困難が圧倒的になってきました。妻も私も、まともな靴も服ももう持っていませんでした。妻は4年前の靴を履いていました。
父にはもう何も期待できませんでした。私の他に子供が6人いて、全員学校に通っており、父は苦労の末に借金を背負ってしまったからです。大家族を養い、衣服をまかなうために彼の給料から残ったのはわずか数千レイだけでした。

そこで私は力を振り絞って、私も弁護士活動を始めると同時に運動をリードしていこうと決心しました。
私はウンゲニに事務所を開設し、秘書のエルネスト•コマネスクと緊密に連携しました。

その結果、私はほんのわずかな収入を得ることができ、それで必要なものを賄い、生活の中でのわずかなささやかな贅沢をすることができました。私たちが生活の必需品だけに限定されてから 6 年が経過しました。

6年間、私は劇場、映画館、ビアホール、社交場、パーティーには入っていませんでした。そして今、これを書いているのですが、そのどれにも行ってから 14 年になります。後悔はしていません。私が本当に残念に思っているのは、これまで多くの制約を受けてきた生涯を経て、私がのんびりとした生活を送っていると非難する人がいることです。何年も続いたこの悲惨さの中で、そして私の運命が私に課した厳しい試練の中で、私は忠実に私の世話をしてくれた妻の絶え間ないサポートがありました。彼女は私と無数の打撃を共にし、窮乏を経験し、私が戦うのを助けるために飢えにも耐えました。私は彼女に永遠に感謝するでしょう。

Googleによる機械翻訳

ガヴァネスクル教授が地球バッグを受け取る

私たちに興味を持ち、私たちを一歩一歩注意深く見守ってきた魂がいます。
彼は私たちのことを研究しているのかもしれない。私が話しているのは、1880 年からヤシ大学の教育学教授であるイオン ガヴァネスクルの印象的な老人物についてです。彼はかつて私たちにこう言いました。「土が 1 袋あればいいのに!」

私たちは1928年12月10日に彼を家に招待し、そこで軍団兵のグループの中で私たちの贈り物、つまり私たちが与えることができる最も貴重な贈り物である土の袋を彼に贈りました。白髪と眉毛の老教授は、最も深刻な厳粛な瞬間のように目を大きく見開いた。それから、少しの沈黙の後、彼は言いました、「皆さん、私はひざまずく以外にこのお守りを受け取る資格はありません。」それから彼はそれを受け取り、ゆっくりとひざまずいて祈りました。私たちは皆彼の周りにひざまずきます。

自由党は、「暴力」と「革命」を脅す国民農民による執拗な攻撃の結果、1928年の秋に崩壊した。

国民農民党は8年間の政治的対立を経てシータの政権を引き継いだ。
しかし、それらはすぐに国全体にとって大きな失望であることが判明しました。リベラル派がやったのと同じように、彼らも盗みを始めるだろう。彼らはリベラル派と同じように「スキャンダラスなビジネス取引」に参加するだろう。彼らは憲兵隊を利用して「恐怖」を与え、リベラル派のように反対派や不満を表明した人々を銃撃することさえあった。彼らはリベラル派のように、自分たちで銀行家を作るだろう。

しかし特に、彼らは国際金融の継続的な影響下に置かれることになり、破滅的な融資と引き換えに、何年、何十年にもわたってルーマニアの富を少しずつその金融に譲り始めた。

最初の忍法指導者会議と忍法指導者の結成
軍団上院議員

私は 1929 年 1 月 3 日から 4 日までヤシで、巣のリーダーたちの最初の全国会議を招集しました。 ４0人から５0人が参加した。会談はイオン•タルノスキ将軍の家で行われたが、その際、彼は感動的な式典の最中に目に涙を浮かべながら、自らの兵士と将校の血が入った土の入った袋を受け取った。

「ルーマニア解放の時まで見届けるのに十分な日数を神が私に与えてくれたらどんなに良いだろう。
でも、そんなに長くは生きられないと思うよ」と彼は語った。
その際、別の一連の軍団兵が誓いを立てた。彼らは、戦争中に身体障害者となったスピル•ペチェリ、プルナルへの攻撃以来身体障害者となったゲオルゲ•ポトレア、ニコラエ•ヴォイネアらである。

私たちは、これまでの議論や各地域の代表として出席した各人の報告から、それまで我が国では採用されていなかった「巣」システムが普及し、良い結果をもたらす可能性があると確信しました。

確かに、どんな事業にも問題や奇妙な点はつきものです。しかし、それ以上の教育を受けずに、私たちのレビューで与えられた訴えとガイドラインに基づいてのみ、1年の間に、孤立した巣、活発な巣がすべての地域と社会階層で形成されたことを知るだけで十分でした。 。私は自分自身に言いました。 「システムは試験に合格しました。

それは動作します。"
この1月3日と4日の会議は、私の組織原則が正しかったことを証明しました。
したがって、私たちが今しなければならないことは、同じ流れをしっかりと継続することでした。

同時に、この運動が若者を中心に広まりつつあることにも気づきました。動的な教育システム、つまり行動と並行した教育は、静的な教育システムよりもはるかに優れているということです。

したがって、私たちはこの制度をもう一年継続しなければならず、依然として大衆に浸透しようとせず、選挙運動の考えを捨てなければなりません。そのとき、軍団上院が設立された。このフォーラムは、50 歳以上の男性、知識人、農民、労働者で構成され、

Googleによる機械翻訳

彼は偉大な矯正の人生を送り、将来の軍団と偉大な知恵に大きな信頼を示しました。困難な時期に彼らのアドバイスが必要だと思われるときはいつでも、彼らは呼び出されるのです。彼らは選挙で選ばれるのではなく、軍団長によって任命され、その後上院の残りの議員によって可決されることになっていた。上院議員の称号は軍団兵が望む最高の名誉だった。その後、上院はフリスタシュ•ソロモン、マクリデスク将軍、イオン•タモスキ将軍、スピル•ペセリ、コロネル•カンブレアヌ、イオン•ブナルによって設立された。憲法制定から数カ月後、高名な大学教授トライアン•ブライレアヌ氏が、その5年後に彼の雑誌「Ensaios sociológicas」で、この軍団現象を最も分かりやすい言葉で説明し、上院での地位を獲得した。

大衆向け

モティ族は今でもトランシルヴァニア中央の山中に住んでいます。それらの山々のように古く、彼らは何世紀にもわたって同じ生活を送り、常に2つの特徴に支配されていました。それは貧困です。彼らは唯一のルーマニア人であり、おそらく地球上で、その歴史を通じて幸福と豊かさ、そして自由のための闘争の一日を一度も知らなかった唯一の人々です。 。彼の生涯は自由を求める闘いでした。彼らは私たちにホリア、クロスカ、クリサンを与え、1784 年の革命を支持しました。彼らは私たちにアブラム•ランクーを与え、1848年に戦いました。歴史には、ハンガリーの支配に対して彼らの山中で40以上の反乱が記録されています。彼らは皆、最終的には自らの血に溺れた。

しかし、彼の堅固さは決して打ち破られることはなかった。最近、アモス•フランクとエミル•シアンク大尉、モティ自身の護民官からの声が、警報の叫びのように無駄に響きわたっている。その山には金鉱山がある。探検家たちは一人ずつ金持ちになったが、彼らは裸でパンも持たなかった。

「金は我々の山の中心にある

私たちは戸別訪問で尋ねます。」

灰色の岩がむき出しになっている。その中では何も成長しません。小麦でもトウモロコシでもない。存在する唯一の富は探検家の手の中にある金であり、生計を立てる唯一の可能性は森の中にあります。

エイリアン支配の試練は千年続いた。千年の抵抗、いつか偉大なルーマニアが誕生して彼らを救い、最終的に彼らと彼らの子供たちの世話をし、長く致命的な不正義を修復し、彼らの長年の忍耐と苦しみと努力に報いに来てくれる事を願って。奮闘中。母親のいない人だけが慰めを知っています。国のない者だけが慰めも報酬も知りません。祖国は常にその子供たち、正義を待ち望み正義を信じた人々、正義のために戦い苦しみ苦しんだ人々に報いる。モティ族の計り知れない忍耐、苦しみ、勇気が報われなかったとは考えられません。

しかし戦後、各人、特に各政治家は、自分自身の「私」、自分自身の物質的、選挙的、政治的状況に専念するようになりました。モティが忘れ去られるように。自分自身の「私」に夢中になっている人は、「他人」に夢中になることはできません。
そして、現在の懸念に囲まれている者は、祖国の名の下に働いて、勇敢な人々に与えられるべき偉大な歴史的補償と報酬が確実に与えられるように、自分自身、自分の考え、感情を歴史の中に置くことはできない。

彼らは忘れられただけでなく、ユダヤ人の高利貸しの餌食として引き渡された。ユダヤ人は利益を追求する競争の中で、外国人の足が決して侵入できない山に忍び込み、山の高いところに工場を建て、伐採することで唯一の生計を奪ったのだ。彼らの森は裸の岩のように残されています。

「ああ、イアンクよ、死から戻ってきて、私たちの山が覆われていないのを見てみませんか？」

彼らは絶望の歌の中で、自分たちの山が略奪され、森が「小さなユダヤ人」の一団によって「削り取られる」のを見て、自分たちの英雄であるランクーに叫びます。これは大ルーマニアの統治下、国民が待ち望んだ勝利を収めていた頃のことである。

生きていて、あらゆる不法行為に対して10世紀にわたって抵抗し、そして今、あなたが1000年も待ち望んでいた大ルーマニアで惨めさと飢えで死ぬとは、なんと恐ろしい悲劇なのでしょう！彼女はあなたが待っていた人です。彼女はあなたを支えた唯一の精神的な支

えでした。今、その希望も崩れ去ります。パンはありませんでしたが、待っていました。この国民にとって、大ルーマニアは、千年にわたる苦しみの後の、すべての喜びに満ちた報いを伴う、元気づけや勝利、戴冠式とはならなかった。

人々。そのためには、ルーマニアの政治家のようなピグミーの魂ではなく、ステファン大王のような魂を持った人物が必要でした。大ルーマニアはモティ族にとって致命的な絶望への崩壊を意味した。これらの政治家は我が国の顔を汚している。のために

国家には、他の利益を超えて、特定の道徳的義務を果たす義務があります。もしその国が彼らを見つけられなければ、その国の顔は汚されるでしょう。

カンペーニ近郊のビストラ出身の教師からの手紙に感動し、私は電車に乗って現地に行き、自分自身で状況を調べました。小さな登山列車に乗って、私は沈みゆく心でアプセーニ山脈の谷間を旅していました。そこでは数え切れないほどの戦いで死が飛び交い、ホリアとイアンクの幽霊が徘徊していました。

私は駅で農民のモティに近づきました。彼のコートには少なくとも20の斑点があり、比類のない貧困の証拠でした。彼は自分で作った木樽のフープをわずかなお金で売っていました。彼女の目は落ち込んでいて、頬はつねられていた。優しい顔立ち。彼女の視線は恥ずかしがっていた。彼の顔には特別な考えは読み取れなかったが、彼の目には痛みがあり、私にはただ飢えた人ではなく、飢えに苦しむ人が見えた。

同情や懸念を抱かせるその優しい目には、人生への関心はまったく見られませんでした。彼らはただ空白だった。

「こういった部分はどうやって管理しているんですか？」
彼に聞いた。 「分かった !分かった、ありがとう。」
「ここでトウモロコシやジャガイモを
栽培できますか？」 「はい、できま
す。」
「食べ物など必要なものは全て揃っていま
すか？」 「はい、あります...あります...」
「それで、あなたは悪くないんですけど…？」
「違う！…N61…」

彼は何度も私を評価しましたが、話すことを非常に嫌がりました - 彼の心がどのような絶望の岸辺をさまよったかは誰にもわかりません - そして彼は受け継いだ人種的高貴さを見知らぬ人に説明したくありませんでした。

ついにビストラに到着し、手紙をくれた村の先生を探しました。一日だけ滞在しました。私が訪れたモティ族の貧しい家々では、大勢の幼い子供たちが寒そうに身を寄せ合って、馬車で道を歩いていた両親の帰りを 2週間、3週間、時には 1か月以上待っているのを見ました。彼らが作った木製のフープや樽と引き換えにコーンミールの袋を持ち帰って、その後、神がより寛大だった国の他の地域で何百マイルも売ります。モティたちが家にいるのは一年のうち数か月だけです。残りの時間は移動中です。先生が私に言いました。

「ハンガリーの統治下でさえ、外国人はここに定住することはできませんでした。
しかし今日、オラデアにあるユダヤ人の会社が所有する製材所が設置され、私たちの森林を乗っ取り、伐採してきました。貧しい生活の中で、モティ家は樽と樽の縁を作ることで生計を立てていました。

しかし、これからはそれが奪われてしまうのです。彼らは死刑を宣告される。 「飢餓やその他の生活必需品のため、彼らはユダヤ人のために働かざるを得ず、日当20レイで自分たちの木を伐採しているが、それは些細なことだ。山から搾り出され、谷で伐採された富のうち、彼らが残したものはこれだけだ。 「長い列車です。そして木が切り倒されたら、私たちも終わりです。しかし、もっと悲しいことがあります。私たちは何百年も徳を積んで生きてきました。ユダヤ人は放蕩の罪を持ち込んできました。」 10年以上前、この製材所では30人のユダヤ人が働いていました。

そして、給料を受け取る土曜日の夜に、彼らはモティの少女や女性たちを連れて夜の乱交パーティーで彼らの名誉を傷つけます。貧困に加えて、道徳的、身体的な病気が村を蝕んでいます。

そして何も言えません。これらのユダヤ人は政治家全員と非常に仲が良く、事実上全能の君主であるため、いかなる抗議も試みることはできない。地方自治体は憲兵から上層部に至るまで、あらゆるサービスを提供します。

何かを言おうとすると、一部の国民が他の国民を「憎む」ように「扇動」したとして即座に非難されるでしょう。あなたは、ルーマニア人が常に「平和なユダヤ人住民」とともに暮らしてきた「社会の調和」と「兄弟の血統」を乱していると。私たちはそうではないということ

イエス•キリストに対する善良な「キリスト教徒」はこう言いました、「あなたの隣人を愛してください。あなたに危害を加える人を愛してください…」など。

一言でも発言すれば、「国家安全保障の敵」として、また「内戦」の扇動者として逮捕されるだろう。侮辱されたり、殴られたりすることもあります。彼らは当局を支配しているので、あなたは黙って国民の悲劇を見守らなければなりません。神にとっては、私たちを盲目にして、私たちが自分の目で見ることができなくなる方が良いでしょう。そうすれば私たちは何も分からないでしょう。 」

血管の中で血が沸騰し、ルーマニア当局と大ルーマニアの法律がこのような国家に対する犯罪を容認できるのであれば、銃を手に山に行き、敵や裏切り者の集団に容赦なく撃ち始めようという考えが再び浮かんだ。 。

ルーマニア、その名誉とその将来、そしてこれらの疲弊した法律と権威が正義と救済の希望を奪っているのかどうか。
私はこれらの人々が背負っている重荷に重荷を感じ、心を痛めながらヤシに戻りました。

人民の支配階級、その政治的および文化的階級の疎外は何と恐ろしいことでしょう。
文学者や作家は、あらゆる種類の無関係なトピックに労力を費やします。書店のショーウインドウを埋め尽くすほどの本が出版されています。
もし彼らの目の前で繰り広げられているモティ事件のような歴史的悲劇に対して、彼らが抗議の言葉を一言も見つけられなかったとしたら、彼らに対する警鐘ともなり得る今後の判決はどうなるだろうか。人々は唖然としましたが、なぜあなたを麻痺させ、あなたの人生と将来を曖昧にするスキャンダラスな文学がたくさんあるのでしょうか？

国家は、道徳的、肉体的存在を脅かす危険を告発し、未来への道を照らすというまさに神聖な使命を負っているこれらの作家や学者たちをどのような観点から見るべきでしょうか？そして、国民の生命と名誉を守るという最も基本的な義務を放棄した、議会やその他の政治的階級の「発言者」はどのようにみなされるのでしょうか？

私がビストラからトゥルダ行きの小さな列車を降りるとき、ビストラ製材所の所長も同じ部屋に乗り込んできました。太ったユダヤ人は衣服にほとんど拘束されておらず、豊かな人生を送っている印象を与えた。彼のような人は、人生で一度も飢えを経験したことがないと思います。次の停留所でも私と同年代の若者がコンパートメントに入ってきた。最初の瞬間から、彼らがとても気の合う友人であること、そしてその青年がルーマニア人であることがわかりました。ユダヤ人は魔法瓶からコーヒーを注ぎ、パケットからケーキを数枚取り出しました。彼は食事を始めた。オオカミの食欲を見てきました。彼は友人を参加に誘っていなかったことに気づく前に、激しく飲み込み始めたので、すぐに招待しました。青年はケーキとコーヒーを手に取り、かなり恐る恐る食べ始め、裕福なユダヤ人が自分に向けられている「注目」に感謝と敬意を表した。それは復活祭前の金曜日、つまり聖金曜日の午前5時ごろ、まだ完全には晴れていませんでした。

悲しいことに、私は自分自身にこう問いかけました。

「キリスト教世界全体が断食するこの日に、ルーマニア人を拷問するユダヤ人と並んでケーキを食べるこの若いルーマニア人の悪党は誰なのだろうか？」

会話から彼が林業技師であることが分かりました。そのユダヤ人は、強迫的に話したいという傾向を示しました。彼は絶えず話したり冗談を言ったりした。それから彼はレコードプレーヤーを製造し、レコードを再生し始めました。私は車室の隅に座って、何も言わずに窓の外を眺めながら聞いていました。

夜が明け始めて、私には見えました。

Google による機械翻訳

鉄道と並行する道路、その前を馬車の長い列が続き、モティの男が平和に、そして悲しそうに歩いていた。石 、 そしてさらに
炭を積んだ彼らは、車で60マイル離れたトゥルダ市場に向かい、売り買いするために、新しい服やおもちゃではなく、復活祭の時期だったので子供たちに持ち帰るための数キロの食料を買った。それが彼らが子供たちにもたらすことができる唯一の喜びです。

痛みと不安で心がうめきます。これらの泥棒があなたのパンを奪うだけでは十分ではありません。彼らはまた、この聖金曜日に、あなたの貧困と信仰を冒涜し、侮辱します。彼らは、人間の苦しみと痛みを尊重するため、最も深い静寂と礼儀正しさを除いては、飢えとボロボロの人々の前を裸で歩くべきではない長年の苦しみの道を、歌い、罵りながら通り過ぎます。運命。君の無慈悲な運命を。夜が明けると、若者と私の目が合った。彼が私を認識しているのがわかりました。落ち着きがなく、彼は自分の心を失った

落ち着き。私も彼のことを認識しました。 1923年当時、私は彼をキリスト教国家主義者の学生として見ていました。彼はデモをする学生グループの先頭に立って、次のように唱えていた。

「そして我々はユダヤ人を足下で潰すか、さもなければ栄光に死ぬだろう」などなど。

私は悔しさでいっぱいでした。 「もし明日、戦う若者たちが皆このようであれば、我々の人民は死ななければならない。ユダヤ人の征服、洪水、地震、ダイナマイトによって、どれであろうと、彼らは滅びなければならない。」

1929 年の夏

この夏は2つの行進が組織され、1つはガラティとフォクシャニの「十字架の同胞団」の若者たちによるもの、もう1つは軍団によるものであった。
私は、私が何度も歩いた道に彼らを連れて行き、できるだけ多くの時間を彼らと一緒に過ごし、彼らを観察し研究し、そして今度は私たちの国の美しさを彼らに見せたかったのです。私は、雨、風、暑さ、あるいは泥の中で全員が重い荷物を運ぶ長い行軍に向けて、まず若い軍団兵たちの意志を実行しなければならず、彼らの意志を育むように努めるつもりです。隊列を組んで歩調を合わせ、何時間も会話を禁止する。森で眠り、質素な食事をするスパルタ生活を通して。態度やしぐさから始めて、あらゆる面で自分自身に対して厳しくなる義務によって。巨大な岩を登ったり、川を渡ったりするなど、乗り越えなければならない障害が彼らのために作られました。

私は彼らを、どんな困難に直面しても真っ直ぐで男らしく見える、意志の強い男性に育てようとしていました。したがって、私は障害物を迂回することを決して許可しませんでした。克服しなければなりませんでした。

風が吹くたびに曲がってしまう、弱くて敗北した人間、現在政治生活や専門職に蔓延しているタイプの人間の代わりに、我々はこの人民のために、不屈で恐れを知らぬ征服者を創造しなければなりません。

共通の指導を行うことで、逆にチームのエスプリ、一体感を醸成していきたいと考えています。共通の指導が大きな影響を与えることに気づきました。人間の知性と精神を表現し、彼の乱れた心とアナーキーな感情に秩序とリズムを与える。懲罰的措置を講じる際には、最終的には彼らの行動に責任を負う責任感と勇気を養うことを目指します。
嘘をつき、責任を回避する男ほど嫌なものはない。

私は例外なく、違反行為を定期的に処罰します。私は公共の公園で騒動を起こしたヴァトラ•ドルヘイの若者を罰しました。

Googleによる機械翻訳

ドルニ•コザネスティではもっと深刻なことが起こったが、それ自体ではなく、事件が明らかにした精神状態の表れだった。 4人の若者がユダヤ人の酒場に行き、イワシとパンとワインを求め、よく食べた後立ち上がった。そのうちの1人は、代金を支払う代わりに英雄的にリボルバーを振り回し、もしユダヤ人が叫べば命を脅かした。なぜなら、彼らはコルネリュー•コドレアヌのものだったからである、と彼は付け加えた。

グループ。

私は彼を罰した。もし私がそうしなかったら、道徳的に身を滅ぼしていたのは、イワシ缶を盗まれたユダヤ人ではなく、この若者だっただろう。確かに、軍団兵の間では、私たちは皆間違いを犯しやすいものであるため、罰によって憤りを引き起こすことはできません。私たちの概念では、罰とは名誉ある人が間違いを正さなければならないことを意味します。刑罰が達成されると、男は何事もなかったかのように重荷から解放される。ほとんどの場合、この罰は何らかの労働の形をとります。それは、その仕事が非難の性質を持っているからではなく、善行によって犯された悪を正す機会を提供するからである。だからこそ軍団兵は平然と刑罰を受け入れ、実行するのだ。

大衆の場に行くという決断

1929 年 11 月 8 日

Legion が創設されてから 2 年以上が経過しました。私たちの巣は全国に増えました。これらの小さな核を利用して機能を刺激し、運動を強化する必要性が感じられました。ユダヤ人問題の解決に国家的措置をもたらす唯一の合法的な方法は、政策手段によるものでした。これは一般大衆との接触を前提としていました。良くも悪くも、これは法律によって私たちが利用できるようになった方法であり、遅かれ早かれ私たちは従わなければならなかったのです。レフターとポトレアとともに、私たちはTGで軍団兵の最初の公開会議を設定しました。この決定は11月8日に国中から集まった新たな軍団兵が軍団の守護聖人の誕生日に誓いを立てた際に下された。

同時に、私はトトゥをトゥルダ郡に送り、そこでアモス•ホラティウ•ポップとともに軍団の宣伝を強化し、集会も組織することになった。

1929 年 12 月 15 日

12月14日の夜、私はベレスティにいました。倉庫ではレフター、ポトレア、タナセアントヒたちが待っていた。ベレスティの市場町はまさにユダヤスズメバチの巣です。混雑した家や店。唯一の通りは市の中央を貫いており、くるぶしまでの深さの泥があり、その脇にはいくつかの歩道がある。ポトレアの家に泊まるはずだった。

翌朝、ガラティの検察官と警察署長がやって来て、会議の開催は許可されていないと告げました。

私は彼らにこう言いました。

あなたが私に突きつけている禁止は正しくも合法でもありません。ドイツ人、ハンガリー人、トルコ人、タタール人、ブルガリア人、ユダヤ人を問わず、誰でもこの国で会議を開く権利を持っています。右？あなたの尺度は恣意的なものです。違法なので従わない、いつでも会議を開かなければならない

」

料金。

結局、少しの話し合いの結果、迷惑をかけないことを条件に、私の会議開催が承認されました。どうすればいいですか？

どのような混乱ですか？人の家に侵入するの？これが私の初めてでした

公開会議。私はそれを完全な秩序に保ち、それによって他の人を保つ特権を保持するという完全な決意を持っていませんでしたか？
約束の時間になると、百人近いごく少数の人々が集まりました。
私は彼らから、もっと多くの人たちが来たいと思っているにもかかわらず、村を離れることを妨げられているということを知りました。会議全体はわずか 5 分で終わりました。
左官は 1 分間話し、ポトレアはもう 1 分間話し、残りは私でした。私は言いました、「私たちはデモをするために来たのですが、当局は私たちの部下の参加を強制的に阻止しました。どんな命令にも反して、私は10回デモを行います !誰かが私に馬を連れてきてくれれば、私はホリンシア地区を村から村へと馬で移動します」 。」
実際、あの泥の中では移動手段は馬だけでした。
2時間後、馬が連れてこられて、私は出発しました。徒歩で私の後に続いて、レフターが他の4人の軍団兵を連れてやって来た。最初の村メリアに到着。そこの教会の庭には、数分のうちに男性も女性も子供も全員が集まりました。私はほんの二、三の言葉を言っただけで、政治的綱領については何も説明しませんでした。「みんなで団結しましょう。
男性
そして女性たち、私たち自身と私たちの人々の新たな運命を切り開くために。ルーマニアの復活と解放の時が近づいています。
信じる者、戦い、苦しむ者は、新しく乾いた時代が私たちのドアをノックしていることによって報われ、祝福されるでしょう !この人々の魂を持った世界は不妊で死につつあり、信仰に満ちた人々のものとして別の世界が生まれつつあります。 「この新しい世界では、学校教育、知性、知識に基づいてではなく、何よりも信仰と性格に応じて、誰もが自分の立場を得るでしょう。」

それで私たちは続けました。 5キロも離れていないうちに、スリヴナに到着します。
暗くなってきた。しかし、人々はろうそくの火を灯して私を待っていました。テオドシウ率いる軍団兵の巣が迎えに出てきた

村のはずれにいる私。ここでも言いました。それから、先頭に立っているスリヴナ軍団兵の巣であるコマネスティに向かった。これらは私がこれまで通ったことがない道でした。ここでも若者たちが歌を歌いながら、人々が提灯やろうそくを持って私を待っていました。どのグループに属していても、人々は喜んで私を歓迎してくれました。私たちは見知らぬ人でしたが、長い間友達だったような気がしました。

敵意は消え去った。私たちは皆、一つの魂、一つの人間でした。翌朝、また散歩を再開しました。しかし、今回は私は一人ではありませんでした。他の3人のライダーが私に来られるかどうか尋ねました。隣の村ガネスティの外れで、私たちはドゥミトル•クリスティアンの家に立ち寄りました。彼は 40 歳くらいの男で、白眉で、太い眉の下に両目を隠していました。彼は第一次学生闘争以来、激しい民族主義者であった。さて、まさにその瞬間、彼は馬車から馬を外し、そのうちの一頭に鞍を置き、私たちと一緒にやって来ました。すぐに私たちの数はドゥミトルとヴァシル•ポパ、ハサン、チクリタと増えました。村から村へと馬で移動するうちに、ライダーの数は20人に増えました。ほとんどの人は25歳から30歳の間で、早くて35歳か40歳の人もいましたが、最年長のチクリタ•デ•カヴァディネスティは45歳くらいでした。私たちの数がこれほど増えたとき、私たちは独特の記章、つまりユニフォームの必要性を感じました。これ以上良いものがなかったため、私たちは皆、帽子に七面鳥の羽を入れていました。それで私たちは歌いながら村に入りました。私たちが歌いながら、彼の馬がプルス川の近くの丘の頂上に沿って小走りする音を響かせた。昔、モルダビアの領土を守った昔の人々の影である私たちの祖先と戦った場所だ。現在の生者は過去の死者と同一視され、私たちは同じ魂であり、丘の頂上を越える風に運ばれるルーマニア人の同じ偉大な団結でした。私の到着の知らせは口頭で伝わり、すべての村に伝わりました。村人たちはどこでも私たちを待っていました。
道で出会った人は皆、「あなたもいつ来るのですか ?昨日は夜遅くまでみんながあなたを待っていましたよ。」と尋ねました。

それらの村で、彼が歌い、人々に語りかけたとき、彼は自分が、借り物の綱領を持った政治家たちが決して降りることのできない、定義のない魂の深みに浸透していくのを感じた。そこの奥深くに根を差し込んだ

Google による機械翻訳

軍団運動のこと。誰もそれらを引き離すことはできません。木曜日はベレスティの市場の日でした。朝10時に、我々騎手約50名が市場町の上の丘の頂上に現れた。そこから私たちは歌いながら隊列を組んで街に向かいました。

町の人たちは私たちを大歓迎してくれました。ルーマニア人はクリスチャンの家を出て、バケツに水を注いで私たちに向かって行きました。これは古い習慣であり、私たちが旅行する際にすべての希望が成就することを祈っていました。
再び私たちは、最初の集会が開催される予定だったニク•バランの中庭に入った。この時点で3000人以上の人がいた。会議はありませんでした。
何人かのパイロットにお土産をあげました。

私はタバコホルダーをニュー•バランに渡しました。ヴァカレスティ刑務所で処刑されたチクリタにはかぎ十字が与えられた。レフターとポトレアは軍団最高評議会のメンバーに任命され、ニュー•バランはコヴルイ郡の参謀に任命された。そしてホリンシア渓谷の軍団長としてドゥミトル•クリスティアン。

このホリンシア渓谷は、その場所と人々とともに私にとって大切なものであり続けています。
彼はフォクシャニに次いで軍団運動の二番目に強い柱であり続けることになる。

トランシルバニア、ルドスル•デ•ムレスにて

私たちはクリスマス前の金曜日の午後5時にルドスに向けて出発しました。トラックには私たち4人が乗っていました。運転するラドゥ•ミロノヴィチさん、知人のエミール•エレメイウさん、そして私です。極度の寒さのため電車の運休が余儀なくされました。その夜、トラックに藁を詰めて体を覆ったにもかかわらず、私たちは寒さで死にそうになりました。私たちはヤシ、ピアトラ-ネアムツ、ヴァレア•ビストリテイというルートを走り、午前4時にカルパティア山脈の頂上に到着しました。

24時間以上の運転の後、私たちはそのクリスマスイブの午前11時にルドスル•デ•ムレシュに到着しました。ここで私たちはアモスの家でゆっくり休んだ。私たちはクリスマスの朝に教会に行き、それから小さな町を観光しました。 Tgより大きかったです。
ベレスティ。郡都トゥルダの東約29マイルに位置する。ベレスティの割合には及ばないものの、この都市もユダヤ人でいっぱいです。ここ

また、市場に定着したユダはルーマニア全土に蜘蛛の巣を張り巡らせた。貧しい農民たちはこの巣に捕らえられ、ぐるぐる回って呆然とし、その後、全財産を吸い取られるだろう。クリスマスの翌朝、我々は出発した。バンは10人の軍団兵を乗せて先を行き、次に私と20人の騎兵が馬に乗った。アモス、ニチタ、コルセリウ、マッテイ教授ら全員が帽子に七面鳥の羽をかぶっていた。道中、出会った人々は私たちの目的を知らなかったので、好奇の目で見られました。

しかし、私たちは最高の権限を与えられているかのようにライディングしており、私たちにそうするように命じたルーマニア人の性質に沿ってやって来ていると感じました。ゲータ、グリゴレスティ、グラ•アリエスルイには、ホリンチャ渓谷と同じくらい多くの人々が集まっていました。ここでも、いかなる政治的計画についても概説することはありません。私たちがモルダビアから来たのは、千年にわたる奴隷制度、不法行為、埋葬が十分に長かったルーマニア人の苦悩する魂を蘇らせるためだと話したばかりです。

大ルーマニアは多くの犠牲を払って実現しましたが、異星人の支配と昔からの不正義が大ルーマニア誕生のこちら側にも及んでいたようです。ルーマニアの10年間の政権は、私たちの痛ましい傷を癒すことも、何世紀にもわたる不正を正すこともできなかった。彼らは私たちに一見の団結をもたらしたが、ルーマニア人の魂は依然として政党の数と同じくらい多くの部分に分裂していた。この民の復活は地下で沸き起こり、間もなく爆発し、私たちの未来と暗い過去全体をその光で照らします。信じた者が勝ちます！

もう一度、私は彼らの心の中に降り立ったような気がしました。私はモルダビアから何百キロも離れていましたが、何世紀にもわたって国境によって私たちから隔てられてきた地域で、そこでもプルス近くのホリンシア渓谷とまったく同じ、同じ魂を見つけました。まさにこの国の魂そのものであり、その上に人為的な境界線が引かれたことは一度もなかったことが理解できた。なぜなら、同じ息吹が国の一方の端からもう一方の端へ、ドニエストルからティサまで、人為的に作られた境界を全く無視して流れていたからである。同様に、地下水は人間が地表に作った障害物を無視して流れます。

そこでは、私は、政党も、敵意も、衝突も、関心のあるものはなく、兄弟殺しの闘争のような「盲目的な不一致」もなく、ただ団結と調和だけを見つけました。クリスマスの二日目、私たちは再び旅に出ました。私たちは途中で教会に立ち寄り、勇敢なミゲル*、ホリアとその部下たち、そしてランクーを偲んで祈りをささげ、今日私たちが国民の愛のためにその道を歩いていることを彼らにも知らせました。彼らの体は拷問され、引き裂かれました。それはサント•ステファノの祝日でした。そこで私はステファン大帝の鎮魂のためにろうそくに火を灯しました。彼を通して私たちの民は最大の栄光を獲得しました。私は彼をナポレオン、ジュリアス•シーザー、マケドニアのアレクサンダーと同等だと考えています。

私の歩みが私をどこへ連れて行っても、どんな戦いをしなければならないとしても、もし私の上にサン•ミゲル大天使の影を感じ、私の下に軍団運動の家族の20人の愛する殉教者の影を右に感じるなら、私もそうするだろうステファン大王とその剣の魂を感じてください。

ベッサラビアで

1930年1月20日、私はトトゥ、クラング•アヌ、エレメイウを送りました。

* 1601年にハンガリー人がワラキア王子ミカエル勇敢を殺害したのはトゥルダの平原でした。彼はワラキア、モイダヴィア、トランシルヴァニアの一時的統一に影響を与えた最初の統治者でした。 (Tr.)

乳首を抱えてバンに乗ってテクチ郡へ向かい、一方私は一月二十五日、騎兵たちの真っ只中、再びホリンシア渓谷にいました。 ２6日夜、ロゴジェニを経てオアンセアに入った。どちらの村でも、私たちは温かく迎えられ、大きな期待を持って迎えられました。私たちはオアンセアでアンタチ家にホストされました。翌日の月曜日は、プルス川左岸のカフルで市場が開かれていた。

そこで私たちは、ユダヤ人がより多く、挑発的だったベッサラビアに行くことにしました。

カフルでは、バエッサラビアの他の貿易都市と同様に、ユダヤ教は共産主義です。それは「人民への愛」のためではなく、共産主義の勝利によってのみ打倒され、ユダヤ人の完全な支配の下に置かれることができるルーマニア国家に対する憎悪のためであった。共産主義の勝利は、ユダヤ教の基礎である「選民」理論によってキリスト教諸国を支配し搾取するというユダヤ教の夢と一致している。

その夜、私たちは高さ約8インチの白い布の十字架をいくつか作り、それを騎士のコートに縫い付けました。私はそれを運ぶための木製の十字架を与えられました。翌朝10時、私はクリスチャン•ベッサラビアの首を絞めている異教徒の勢力に対抗して十字架を担ぎながら、30騎の騎兵の先頭でプルス川を渡った。 5キロ近く移動した後、私たちは市内に入りました。クリスチャンたちが家から出てきて私たちを追ってきました。彼らは私たちのことを知りませんでしたが、私たちのコートに白い十字架があり、帽子に羽が付いているのを見ました。私たちは歌いながら通りを歩きました。

「起きろ、起きろ、ルーマニア人！」

私たちは公共広場に立ち寄りました。あっという間に7,000人以上の農民が私たちの周りに集まってきました。彼らは誰も私たちが何者で、何を望んでいるのかを知りませんでしたが、

Googleによる機械翻訳

私たちが彼らを救いに来たという予感を誰もが持っていました。
私はホリンシア渓谷やトゥルダで話していたのと同じ方法で彼らに話しかけ始めました。しかし2分後、地元当局に付き添われた警官ポポフが群衆をかき分けて私を呼び止めた。

「この広場で公の集会を開くことは許可されていません...」「ルーマニア国民はどこでも集会を行うことが許可されています。」
当局は私たちが話すことを妨げたかったのです。人々は私たちの話を聞きたがっていました。
「私の良き皆さん」 彼は彼らにこう言った 「そういうことだ。公共の広場で集会を開くことは法律で禁じられている。私たちは街の郊外か誰かの家のパティオに行くつもりだ。」
私はライダーたちに合図し、私たちは街の郊外に向けて出発しました。軍の非常線が群衆を止めた。数分後、私はコルニア大佐が率いる銃剣を持った兵士の分遣隊と対峙した。彼はリボルバーを抜いて私に向けました、「やめろ、さもないと撃つぞ！」彼は言った。やめました。

- 大佐、なぜ私を撃つのですか?私は何も間違ったことはしていません。私もリボルバーを持っていますが、誰とも、特にルーマニア軍と戦うためにここに来たわけではありません。

私は彼と1時間近く議論しましたが、すべて無駄でした。私は一時間そこに座って、できる限りの侮辱と嘲笑を受け止めました。同じ声調で彼に答えることもできたし、彼と戦うこともできたが、私は鉄の意志を結集しなければならなかった。そうでなければ、私はもっと悲しい状況に陥っていただろう。つまり、ルーマニアの民族主義者である私自身が、自分自身の民族主義者と戦うということだった。国の軍隊と共産主義ユダヤ人に監視されている。

大佐はサーベルで私たちと馬を殴り始め、兵士たちは銃剣で私たちを突いた。それから市長が到着したので、私は馬から降りて市役所まで付き添った。彼は文明的な人でした。大佐も来た。

私は彼に、「私は
あなたの立場を尊重します。だから答えませんでした。でも、それは問題ではありません。来週の月曜日に同じ場所でお会いしましょう。」と言いました。
それで私は去りました。軍曹が私の馬を連れてきました。クリスティアンとチクリタが門のところで歩いて私を待っていました。それから彼らは馬を連れてきて、私たちは警察に後ろから追いかけられ、ユダヤ人たちの侮辱的なにらみつけられながら来た道を戻りました。都市の郊外で、私たちが受けた敗北に悲しんでいる残りの騎士たちを見つけました。少し進むと、街から逃げてきた農民たちが私たちに何者なのか尋ねてきました。

「戻って、来週月曜日に戻ると人々に伝えてください。郡内のすべてのキリスト教徒はカフルに行くべきです。」

私たちは殴られました。私たちは歌う気分ではありませんでした。私たちは帰ろうとしていましたが、誰も何も言いませんでした。オアンセアに戻ったとき、私たちは2月10日月曜日にカフルに戻ることを知らせるポスターを10枚作りました。これらは騎手によって自治体内のさまざまな地点に送られました。それから私たちは車でガネスティからクリスティアンの家に戻り、困難な旅を終えて真夜中頃に到着します。

真っ暗で二歩先も見えず、前からは冷たい雨が顔に打ちつけ、後ろからは痛ましい敗北の記憶が襲いかかっていた。
私はクリスティアンの家で一晩過ごし、朝ベレスティへ向かいました。そこで私は、ロリンシア渓谷、ガラティ、ヤシ、ブカレスト、フォクシャニ、トゥルダの軍団兵に指示を出し、カフルでの敗北を知らせ、これはもはや名誉の問題であるから、全員がそこに戻って勝利しなければならないと述べた。 ;彼らはできるだけ多くの人数で集合場所であるオアンセアに報告しなければならず、遅くとも2月9日日曜日の夕方までにそこに到着しなければなりません。同時に、当時テクチ市にいたトトゥ、クランガヌ、エレメイウのチームにも報告した。私も父に手紙を書き、来て私たちを助けてくれるように頼みました。軍団兵が私のためにお金を集めてくれたので、私は出発しました。

ブカレスト、内務省次官ヨアニテスク氏に面会。

私は彼にカフルで何が起こったのかを話し、当局が私たちを刺激しない限り、このデモを完全な状態で実施する責任を負い、法的要請としてそこで別のデモを開催する許可を求めました。

彼が私に追加の説明を求めた後、私たちの集会は承認されました。このようなデモは法律で義務付けられていないため、許可は必要ありませんでしたが、私の行動が偏った解釈を受けることを避けるために、公的許可を得たかったのです。

日曜日の朝、私は再びオアンセアにいました。左派は当局との面会場所を決めるためにカフルへ行った。

郡全土から数千人の農民がデモのためにカフルに向かっているとの情報を当局が入手したため、カフルでは大きな不安が広がった。

フリスタシュ•ソロモン氏とブラナル氏率いるグループ、フォクシャニからはその日のうちに2台のトラックが到着した。トゥルダ、モガ、ニチタの。ヤシの軍団とバネア、イフリム、そしてイシヒエ神父。ガラティのステレスクと同胞団。ブカレストからの学生代表。そしてフォルテスティの巣のあるプラレア。

次に、ベレスティから来た者たちと、ホリンチャ渓谷から軍団が徒歩で、あるいは荷馬車や馬に乗ってやって来た。父も来ました。夜までに300人以上の軍団が到着した。彼らはオアンセアに滞在し、さらに多くの人がやって来ました。私たちの渡河を阻止するためにプルース川にかかる舟橋が当局によって解錠されるのではないかと懸念し、私は一晩中30人の軍団を派遣して橋の両端を占拠させた。

月曜日の午前8時に、私はデモを取り締まるためにポトレア指揮下の50人の軍団兵からなるチームをカフルに派遣した。その間、私たちのデモの続行を妨げるために新たな介入が試みられました。

それは不可能でした。 10時に列を作り、次のことを始めます。

最初のグループでは、旗を掲げた 100 人の騎士が全員帽子に羽を付けており、多くは緑色のシャツを着ています。それぞれがコートに白い布の十字架を縫い付けていました。私たちは、ルーマニア人を解放するために、異教の敵に対して十字架の名の下に行進した十字軍のようなものでした。

2番目のグループには100人以上の歩行者が列を作り、旗を持って行進した。

3番目のグループは約80台のワゴンを追跡し、それぞれに4～5人の男性、主にオアンセア出身者がおり、やはり旗を掲げていた。

私たちは戦いの準備ができている軍隊のように見えました。私たちがカフルの端に近づくと、何の歓声も音楽もなく、印象的な教会のような静寂の中で、裸の頭の海が私たちを出迎え、私たちはその農民の群衆の中を馬で走りました。中には泣いている人もいた。

また、ベッサラビアの農民は、第一次世界大戦の終わりにルーマニアが統一されて以来、自分たちの状況が少しも改善されたと感じていませんでした。

というのは、ロシアの占領からは解放されたものの、ユダヤ人の支配下にあったからである。それは純粋にそして単純にユダヤ人の餌食でした。

彼は12年間にわたり、歴史上知られている最も暴虐な政権が人類社会を搾取したよりもひどい共産主義ユダヤ人によって搾取され、血を流された。

ベッサラビアの交易都市や村は、農民の疲れ果てた体にしがみついているまさにヒルのコロニーだ。

そして、恥知らずの典型であるこれらのヒルは、人々の搾取や人々を抑圧する恐怖に対抗する戦士としてあえて変装しました。

つまり、これらはベッサラビアとルーマニアの共産主義者です。

さらに、ルーマニア人に吸われた血で膨れ上がったこれらのヒルは、次のようなスタイルで、アデヴァルル（「真実」）とディミナータ（「ザ•モーニング」）が主要新聞である報道機関を維持している。

「私たち（ヒル！)はルーマニアの人々と最高の友愛と調和の中で暮らしています。」 「この調和を台無しにしたいと考えているのは、一部の国民や国の敵、一部の右翼過激派だけだ。

集会には2万人以上の農民が参加した。確かに、これはこの街が始まって以来最大の人々の集まりであり、それを宣伝するためのマニフェストや新聞も何もありませんでした。デモは非常に厳粛な態度で行われました。一方の側には騎士たちが一列に並んでいた。もう一方は歩行者軍団の列です。

農民たちは頭も覆わずに聞いていました。この厳粛さを乱すような言葉も身振りもありませんでした。今回、コルニア大佐は私たちが彼に約束した約束を履行しませんでした。私はこのベッサラビアの農民たちにこう言いました 彼らは慰めの言葉を待っていて、私に扇動されたのではなく、彼らの大きな苦しみによってこの圧倒的な数でこのデモに来たのが見えました。「あなたたちを奴隷に見捨てないようにしましょう」それが今彼を抑圧していること、彼は自由であり、労働の成果の主であり、彼の土地と祖国の主であること、人々の新しい日の夜明けが近づいていること、私たちが始めたこの闘争において、私たちのすべてが農民たちが与えるのは信仰 死に至るまでの信仰 であり、その見返りとして彼らは正義と栄光を受けるだろう」

それからレフター、ポトレア、バネア、イフリム、イシヒエ神父、ヴィクター•モガ、タルジウ、リスタシュ•ソロモンが話した。父は最後に2時間にわたって、そのスタイルと深さ、そして人々の言語において比類のないものを語りました。演説が終わり、私は農民たちに、完璧な秩序と静寂を保って村に戻るよう忠告し、この堂々たる集会を最小限の混乱で終わらせることができれば、ユダヤ人たちに多大な貢献をすることになると警告した。

人々は私たちに一緒に行くことを望んでいました。彼らは四方八方から私たちに「神があなたを助けてくださいますように！」と願ってくれました。
農民たちの愛情を受けながら、私たちはオアンセアへ向かい、そこで別れました。カフルでのデモのその瞬間から、父は軍団運動に参加しました。

全員無事に帰国しました。特にデモが平和的で秩序ある方法で進行し終了したことを考えると、私たちの勝利は素晴らしかったです。しかし、カフルのユダヤ人たちは、私たちの運動を危うくし、私たちに対して政府の行動を起こすためには、何としてでもスキャンダル、騒乱、無秩序を必要としていた。

人々が平和に家に帰るのを見て、ラビに安全に乗せられた二人のユダヤ人が自分たちの店の窓を割った。

もし地元当局と一部の人々が彼らを現行犯で捕まえて警察本部に連行しなかったら、サリンダル通り * 、ディミナータ（「ザ•モーニング」)とアデヴァルル（「ザ•トゥルース」)のユダヤ人新聞は次のような見出しを掲載しただろう。 「カフルの大惨事」「外国人の目にこの国がどれほど多くを失ったことか！」等

私がこの事件を紹介するのは、それ自体は一見重要ではないが、ユダヤ人の悪魔的な闘争システムを理解し知りたいと願う人々にとっては計り知れない重要性があるからである。彼らは、責任を敵に転嫁することで、ユダヤ人問題の最終的な解決につながるはずの行動を妥協するために、都市全体を炎上させることができる。だからこそ私は軍団兵たちに、挑発されないよう警告するのです。最も完璧な秩序を維持することによってのみ勝利できるからです。私たちにとって、無秩序とはユダヤ人との衝突を意味するのではなく、国家との衝突を意味します。しかし、それこそがユダヤ人が私たちを国家との永続的な対立に追い込みたいと望んでいることなのです。だからこそ、国家は私たちより強いので、もし私たちが国家との衝突になだめられたり、押し込まれたりすれば、私たちは押しつぶされてしまうでしょう。そして彼らは公平な傍観者であり続けるだろう。

私がヤシに戻ると、愛犬のフラグーが門のところに出迎えてくれました。私は 1924 年からこのワインを飲み続けており、それ以来の私のすべての試練と闘いの証人です。
ヤシでは、私は組織や巣との通信に関するすべての当面の事柄を処理し、軍団の通信責任者であるバネアが完璧な順序で私に提示してくれました。

*サリンダル セント イリ ブカレストには、ユダヤ人の報道機関や出版社が置かれています。 (Tr.)

バネアは2年間の文通の中で私の物事の見方をよく理解し始めていたので、私がヤシにほとんど行かなかったこの期間中、彼は多くの質問に自分で対処することができました。

再びベッサラビアへ

ベッサラビアの農民たちが私のところに来るよう代表者や手紙や電報を送ってきたため、私は一週間しか家にいられませんでした。彼らが私たちのこの運動と彼らの信仰にどんな希望を与えていたかは想像もつきません。カフルでのデモの後2週間、軍団のニュースはベッサラビア南部のすべてのキリスト教徒の間に稲妻のように広まった。村から村へ、ドニエストル川の岸辺へ。つまり、ユダヤ人の奴隷制からの解放が始まったというニュースは、貧しい農民たちの心を刺激したのである。

それまで彼らは農民党に希望を託し、この党が権力を握ると自分たち農民が正義を受けるだろうと信じていた。しかし、このパーティーでの8年間の困難、闘争、希望の後、彼らは自分たちの魂にとって恐ろしいことに気づきました。農民党の名の裏にはユダヤ人の利権が潜んでいたということ。クザ教授が彼に洗礼名を与えた「ユダヤ人の髪を持つルーマニアの農民」*の饗宴。

ある人は、8年後に自分たちの誠実な信仰が裏切られたことに気づき、心の中にある信仰が打ち砕かれたのを見て苦痛に襲われました。
私は再びベレスティに戻り、そこから車でプルス川のほとりにあるロゴジェニに行き、そこでステファン•モラルとモス•コーサが率いる200名以上の騎兵が私を待っていました。
彼らは近隣の村々から集まってきました。
「我々はドニエストル川へ行進するつもりだ」と彼らの一人が言った。
「そうだ !行進しましょう」と私は答えた。
そのとき、ティギーナからセタテア•アルバまで、ベッサラビア南部全域にわたる大規模な遠征を行うという考えが思い浮かびました。ヤシでは、どうやってベッサラビアを越えてドニエストル川に行くことができるだろうかという考えが常に私を悩ませていました。大きな困難がありました。当局が私たちに反対しないように、国家や軍隊との戦闘を避けるために、どのように進める最善の方法でしょうか？

ユダヤ共産主義と戦うための新しい国家組織、つまり「大天使ミカエルの軍団」やどの政党にも属さないその他の若者グループを含む組織を立ち上げれば、ベッサラビアへの参入に成功するかもしれないと思いついた。 。この新しい組織にはどのような名前を付けるべきでしょうか?私はホームのロビーで軍団兵たちとこの問題について話し合いました。

「反共産主義のファランクス」と言う人もいれば、別の名前を提案する人もいた。

クランガヌは「アイアン•プロテクター！」
と言いました。 "なるがままに！"

今、我々は労働者にも支持されたこの反共産主義行動の準備を開始している。実際のところ、「反共産主義的行動」とは「反労働者」行動を意味するのではありません。私が「共産主義者」と言うとき、それはユダヤ人のことを指します。ベッサラビアへの入国許可を取得し、地元当局とのトラブルを避けるために、数日後、私は当時内務大臣であったヴァイダ•ヴォエヴォド氏に謁見しました。彼は私が相談を受けた2人目の高位政治家でした。

ロネル•ブラティヌが最初でした。彼は私を3時間そこに留めておきました。私は、彼が私たちの運動とユダヤ人問題の両方に関して、本当の意味で知らなかった誤った情報を与えられていたことに気づきました。彼は私たちを、窓ガラスを割って問題を解決しようとするやんちゃな若者たちだと思った。それから私は彼に、ユダヤ人の問題を私たちがどのように見ているかを説明しました。これがすべてのルーマニア人にとって死活問題であると私たちがどのように考えているか。その数がいかに圧倒的で容認できないか。彼らがルーマニアの中産階級と都市をどのように破壊したか。私は彼に、バルティ、キシナウ、チェルナウティ、ヤシのキリスト教徒とユダヤ人の割合を話しました。ルーマニアの支配階級の疎外と私たちの文化の改ざんを脅かす、それらが私たちの学校に表れている危険です。

私はまた、この問題の解決策について私たちがどのように考えているかも彼に説明しました。彼は最初から私が話していることを理解していました。しかし、彼のような身長の人なら問題の本質を容易に理解するだろうが、それでも私たちを完全に理解することは決してできないだろうと私は信じている。

*
もみあげは長いコークスクリューカールに伸びていました。 (Tr.)

物事の性質。 1890 年の目は、もはや 1930 年の目とは異なっています。呼びかけ、切迫感、無言の命令がありますが、それらは若者だけに向けられているため、若者にしか聞こえず、理解できません。各世代にはそれぞれの人生の使命があります。だからこそ、彼は私たちを完全には信頼していないのかもしれません。

もちろん完全な秩序を維持する責任を負った上で、私はベッサラビアへの進軍の承認を得た。数日後、私は国内のすべての若者に向けたマニフェストを発表しました。

マラムレシュの問題

一方、マラムレシュでは大混乱が勃発した。ここは、死が翼を広げたルーマニアのもう一つの一角です。そこでユダヤ人は村に侵入し、野原、山、羊小屋の支配を押し付けました。ルーマニア人は、準奴隷状態にあり、このユダヤ人の侵略の前に一歩一歩後退し、徐々に絶滅し、ドラゴス•ヴォダから受け継いだ財産を侵略者の手に残した。彼らにこれ以上関心を示す政府はなく、彼らを保護する法律もありません。

1930 年 6 月初旬、2 頭の馬に引かれた荷車がヤシの私の家の門に止まりました。農民と若者の二人の司祭がその子孫でした。

私が彼らに中に入るように頼んだところ、正教会の司祭イオン•ドゥミトレスク、ギリシャのカトリック司祭アンドレイ•ベリンデ、そして農民のニコアラが名乗り出た。
「私たちはマラムレシュからワゴンで来ました。私たちはもう 2 週間旅を続けています。私たちは二人ともボルシャの司祭で、一人はギリシャ•カトリック教徒、もう一人は正教会です。私たちはもはやマラムレシュのルーマニア人の恥辱に耐えることができません。私たちはメモを次から次へと書き、議会、政府、閣僚、摂政に宛てて送りましたが、誰からも返答はありませんでした。他に何をすればいいのかわかりません。私たちはルーマニアの学生たちに私たちを運命に見捨てないでほしいとお願いするために、ワゴンでヤシにやって来ました。私たちはマラムレシュの何千もの絶望的な農民を代表して話します。私たちはあなたの祭司です。私たちは目に見えるものに対して目を閉じることはできません。私たちの人々は死につつあり、私たちの心は悲しみで張り裂けています。
」

私は彼らを数日間接待し、「私が考える唯一の解決策は、彼らを組織し、彼らの士気を高めようとすることだ。彼らは、この戦いを一人で戦っているわけではないこと、私たちが彼らの後ろにいる、彼らのために戦っていることを理解する必要がある」と語った。彼ら、そして彼らの運命は私たちの勝利にかかっています。」、最後に、私は彼らを組織するためにトトゥとエレメイウを送りました。そして後にはサヴィンとドゥミトレスク=ザパダ。ボルサとすべての山の谷から何千人もの農民が私たちの組織に応募していました。ユダヤ人たちはルーマニア復興の危険性を認識し、人々を挑発し始めた。彼らの戦術が失敗したと見て、彼らは地獄のような手段に訴えました。彼らはルーマニア人のせいにしてボルサに放火した。ユダヤ系新聞はすぐに叫び始め、ポグロムを準備しているとするルーマニア人に対する強力な措置を要求した。二人の司祭はユダヤ人に襲われ、侮辱され、殴打された後、数キロにわたって追いかけられ、石を投げられた。

最終的に、2人は「扇動者」として逮捕され、シゲルル•マルマティエイの刑務所に投獄された。
サビンとドゥミトレスク=ザパダ、そして数人の重要な農民も逮捕された。トトゥとエレメイウもドルナで逮捕され、カンプルン刑務所に投獄された。アデヴァルル（『真実』)とディミナータ（『朝』)は、司祭や他の囚人たちに、まさに嘘と中傷の砲撃を放った。彼らのあらゆる抗議活動、電報、メモなどは、ユダヤ人の叫び声、騒音、圧力にかき消され、無駄なままだった。

ベッサラビーのための行進は禁止される

私たちがこれから行う行進を考慮して、「行進命令」を発令し、それを「祖先の地」に印刷しました。

そこから抜粋します：

「同志諸君、1. 我々
はルーマニアの古い統一賛歌「さあ、ルーマニアの心の人たちよ、手を組もう。」の響きに合
わせてプルス川を渡ろう。
2. 行進は1か月間続きます。
3. 私たちは 14 マイル離れた 7 つの強力な縦隊を形成します。
4. プルース横断は7つの地点で行われ、右翼縦隊はセタテア•アルバに到達することを目指す。左翼縦隊、ティギナ。

5. 進行方法は、プルトからドニエストル川まで徒歩で行軍することになります。
6. 出発日、7月20日午前。 1時間以内にプルース川を渡ると発表される。
」

ルーマニア人の良心を目覚めさせるためにベッサラビアに入る我々の計画をユダヤ人が知ると、ユダヤ系マスコミは我々に対してハリケーン攻撃を開始した。誹謗中傷、嘘、扇動が丸一か月間ひっきりなしに私たちの頭をよぎりました。

これらの攻撃はヴァイダ氏に対しても同様に向けられた。ユダヤ人たちは氏にこう要求した。
ヴァイダは即座に内務省に降格され、実際には「船外に放り出された」のだが、その理由は、彼がプルスを通して私たちの両親や兄弟たちに慰めと希望のルーマニアの言葉を届けるために、私たち若いルーマニア人にベッサラビアへの入国をあえて許可したからだ。

ベッサラビアは経済的にも政治的にもユダヤ人の絶対的な支配に引き渡された。ルーマニアの解放に向けたあらゆる努力、この黒人支配への言及はすべて犯罪とみなされた。

ユダヤ人マスコミの攻撃と陰謀の圧力を受けて、ベッサラビアへの行進は、各地からの軍団がプルスに向けて出発する日にのみ禁止された。

その際、私は次のような抗議文を書き、首都中に配布しました。

大天使ミカエルの軍団
「アイアンプロテクター」
救済策と警告

首都からのローマ人、「ベッサ
ラビアで行われるはずだった『鉄衛隊』の行進は止められた。健康で強力なルーマニアの敵が勝利した。丸一ヶ月サリンダル通りで、ルプタの小ユダヤ人たちは（「闘争」））、アデヴァルル（「真実」））、ディミナータ（「朝」））、ルーマニアの魂を毒殺した者たちは、ここ私たちの土地で、私たちの魂を脅迫し、侮辱し、平手打ちした。誰が私たちの国の優越的利益を理解できるだろうか、そしてあらゆる行政行為に対する望ましくない検閲者となった。

トゥルダでは、彼らはトランシルヴァニアに放火されていると主張して、私たちのデモを中止するよう政府に要求した。カブールではこの革命は「ベッサラビアで始まった」。ガラツィでは虐殺とポグロムが始まるだろう。 「軍団はあらゆる場所で完璧な秩序と規律を維持していたため、彼らはいずれの場合も卑劣な挑発者であることが判明した。」私たちは今日、ベッサラビアの顔をブカレストに向けるためにドニエストル川に向かいました、「しかし、それは共産主義の傭兵たちを喜ばせませんでした。

ベッサラビアはボルシェビズムの犠牲者であり続けなければならず、ロシアがプルト川とドニエストル川の間の州を通じてルーマニアの政治生活全体を恐怖に陥れ続けることができるようにモスクワに目を向けなければならない。

ローマ人、
卑劣で倒錯した政治制度、つまり私たちの生活に蔓延するあのマンコは、つまらない利己的な選挙上の利益と卑劣な卑劣な精神から、私たちの国を解体し、私たちの祖先の土地を遠ざけようとする彼らの仕事を助け、扇動している。この利己的な利益とこの精神が、ルーマニアを過去 60 年間にわたって外国人の手に委ねてきたのです。

見よ、今日マラムレシュとブコヴィナの殉教者たちが動き始めている !彼らは、国のすべての指導者の裏切りによって自分たちが投げ込まれた奴隷制度の苦しさを道沿いで叫びます。彼らに忘れられたのではなく、売られたのです。

「この国で彼らに慰めの言葉を届ける声が見つからなかったのは、少なくとも奇妙に思われないのか？ それに、マラムレシュ事件全体を事件に貶めるのは、少なくとも恥ずべきことだとは思わないのか？」 「扇動者」ニコラエ•トトゥとエレメイウ?彼らに責任はあるのか?そして12年間毎日マラムレスの農民を騙し続けた政治家たちに責任はないのか?そして攻撃した数十万の放浪ユダヤ人たち彼らは土地を奪おうとするイナゴが好きだ彼らは祖先から受け継いだものであり、彼らを奴隷にしようとしているのです、彼らは扇動者であり挑発者ではないでしょうか。そして、私たちの国の領主であるという私たちの誇りを嘲笑するサリンダール街の紳士たちも、挑発者ではありませんか？

ロマノス、これ
はブコヴィナとマラムレスにおける「障害」の本当の原因を見ることができる典型的な例です。1930 年 7 月 17 日の「Universul (「宇宙」)」は次の統計を発表しました。小学校の学齢者数: 12,277 人、そのうち 3,378 人がルーマニア人のみ (男子と女子)、残りは外国人です。」ルーマニア北部におけるルーマニア要素の優位性を示す他にどんな証拠が必要ですか? この大規模で残忍な侵略から逃れてきたルーマニア国民の魂?

あなたは彼を「不安定な経済状況」のためにパンのために立ち上がったなどと言って彼を中傷し、中傷し、怒らせますが、実際には彼は北の国境で自分の存在を守るために大胆に立ち上がっています。

なぜ、女王陛下に真実を伝える政治家が一人も現れないのでしょうか？

あなたの

殿下、この最低な奴らはパンを求めていない、彼らは正義を求めているのです !彼らは、マラムレシュ州とブコビナ州で窒息死しているため、死の瀬戸際にあるルーマニア人の魂の解放を要求している。「ファベイは、毎日のように食い物にされ、丸くなり、虫のように噛みついている数十万人のユダヤ人に対して対策を講じるよう要求している」彼らの貧困は、ルーマニアのすべての地方自治体によって保護されています。

サリンダール通りの紳士のジャーナリスト もちろん、
ルーマニア人は、この問題が暴力的なデモによって解決されないことをよく知っています。しかし、我慢の限界に達した彼らは、ルーマニアにルーマニアの指導力を押し付けたいと考えている。ルーマニアの法律、ルーマニアにおけるルーマニア要素の保護のための法律を施行する。

おそらくあなたは、私たちのルーマニアの魂を傷つけてきたあなたの絶え間ない侮辱を通して、いつか私がマラムレシュの反逆的な聖徒たちの先頭に立つのを見ることを望んでいるでしょうか ?その瞬間に、あなたの最後の時間が到来したことを知っておくべきです。
とにかく、現行法ではあなたを落ち着かせるのに不十分であると思われるのであれば、私はあなたをあなたの立場に立たせ、あなたがどの国に住んでいるのか理解させるのに十分な力があると宣言します。

もしあなたが落ち着かないなら、私はこの国に生きているすべての人に、私の思いつく限りのあらゆる武器で戦う決意をしてあなたたちに向かって呼びかけます。

ローマ人よ、
新しいルーマニアは政党の裏部屋から生まれることはできない。偉大なルーマニアが政治家の打算から生まれるのと同じように、マラセスティの戦場と大砲が鋼鉄の雨を降らせる深い谷でしか生まれない。

新しいルーマニアは戦いによってのみ誕生することができます。彼らの子供たちの犠牲。
だからこそ、私は政治家に向けるのではなく、兵士であるあなたたちに呼びかけるのです !立ち上がる！
歴史が再びあなたを呼びます!元気ですか。骨折した腕、骨折した足、銃弾だらけの胸。無力で無力な者たちを震えさせましょう。あなたは、勇敢に戦いに参加してください。

すぐに「鉄の衛兵」があなたをブクバレストでの大規模な集会に呼び掛けて防衛するでしょう

Googleによる機械翻訳

ドラゴス•ヴォダの息子であるマラムレサン人と、ステファン大王と聖者の息子であるブコヴィナン人。

横断幕に「外国人が我々を侵略した」「疎外された報道が我々を毒する」「政治制度が我々を殺す」と書いてください。

警告のためにトランペットを鳴らしてください。全力で吹き飛ばしてください。
敵が侵攻し、政治家が裏切ったこの瞬間、ルーマニア人は嵐の山道で昔と同じように恐怖の声を上げている。

ホームランド !ホームランド !ホームランド !

コルネリュー•ゼレア＝コドレアヌ

軍団の長

アンゲレスク大臣の生命への試み

私のマニフェストが掲載された日の夕方、私は学生センターで数人の学生と話をしていました。ヤングベザ登場。彼は突然、自分が所属していた組織「ヴラド•ツェペシ*」から記章を剥ぎ取って投げ捨て、「今後、私は『ヴラド•ツェペシ』とは一切関わりません。あなたのこの態度は印象に残りませんでした」と言いました。 1部リーグの「ヴラド•ツェペシュ」、特にこのリーグの若手は真剣さが欠けているように見え、最初からその存在を疑っていましたが、そんな若手集団の辞任に私はすっかり 、なぜなら
冷めてしまいました。

数分後、この若者は再び議論に加わり、もし私が反対しなければ軍団兵になりたいと言いました。私の曖昧な答えは直接の拒否を避けました。軍団ネラの教義は、軍団への参加を希望する新規者に留保を課しており、これは特に今回の場合に当てはまります。数週間前、私は小さなレストランでベザに会ったことがありますが、そこで彼は私に、ステア*を撃つことは賢明ではないのかと尋ねました。また、私は彼のことを真剣に受け止めていませんでした。

帰るとき、彼は私に自分の家で一晩過ごそうと言いました。私は拒否しました。その代わりに医学生たちと一夜を過ごしました。翌日の正午頃、新聞の街頭販売者から「アンゲレスク大臣の命を狙え！」という声が聞こえた。誰が ?ベザ。として ?彼は数発発砲し、被害者の表面を攻撃した。

なぜ ?知りませんでした。聞いてみると、ノヴァ法をめぐってマケドニア人とアンヘレスクの間で紛争が起こっていることが分かりました。ドブロギアはアンヘレスクに会ったことはありません。 2 ** それはその州におけるルーマニアの利益を侵害した。私
日後、私は訴訟を準備していた裁判官に呼び出されました。
「アイアン•ガード」のマニフェストがベザで発見された。私は、この試みについては何も知らず、何の関係も持たず、その動機も知りませんでした。私は解放されました。帰り際、人間には不幸がいかに簡単に降りかかるものかと考えていました。

もし私がベザの家で寝るという彼の誘いに応じていたら、私は彼の創作物の道徳的作者になっていただろう。私自身を弁護するために提出されたいかなる議論も拒否されたでしょう。特にこの試みがベッサラビアへの我々の進軍の拒否と同時に起こったという事実を考慮すると。

驚いたことに、翌日、私はディミナータ（「ザ•モーニング」）の半ページの見出し「コルネリュー•コドレアヌがベザの行為をマーク」を読んだ。
私はびっくりしました。
そこで私は、前日尋問した裁判官に会いに行きました。 「閣下、このような誤った情報が秘密尋問によってあなたの執務室から発信されたことに非常に驚いています。私はベザの行為を報告しませんでした。

それをするのは私次第ではありません！」
「そのような情報は公表していません。これは報道の捏造です。」

それで私は自分自身にこう言いました、「ユダヤ人マスコミに侮辱されることを許すべきでしょうか? たとえ私がベザと知り合ってからそれほど時間が経っていなくても、たとえ彼と何のつながりもなかったとしても、誰も私にそれを強制することはできませんでした」
なれ

*グリゴーレ•フィリッピは、泥棒や不誠実な臣下を串刺しにした16世紀のワラキアの支配者ヴラド串刺し者の慣例に従うことを示すために、自分の党をヴラドと名付けた。 (Tr.)

Googleによる機械翻訳

このような場合、彼を非難するために彼に飛びかかる悪党。そんなことはしたくない。
私以外の誰もこれをしないでください。私には何が起こっているのかわかりませんし、同じ靴を履いていた過去のせいで、他の人を非難することができなくなります。またお知らせ書きます。

同じ日に私はマニフェストを印刷し、首都中に配布しました。

2 番目の警告

マスコミが再びあえて真実を曖昧にし、私がベザのジェスチャーを「誇張した」と主張したため、私は次のように明確に説明することを主張します。法廷でも同胞の良心の前でも
同様だ。

私は、2人目をマークすることで1人目を守るのではなく、若いベザと彼の大義を全身全霊で守ることを宣言します。
サリンダール通りの紳士諸君、この第二の警告を今後の入植地のリストに書き込んでください。 」

コルネリュー•ゼレア＝コドレアヌ

これら 2 つの警告の結果、ヴァイダ氏との関係は終了しました。ヴァイダ氏は私に腹を立てていましたが、私は良心の命じるままにするしかありませんでした。同じ裁判官に再び呼び出されて、私は逮捕されました。そこで私は再びマリア•プレタ号に乗ってヴァカレスティ刑務所へ向かいました。同じバンには他に7人の若者がいて、私はパパナーチェ、カラニカ、ピフ、ママリ、アントン•シウメティ、フィカータ、ゲーテアと自己紹介しました。
彼らは声明を発表した（ベザとの仲直り、私は元仲間たちと7年前と同じ門をくぐり、偶然にも当時住んでいた同じ独房に入れられた。翌日教会に入ってアイコンを見ることにした）私たちが出発したサンミゲル島の子どもたちでしたが、その7年前の子どもたちでした。

そこで私はピンド山脈から来たアルーマニア人*を刑務所でよく知っていました。
彼らは高度な文化と良好な道徳的健康を示し、優れた愛国者であり、戦闘機や英雄となるよう体格が高く、犠牲をいとわない人たちでした。そこで私は、何千人もの人々が暮らしてきたこのルーマニア支部であるマセド•ルーマニア人の大きな悲劇をよりよく知るようになりました。

* マケドニア（ギリシャ）のアルーマニア人またはマケド•ルーマニア人は、
ロワナティアンを話す人々。 (Tr.)

何年もの間、山中で孤独に孤立し、彼は武器を手に自分の言語、国籍、そして自由を守りました。

そのとき、私はステリエ•シウメティ*と出会いました。彼女は、露のように純粋な善良な魂を神に選ばれ、悲劇的な拷問と死を経て、軍団国ルーマニアの軍団運動の最大の殉教者となりました。

そこでは私たちの思いと心は永遠に一つになりました。今後、私たちはピンドからドニエストル川を越えて、すべての国民のために共に戦うことになるでしょう。
内外のルーマニアの問題すべてに耳を貸さなかった政権が、どんなに苦情や請願や介入を行っても、本国を統治する強力なロマ国家がなければ、どこにいてもルーマニアの問題を解決することはできない。その時、国境の外に散らばっているこれらのルーマニア人はルーマニアに連れ戻されるでしょう。ルーマニア人が死に直面しているここでは、全員の血が必要だからだ。そして、この戦いにおいて、政府が何千人ものユダヤ人に国の扉を開いたが、同時にルーマニア人の入国を許可しなかったことに注目するのは良いことだ。

Googleによる機械翻訳

外に入る。

あらゆるオカルト勢力が働いて、私の有罪判決を確保するために正義を押し付けていたのです。最近の私の逮捕と

ヴァカレスティでの投獄は、ユダヤ人の階級に大きな喜びをもたらした。どの新聞でも、やんちゃな小さなユダヤ人が私を攻撃し、侮辱していました。ユダヤ人を喜ばせるために、政党が運営するルーマニアの新聞さえも私を攻撃しました。

私の出廷日が決まりました。必要な準備を始めました。
私はネル•イオネスクを待っていました。
*
1930年12月30日の夜、無実にもかかわらず逮捕されたステリック•シウメティ
IG DUca 首相殺害事件の犯人は、3 人の警察長官によって殺害され、責任者である省職員の命令によりダンボビタの氷海に投げ込まれた。内務省の。 [@i、脱皮し、彼は密かに埋葬され、後に「名前のない」治安の代表者によって不気味な状況下で秘密裏に掘り起こされ、再埋葬された。この卑劣な犯罪は、ブカレストでのスキャンダラスな裁判で、法廷内であってもリベラル政府と警察機構の隠れた明らかな圧力が加えられた後、処罰されなかった。 、陪審員（その中にはブカレスト大学学長、陪審員長のゲオルギュ博士も含まれていた）、クルメティの未亡人、そして弁護士について。(裁判長)はすべてにおいて私を弁護してくれた。

学生たちの強い要望で、私の弁護人にはミハイル•モラ氏も加わりました。

いつものように、私の裁判は、どんなに小さなものであっても私の有罪判決を確保しようとするユダヤ人の攻撃でした - アデヴァルルのユダヤ人たちに要求しました（「真実」） - 私が率いる運動は違法な手段を使用しているため無政府的であると彼らが言えるようにアクションの。法務省の廊下は、あらゆる種類のとりなしを求めるユダヤ人でいっぱいだった。

しかし、ルーマニアの司法は、柔軟性がなく、恐れを知らなかったので、私を無罪放免にしました。しかし、検察官は控訴した。したがって、私は引き続き刑務所に入れられました。
今度はユダヤ勢力の圧力と介入が増大した。
再び私は控訴裁判所に連れて行かれました。ユダヤ人を喜ばせるために、検事プラポルゲセウは私を横領者、馬泥棒、スリと同じ箱に入れました。
彼らの事件が裁判されている間の3時間、私は数十人のユダヤ人の皮肉と反抗的な視線の対象となった。私の訴訟は最後に検討され、以前と同様に彼を弁護したのはミハイル•モラ氏とネル•ロネスク氏でした。控訴審の評決は新たに無罪となった。約1か月半の刑務所での生活の後、私は釈放されました。私は家に帰った。

このすべての後、私はネル•イロネスク、ガルニーアタ、モタ、イブライレヌとともに、恐ろしい悲惨な状況に陥った二人の司祭の運命を知るために、シゲトゥル•マルマティエイに向けてトラックに乗って出発しました。誰も彼らに会いに来ませんでした、食べ物を持ってくる人さえいませんでした。ドゥミトレスク神父の妻は病気でした。彼には二人の小さな子供がいました。彼の家はパンもお金も薬もない家でした。彼らは慈善活動で暮らしていた。十字架と教会と人々を守ると誓ったキリスト教の司祭たちの運命は !投獄された他の10人の農民指導者の運命も同様に悪かった。

外ではユダヤ人たちは大喜びでした。国内外から資金が集められていた。政府はボルサの「不幸なユダヤ人」たちに新しい石造りの2階建ての家を建てられるよう資金を与えたが、ルーマニアの貧しい農民たちはオート麦を混ぜたおがくず粉で作ったパンを食べていた。

このルーマニア人のマラクスヌレスが死の苦しみでうめき、もがき苦しんでいるのを見た私は、すべての政治家、すべての教職員、すべての司祭、すべての大学生と高校生、そしてすべての人道主義の説教者たち　非難するためにここに来るすべての人たちに強く勧めずにはいられません。私たちの政治生活 - 「皆さん行ってマラムレシュを見てください。

中の誰かの名前を挙げてください

Googleによる機械翻訳

マラムレシュで起きているようなことがルーマニアでルーマニア人に起こり得ることが容認できるかどうかを審判として世界に伝えてほしい。」

4か月の終わりに、司祭たちはサトゥ•マーレ刑務所に移送され、そこで子供を抱えた約50人の農民女性と男性、さらに20人のユダヤ人が関与した裁判が行われた。

カトゥナヌ教授、イオン•モタ、地元検察官、そして私は被告人のルーマニア人の弁護団を結成しました。 20人のユダヤ人は4人のユダヤ人弁護士が代理人を務めた。
8日間の審理の後、彼らに課せられたすべての容疑が虚偽であることが証明され、全員が無罪となった。

大天使ミカエル軍団の解散
そして鉄の警備員 1931 年 1 月 11 日

一方、ヴァイダ氏はユダヤ人攻撃の圧力を受けて内務省を解任され、後任にミハラチェ氏が就任した。遅ればせながらの態度が示したように、我々に対して「剛腕」を行使することも厭わないことを知らしめた。 。

この瞬間がやって来た。

シゲで逮捕された若きドゥミトレスク=ザパダは、ユダヤ人マスコミの嘘、攻撃、侮辱に激怒し、誰にも尋ねず、何も言わずに、偶然見つけたリボルバーを手に取り、ブカレストに行き、事務所に入った。ソコルを攻撃し、シュートを放った。

しかし、リボルバーは故障していました。二度目に発射することはできませんでした。これはクリスマスの頃に起こりました。一年の間、一ヶ月も家で過ごしていませんでした。

休日は家族と一緒に過ごしたかった。ブカレストで何が起こったのかを新聞で読んだとき、私はフォクシャニで帰国の準備をしていたところでした。

すぐに私は法廷でパパドポル判事の前に出るよう呼び出されました。

私が銃撃事件に何の関係もなかったことが証明されました。そのまま行くことができました。私はフォクシャニに戻り、そこでミハラシュ氏の命令により、理由もなくフリスタシュ•ソロモンの家で警察に取り囲まれ、8日間隔離されたのです。

ミハラシュは閣僚評議会の布告により鉄衛兵と軍団を解散させた。

捜索は本社全体で行われました。私たちの記録はすべて押収されました。私たちのすべてのオフィスは封印されました。ヤシの自宅でもフシの自宅でも、枕やマットレスまで略奪されました。 5回目で、私の家は略奪され、運動に関連するものはすべて奪われ、私が持っていた小さなメモさえも奪われました。書類、手紙、書類が入った袋は私たちの家から没収され、ブカレストに連れて行かれました。しかし、彼らは私たちの家の中で、違法または危険を冒す可能性のあるものを見つけることができるでしょうか?

私たちは白昼堂々と仕事をしていましたが、言うべきことはすべて大声で言われました。私たちは全世界の前で自分の信仰を強く告白します。

1月9日、私はフォクシャニの代理人によってブカレストに連行され、そこで12時間の尋問の後、逮捕され、ヴァカレシュティに送り返されました。 2日目、私たちが最も活動していた郡から次の軍団兵が連れてこられた。バネア、ヤシ出身。ガラティ出身のステレスク。アモス•ポップ、トゥルダ出身。トトゥとダニラ。

これは、違法なことは何もしていないが、ただユダヤ人のヒドラに対して眉をひそめようとしていただけだったルーマニアの組織からの、またしても頭のてっぺんへの強烈な打撃だった。 「若さ、奴隷状態を乗り越えて立ち上がろう」というこの人々の新たな試みは、ルーマニアの内務大臣の打撃を受けて、国内外のユダヤ人の満場一致の拍手を浴びながら失敗に終わった。

今回も我々を滅ぼそうとする怒りが容赦なく放たれた。

私たちを殲滅するためにはいかなる手段も惜しまなかった。悪名もなく。そして、私たちには何の罪もありませんでした。

私たちが暴力的に攻撃され、私たちと真実を嘲笑するユダヤ人の新聞が刑務所にいる私たちに届きましたが、私たちは何もできず、いかなる方法でも反応することができませんでした。

私たちは腕を組み、刑務所の四方の壁の中で、侮辱とあらゆる種類の非難が私たちに投げかけられるのを眺めました。世論を我々に向けて強制的に非難することを目的として行われた多くの試みから、当時のユダヤ報道機関の悪名がどの程度のものかを示す一

例を挙げるだけで十分である。

私はそのような命令を計画したり、書いたり、署名したりしたことは一度もなかったという事実に読者の注意を促します。その •• それは

ような虚偽の文書、特にコルネリュー•Z•コドレヌがアドルフ•ヒトラーに宛てて書いたとされる手紙に基づいて、軍事裁判官は利害関係者らの卑劣な道具として機能し、後に鉄衛隊の長に10年の強制労働を宣告した。 「反逆罪と社会革命扇動罪」。

シグランタ紙によって「発見」されたこの手紙は、コドレアヌがアドルフ•ヒトラーに「社会革命」支援への支援を求めたもので、仮判決と法廷の両方でコルネリュー•Z•コドレアヌによってきっぱりと虚偽と宣告された。彼は、必要な筆跡専門家や弁護側証人の意見を否定しただけでなく、この事件の公開討論は「国家の優越的利益」を損なうという口実のもと、この点に関する手続きは非公開で行われた。悪名高い告発を受けたコドレアヌからの撤退への扉、その可能性……。

真実は、この卑劣な演出が、10年の重労働と投獄の判決を正当化しなければならなかったということである。

無実のコドレアヌは暗殺の準備段階にあり、ルーマニア国王キン•キャロル11世によって計画され、1938年11月29日から30日にかけて国王政府の命令により処刑された。 (Tr.)

その中の一言も私のものではありません。それは完全にユダヤ人によって発明されました。

私はここに、ディミナータ（「ザ•モーニング」)に掲載された卑劣な嘘を完全に再現します。この嘘は後に他の新聞によってコピーされ、コメントされました。

文書「アークエンジェル•ミカエル」という組織が使用
した目的と手段に関して、私たちはヤシの軍団が発行したセンセーショナルな文書を公開する立場にあります。

この問題は、軍団「大天使」によってカンプルンとルドスル•マーレに送られた回覧に関係している。
モルドバの首都のマイケル：

軍団「大天使ミカエル」ヤシの本部（ラパ）
ガルベナ)
キリスト教文化の家
Copy 245/930
ad circulandum 返信を Corneliu Zelea Codreanu
20 Florilor St., Iasi に送信してく
ださい - コードで -

ルドスル•デ•ムレスのカン
プル•ルン第 3 大隊、第
2 大隊の場合 以下の点に注目して
いただけることを光栄に思います: 一方、政府当局と軍当局は警戒を
緩めました。なぜなら、私たちが内部関係者省の一部の高官に介入したためです。同様に…（別の高位の人物、NRがここで言及されている） - この有利な状況がいつか逆転する可能性があるため、私たちはこの機会を利用して宣伝
と擁護の努力を倍増させなければなりません。したがって、これ
以上ためらったり時間を無駄にしたりせずに、次のことを行う必要があります。

1. 中隊および小隊ごとに、誓いを立てたすべての軍団兵のリストを作成します。これらのリストは全国的および世界的世論の前で防衛するものでなければならず、今年の11月1日までに軍団に転送され、地域ごとに追加される。

2. 第2大隊はカンプルルンに重要な指導者たち、ロボタ、ポペスク、セルバン、デスパ、そして完全秘密裏にヌベルト•デ•ヴァトラ•ドメイ長官とポイアナ•スタンピイ憲兵隊のパドゥラル•ゲオルゲ長官を召喚する。軍団が行動計画を変更する決定を下したことを彼らに知らせなければなりません。

今後、我々は絶対秘密裏に陰謀的に活動することになる。もう公の集会を開催したり、宣伝活動に従事したりしてはなりません。巣の指導者であるすべての軍団兵に連絡を取り、農民間の反乱の現状を維持するよう指示しなければなりません。

決定的な打撃は今秋、ミロネセウ政権交代の際に起こるだろう。
3. 第 3 大隊はマテイ教授、モガ ヴィクター、モガ タナセ、グリンデニの小隊長を召喚します。尿素からはモルドバの商人だけを召喚する必要があります。秘密裏にジャンダルム教官の軍曹に電話しなければなりません。コンスタンティン•ドス•ルドスは彼らに概要を投稿します... (第 2 大隊の場合と同様)。

4. 若い軍団兵を週に2回、村の牧草地やその他の場所で運動に連れて行き、準備を整え、私たちの崇高な目的を説明し、激励すべきです。

5. 第 3 大隊の参謀長は、1930 年秘密命令第 7 号により口頭で託された任務をできるだけ早く遂行しなければならない。送られたダイナマイトの量が不十分な場合、彼は問題の人物にさらに多くのダイナマイトを要求しなければなりません。

Googleによる機械翻訳

6. 上記のことをシギショアラのヨシフ•ギズダル博士に手紙で伝え、ルドスでの活動に関する詳細な報告書も送らなければなりません。ギズダル博士の指揮の下、シギショアラに第4大隊が創設される。この命令は、読み取った後すぐに書き込む必要があります。気をつけてください、ユダヤ人のスパイの軍隊が我々を追っています。私のサインを見せない人と話したり会ったりしないでください。

勇気;軍団万歳、そして神とともに前へ！
ヤシ、1930 年 10 月 7 日

軍団司令官
(SS) コルネリュー•ゼレア＝コドレニュ
参謀総長と

秘書 (ss) ガルニータ

「この通達から、軍団「大天使ミカエル」が一定数の公務員の支援を受けて犯罪行為を準備していたことは明らかである。
遅ればせながら、当局には「大天使ミカエル」軍団によるこの犯罪行為に身を投じた公務員全員を確実に特定し、最も厳しい罰則を適用する義務がある。」

逮捕保証

私は状況が難しいことに気づきました。私たちの組織は解散し、本部には南京錠がかけられ、あらゆる場所が捜索されています。ユダヤ人の抗議の結果として完全に唖然とし、私たちに降り積もる非難に唖然とした国民は、これらすべての憎悪に満ちた陰謀を現実のものと考える傾向にあった。さらに、刑務所では、寒さ、湿気、空気や光の不足、毛布の欠如の中で、私たちは悲惨な生活を送っていました。私たちの執拗な介入のおかげで、マットレスを満たすためのわらと壁の湿気をカバーするためのマットが与えられました。

1931年、私たちはユダヤ人の嘘、侮辱、打撃の雨の中で刑務所で始まりました。
今回も、この裁判を共にした新しい刑務所の仲間たちを連れて、イコンや私にとって思い出の詰まった場所をすべて見てもらいました。

確かに彼らにとっても状況は困難でした。しかし、彼らは自分自身で答えを出せばいいだけであり、その責任はずっと軽いものでした。引き裂かれ滅ぼされるべき敵は私だった。私たちの頭上に再び暗雲が立ち込め、敵の世界が私たちを滅ぼそうとするさらなる決意を持って再び私たちに降りかかってきているのを感じました。

これらすべての地獄の陰謀と巨大な攻撃の中での唯一の支えは神に見出されることでした。私たちは毎週金曜日に完全断食を始めました。そして毎晩聖母マリアのアカシストを読みましょう。外では、アンドレイ•イオネスク、イオン•ベルゲア、イオルダッへ、ドル•ベリマス、ビクトル•チルエスク、コティガ、ホリア•シマ、ニコラエ•ペトラセウ、イアンク•カラニカ、フィルジル•ラドゥレスク、サンドゥ•ヴァレリウら率いる首都の軍団兵が、世論を啓発するために最善を尽くしていた。サリンダール通りのマスコミに騙された。

同時に、献身的で恐れを知らないファニカ•アナスタセスクは、私が経験しなければならなかったすべての試練において常に私の側にいて、刑務所での私たちの物質的な状況を改善しようと努めました。

これが逮捕状第 2 号で私に向けられた告発です。 194

「…一方、ヤシの検察官コルネリュー•ゼレア•コドレアヌ（31歳）に対して起こされた刑事訴訟は、同氏が憲法で定められた政府形態に反する行動をとろうとする行為を行ったと警告し、その扇動を裁いた」 「大天使ミカエルの軍団」「大天使ミカエルの衛兵」という団体を組織することによって、公共の安全に危険を及ぼす結果となった可能性がある。

フェッロは、暴力的な手段によって彼が望む瞬間に押しつけられるべきであった独裁政権を確立することを目的としており、そのために彼の支持者たちは準軍事演習、命令、指令、演説などを通じて準備され、扇動されていた。出版物、ポスター、バッジ、組織的または公開の会議でのスピーチなどを通じて。「この行為が第2条に規定されていることを考慮すると、公序良俗に反する一部の新たな犯罪の抑圧に関する法律第 11 条第 2 項。6 か月から 5 年の懲役および 10,000 レイから 100,000 レイの罰金および公民権の剥奪が科せられる。一方、実施された捜査からは、重大な告発と重大な有罪の兆候が明らかになった。

コーネリュー•ゼレア•コドレアヌとの対戦結果。そして、引用された者が尋問される情報提供者や証人と連絡を取ることを妨げること。公共の安全のためだけでなく。この訴訟の準備のためには、追って通知があるまで被告を拘留することが重要である。「アル検事の所見を聞いた後、 Procop Dumitrescu および刑事訴訟法第 93 条の規定に従い、これらの理由により、私たちはすべての公的部隊職員を義務付けています。

コルネリュー•ゼレア•コドレアヌ氏は、法を遵守すれば逮捕され、ヴァカレスティ刑務所に収監されると述べた...

1931 年 1 月 30 日の今日、私たちの事務所で渡された「ステファン•ミバエスク判事の調査中」。 (関係書類No.10-1931)

判決

1931 年 2 月 27 日金曜日

この非難の雨は57日間途切れることなく続き、毎日何百万もの新聞で町や都市全体に広まった。私たちには返答する機会がありませんでした。どこにも希望の光はなく、誰も私たちを擁護し、私たちと私たちの運動の非難と埋葬を求めるユダヤ人の陰謀を非難する能力を持っていませんでした。私たちは、当局、検察、シグランタ、そして内務大臣ミハラチェと呼ばれたこの紳士が、彼らが行った捜査で私たちが何の罪もないことを誰もが知っていたにもかかわらず、どのように行動したかを見ました。弾薬、武器、ダイナマイトの埋蔵物などは発見されなかった。 -依然として悪名高い態度を堅持し、身を守ることができない一部の投獄男性をユダヤ人が嘲笑し嘲笑する獲物を残した。国家安全保障が関係しているのだから、弾薬庫の発見を否定する声明を発表し、国が内戦の瀬戸際にあるなど、世論を落ち着かせるという基本的な義務を果たすべきだった。

このような不利な状況下で、私たちの公判期日は2月27日金曜日に設定されました。弁護人の中には、多忙な環境を考慮して裁判延期の申し立てを提出することが賢明であると感じた人もいた。それまでの間、証人警備部隊の職員を呼び出し、宣誓の下で真実を話すよう強制する予定である。

私たちはこの提案を断りました。私たちは証人なしで裁判を受けることになるでしょう。

Buicliu評議員が議長を務め、G. Solomonescti判事とI. Costin判事が補佐した。プロモーターはプロコプ•ドゥミトレスクでした。私たちはノリカ•アントネスク教授によって弁護されました。弁護士はミハイル•モラ、ネル•イオネスク、ヴァシリュー•クルージュ、モタ、カルネアータ、コルネリュー•ジョルジェスク、イブライレアヌ。国民も判事も、爆弾、弾薬庫、ダイナマイト、銃など、私たちに不利な証拠が見つかることを期待していました。

しかし、証拠としては何も、まったく何も提出されませんでした。私たちの証言が終わってから30分後、悪名高い茶番劇はすべて崩れ去りました。ついに、私たちは話すことができました。2 か月間、時間ごとに私たちの中に蓄積されてきた憤りに満ちていました。嘘の洪水はすべて、真実を前に打ち砕かれました。彼らが私たちを繋いでいたすべての鎖は崩れ去った :私たちの

弁護士は私たちを見事に弁護してくれました。裁判は2日目も続いたが、判決は数日間延期された。

判決言い渡される予定の時間になると、私たちは再び法廷に連れて行かれました。全員一致で無罪の判決が読み上げられた（刑法第800号）。

この無罪判決の条項は次のとおりであり、それに基づいて行われた措置の詳細が記載されています。現在は解散している「大天使ミカエルの軍団」が法に訴えられた。

「一方、主任検察官の捜査の結果、文書では軍団支持者は農民、学生、高校生といった特定の人々の間でのみ募集されていたという事実が判明した。たとえば、文書には軍団兵の巣、つまり「白いハゲワシ」について言及されている。試用期間、誓約または宣誓、5つの基本法について述べており、そのうちの1つは秘密保持法です。軍団が制服、ズボン、スカーフ、体育プログラム、軍事演習、合図演習、モールス信号などで軍事的に組織されているということはまだわかっていない。

徴兵者と徴兵は、憲法によって確立された現在の政府形態に反する行為、または国家の安全に何らかの危険をもたらす可能性のある行為に従事したことが確立されました。たとえ誰かの概念ではそのような危険であると考えられるとしても、そのような組織で構成されているという単なる事実だけで違反と解釈することはできない。

なぜなら、その組織がオカルト的でない限り、行政当局が介入して組織を停止または解散させることができたからである。たとえその組織がでっち上げとしてファシスト制度を模倣したということが確立されていたとしても、その構成員は、告発の根拠となった法文に定められた刑罰に対して責任を負うことはできない。裁判にかけられた。なぜなら、その形態がどのようなものであれ、静止段階にある組織は国家の安全に危険を及ぼさないからである。せいぜい、行政当局側の先制的措置の対象となる可能性はあるが、そのような組織が何らかの行動を開始した場合にのみ生じる抑圧的措置の対象となることはない（法律がその形態を特に禁止している場合などを除く）。組織）。

また、数名の軍団兵が村を通過したからといってそうとは言えません。信奉者を探したり、国民に組織化するようアドバイスしたり、軍団運動に信頼を寄せたりするためには、彼らが国家の安全を危険にさらす意図があるという証拠が提示される可能性がある。プロパガンダは組織を形成し補充する手段である。このような政治組織の幹部。あるいは、組織の計画が身体的および道徳的戒律とともに国民の良心の目覚めを認識していたと考えるならば、いわゆる高校生の巣（組織自体の外部にある組織)の出現は、国家の安全に対する何らかの脅威を意味するものであると考えられる。過度の興奮がない限り、学校のプログラムと一致した道徳教育。

被告が自らの行動によって現在の政府形態を変えようとした責任を問われないことを考慮すると、文書からは検察庁の代表さえも否定していない事実があるため、両被告ともコーネリュー•Z氏の主張が明らかである。 。コドレアヌと他の人々、そして組織のメンバー全員は、寄生政党に代わる強力な政府の必要性を説き、敬意を持って語られる親切な権威とその協力者がマニフェストを証明していることを認めた。彼らはなりたかったのです。

「さらに、国家元首との協力について話しながら、主権者が承認していない政府形態を打倒することについて話すことはできません。...

「一方、これらの考慮事項から、被告が告発されている破壊行為（実際、いかなる角度から見ても破壊的であると証明されていない)は、

条項の規定には該当しません。 11 ····

「組織がベッサラビアへの行進を計画していた行進が行われなかったこと、当局の同意がなければ行進は行われなかったであろうこと、つまり被告が実際には同意を得ていたが後に取り消されたことを考慮すると、それは不必要である」第一に軍団の抵抗を試すことが目的であり、第二に外国勢力に浸透した国民の国家意識を呼び覚ますことが目的だったとする被告の
主張を差し控えることだった。

「一方で、被告のすべての行為は彼の背景に照らして考慮されなければならないとも主張されている...

「一方、被告人が裁判にかけられた事実が立証できない限り、コルネリュー•ゼレア•コドレアヌやダニラなどの行為が有罪の程度を決定することについて語ることはできない。なぜなら、先例たちは罪の程度を立証することに関心があるからである。有罪判決を強制するものではなく、刑罰を与えるものである。

「そうであれば、被告人は告訴に関して無実であり、したがって無罪とされるべきである。」

私たちは喜んで刑務所に戻り、荷物をまとめて釈放命令を待ちました。
私たちは期待する;夜の8時に到着しました、91 10、11、時間。私たちは外の庭で足音が聞こえるたびに飛びつきました。結局、荷物を詰めたまま寝ました。

翌日、私たちは再び待ちました。 3日目になって初めて、検察官が控訴したため、控訴が検討されるまで刑務所に留まらなければならないことを知りました。

またまた、ゆっくりと日々が過ぎていきました。

新しい日付は控訴院で1931年3月27日金曜日に設定された。日々はますますゆっくりと過ぎていきました。最後に、彼らは私たちをバンでエルネスト•カウル•アスラン氏が主宰する控訴院第11セクションの裁判所に連れて行きました。同じ弁護人たちは、告発に憎しみの爆発と侮辱を混ぜ合わせたジカ•ロネスク検事の主張とうまく闘う義務を果たした。判決は数日間延期された。私たちが待つヴァカレスティに戻ります。思い出してください、私たちは満場一致で新たな無罪判決を知らされたのです。 87日間の投獄の後、無罪が認められ、ようやく釈放されました。私たちの中傷者を誰が罰するのだろうかと私は思いました。

私たちが受けた不当な扱い、打撃、苦しみのすべてに復讐してくれるのは誰か、と私は自問しました。

しかし、検察はこの事件をさらに上級の最高裁判所に持ち込んだ。
その後、この事件が検討されると、当裁判所も満場一致で下級裁判所の無罪判決を支持した。ここで我々は2つの決断を下した。1つはミハラチェ氏により、「大天使ミカエル軍団」と「鉄衛隊」がルーマニア国家の存続にとって危険な破壊組織として解散された。もう一つは、ルーマニアの法制度全体、裁判所、控訴院、最高控訴院の法制度であり、満場一致でこれらの若者たちは無罪であり、軍団と衛兵は治安や国家の安全に脅威を与えていないと宣言した。このような状況にもかかわらず、本社には南京錠がかけられたままでした。

再び敗北したユダヤ人は隠れ、他の嘘、他の攻撃、他の悪名を影で準備した。おお主よ !おお主よ !この人々は、どうして私たち、彼らの子供たちが次々と降りかかる敵の打撃の犠牲者であることに気づかないのでしょうか？

おお主よ !おお主よ !彼女はいつ目覚めて、大嵐と、彼女を気絶させて殺そうと決意したほどの憎しみで彼女に向けられた陰謀団を理解するのでしょうか？

Google による機械翻訳

最初の選挙における軍団運動

1931 年 6 月

国民農民政権は4月に崩壊した。ロルガ•アルジェトイアヌ政権が誕生した。

軍団は解散していたので、私は「コーネリュー•Z•コドレアヌ•グループ」という名前で中央選挙管理委員会に運動を登録し、鉄格子を選挙のシンボルとして選びました。

しかし、予想通り、この新しい呼称は普及しませんでした。人々、マスコミ、敵、政府は彼を「鉄の衛兵」と呼び続けた。私たちは、他の人々とは違う、あるいは合法的なルートを享受していないという非難を避けるために、選挙に参加しなければなりませんでした。
6月1日は選挙の日でした。多大な物的努力と融資のおかげで、私たちは郡候補者のリストを登録することができました。

キャンペーンが始まりました。私たちの側では、最も素晴らしく、最も繊細なキャンペーンでした。
陸軍大臣と首相の立候補が発表された2つの郡では、私たちはリストを作成しませんでした。したがって、実現できると期待できる数少ない郡のうち、フォクシャニとラダウティの 2 郡を放棄しなければなりませんでした。

さらに、政府、地方自治体、武装集団は私たちを攻撃し続けました。
私たちのプロパガンダは止まりました。結局、私たちの票の一部さえも投票箱から盗まれました。それでも、悪戦苦闘の末、3万 4千票を獲得しました。カフル氏は約5,000票を獲得して1位となった。次にトゥルダが4,000人。コヴルルイには、ベレスティ、ガネスティ、オアンセアの 3 つのセクションがあり、約 4,000 人が住んでいます。イスマイルは6,000人。 1929 年 12 月 15 日、ベレスティでの最初の集会に行ってから、1931 年 6 月の現在まで、私は継続的な戦闘と投獄を受けてきました。短い滞在期間を合計すると、2 か月も家で過ごしなかったと思います。

ニームト運動、1931 年 8 月 31 日

選挙から20日後、ネアムツ県で議会に空席が宣言されたことを知った。

状況を判断した結果、私も参戦することにした。前回の選挙ではこの郡には 1,200 票しかありませんでした。今回は、リベラル派、アヴェレスカン派やゲオルギスト派と共同戦線を張る国民農民 * が、この空席に候補者を登録していた。

激しい戦いが予想され、その結果が権力の継承を示すことになるため、マスコミはこの選挙に特別な意味を与えることを意図していた。
力の集中があり、人々は予測を試みさえしました。自由党に勝利をもたらした者もいれば、国民農民に勝利をもたらした者もいた。戦いの最中に、賭けをする人もいます。

当然のことながら、誰も私たちのことについて話しませんでした。誰も私たちの勝利に賭けようとは夢にも思わなかった。
7月25日に動員要請を出しました。しかし、私たちは疲れ果てていました。リストの登録料を支払うお金さえありませんでした。レサヌ家はこれと選挙ビラの印刷費用を負担してくれた。

7月30日、1人はピアトラ•ネアムツで武装勢力の到着を待っていた。皆、徒歩、電車、ワゴンなど、できる限りの手段を使ってやって来ました。十字架の同胞団で結成された部隊がより本格的に戦闘に参加し、ベテラン軍団兵の指揮下にチームを編成したのはこの時であった。

私は各チームを特定の分野に割り当てました。合計で100人の過激派がいた。
彼らは誰の知り合いもいなかったし、これから何を食べるのか、どこで寝るのかも何も知らなかったにもかかわらず、限りない信仰を持って歩き始めました。神は彼らに備えてくださるでしょう。そして必然性が彼らに教えてくれるだろう。

* 「ジョージスト」とは、イオン•ブラティヌの息子であるジョージ•ブラティヌが、自由党党首であった父親の死後に設立した党のメンバーであり、彼はこの党を「国民自由党」と呼んでいた。 (Tr.)

ブロステニ氏のチームはバニカ氏、マテイ教授、コスマ氏で構成され、後にカンプルンのチームも加わった。ラプチュニにとってそれはトキュのチームだった。ビカスの場合はクランガヌの。 Targul-Neamt、Victor Silaghi、jorjoaia、Stelescu の場合。バルタテスティ、バネア、ヴェントニック、リフリム、ミハイル•ダヴィッドの場合。ロズノフ、ポポヴィチの場合。ロマスカヌ一家、フリスタシュ•ソロモン、技師ブラナルとともにパドゥラルのブフシへ。クラカオアニ、ドル•ベリマス、ラトイウの場合。ラズボエニ、ヴァレリウ•ステファネスク、ミハイ•クラシウン家、そしてステリアン•テオドレスクへ。さらに、イオン Z. コドレアヌ教授は郡内のさまざまな場所で会議を開催していました。

また、レルゲレギウ、タラタ、プラトン、ロギン、デビッド、ヌタ、ミハイ•ビクレヌ、ウングレアヌ、オラル•V•アンブロジー、マコベイなどが率いる軍団の巣があちこちにあった。

これらの乗組員は生活費を稼ぐために農場で日雇い労働者として働きました。
すぐに彼らは農民たちに慕われるようになりました。国民農民たちはたくさんの荷車を積んで郡に到着した。彼の代理で選挙運動のために郡を訪れた元閣僚は7人いた。同様に、リベラル派も大勢やって来た。あらゆる社会的カテゴリーの中で、司祭は最も理解が足りなかった。教会の尖塔の十字架が政治家、無神論者、宝石商の手に落ちたこの国で、十字架の名の下にやって来
たのは私たちだけだった戦いの中で、私たちの胸は異教の怪物や郡の司祭の前にさらされていた。 3人か4人を除いて、彼らは米国に反対した。

先週、私は最終決戦に備えて部隊を編成しなければなりませんでした。
現在、6 つの強いセクターと 10 つの弱いセクターがありました。この件についてチームリーダーと話し合ったところ、我々には6つの強いセクターがあるので、チームを10の弱いセクターに移動させて強化できるという意見が出ました。
それは戦いに負ける可能性のある間違った意見だと思いました。私は全く逆の方針をとり、より多くの兵力を自分たちの強みに集中させ、他の部隊には小さな包囲部隊だけを残しました。

私が回避したミスを相手が犯した。彼らは私たちが最も強い点に努力を集中しました。それは、私たちが自分たちの最も強い点で戦い、彼らが最も弱い点で戦うためです。

彼らは全滅した。 6 つの分野のそれぞれで 1,000 票を獲得しましたが、他の分野ではせいぜい 200 ～ 300 票でした。同時に、防御が不十分なまま放置された彼らの最強のセクターは、私たちのチームによって半分にされました。

投票日、私は早朝から出発し、強力な車に乗ったトトゥに付き添われて、16 の投票所のうち 15 か所を取材しました。その夜の12時に、農民大衆と軍団の大きな熱意と、政治家とユダヤ人の言いようのない憂鬱の中で、私たちは選挙の結果を知りました。衛兵: 11,300 票。リベラル派、7,000人。アベレスカ人の全国農民、その中に6,000人。他のものはさらに少ない。

そのため、私たちの最初の戦いでは、野原で政治家たちの団結した軍隊を相手に、軍団兵は数が少なく、自由に使える手段が比較にならないほど少ないにもかかわらず、なんとか勝利を収め、すべての敵対者の間にパニックを広げました。

Googleによる機械翻訳

国家に対する民主主義

民主主義と国家に関する考察

議会で

この選挙の結果、私は国会議員になりました。私は敵の世界の真っ只中に一人でした。私には、この議員生活の経験も、空虚な表現だけで、尊大で華麗で鏡に映した身振りと、かなりの生意気さで満ちた民主的演説の才能が欠けていた。誰かが成功し、自分自身を高めるのに役立つ特性を神は私に認めなかったのは、おそらく私が政治的なはしごを登る誘惑に駆られないようにするためでした。

私は議会にいた間ずっと、自分よりも年上の人たちに対する礼儀と敬意の法に違反したことは一度もありませんでした。彼らが私の最大の敵であるかどうかは関係ありません。私は誰も嘲笑したり、呪ったり、笑ったり、気分を害したりしたことがなかったので、その人生の一部になることができませんでした。私は孤立していて、お互いに敵対しているだけでなく、そのような生活から完全に孤立していました。

ある晩、かなり遅くなって、審議が終わりに近づき、傍聴席がほぼ空になったとき、彼は私に発言を許可してくれました。私は我が国がユダヤ人に侵略されたことを示そうとしました。侵略が最も大きい場所では、人間の悲惨さは最も恐ろしいものです。マンムレシでは、私たちの土地にユダヤ人が存在し始めました。

ルーマニア人の死を予見した。彼らの数が増えると、私たちは死ぬだろうということ。ついには、ルーマニア国家の指導者たち、民主主義と政党の世紀を築いた人々が、この闘争で国民を裏切り、国家的あるいは国際的な主要金融に身を投じたということだ。

私は、ユダヤ人の陰謀と汚職の巣窟であるマルモロシュ空白銀行のポートフォリオには、その銀行がお金を「貸し」た政治家がたくさんいることを示しました。ブランシュ国務次官 11,000 レイ。 Mr.のバンカ•タラネアスカ

ダビリア、4,677,000レイ。ルニアンさん 407,000 レイ。マドジャールさん 401,000レイ。フィリペスク氏 1,265,000 レイ。ラドゥカヌ氏 3,450,000レイ。ラドゥカヌ銀行 10,000,000 レイ。氏

パンガル（ルーマニアのスコティッシュ•ライト•フリーメーソン団長)3,800,000レイ。ティトゥレスク 19,000,000 レイ - 彼ら全員がルーマニアの公的生活の指導者です。

「これら以外にも、他にもたくさんありますが、私はそのリストを手に入れることができませんでした。

誰かが「これは借りたお金です、必ず返済します」と私を遮りました。

私はこう答えました。「これが返されるかどうかは、わかりません。しかし、一つだけ言っておきます。そのような金融源からお金を借りた人は、権力を握ったときに、その人を満足させる義務があります。 「たとえ彼が権力を持っていないとしても、彼を支持する」ことさえあるが、いずれにしても、彼が暴露されるべきときに彼を暴露しないようにする。

」

それから私は、否定の可能性を排除して、戦後どのようにしてルーマニア国家が国民による「国民」の最も名誉ある完璧な政府形態である民主主義のもとで約500億レイを騙し取られたかを示したリストを読み上げた。 ！ 「人民の永続的管理」という基本理念をもつ「民主主義」の指導部は、偉大な支配者である人民が15年間の統治期間中に500億レイという途方もない金額を奪われていた。

それから私は民主主義についていくつかの批判的な発言をしました。

最後に、私は以下の 7つの要求を行いました。 1. 不正な公的資金の取り扱い者に対する死刑の導入を要求します。この時点で、神学部教授のイスピル氏が私を遮りました。

コドレアヌ、あなたは自分をキリスト教徒であり、キリスト教の理想の宣伝者だと考えています。

あなたが今進めた考えは非キリスト教的であることを思い出させてください。」

私はこう答えました。「先生、祖国の死と泥棒の死のどちらを選ぶかというと、私は泥棒の死を選びます。泥棒が私の国を破滅させ、破壊することを許さなければ、自分はより良いクリスチャンであると考えます。」 。 」

私たちは、この貧しい国に血を流した人々の調査と富の没収を要求します。

3. 私たちは、国の利益に反する、卑劣な個人的憶測やその他の狂信を支持した告発で有罪と証明できるすべての政治家が裁判にかけられることを要求します。

4. 私たちは、将来的には、さまざまな銀行や金融会社の取締役会から政治家が排除されることを要求します。

5. 私たちは、私たちの土壌から富を吸い取り、私たちの手の働きを搾取するためにここに来た冷酷な搾取者を国境から追放することを要求します。

6. 我々は、ルーマニアの領土がルーマニア国民の譲渡不可能かつ取り消し不能な財産であると宣言されることを要求する。

7. 私たちは、すべての選挙活動員を派遣し、ルーマニア国民全体を心と心を一つにして鼓舞する単一の命令を確立することを要求します。

これらは、私が最も緊急であると感じたいくつかの政策措置を公的に策定する最初の取り組みでした。それらは長期にわたる思考やイデオロギーの探求の結果ではなく、当時ルーマニアの人々が何を必要としていたのかを即座に熟考した結果でした。

6 か月後、いくつかの非常に人気のある運動が現れました。これらの運動は、そのプログラムの中で私の 3 つの出発点となりました。1. 死刑、2. 富の調査、3. 政治家が取締役会に参加することの防止、これにより他の運動も同様になりました。それらも必要であると考えるでしょう。

民主主義に関するいくつかの所見

次のページでは、若い軍人や労働者であれば誰でも理解できるような方法で、私の日常の経験から得たいくつかの結論を提示したいと思います。私たちは服を着て、民主主義の形で生きています。それらは良いのだろうか ?まだわかりません。しかし、私たちが目にしていることが一つあります。それは、ヨーロッパの最大かつ最も文明的な国の一部がこれらの衣服を処分し、新しいものを着ているということを正確に知っているということです。彼らは良い人だったから見捨てたのでしょうか ?

他の国々も、それらを排除し、変えるために多大な努力を払っています。なぜ ?すべての国が狂ってしまったのだろうか ?ルーマニアの政治家だけが全世界で最も賢明な人物であり続けたということだろうか ?これは信じられないようです。もちろん、変えた人、変えたい人にはそれぞれの理由があります。

しかし、なぜ私たちは他人の理由を気にする必要があるのでしょうか ?私たちルーマニア人が民主主義の服を脱ぐ理由にもっと関心を持ちましょう。
それらを拒否する理由がない場合、それらが私たちに適している場合、たとえヨーロッパ全体がそれらを拒否したとしても、私たちはそれらを保持しなければなりません。しかし、それらは私たちにとっても良くありません。理由は次のとおりです。 1.
民主主義はルーマニア国民の団結を破壊し、ルーマニア国民を政党に分裂させ、扇動し、その結果、団結を崩壊させ、歴史上の困難な時期にユダヤ権力の統一ブロックに直面させることにさらしている。この議論だけでも、私たちの存在にとって非常に深刻であるため、私たちが団結を保証できるあらゆるもの、つまり私たちの生活、つまり私たちの生活を保証するためにこの民主主義を変える
十分な理由となるでしょう。なぜなら私たちの不一致は死を意味するからです。

2. 民主主義は何百万ものユダヤ人をルーマニア国民にし、彼らをルーマニア人と平等にし、国家における平等な権利を与えます。平等 ?何を根拠に ?
私たちはここに何千年も住んでいます。鋤と武器を使って。私たちの仕事と血とともに。なぜ私たちはここにほぼ100年、10年、あるいは5年も住んでいる人々のようにならなければならないのでしょうか ?振り返ってみると、この状態を作ったのは私たちです。将来に目を向けると、大ルーマニアの存在に対する歴史的責任のすべてを負うのは私たちルーマニア人です。彼らには何もありません。ルーマニア国家の崩壊についてユダヤ人は歴史に対してどのように責任を負うことができるのでしょうか ?要約すると、彼らは仕事、犠牲、そして犠牲において平等ではありません。

国家を創設した闘争も、その将来に対する同等の責任もありません。
平等 ?古代の格言によれば、平等とは、不平等なものを不平等に扱うことを意味します。ユダヤ人はどのような根拠に基づいてルーマニア人との平等な扱いや平等な政治的権利を要求するのでしょうか ?

3. 民主主義には努力を継続することができない。 1年、2年、3年程度の政権を担う複数の政党に分かれているため、長期的な計画を立てて実行することはできない。一方の当事者が、他方の当事者の計画や努力を無効にします。今日ある人によって考案され、構築されたものは、次の日には破壊されます。

他の。建設が必要な国、その建設そのものが歴史的瞬間となる国において、民主主義に対するこの障害は脅威となる。それはあたかも農場で所有者が毎年変わり、それぞれが異なる計画を考え出し、前任者が行ったことを廃止し、明日来る次の所有者によってヨークが一掃されるだけであるかのようです。

4. 民主主義により、政治家は国家に対する義務を果たすことができなくなる。
民主主義では、最大の善意を持った政治家が支持者の奴隷になる。彼は個人的な欲求を満たすか、そうでなければ彼らは彼の支持を破壊します。政治家

彼らは選挙代理人の圧政と永続的な脅威の下で暮らしている。彼は自分の生涯の仕事を辞任するか、支持者が満足するかのどちらかを選択する立場に置かれている。そして政治家は自分の欲望を満たす。ポケットからではなく、国のポケットから。それは雇用、事務所、使節団、委員会、国家予算を生み出し、これらすべてが国家予算に過剰な負担を与え、ますます猫背になっている人々に負担を与えています。

5. 民主主義には権威がありません。制裁する権限はありません。政党は、支持者を失うことを恐れて、窃盗や横領など、何百万人ものスキャンダラスな事業で生計を立てている人々に対して制裁を加えない。また、政敵が自らの怪しい取引や不正行為を暴露することを防ぐため、政敵に対していかなる制裁も適用しない。

6. 民主主義は巨大金融に奉仕している。
高価なシステムとさまざまなグループ間の競争のため、民主主義には多額の資金が必要です。当然の結果として、彼は補助金によって彼を従属させる巨大なユダヤ人の国際金融の奴隷となる。このファビオンでは、人々の運命が銀行家カーストに引き渡されます。

選挙、選択、世襲

人民はその意志、つまり民主主義の方式に従って導かれるわけではない。個人の意志によるものでも、独裁的な方式でもありません。

ただし法律に従って。私はここで人間が作った法律について話しているのではありません。人生には規範、自然の法則があります。そして規範、死の自然法則、生の法則、そして死の法則があります。これらの法律のいずれかを尊重するかどうかに応じて、国家は生死に向かうことになります。

答えが残されていない疑問が 1 つあります。この国の誰がこれらの規範を直観的に理解したり知ったりできるのでしょうか?人々 ?群衆 ?そうなればかなり期待できると思います。多くの人はもっと単純な法則を理解していません。このことは、理解してもらうよう繰り返し促すことによって彼らに説明しなければなりません、そうです、必要であれば罰を加えることでもそうです。

ここでは、人々の生活に不可欠な法律の例をいくつか紹介しますが、多くの人はほとんど理解していません。伝染病の場合、病人は隔離されなければならず、一般的な消毒が必要です。太陽光が家に入る必要があるため、家には大きな窓が必要です。牛がより適切に餌を与えられ、世話されれば、人間の栄養となるより多くの収量が得られるだろう、など。

大衆がその生活に直ちに必要ないくつかの法則を理解していないか、あるいは理解するのが困難である場合、民主主義においては自ら主導しなければならない大衆が、最も困難な自然法則を理解できるなどと誰が想像できるでしょうか。あるいは、人間のリーダーシップに関する最も微妙で知覚できない規範、つまり自分自身、自分の人生、生活必需品を超えて投影される規範、あるいは人間に直接適用されるのではなく、より高次の存在である国家に適用される規範を誰が直観的に知るでしょうか ?

パン、靴、鋤、作物、路面電車を作るには、専門化する必要がありますが、国家という最も要求の厳しい方向に特化する必要はないのでしょうか ?一定の資質を持つ必要はないのでしょうか ?

結論。民族は自らを統治する能力がありません。エリートによって統治されるべきだ。
つまり、その懐に生まれ、特定の適性と専門性を備えた男性のカテゴリーを通じて。ミツバチが自分たちの「女王」を生み出すのと同じように、人々は自分たちのエリートを生み出さなければなりません。
同様に、群衆もその必要に応じて、そのエリート、つまり国家の賢人たちに訴えます。

このエリート、つまり群衆を選ぶのは誰でしょうか ?あらゆる「アイデア」や公職候補者への投票に対して支持者を見つけることができます。しかし、これはこれらの「アイデア」、「法律」、または「候補」に対する人々の理解に依存するのではなく、まったく別のもの、つまり個人の能力に依存します。

群衆の善意を勝ち取ります。群衆ほど意見が気まぐれで不安定なものはありません。戦後、この群衆は今度は、リベラル派、国家主義者、民族農民、インド人などを嫌悪し、一人一人に敬礼したが、一年後には一人一人に唾を吐きかけ、自らの間違い、方向性の誤り、無能を認めた。彼らの選択基準は「他のものを試してみよう」です。

したがって、選択は判断力や知識に基づいて行われるのではなく、無計画に、そして運に頼って行われます。

ここに 2 つの相反する考えがあります。1 つは真実で、もう 1 つは嘘です。真実は一つしかあり得ないが、探求されている。質問は投票にかけられます。 1 つのアイデアは 10,000 票、もう 1 つは 10,050 票を獲得します。 50票程度で真実を判断するか否かを決めることは可能でしょうか ?真実は多数派か少数派かに依存しません。それは独自の法律を持っており、結局のところ、たとえ圧倒的多数であっても、すべての多数派に対して勝利します。

幾何学においてピタゴラスの定理がその有効性を決定するか否定するかを多数の投票に委ねることができるのと同じように、真実の発見を多数決に委ねることはできません。あるいは、アンモニアを製造する化学者が窒素と水素の量を投票に参加させないのはなぜか。あるいは、何年にもわたって農業とその法律を研究してきた農学者が、投票によってその正当性を自分に納得させようとしている群衆にどのように訴える必要がないのか。

国民はエリートを選べるのか ?では、なぜ兵士たちは最良の将軍を選ばないのでしょうか?選択できるようにするために、この集団陪審は以下のことをよく知っている必要があります: a)
戦略、戦術、組織などの法則、および b) 関係する個人がスキルや知識によってこれらの法則にどの程度準拠しているか。

この知識がなければ、誰も賢明な選択をすることはできません。群衆がそのエリートを選びたいのであれば、必ず国家機関の指導法と、この指導者の候補者がその資格とその法律の知識にどの程度適合しているかを知らなければなりません。

しかし、群衆はこれらの法律も候補者も知ることができません。だからこそ、私たちは、国の支配エリートは群衆によって選ばれることはできないと信じています。このエリートを選出しようとすることは、その国の詩人、作家、整備士、飛行士、スポーツ選手になるべき人を多数決で決めるようなものです。

このように、民主主義は選挙の原則に基づき、自らエリートを選ぶという根本的な誤りを犯しており、そこから私たちの村の悪、無秩序、悲惨な状態全体が発展することになる。私たちはここの首都でプレーしている。なぜなら、他のすべての誤りは民主主義的概念のこの誤りから生じていると言えるからです。

大衆が自分たちのエリートを選ぶように求められたとき、彼らは一人を見つけて選ぶことができないだけでなく、さらに、少数の例外を除いて、国内の最悪の人物を選んでしまいます。

民主主義は国のエリートを排除するだけでなく、それを国家の最悪の者に置き換えます。
民主主義は、まったく何の迷いも道徳もない人間を選出する。より良い報酬を支払う人々、したがってより大きな腐敗の力を持つ人々。マジシャン、ペテン師、扇動者、選挙運動中にそれぞれの分野で優れた人物となるでしょう。何人かの善良な人々は、たとえ真正の政治家であっても、彼らを通り過ぎることができました。しかし、彼らは最初の奴隷になるでしょう。

国の真のエリートは、その基準に基づいて競争することを拒否するため、敗北し、排除されるでしょう。彼は後退して隠れたままになるだろう。したがって、国家にとって致命的な結果になります。国家が、この世で最も最悪で、最も腐敗し、最も病んだ人々で構成される、いわゆる「エリート」によって指導されているとき、なぜ国家が破滅する運命にあるのかを尋ねることは許されることではないでしょうか ?

したがって、ここに他のすべての悪の原因があります...国中の不道徳、腐敗、そして欲望。国家財産の窃盗と略奪。人々の血なまぐさい搾取。家庭内の貧困と悲惨さ。あらゆる役割における義務感の欠如。国家の無秩序と混乱。全員の侵略

お金を持った外国人からの指示、例えば商品がピッタリスで売られている破産した店を買いに来るなど。国が競売にかけられる。

「誰がもっと払うの？」結局のところ、民主主義が私たちを導くのはそこです。
ルーマニアでは、特に戦後、民主主義がこの選挙制度を通じて、勇気や祖国愛、犠牲ではなく、祖国への裏切りに基づいたローマ系ユダヤ人の「国民エリート」を生み出してきた。、個人的な利益の充足、賄賂、影響力の行商、搾取や横領による富裕化、窃盗、卑劣さ、あらゆる敵を打ち倒すための陰謀。

この「国家エリート」がこの国を指導し続ければ、ルーマニア国家の破壊をもたらすだろう。したがって、究極的には、今日ルーマニア国民が直面し、他のすべての人々が依存している問題は、この偽りのエリートを、美徳、国への愛と犠牲、正義と国民への愛、誠実さに基づいた真の国家エリートに置き換えることである。仕事、秩序、規律、誠実な扱い、そして名誉。

誰がこの置き換えを行うのでしょうか?誰がこの王室エリートを指導者の地位に据えるべきでしょうか?
私は答えます :群衆以外の誰でも。私は「民主主義」以外のあらゆる制度を認めますが、それがルーマニア国民を殺すと私は考えています。

ルーマニアの新しいエリートは、世界の他のエリートと同様に、社会的淘汰の原則に基づいていなければなりません。言い換えれば、特定の資質を与えられ、その後培われる人々のカテゴリーは、国家の本体、つまり、土地と国に永久に愛着を持っている健康な農民と労働者の大多数から自然に選択されます。このカテゴリーの人々は、私たちの国を導く運命にある国家エリートになります。

いつ群衆に相談できますか?いつ相談すべきですか?自分の将来に影響を与える重大な決断をする前に、できるかどうか、ある道を歩む精神的な準備ができているかどうか、自分の言葉を言うために相談を受けなければなりません。
彼は自分の運命に影響を与える問題について相談しなければなりません。これが国民との協議の意味するところです。それは国民によるエリートの選出を意味するものではない。

しかし、私は私の質問を繰り返します。「誰がエリート内で全員の位置を割り当て、誰が全員を評価するのか？ WBOが選抜を確立し、新しいエリートのメンバーを祀るのか？」私は「元エリートです」と答えます。

後者は、選択したり名前を付けたりするのではなく、各自を自分の能力と道徳的価値によって昇天した場所に聖別します。奉献は、エリートの長が彼のエリートと協議して行います。したがって、国家エリートは、その代わりに情報を提供するエリートを残すように注意しなければならないが、エリートは世襲の原則に基づいておらず、最も厳格に適用される社会的選択の原則にのみ基づいている。遺伝の原理だけでは十分ではありません。社会的淘汰の原理によれば、国の奥深くからの要素によって継続的に活性化され、エリートは常に精力的であり続ける。主な歴史的誤りは、選抜の原理に基づいてエリートが創設されたが、その翌日にはそれを生み出した原理そのものを放棄し、世襲の原理に置き換え、こうして不当で非難された者たちを祭り上げたことだった。生まれながらの特権制度。それはこの間違いに対する抗議でした。退廃したエリートの排除のため。そして出生による特権の廃止のために、この民主主義が誕生しました。選択原理の放棄は偽りの堕落したエリートを生み出し、それが民主主義の逸脱につながった。

選択の原理は、選挙の原理と世襲の原理の両方を排除します。それらは互いに打ち消し合います。それらの間には対立があります。なぜなら、選択の原則があり、その場合には群衆の意見と投票は重要ではない、あるいは後者が特定の候補者に投票するため、その場合には選択はもはや機能しないからである。

Googleによる機械翻訳

同様に、社会的選択の原理が採用される場合、遺伝は何の役割も果たしません。これら 2 つの原則は、相続人が選択の法則に適合しない限り両立できません。

もし国家に真のエリート、つまり第一人者が第二人者を指名しないとしたらどうなるでしょうか？
私は、議論の余地のない真実を含む一文で答えます。この場合、真のエリートは、堕落したエリート、つまり偽りのエリートとの戦争から生まれます。それは選択の原則にも当てはまります。

したがって、要約すると、エリートの役割は次のとおりです。
国民の生活の法則に従って国家を導くこと。 b) 世襲の原理ではなく選択の原理に基づいて世襲エリートを残す。エリートだけが人生の法則を知っており、人々がスキルと知識によってこれらの法則にどの程度準拠しているかを判断できるからである。それは庭師が自分の庭で働き、死ぬ前に後継者を残せるよう世話をするようなものです。

なぜなら、彼と一緒に働く人々の中で誰が彼の代わりになって仕事を続けるのに最適であるかは彼だけが言えるからです。

エリートは何に基づいて設立されるべきですか? a)
魂の純粋さ。 b) 仕事と創造性の能力。 c) 勇気。 d) 困難な生活と、国家が直面する困難に対する永続的な戦争。そうです）
貧困、つまり富の蓄積を自発的に放棄すること。 f) 神への信仰。 g)
愛。

私たちのこれまでの活動はキリスト教会と同じ道をたどってきたのかと尋ねられました。私は答えます、私たちは自分たちが従う路線とキリスト教会の路線を大きく区別しています。教会は私たちを上から支配します。それは完璧さと崇高さに達します。私たちの行動を説明するためにこの計画をダウンロードすることはできません。

私たちは、自分の行動、すべての行為や思考によって、この線に向かう傾向があり、肉の罪と原罪への堕落の重さが許す限り、自分自身をこの線に引き上げます。私たちが世俗的な努力を通じてその線に向かってどこまで上昇できるかはまだわかりません。

個人、国民集団、国家

「人権」は、他の人間の権利によって制限されるだけでなく、他の権利によっても制限されます。 3 つの異なる実体があります。 1. 個人。

2. 現在の国民集団、つまり、特定の州で特定の状態に住んでいる、同じ国民のすべての個人の全体

時間。

3. 国家、その生涯は何世紀にもわたって広がり、そのルーツは時間の霧の中に深く根ざし、無限の未来を持っています。

「人権」に基づく民主主義の新たな大きな間違いは、これら 3 つの主体のうちの 1 つである個人のみを認識し、関心を示すことです。 2番目を無視するか嘲笑し、3番目を否定します。

彼らには全員、権利と義務があり、生存する権利と、他の二人の生存権を侵害しない義務があります。民主主義は個人の権利のみを保証することに関心があります。だからこそ、私たちは民主主義において恐るべき転換を目の当たりにしているのです。個人は、自分の無制限の権利によって、集団全体の権利を強奪できると信じており、それを踏みにじったり盗んだりできると考えている。したがって、民主主義では、個人が自分の個人的利益以外のことを何も認めないこの無秩序な、この悲痛な場面が目撃されます。

次に、国民集団は、現在の利益のために将来、つまり国民の権利を犠牲にする恒久的な傾向を示します。これが、私たちが森林、鉱山、石油埋蔵量の無慈悲な搾取と疎外を目の当たりにし、何百ものルーマニアの世代がいることを忘れている理由であり、私たちの後に続くであろう私たちの子供たちの子供たちもまた生きて人生を続けることを期待しているのです。

私たちの国の。民主主義によって引き起こされたこの大変動、関係の断絶は、真の無政府状態、自然秩序の混乱を構成し、今日の社会における不安状態の主な原因の一つです。

調和は自然の秩序を回復することによってのみ回復することができます。
個人は上位の存在である国家集団に従属しなければならず、国家集団もまた国家に従属しなければなりません。 「人権」はもはや無制限ではなく、国民集団の権利によって制限され、さらに国民集団の権利によって制限される。

最後に、民主主義においては、少なくともこれほど多くの権利を享受している個人は素晴らしい生活を送っているように見えるでしょう。しかし現実には、これが民主主義の究極の悲劇ですが、個人には何の権利もありません。我が国における集会の自由、執筆の自由、良心の自由は一体どこにあるのでしょうか ?個人は恐怖、包囲状態、検閲の下で生きています。最も横暴な指導者の下でのように、何千人もの人々が逮捕され、中には信仰のために死刑に処せられる人もいます。集会が禁止され、何千人もの人々が投票を妨げられ、虐待され、殺害の脅迫を受け、殺害されているとき、その運命を決定する「主権ある大衆の権利」はどこにあるのでしょうか ?あなたはこう言うだろう、「そうだが、この人たちは憲法を変え、私たちの自由を制限し、別の形態の政府を即位させようとしているのだ！」

「民主主義は、国民が自らの運命を決定したり、憲法や政府形態を好き勝手に変更したりする自由はないと主張できるだろうか。多かれ少なかれ自分の望むように自由に生きるには？

これは究極の悲劇です。
現実には、民主主義において人間には何の権利もありません。彼は国民集団や国家を支持して彼らを失ったのではなく、銀行家や選挙人からなる政治金融カーストを支持して彼らを失ったのである。最後に、個人に対する最後の慈善です。フリーメーソンの民主主義は、この地球上で平和の使徒を装いながら、同時に人間と神との間の戦争を宣言する、前例のない背信行為によって実現されました。

人間間の平和と神に対する戦争。
邪悪な者は、「人々の間の平和」という救い主の言葉を利用して、彼を人類の敵として非難し、示しながら、自分自身を「平和」の使徒に変えることにあります。さらに、この背信行為は、人々の命を救いたいと見せかけながら、実際には人々を死に導くことでもある。戦争から自分たちの命を救ったふりをして、彼らを　悪魔のように　永遠の滅びに追い込むのだ。

国家

私たちがルーマニア国民と言うとき、それは同じ領土に住み、同じ過去、同じ未来、同じ服装を共有するすべてのルーマニア人だけを意味するのではなく、生者も死者も含めて最初からこの土地に住んでいるすべてのルーマニア人を意味します。歴史の。そして私はここで未来も生きます。

国家も含めて。
1. 現在生存しているすべてのルーマニア人、2.
私たちの死者のすべての魂と先祖の墓、3. これからルーマニア人として生まれるすべての
人。人々は、自分自身の目標だけでなく、その全体を認識するときに、自分自身を認識します。

この国には次のもの
があります。 1. 物理的および生物学的遺産、つまりその血肉。
2. 物質的遺産 - あなたの国の土壌とその富。
3. 以下を含む精神的遺産: a)
神、世界、人生についてのあなたの概念。この概念は領域、つまり精神的な特性を形成します。この領域の境界は、その概念の明るさが到達する地平線によって決まります。国民精神の国、啓示や自らの努力によって得たビジョンの国があります。

b) この国がその歴史を通じて、神、世界、生命についての概念から発せられる規範に準拠してきた度合いにおいて輝く彼の栄誉。 c)
彼らの文化、芸術や思想の分野での彼ら自身の努力から生じる彼らの存在からの収入。この文化は国際的ではありません。それは国家の天才、血の表現です。この文化は、その輝きが限りなく国際的ですが、起源は国内的なものです。誰かが美しい比較をしました。パンと小麦はどちらも国際的な消費品目かもしれませんが、どこにでも、それらが育った土地の痕跡が残っています。これら 3 つの資産にはそれぞれ重要性があります。国民はこの 3 つすべてを守らなければなりません。最も重要な弓はあなたの精神的な遺産です。それ自体が永遠の印を持ち、それだけが何世紀にもわたって残ります。

古代ギリシャ人はその体格ではなく、残されたのは灰だけであり、たとえ物質的な富があったとしても記憶に残っているのではなく、その文化によって記憶されているのです。

民族は、その視点、名誉の概念、文化を通じて永遠の中に生きます。
だからこそ、国家の指導者は、国民の物理的または物質的な利益だけでなく、国民の歴史的名誉や永遠の利益も考慮に入れて、論理的に考え、行動しなければなりません。言い換えれば、パンではなく、どんな犠牲を払ってでも名誉を得るということです。

国家の究極の目標

それは人生ですか？

それが命であれば、人々が命を守るためにどんな手段を使うかは問題ではありません。最悪でも良いのです。したがって、問題を提起する必要があります。他国との関係において国家を導く原則は何ですか?
彼らは動物の本能、彼らの中にあるトラ、海での魚や森の動物の行動に導かれるべきでしょうか？

最終的な目標は生命ではなく、復活です。救い主イエス•キリストの御名による人々の復活。創造や文化は手段にすぎず、信じられているようにこの復活を得る目的ではありません。それは神が私たちの民に植え付けた才能の成果であり、私たちはそれについて説明しなければなりません。地球上のすべての民族が復活し、すべての死者とすべての王と皇帝が復活し、それぞれの民族が神の玉座の前にそれぞれの立場を得る時が来ます。この最後の瞬間、「死者の復活」は、人々が立ち上がることができる最も高貴で最も崇高なものです。

したがって、国家とは、地球を超えて存続する存在である。この世界に限らず、冥界でも人間は実在します。

聖ヨハネは、地球の向こうで見たものについて次のように語っています。

「そして、この町には太陽や月が輝く必要はなかった。神の栄光が町を照らし、小羊がそのともしびだったからである。
「そして国々は彼女の光の中を歩み、地の王たちは彼らの栄光と名誉を彼女にもたらすでしょう。」
（黙示録、21、
23-24）。そしてまた、
「主よ、あなたを恐れず、あなたの名を偉大にしない人はいないでしょうか。あなただけが聖なるのです。すべての国々が来てあなたの前に崇拝するでしょう。あなたの裁きは明らかだからです。」

(黙示録 15,4)。

私たちルーマニア人、私たちの国民、そして世界の他の人々と同様に、神は使命、歴史的な運命を与えられました。人が従わなければならない第一の法則は、この道を歩むことです。

運命、自分に課せられた使命を果たす。我が国の民は、ゴルゴタへの道がどんなに困難で長かったとしても、決して武器を捨てたり、使命を放棄したりしませんでした。

今でも山ほどの障害物が私たちの前に迫っています。
私たちは、脅威の圧力の下でルーマニアの運命線から手を放し、この世界における民族としての使命を放棄する、弱くて臆病な世代なのだろうか？

君主制と君主制法

エリートの上にある人民の先頭には君主制がある。私は共和国を拒否します。
優れた君主もいれば、非常に優れた君主もいれば、弱いか悪い君主もいた。生涯の終わりまで名誉と国民の愛を享受した者もいれば、斬首された者もいた。したがって、すべての君主が善良だったわけではありません。しかし、君主制自体は常に良いものでした。人間と制度を混同し、誤った結論を導き出してはなりません。

悪いパターンもあるかもしれません。しかし、それゆえに、教会は廃止され、神は石打ちで殺されなければならないと結論付けることができるでしょうか？
確かに弱者や邪悪な君主もいるが、だからと言って君主制を放棄することはできない。農業では、良い年の後に悪い年があったり、1 つの良い年と 2 つの悪い年が続いたりすることがあります。しかし、世界中の誰も農業を放棄することを思いつきませんでした。

君主は、大きかろうが小さかろうが、善かろうが悪かろうが、自分の好きなように行動するのでしょうか？
君主は自分の思い通りにはなりません。やりたいことをやっているときは小さく、やるべきことをやっているときは大きくなります。神は各国ごとに運命線を引いた。君主はその列に立つとき、偉大で善良である。この運命線から遠ざかったり、運命線に
抵抗したりする限り、彼は小さいか悪いかです。つまり、これが君主制の法則なのです。君主を誘惑する可能性のある他の系統もあります。それは、個人的な利益の系統、またはある階級の人々やグループの系統です。外国の利益（国内または外国)のライン。彼はこれらすべての方針を避け、国民の方針に従わなければなりません。

ステファン大王は 500 年にわたって歴史の中で輝き続け、ルーマニア人は彼を記憶しています。なぜなら彼は国民の運命を完全に認識していたからです。フェルディナンド王は、外部からの利益や影響による圧力にもかかわらず、国の運命に沿って自らを位置づけました。彼は彼女とともに苦しみ、彼女とともに犠牲を払い、彼女とともに勝利した。このおかげで彼は偉大であり、不死であるのです。

トゥトバの戦い、1932 年 4 月 17 日

ネアムトの選挙からわずか4か月が経過し、若い軍団軍が新たな戦いを繰り広げている。 1932 年 1 月初旬、トゥトヴァ * で副議員の空席が宣言されました。

私は状況を天秤にかけた。前回の総選挙ではわずか500票しか得られませんでした。郡は弱かった。しかし、それはコヴルルイ、カフル、テクチのより強力な郡によって囲まれていたので、軍団を容易に連れて行くことができました。もしかしたら勝てるかもしれないと私には思えたし、次の勝利の反響が与える影響について考えていた。若い世代がすべての政党に対して2回連続で勝利すれば、国の目から見た彼らの威信はかなり高まっただろう。私は、組織とプロパガンダのための議会内外の両方の運動において、父が私にとって最も必要とされていたため、父が出馬すべきだと決心しました。

選挙は 3 月 17 日に予定されていました。私は 1 月 9 日に郡全体のマニフェストを発表しました。父は1月10日に最初の選挙チームとともに到着した。続いてヤシ、テクチ、ベレスティ、カフルのチームが続いた。最初の 3 週間で、小規模な軍団部隊の迅速さと勇敢さが、郡全体に私たちに有利な同情の流れを引き起こしました。大雪と寒さの厳しい冬に、政党は外出できなかった。彼らはより良い時期を待っていました。しかしその間、丘を越え、腰までの深さの雪を通り、吹雪の中を、軍団兵は村から村へと移動した。

2月の初めまでに、敵との戦いはさらに困難になり、自由党、国民農民、ルピスタ、クジスタの連合が、これまで見たことのない凶暴さで私たちを見つめ始めました。政府は真のテロ手段に訴え、ユダヤ系マスコミは私たちを激しく攻撃しました。

新たな援軍の必要性を感じたので、トトゥ率いるヤシから最後の予備軍を派遣した。ブカレスト以外には他に誰もいなかったので、資金不足で確保できませんでした。それから私は軍団員の会議を招集し、英雄的な一歩を提案しました。ブカレストから約200マイルの距離であるバリアードまで徒歩で出発し、この行進は10万のマニフェストよりも私たちの勝利に意味があると説明しました。それだけでも軍団兵がトゥトヴァ率いるルーマニア人に向けて演説した偉大な英雄的な演説となるだろう。

軍団兵たちは私の提案を熱心に受け入れました。 1週間後、ステレスク、カラタナセ、ドル•ベリマーチェが率いる約25人のチームが徒歩でブカレストを出発し、トゥトヴァに向かった。荒天の中10日間の行軍の末、彼らはバリアードに到着し、そこで住民全員から温かく歓迎された。しかし追跡は神経をすり減らす緊張にまでエスカレートした。内務大臣アルジェトイアヌ氏は、憲兵大佐（lgnat)に大軍を派遣し、軍団兵を担架でトゥトヴァ郡から輸送するよう命令した。小規模チームがこれ以上前進することは不可能でした。それから私はビクトル•シラーギとステレスクの下で 2つの強力なチームを結成し、お互いをサポートしながらプエスティ•ドラゴミレスティ戦線を前進し、父をサポートしました。私は別の小規模チームをバカニの方向に送りました。この 2 つのルートだけが未踏のままでした。彼らは郡の北東半分を占めていた。残りの半分の南側は、父セニョール D が適切に工事を行いました。

ポペスク氏、郡長、ビクトル•シラーギ氏、テオドール•ティレア氏、イオン•アントニウ氏とトップチーム。

北部の2チームは厳しい寒さと闘いながら約30キロ進んだが、最終的にはトクさんら数名が負傷した。郡の北部では憲兵の大規模な部隊が彼らを出迎えた。チームは廃屋の屋根裏に立てこもり、暖房、食料、水なしで48時間抵抗した。最終的に彼らは、真に英雄的な状況下で実行された困難な夜間行軍の間、撤退することができたが、それはひとえに、疲れ果て、飢え、凍りついた軍団兵を最後の可能な限り抵抗するよう励ましたヴィクトル•シラーギの粘り強い粘り強さのおかげであった。

* バルラドを郡庁所在地とするトゥトヴァ郡 (Tr.)

** Dr.ルプーのメンバー。 (Tr.)

この孤児は、1918年に悲劇的な状況でハンガリー人に殺害されたルーマニアの司祭シラギ•デ•カレイ•マリの息子であり、勇敢に戦った。

最終的に、これらのチームは優れた部隊に囲まれ、捕らえられ、バリアードに連行されました。父は逮捕され、連隊刑務所に収監されました。
第三チームはバッカニの戦いで完全に壊滅した。そこで、夜に村に入る前に、谷で彼は憲兵の大規模な部隊に襲われた。チームリーダーの軍団兵ラスカー•ポペスクはライフルで頭を殴られ、血だまりの中で最初に意識を失った。他の軍団兵は撤退を拒否した。彼らは上半身裸で何も持たずに村に入ろうと反撃した。一人また一人と全員が意識を失いました。

最後に残った者が単独で攻撃した。打撃を受けて彼は膝をつき、立ち上がって再び攻撃した。彼は仲間の近くに着陸した。チーム全員が血だまりの中で意識を失い横たわっていた。そこから彼らは憲兵たちに雪の中を引きずられ、村の憲兵隊の駐屯地まで1マイル以上を走った。その夜の一時、騎手がバカニで何が起こったのかをバリアードに伝えた。

その真夜中にバルラドに到着したトトゥ指揮下のヤシのチームは、負傷した仲間を助けるためにすぐに徒歩で出発した。憲兵隊がすべての武器を発砲した午前3時30分から午前5時までの戦闘の後、軍団兵は憲兵隊の陣地を占拠し、中にはまだ意識を失って地面に横たわっているバッカニの戦いで戦死した戦友を発見した。 。彼らは彼らをバルラドの病院に運びました。

しかし、事態はそこで終わりませんでした。ユダヤ人たちは大規模な報道キャンペーンを開始し、反抗的な皮肉と不正義で私たちを攻撃しました。嘘、侮辱、中傷の波が私たちに押し寄せました。
私たちを戦闘から排除するためにすべての政治団体が団結しました。

衛兵隊の二度目の解散

1932 年 3 月

憲兵によって追放され、ユダヤ人マスコミによって攻撃された私たちは、簡単な閣僚決定によって命令された衛兵隊の新たな解散に見舞われた。私たちは完全な合法性の枠内にいたにもかかわらず、ロルガ=アルジェトイアヌ政府は法律と憲法に反して、恣意的に衛兵隊を解散させた。全国の本社は再び押収され南京錠をかけられ、ヤシ印刷所は閉鎖されました。

報道機関から攻撃を受け、すべての出版物が停止されたため、私たちは身を守ることができないという不可能な状況に置かれました。議会で私は発言しようとしましたが、多数派の騒音に妨げられ、自分を守ることができませんでした。

しかし、トゥトヴァでの立候補は阻止できなかった。ブカレストの涙は郡から追放された。他のものも同様に、一つずつ。トトゥの指揮下にある約30人のヤシチームは、同じ避難作戦のために倉庫に送られたとき、コードを切断して待合室を占拠し、そこでバリケードが作られ、ガス室で処刑されるまで24時間抵抗した。結局、それは電車に積まれて町の外に持ち出されました。市内に残ったのはイブライレアヌ、ヌトゥ•エサヌ、そして逮捕された父だけだった。その後、追跡は村々に移されました。農民、教師、司祭は逮捕され、殴打された。彼らの家は侵入され、選挙は4月17日まで1か月延期された。

父は釈放されました。それから年老いた軍団兵たちが戦いに参加するために街にやって来た ：フリスタシュ•ソロモン、カンブレアヌ大佐、ヴェントニック、イフリム、イシヒエ神父、ペセリ、ポトレアなど。私は彼らをさまざまな部門に割り当てた。それぞれが夜陰に紛れて持ち場に向かいました。近隣の郡からの私たちのチームは、いくつかのポイントで再びトゥトヴァに入りました。うーん。コステアのチームは、すべての道路が監視されている中、首まで水に浸かったバーラド川を渡った。彼らはずぶ濡れになりながら投票所に到着した。

投票は4月17日の朝に始まり夜まで続いた。 4月18日午前5時に、軍団兵の勝利が発表された: 5,600票。リベラル派: 5,200;全国農民 ：4,000人。他のグループ: 2,000 未満。クジスト: 500票。

この二度目の軍団の勝利は、ルーマニアの全政治家の連合に対するもので、軍団兵たちの勇敢さと鉄の意志、英雄的行為と血で障害、侮辱、クーデター、迫害をものともせずに勝利し、国中に言い知れぬ熱狂を呼び起こした。 。

新しい総選挙

1932 年 7 月

私の父は国会会期の最終日に承認されました。しかし、ロルガ政府が崩壊したため、私たちの休息は一週間しか続きませんでした。ヴァイダ氏をトップとする国民農民政府が発足した。

体力的にも経済的にも疲れ果てた私たちは、新たな戦いへ出発した。それは1932年6月のことでした。
1929 年 12 月 15 日以来、我々は絶え間ない闘争を続けた。1929 年 12 月から 1930 年 4 月まで、コヴルルイ、カフル、トゥルダ、テクチでの作戦。 1930年の夏、ベッサラビアでの行進の準備、その後の阻止、そしてその秋までの私の逮捕。 10月と11月に私たちはマラムレシュにいましたが、その冬は再び閉まりました。 1931 年の春、総選挙の前の戦い。 1931年夏、ネアムツの選挙。 1932年冬、トゥトヴァの選挙。そして今、私たちは再び総選挙に行こうとしていた。

こうしたすべての苦闘にもかかわらず、私たちは国内の残りの地域で組織化活動を続けました。
一昨年、私たちは 17 の自治体で選挙人名簿に登録しましたが、今年は 36 の自治体に登録されました。すべての政党が候補者の指名をめぐって、陰謀に満ちた同じ戦いを繰り広げました。これが丸一週間続きました。しかし、私は独力で、一晩のうちに 36 の郡のすべての候補者リストを固定しました。軍団兵の中には名簿上の自分の地位を争う者はいない。何かがある場合は、最後に配置するように求められます。

私たちにとって難しい問題は財政問題です。ほとんどの郡は軍団兵の寄付金から独自の費用をまかなうことができた。

他の人はそうではありません。選挙税を賄うだけでも 50,000 レイが必要でした。
最終日までボーっと歩きました。一つ試してみた、もう一つ試してみた。何でも。

私はお金があるのではないかと期待して、カレンデル（『ザ•カレンダー』)のディレクターであるニチフォー•クレイニック氏に会いに行きました。しかし無駄だった。 5か月前に出版された日記で、彼は私たちの戦いを支持し、私たちの軍団チームの勇気を一歩ずつ示しました。しかし、彼は経済的に私たちを助けることができませんでした。

最後に、私はピフとカラニカから借りました。彼らはすべてのマケドニア人に駆けつけて、必要な金額を見つけました。いくつかの郡はフォクシャニ郡とリルスターシュ•ソロモン郡の支援を受けた。

キャンペーンが始まりました。新たな迫害が私たちの階級に降りかかりました。
広い戦線に分散されていた私たちの薄い隊列は四方八方から猛烈な攻撃を受けました。
軍団兵のサヴィンとポペスクはティギーナで負傷した。バルラドでは、多くの教師や司祭が地下室に引きずり込まれ、ジョルジェスク=バラド氏に対して虐待を受けた。ヴァスルイでは、私たちの小規模チームが負傷しました。ポドゥル•イロアイエイとヤシ郡全域でも同様です。フォクシャニでは、年老いたフリスタシュ•ソロモン、技師ブラナル、その他10名が、ヴァルトゥルル村で法務官ニーアグの命令により全国農民の武装集団に襲撃された。軍団兵はこん棒やナイフで負傷し、地面に倒れた。ただ山のように立っていたのは、それまで誰もあえて触れようとしなかったフリスターシュ•ソロモンだけだった。彼は懸命に身を守ったが、最後には強打に負けて道の真ん中に倒れてしまった。そこで彼は、当時も今もそうであるが、合法性、文明的な方法、自由などを常に主張する野獣たちに頭を殴られた。

グアルダ氏は前年の2倍となる7万票を獲得した。私の父がレースに出たカフル郡、ネアムト郡、コヴルルイ郡、トゥトヴァ郡が最も強かった。その後、カンプルンにモタが続いた。それからトゥルダ、フォクシャニ、イスマイル、ティギーナ。私たちは 5 議席を獲得しましたが、これからはその議席を獲得するための選択をしなければなりません。私はヌトゥ•エサヌの議会入りを許可するためにカフルに滞在しました。
私は、25歳の学生ステレスクが国会議員になるために、父がバルラドに残るべきだと決心した。このようにして、彼はこの国の若者に新鮮な空気と激励を与えたいと考えました。しかし、私がこの青年に示した信頼と愛は私には返されませんでした。

*

Googleによる機械翻訳

*

著者はここでステレスクの将来の軍団兵の同志に対する裏切りについて言及している。トラ)

2度目の国会議員

議会にいる間ずっと、私はルーマニア国民の幸福に反すると考えた政府とその政策と闘ってきました。実際、私は交代で国家の実権を握ったこれまでのすべての政権とも闘ってきました。この国はこれらすべての政府に何も期待できませんでした。そこでは、我が国民の将来にとって健全なるものは何も築かれていませんでした。すべての措置や法律は、我が国の辛く悲しい存続を日々長引かせるほんの一部の緩和策にすぎませんでした。

グリヴィタではルーマニア人労働者が政府の命令により射殺された。
内務省は、国内の親共産主義者の態度にひどく嫌悪感を抱いている。
政府の措置を賞賛した国民農民党として、私は壇上に上がり、次のように言うことが私の義務であると考えました。

「不幸な労働者たちが街頭に出るのは悪いが、彼らと我が国国民が天に向かって叫ぶような不当な行為に直面して外に出ず、くびきの下で諦めて頭を下げたとしたらもっと悪いだろう。この国を少数の政治家探検家の手に委ねることになる。」

*

このセッションの公式議事録をここに引用します。

「コルネリュー•ゼレア•コドレアヌ氏。大統領、紳士淑女の皆様 !私は、私の所属するグループを代表して、管轄当局により通常実施される調査に加えて、代表者で構成された新たな議会調査を要求します。 「この議会のさまざまな政治団体の意見交換は実行されるべきだ。私がそれを要求するのは、内務大臣の声明の真実性を疑っているからだ。疑うのには正当な理由がある。1月24日、ルーマニアの学生、国家主義者、キリスト教徒が行ったとき、無名戦士の墓に十字架を立てるために行った際、国家安全保障局は、この行動がモスクワによって計画され資金提供されたという情報をブカレストの新聞に漏らした。

「グリビタ事件についてあなたが持っている情報もそのような情報源からのものであるなら、あなたが昨日と今日と同様にこの種の措置を講じるのがどれほど正しいか、私はよく理解します（「鉄の警備員」ベンチと傍聴席から拍手)国立

*

著者はここで、ブカレストのオブラ•グリビタ•ラフィウェイで 4日に行われた労働者のストライキについて語る。
1933年2月、国農政権下。 (Tr.)

ルプー博士の祝日）。
第二に、私は、この国のすべての良識ある人々と同様に、共産主義もボルシェヴィズムも恐れていない、と申し上げたいと思います。私たちが恐れているのは別のことであり、彼らの労働者には食べるものが何もないということです。彼らはお腹が空いています。 (「鉄衛隊」と博士の農民党の銀行から拍手。

ルプー）。
「これらの労働者の中には、月収がわずか 1,100 レイで、5 人、6 人、7 人の子供がいる人もいます。 V•ルプ医師:「それは本当です」。
コルネリュー•ゼレア•コドレアヌ氏：「5人、6人、7人の子供がいるのに、この給料では毎日の糧を得るにも十分ではありません。一方で、私は別のことも恐れています。正義への渇望です。」

N. リプ医師: とても良いですね!
elmr、コルネリュー•ゼレア•コドレアヌ: 「したがって、あなた方はこれら 2 つの欲求、すなわち正義への飢えと渇きを満たさなければなりません (「鉄衛隊」のベンチとルプー博士の農民党のベンチから拍手)。そしてこの国は、完全な注文をお楽しみください。」

Googleによる機械翻訳

(1933 年 2 月 16 日木曜日の会議。公式モニター 41、1933 年 2 月 23 日)

議会の活動を遅らせる問題の 1 つは、省庁に対して何らかの仲裁を求める何千もの要請があることです。これは私たちの有権者にとって真の懲罰となる。(1) 国会議員はこれらの要求を満たすためにほとんどの時間を無駄にしなければならないからだ。このシステムは組織のすべての活動を麻痺させるため、組織の存続にとって危険です。

彼は戦い全体に負けるかもしれない。支持者に奉仕するためには国の運命を放棄しなければなりません。しばらくして、そのような要求を持って私のところに来た人々の中に軍団兵がいないことに気づきました。彼らは全員、私たちを麻痺させるために特別に送られたプロの乞食、または敵対者でした。 (2) このシステムのせいで、我々は前進し、戦っている兵士たちからの好意を求めるという微妙な立場に置かれた。こうした理由から、私は個人的には誰に対しても介入することを拒否しました。国会議員としての勤務中、私はどの大臣にも何も質問しませんでした。

もう一つのカテゴリーは、私たちにお金をせびりに来た人たちです。毎日私たちのドアをノックする数百人の中に軍団兵は一人もいなかった。本当に病気になったり、恥をかかされた人もいましたが、このシステムを本当の職業に変えた人もいます。結局のところ、私たちのグループは小さな組織であり、編隊を組んで移動し、絶えず戦闘を続けていました。これには特に、敵の動きすべてに絶え間なく注意を払う必要がありました。それには、敵の計画を発見して迂回し、新たな陣地を獲得して組織すること、言い換えれば、国中の戦場を昼夜を問わず恒久的に調査することが含まれていた。しかし、まず第一に、目が覚めて、自分たちが徐々に道徳的感染の政治的カテゴリーに変えられ、そこから抜け出すことができず、軍団の精神が死んでしまうことのないように、軍団教育が伴われました。

議会は私が本当に指導するために必要な時間を奪いました。

Googleによる機械翻訳

1932 年の軍団組織の状況 -
1933年

1932 年の秋と 1933 年の冬には、軍団兵は息をすることができた。 3年半にわたる闘いが終わった。これらの若者たちは今、休むに値します。ブカレストに住み始めてから約2年が経ちました。

私の代わりにヤシに赴いたバネアは、トトゥ、クランガヌ、タスカ、ステリアン•テオドレスクの支援を得て、学生、印刷所、我が家などに関する質問に答え続けた。学生軍団兵のグループは増大し、現在では 200 名を超える数で構成されている。学生過激派の半分。クルージュでは、Banica Dobre によって組織化に向けた健全なスタートが切られました。ラウリックのいるチェルナウティでも同様に、そこではトッパ教授らが結集したトライアン•ブライレアヌ教授の霊的指導のもとで軍団生活が順調に芽生えていた。ブコヴィナ全土で、軍団の流れと組織は、退役軍人で著名な民族主義者ヴァシーレ•ラシンシの有能な指導の下で成長した。キシナウでは、トゥドラッチェとセルギー•フロレセウが働いた。オラデア•マーレではロシフ•ボザンタン。

十字架の同胞団で育った若者たちは、大学に入学したときに準備ができていました。偉大な勇気と優れた方向性を持った民族主義新聞が、ブカレストのカレンドゥル（「カレンダー」）で、ニチフォル•クレイニック氏の指導の下、ドラゴス•プロトポペスク教授を筆頭とする少数の知識人の協力を得て発行され始めた。このジャーナルは、キリスト教と国家主義の路線に沿って、ルーマニアの知的世界に新しく幅広い道を勇敢に切り開いていました。氏の記事

特にクレイニックは本物の大砲を発射し、敵軍に大混乱をもたらしました。
首都の学生運動では、軍団兵が前線を占めた。

トライアン•コティガは軍団委員会とともに学生センターの会長職を務めた。

首都の知的若者の間で好転が感じられた。彼らの良心は、我が国の生活に影響を与える重大な問題に夢中になっていました。ポリクロニアデ、ヴォジェン、コンスタンらの新しいアクサ改訂版（「枢軸」)に引き寄せられた有能なグループが軍団の隊列に加わり、一方、ヴァスデ•クリステスク教授、ヴァスフィー•マリン、ヴィアディミール•ドゥルニトレスク教授、エンジニアのヴィルグド•イオネスク教授、教授などの著名な若者も軍団に加わった。ラドゥ•ギル、弁護士ポポフ、画家のバサラブとズロテスクは皆、非常に才能があり熱心で、軍団イデオロギーに沿って活動した。

涙のように純粋で勇敢な健康な若いマケドニア人が、どんどん私たちに近づいてきました。
しかし、我々は、四角形地帯にいる大勢のマケドニア人を衛兵隊に迎え入れるのは軽率だと考えている。
なぜなら、最近この国に再定住したばかりの彼らを多くの迫害にさらすことになるからである。しかし、マケドニアの大学生は全員が軍団運動に参加した。これらの若いマケドニア人の先頭に立ったのは、パパナーチェ、カラニカ、ステリエ•シウメティという 3 人の著名な文化人でした。

私が何度も相談した最初の二人については、二人とも非の打ちどころのない純粋さと、心からの大きな愛と勇気に支えられた素晴らしい判断力を持っていました。
1931年以来、彼らと会わない日はなかったと思います この迫害の期間中、私たちは何時間にもわたって、次から次へと不正義、次から次へと不正、次から次へと裏切りについて話し合いました 軍団兵に対する新たな拷問に関するニュースはすべて、私たちの心に突き刺さるナイフ。虐待されたすべての軍団兵のために私たちが受けた苦痛は私たちの魂を苦しめました。そして特に、正義の希望を前に見ることが不可能であること。

ステリエ•シウメティは昼も夜も私と一緒に暮らしていました。彼は犬のように誠実で忠実な青年でした。
彼は衛兵隊の首席財務官になった。彼は一日中、できるだけ多くのことを考え、衛兵のことだけを考え、衛兵のためだけに心配し、行動し、衛兵以外のために人生を生きるつもりはありません。

その他の貴重な要素が国内のさまざまな地域で出現しました。

* 1913年のバルカン戦争終結時にドブロゲア南部のいくつかの郡がルーマニアに併合された。(Tr.)

Googleによる機械翻訳

シビウのパンテリモン医師、イオネスク•ドゥミニカ神父、オーギュスティン•ビディアン医師。学生たちの霊的告白者であるゲオルゲスク•エディンティ神父、退役軍人でバカウのチウレイ大尉、同じく退役軍人でラムニクル•サラトで指揮を執ったアリストテル•ゲオルギュウ。ブラダ、イオン•イリエスクにて。セイタン州コンスタンツァにて。ヴァルチャのパドレ•ドアラとビクトル•バルブレスク。ティミショアラのヴィンタン教授、ゲナディ教授、ドゥマ教授。そしてベテラン軍団兵、教授ニコラエ•ペトラスク、ホリア•シマ、弁護士ヨシフ•コステア、コルホンらは、現在国内各地に指揮所を置いている。

ブカレストはいくつかの部門に分かれており、* 私たちはその部門内で組織化を始めました。

緑部門と青部門にはニコラエ•コンスタンティネスクとドル•ベリマスという二人の善良な人物がいた。二人の強いキャラクター、二人の確かな頭脳、ドル•ベリマスは文学部の最も優秀な学生の一人だった。ニコラエ•コンスタンティネスクは優れた経済教育を受けており、商業アカデミーの学生でした。

すぐに、二人は信仰と軍団としての勇敢さという印象的な特質を持っていることが判明するでしょう。

また、この時期に、1932 年 12 月 10 日に次の命令によって最初の軍団の階級が創設されました。 A) 軍団司令官と呼ばれる最初の上位の階級が軍団階層内に設立されます。彼らの犠牲、仕事、英雄的行為、信仰、能力、年功を考慮して、次の軍団兵はアルファベット順に階級が昇進します。バネア•イオン、医学博士課程の学生。ベルジアイオン;ブラナル•イオン、エンジニア。ドゥミトレスク•イオン司祭。イヨネスク•アンドレイ;シラギ•ビクター、弁護士。ステレセウ•ミハイル、下院議員。トトゥ•ニコラエ、学生。トライアン•コティガ、学生。タナセ•アントヒ、職人。

B) 1927 年と 1928 年のシリーズに参加し、誓約を立て、現在も軍団の現役の階級にあるすべての軍団兵は、軍団補助司令官の階級に昇進します。

署名: コルネリュー•ゼレア•コドレアヌ。

他の人たちは年が経ってより進歩しており、軍団上院と軍団兵上級評議会に移管された。

* 5 つの大きなセクターにはそれぞれ、緑、黄、赤、イラストリアス、黒の色の名前が付けられています。 (Tr.)

Googleによる機械翻訳

中傷的な攻勢

「無政府的でテロリズム的な動き」

軍団運動は、特に高校生や大学生の若者の間、そしてルーマニア全県の農民の間で目に見えて拡大していました。しかし、ルーマニア人が国家に雇用され、そのために意見を表明できなかったり、ユダヤ人に経済的に奴隷にされたりしていた都市では、その成長はより遅くなった。 1922年にこの戦いを始めて以来、私たちが知っているのと同じ無言の迫害が、私たち、すべての戦闘員とその家族をますます悩ませています。もしあなたが若い卒業生であれば、良心と信仰を裏切らない限り政府の仕事に就くことはできませんでした。何百人もの若者が、お金、約束、名誉、地位を求めて引き寄せられました。この州は反逆者の学校となり、反逆者には多額の報奨金が与えられる一方、有能な人物は殺害された。もしあなたがユダヤ商人の中では珍しいルーマニアの商人で、たまたま軍団を信じていたとしたら、市街の役人から知事や知事に至るまで誰もがあなたの敵になった。彼らは昼も夜もあなたを追いかけました。ユダヤ人よりもあなたに多くの税金を課しました。 〜から罰金が継続的に徴収された

あなた;あなたは彼らがあなたを破壊するまで、次から次へと攻撃を受けました。もしあなたが農民だったら、手錠をかけられ、ある村の憲兵隊の駐屯地から別の村の憲兵隊まで徒歩で連行され、次の隊、また次の隊の何十キロも移動し、それぞれの憲兵隊で毎日殴られ、4〜5日間餓死した。彼らはあなたを野獣のような目で見て、全員であなたの顔を殴りました。もしあなたが労働者だったら、彼らはあなたを古布のようにあらゆる工場や企業から捨ててしまうでしょう。

なぜなら、この国では、私たちの信念を貫く男は、その子供たち全員とともに餓死しなければならないからです。私たちは皆、国民と国の敵だとみなされています。しかし、私たちは最も完璧な秩序と合法性の範囲内で自分たちを守り、何の問題も私たちに押しつけられないようにしました。しかし、それは何の意味もありません。私たちの政府の推論は、「あなたが法律を破ったからといって、あなたを滅ぼすことはできないのですか？ それは問題ではありません、私たちが法律を破ってあなたを滅ぼします！ あなたは違法行為をしたくないでしょう、まあ、私たちはそれをします」 ！」このようにして、私たちは真のタルムード体系に入ることができます。一方では、私たちはマスコミやあらゆる政治団体から「違法」であると非難され、他方では、依然として

完全に法律の範囲内であったにもかかわらず、私たちはすべての政府および州の代表者による最も凶悪かつ違法な取引によって打ち砕かれ、それ自体が最も目に余る違法行為でした。

法廷に引きずり込まれ、全国各地で次々と判決が出され、運動の合法性と秩序の方針が確認された。私たちを非難する法令はありませんでした。それでも、政治家とユダヤ人マスコミの基本的な主張は常に変わりなく、「無秩序の運動」、「無政府状態」、「不法行為」、「テロリスト」であった。ユダヤ人のマスコミは絶えず政治家たちを扇動して、私たちに敵対し、私たちを引き裂き、私たちを絶滅させようと迫ってきました。

「外国人に奉仕するアイアン•プロテクター」

しばらくして、更なる非難にも気づかず、ユダヤ人マスコミは我々がムッソリーニから金を受け取っていると主張した。私たちは国家主義者のふりをしているが、実際には会う人から金を搾り取ることが目的だったのです。今、私たちは絞めつけていたムッソリーニに会い、一人ずつ、驚きとともに次のことを学びます。「私たちは『目覚めたハンガリー人』に仕えていたのです…」

'

私たちはモスクワに仕えていました...

私たちはユダヤ人からお金を受け取り……

最後の告発はばかばかしいものですが、それは私たちを容赦しませんでした。ここで私は、1934 年 8 月 10 日のユダヤ人新聞ポリティカ（「政治」）の記事「マックス•アウシュニットと鉄衛隊」から重要な一節を引用します。

我が国でも、ルーマニアのファシズムの最も重要な運動である鉄衛隊が大資本家によって設立され、資金提供されたという既知の事実と同じように、この現象が正確に検証されたのである。そしてここにセンセーショナルとは言えないセンセーションがやって来ます：ユダヤ人のマックス•アウシュニット

アイアン•ガードを直接支援し、資金を提供した。この事実は、ヴィクトル•イアマンディ大臣と著名な広報担当者スカーラット•カリマチという二人の非常に真面目で責任ある人物によって認められた。これらの説明によれば、この事実はごく自然なことのように思えます。

ヒトラーもドイツの偉大なユダヤ人資本家から資金提供を受けていたことを知らない人はいないだろうか？ 」

ヒトラー主義者に金を払う鉄の衛兵

最近、ドイツでは、ヒトラーが全世界のユダヤ•フリーメーソンのヒドラを打ち負かしました。ドイツ国民は並外れた決意と団結をもって戦い、

ユダヤ人の権力を打倒した。ユダヤ人は嘘や嘘を報道機関に発表し、人々の心を混乱させようとします。 1. アドルフ•ヒトラーは画家で、愚かで、無能です。ドイツのような文明国で誰が彼と恋に
落ちるでしょうか ?しかしヒトラー
進みます。

2. アドルフ•ヒトラーはドイツの共産主義者が反対するので勝利しないだろう。しかし、アドルフ•ヒトラーは権力に近づきます。

3. ヒトラー主義は二分、三分に分かれた。党内などに大きな不満。
しかしヒトラーは変わっていない。

4. アドルフ•ヒトラーは発狂した。彼は山などへ行った。しかし、アドルフ•ヒトラーの健康状態は良好で、勝利に近づいている。

5. 彼が勝てば、翌々日にはドイツで革命が起こるだろう。共産主義は一斉蜂起を開始し、ヒトラーは崩壊するだろう。しかしヒトラーが権力を掌握し、ユダヤ人が夢見た革命は勃発しなかった。多数決から史上かつてない全会一致へと移行することになるだろう。

6. 各国はドイツを経済的にボイコットし、ヒトラー主義は崩壊する。
しかし、アドルフ•ヒトラーは勝利を収めて行進します。

7. ドイツ全土の「独裁」、「ヒトラー主義のテロ」。 「投票は恐怖に支配されている。」しかし、ドイツ国民は熱心に彼の後ろを行進します。

8. ヒトラーは私たちのトランシルヴァニアを乗っ取ろうとしている。そして、ユダヤ人の災いを取り除きたいと願うルーマニアの民族主義者は皆、それ以上でも以下でも「ヒトラー主義者」ではない、つまり、トランシルヴァニアをドイツ人に譲りたいと考えているのだ。
「ヒトラーがトランシルヴァ
ニアを奪うために我々と戦争をしたいと考えているとしよう。我々ルーマニア人がドイツ軍からトランシルヴァニアを守るためには、ユダヤ人を排除しなければならない。我々もこのユダヤ人問題を解決しなければならない」と我々は答えた。ユダヤ人によって圧迫され、完全に身を守ることができなくなるまで体力を消耗させられた我が国民の立場を強化する 我々の魂を毒し、我々の血を吸うユダヤ人によって封印されれば、我々には武器も魂も骨に肉もなくなる。

」

9. 最後に、私たちはナチスから「お金をもらって」、資金を提供され、「給料をもらっている」のです。私たちはこう答えた、「ACクザは1890年からユダヤ人と戦っているが、我々は1919年、1920年、1921年、1922年以来、アドルフ•ヒトラーのことすら聞いていなかった。毒蛇だ！」

ラシナリでの偽造紙幣の印刷

それほど時間が経たないうちに、私たちに対する新たな政治的ユダヤ人運動が開始されました。

私たちがムッソリーニ、ヒトラー、モスクワ、アウシュニットからの金で解決することを望まなかった私たちの敵は、偽ラシナリ紙幣の印刷という新たな資金源を見つけ出しました。このセンセーショナルな発見はユダヤ紙と党の新聞の欄を埋め尽くしました。

私たちは以下に、この期間以外で、国家の目の前で私たちの絶滅を試みた背信のシステムを説明するために設計されたいくつかの文章を示します。
7月22日の新聞パトリア（「祖国」)は次のように報じた。

鉄の警備員と偽造紙幣印刷工場
ラシナリ
- 広告資金の源 -

クルージュ、7月21日 - シビウ近郊の村ラシナリで、政治組織全体を最も醜悪な光にさらす類のセンセーショナルな発見がなされたが、これに対して政府は現在、あらゆる手続きを進めるための最も忌まわしい証拠を手にしている。重大度。

Googleによる機械翻訳

鉄の警備員の偽造紙幣製造機具体的には、ラシナリ村で、多くの偽造紙幣製造
所のうちの 1 つが発見されました。しかし、実施された調査により、誰もが驚いたことに、このタイトルで話しているのは、手っ取り早く富を得るために法律の厳格さに反抗するジプシーや社会不適合者の集団のことではなく、鉄衛兵のことであることが判明した。コルネリュー氏 ゼレア•コドレアヌの政治組織。最近、我が国の政府に対して、そして一般にルーマニアのすべての政党に対して最も虐待的なキャンペーンを展開している。

鉄衛隊と村々でのその宣伝しかし、国中を端から端まで旅する警備隊を擁
する鉄衛隊の活動を少しでもよく知っている人にとっては、これは非常に自然なことのように思えます。

このような状況では、まずお金が必要になります。実際、最近の鉄衛隊の宣伝活動家たちは莫大な資金を持っていたことが知られており、そのおかげで彼らは村々を旅したり、新聞を印刷したり、そのシステムを模倣するために必要なものをすべて献身的に武装させたりすることができた。ヒトラー」。

偽造が発覚した経緯「内務省は、トランシルヴ
ァニア、特にブラショフとシビウの鉄衛兵の指導者の一部が自由に使える多額の資金を持っており、それを全国の地方組織に分配していたことを長い間知らされていた。当初は同様の外国組織による資金提供が疑われたが、監視の結果、容疑は杞憂であることが判明した。ラシナリでの紙幣印刷機の発見は法執行当局に新たな手がかりをもたらしたが、捜査の結果は驚くべきものであった。

そしてその

シビウは組織全体に資金を提供直ち
にブカレスト当局はブカレストの I. スタネスク判事に通常の捜査を開始するよう委任した。ラドゥ•パスク首席検事とマルダリッチ検事に同行して彼はシビウに向けて出発し、護衛組織を率いていたビディヌ検事の自宅を初めて捜索したが、そこではマネー•プレスがもっぱら政府にサービスを提供していたことが明らかになった、危ういセンセーショナルな資料が発見された。アイアン•ガードの政治的かつ破壊的な目的。押収された通信の中からは、さまざまな地元組織、特にヤシ組織からの手紙が発見され、その中でバネア氏はバンを購入し、モルドバでプロパガンダを強化するために多額の資金を要求した。

警察は一連の逮捕を行い、偽造に使用された機器とともにすべての危険物を押収した。

調査は引き続き熱心に行われており、報道機関と関連組織との関係、特に後者に分配された資金の額を明らかにするための努力が払われている。

アイアン•ガードの道徳的勇気

国中に中核を作り出すことに成功した鉄衛兵の組織が恥ずべきことにその行為に巻き込まれたとき、それは国中に深い印象を与え、衛兵支持者の階級に真の驚愕を引き起こした。 。村での扇動は正義、名誉、礼儀、法律の尊重などの名の下に行われたことが知られていたが、それは単なる目的に過ぎなかった。

この主張は鉄衛兵による空虚な言葉であったことが今では判明しているが、実際には彼らは手段に関しては悪徳権力を求めていただけである。

これらの発見に直面して、政府はあらゆる厳しい措置を講じる用意があるようだ。国務次官VVティレア氏が内輪に宣言

一部のメンバーが犯した行為の重大性を考慮すると、アイアン•ガードは解散しなければならないとのこと。

1933 年 8 月 6 日の『ケマレア•ロマニロール』(「ルーマニア人の呼びかけ」)には次のように書かれています。

お金と偽のお金への愛

「新聞はここ数日、鉄衛兵の部下たちが紙幣を偽造して当局に捕まった様子を報じた。私たちは、このタイプの男が最近、村々を巡回して人々にあらゆる種類のことを約束し、違反者には死刑を要求し始めたことを知っています。私たちは、この人々の目標と目的が何であるかを自分自身で学ぶことを長い間待ってきた若者です。国を愛し、賢明な行政を行い、外国人を絶滅させることを熱心に説教していたので、一時は彼らは大丈夫だと思ったが、つまり、彼らが偽造品で国に損害を与える働きを始めたと新聞で読んだときは、お金について、私たちは自分自身をだましていたこと、そして今では彼らのことを知っていることに気づき始めました。彼らは我が国のプロの略奪集団の一部を形成しており、彼らが犯した重大な違法行為に対して、我々は政府に対して、そのようなDSに対する裁判を要求した方法に従って彼らを裁判すること、つまり死刑以外のことは何も勧めない。 、贋作犯のいる絞首台へ！ 」

1933 年 7 月 22 日の党公式新聞「Dreptatea (「正義」)」
国民農民よ、次のように書かれています。

偽造者の番人

私たちの政治的右派のいわゆる国家主義者部門を形成する個人の評価に決定的な証拠が必要であるとすれば、それはラシナリの紙幣偽造者の重大な事件にあった。

いつでもどこでも、極右政党（実際にはフーリガンやいじめっ子の集団で構成されている)は、騙されやすい大衆に対するプロパガンダ活動において、最も忌まわしく卑劣かつ不謹慎な手段を用いてきた。

なぜなら、右派の「概念」(原文通り)と「教義」(原文通り)では、権力を掌握することに還元された目標が手段の不潔さを正当化しているからである。
追求する目標の理想や目的に崇高さが存在しない場合、手順、戦術、方法、行動に崇高さは存在しません。極右翼の理想には、少なからず高貴さが隠されていると誰が主張できるだろうか ?基本的な権利を著しく無視して暴力を崇拝することは、決して理想や優越性を構成するものではありません。その光線が人の魂を温める理想はまた別のものであり、国家集団、ひいては全人類の知的階段をますます高く登るための、正義、平和、建設的な取り組みの理想である。しかし、これは、勝利した独裁権力についての空虚な考えを持つ最も基本的な人間の模範によって受け入れられる右翼過激主義の理想ではありません。右翼過激主義は知性を拳の力（知識人と普通の犯罪者を区別しない)に置き換えます。正義と恣意によって。国家と国民の間の平和と協力という崇高な理想、国家間の憎しみという鈍い教義のために。

右翼過激主義を承認できる知識人はいない。
もし彼が数人の男を捕まえることに成功したとしても、それは彼らが憎むべき悪用された信仰、国家主義的信仰の名の下にそれを行ったからにすぎません。
こうして「鉄の衛兵」と呼ばれる陰謀者の結社が発足した。彼はナショナリズムの名のもとに行動するつもりだ。

ナショナリズムの名の下に ?この偽善は世論に暴露されなければなりません。ナショナリズムを貫く必要はない

オカルト組織、秘密結社、特に「鉄衛隊」が実践する手法は必要ありません。ナショナリズムは、白昼堂々、公然と、正直に、誠実に自らを守る信仰です。

いずれにせよ、人は…「巣」（?!?）、目に見えない「大隊」や隠れた「独房」、特に一部の卑劣な犯罪者のように紙幣を偽造するための密命でナショナリズムに奉仕することはありません。

アイアン•ガードは、最も恥ずべき欺瞞的な扇動政策を通じて国家権力を暴力的に征服するために密かに集められた一握りの冒険家にすぎない。これは国家主義的な考えの名の下に行われます。

国家主義的な考えの名の下に？この土地のすべての子供たちの信仰は、「鉄の衛兵」が使用するような手段を容認しません。偽造を許しません。

ラシナリ•バンドの発見により、「アイアン•ガード」に真の光が当たることになる。

人々は「この人たちはどこからお金を手に入れているのだろうか？」と疑問に思いました。そんなに広告費がかかるの？良心を整理して獲得するには？旅行、住む、車？どこから？
ラシナリの発見により、その出所が明らかになりました: 偽札!

それが『アイアン•ガード』の仕組みだ。 「アイアンガードの先駆者は刑法に該当する個人です。彼らはお金を偽造して政党を作りたいと考えています。

彼らは今、大衆の承認を要求する道徳的権威を持っているのでしょうか？そして同時に、国家主義的な考えの名の下に？
「鉄の警備員」は偽造品の警備員です。そして、偽造者の警備員は国家主義の名のもとに発言することはできません。 」

そして最後に、この引用が長くなりすぎないように、ダ•パトラ（「A 祖国」)1933年7月22日土曜日、以下の抜粋：

「ガーディスト」と偽造者

「ラシナリの発見には実にセンセーショナルな側面があります。それは、ありふれたもの、ありふれたもの、平凡なものを超え、新たな信条を求めるあまりにだまされやすい大衆を再生しようとする人々の腐敗、解体、道徳的弾力性のすべてをその広さと血なまぐさいものに込めている。そして我々が言うのは、「実にセンセーショナル」であるということは、新聞が最近、この国の各地に小さな秘密の造幣局が出現していることを我々が知ることに慣れているとすれば、このインフレ制度の独創的で騎士道的な後援者たちが、刑法に同意していないことを証明することは決してなかったからである。少し上の社会的地位にある人であること。 『ラシナリ』では、英雄たちはもはや些細な窃盗の後のジプシーでも、安易な偽装死を求める正義と対立する一部の人々でも、大きなリスクを伴う実りある冒険の楽しみを美学と考える英雄の一人でもありません。しかし、頭注、つまりシビウの「鉄衛兵」の長については良い話がある。私たちは、コドレアヌの信者の運動をしばしば無関心な保護下に置いた 5 つの新聞の対象を引用します。

「シビウ当局は、この都市の『鉄の衛兵』組織の長であるビディアン弁護士の家を捜索し、ラシナリ偽札工場が支援のために設立されたことが明らかであるセンセーショナルな資料を発見した。」

アイアン•ガード。他の文書の中には、ヤシ組織の会長であるバネア氏からの手紙も含まれており、バンを購入し、「鉄の警備員」のプロパガンダを強化するための資金を求めた。 「当然ですよね？ 政治と道徳の再生を宣言する政党を支援する造幣局です！ 不謹慎な扇動者、スキャンダル屋、いじめっ子として知られる彼らは、今では偽造者としても知られており、最初のものと同じくらい恥ずべき性質ですが、誰かがここで私たちの時代の奇妙で重大な兆候を見つけたと主張するかもしれないし、クロスワードパズルの愛好家は、たとえ彼が鉄でできていたとしても、守護者としては少し多すぎると感じるでしょう。 「誰が見ても、ラシナリ事件は非常に深刻です。この事件は、冒険者たちが、現在はいじめっ子、現在は殉教者として自分たちを表現し、社会的地位を維持するためのリソースに厳しい光を当てています。」

多忙で、歩き回るような存在。このコラムの中で、私たちは驚きと好奇心を抱きながら、この紳士たちはどこからお金を手に入れているのかと尋ねます。正直に告白しましょう、ラシナリからこれほど迅速に、恐ろしいほど直接的に答えが返ってくるとは予想していませんでした。

この憎しみに満ちたキャンペーンは3週間続きました。
カラニカ、ステリック•シウメティ、パパナーチェという3人の精鋭軍団兵が、マイナスを獲得するために必死で新聞社を打ち負かしたのは無駄だった。
これらの若者たちは、1931 年以来、常識と非常に誠実な性質により、毎日私と一緒に暮らし、同じ苦しい不安を共有し、戦場で組織を率いるという困難な重荷を一歩ずつ助けてくれました。

私たちに浴びせられたこれらすべての悪評は、命令されたものだったのですから、無駄な努力でした。

それらが及ぼす影響はただ一つ、不当に不当を重ね、中傷に中傷を、打撃に打撃を、苦痛に苦痛を重ねるということである。私たちの若者はそれらすべてに耐え、彼らの魂の中にそれらを埋めました。何年も経った今、もし私が世界にアドバイスしたいなら、こう叫ぶでしょう。「長くしがみつきすぎる人には気をつけなさい！」

死のチーム

しかし、これらの障害、打撃、陰謀、迫害、あらゆる方向からの攻撃に直面し、行き場のない恐ろしい孤独感を抱えながら、私たちは死を覚悟してこれらすべてに反対しました。 「死のチーム」とは、死を受け入れた全国の軍団青年たちの親密な感情の表現である。死を乗り越えて前に進むという彼の決意。

1933年5月初旬、イオン•ドゥミトレスク神父、ニコラエ•コンスタンティネスク、ステリエ•シウメティ、ペトル•トク、コンスタンティン•サヴィン、ブルハツ、コンスタンティン•ポペスク、ルス•クリストフォル、アドチテイ、イオヴィン、トライアン•クライム、ヨシフ•ボザンタン、ゴグ•セラフィム•アイザック•ミハイからなるチームが結成された。 、パプク教授、ラドウ...

全国半周ツアーを行う前、彼らは自らを「デス•チーム」と呼んでいた。
Caprioara (The Doe) は、その使用のためにヤシから追放されました。彼らはブカレスト、ピテシュティ、ラムニクル•ヴァルチャ、タルグル•ジウ、トゥルヌル•セヴェリン、オラヴィタ、レジタからのルートをカバーしなければならなかった。それまではドゥミニカ•イオネスク神父も同行する必要がある。それからティミショアラ、アラドに向かい、ブカレストに戻った彼らは、最大規模の軍団遠征の出発点に立っており、ガソリン代としてポケットに3000レイだけを残して出発した。残りの部分については、彼らは神と、彼らの道にいる人々が与えてくれるであろうものを信頼しました。彼らはその国の法律を携行しました。これらは合法のままだが、違法な手段からは防御されるだろう。

TGで。ジウ、トゥルヌル•セヴェリン、ボゾヴィチ、彼らは警察と憲兵に追われ、攻撃された。彼らはタイヤを守るためにトラックの前にひざまずき、胸を銃に向けた。
オラヴィータ郊外で彼らは機関銃に襲われ逮捕された。翌日、ポポヴィチ検察官は無罪を宣言して彼らを釈放した。彼らは何もせず、演説もせず、集会も開かなかったからである。彼らはただ旅をして歌っていた、それだけだった。しかし人々は理解してくれて、花を持って迎えてくれました。彼らは食料とトラック用のガソリンを受け取りました。彼らがどこに行っても、熱意の痕跡が残りました。

レシタで彼らに会いに出かけました。そこで私たちは公開集会を開催することにしました。そうするのは私たちの権利でした。私は国会議員であり、カラス郡の候補者リストに登録し、2,000 票を獲得したため、議会での活動報告をするために支持者に連絡を取りに来ました。

それは素晴らしいことです。それは完全に合法です。しかし、私たちのこととなると、法律はもはや存在しません。

戦争中ですら、レシタはこれほど大きな軍事力を目にしたことはなかった。それは近隣の都市から持ち込まれ、都市を占領し、包囲しました。
私は政府が私に罠を仕掛けていることに気づきました。私は非合理的な行動を試してみたいと思っていました。忍耐力を失い、抑圧の原因となる。 「それが、私たちがこの紳士たちを止めた理由です。だから、彼らは廃止されなければなりません。彼らはどこへ行っても、私たちの秩序の手段、軍と当局に対して国民を奮起させます。彼らは革命を起こしたいのです。」

私たちのそのような間違いは、ユダヤ政府と報道機関によって悪用されたでしょう。
だからこそ私は彼らにその機会を与えなかったが、自分の中の反逆をすべてかき消すことで、いかなる対立も避けた。まさにこの対決で彼らは勝利を収めていただろう。私たちはラリーを放棄することを好みます。

チームはそのままティミス•トロンタル市を通過し、アラド市に入った。そこでチア村では、憲兵がユダヤ人たちと協力して農民を扇動し、ハンガリーからの赤い部隊がルーマニアに渡ってきたと叫んだ。

農民たちは熊手、斧、こん棒で武装し、身元を明らかにする時間がなかった軍団兵を攻撃した。その衝撃で彼らは血まみれになった。シウメティさんは右手を骨折し、意識を失い道端に倒れた。アドチテイは彼のために嘘をついていた。
全員が負傷した。その後、彼らは逮捕され、アラドに移送され、市の刑務所の別々の独房に入れられました。

彼らは10日後に反乱の罪で裁判にかけられた。アラド出身の弁護士。モタ、ヴァシル•マリン

そして私自身が彼らを弁護し、彼らは全員無罪となった。アラドのルーマニア人たちは彼らに温かい同情を示した。
この出来事をきっかけに、私も彼らに同行することにした。チームの一部はピックアップトラックに乗り、私はチームの4人と農民のフラティラを伴って徒歩で出発し、すべての村を通って山中にあるアブラム•イアンクの墓まで約130マイル離れた。
農民たちはどこでも私を歓迎してくれました。

テベアで、私たちは別れました。彼らはフネドアラ郡を通過するルートを続け、私はテイウスに向けて出発しました。

テイウスにて

私の父はここでスピーチをする予定でした。その夜到着すると、農民の家にいる父を見つけました。彼は血まみれだった。人々が集まる会場に大勢の憲兵が入ってきて、全員に尻を使い始めた。父が頭を殴られました。

合法性 !合法性！
免除と保証された権利を享受しているルーマニアの国会議員が演説しようとしていると、公共勢力の代表者たちが頭を尻で鳴らしながら会場に入ってくる。農民も教師も司祭も皆ショックを受けています。そこで私は 2週間後に同じ場所で抗議集会を開くことにしました。

会議の前夜、「死のチーム」とクルージュとブカレストの軍団兵がテイウスに到着したが、会議は開催できなかった。
歩兵連隊と憲兵大隊がテイウスを包囲し、農民の侵入を阻止した。

それはレシタの時と同じだった。私は対立を避けようとして、父と軍団兵全員が私を除いて街を去るべきだと決心した。なぜなら、たとえ少数であっても数人の人間が存在すれば紛争を引き起こす可能性があるが、そのような大軍の前に一人の人間が存在しても反乱を引き起こすことはできないからである。もし彼らが彼に重くのしかかっていたとしても、多くの人にとっては栄光でもない。

しかし、ミハルトとその周辺地域の農民たちは、すでに軍が占拠している橋を強引に渡ろうとした。

「私たちミハルトの農民は、激しい戦いでハンガリー軍からこの橋を征服しました。今日、ルーマニアの憲兵が橋を渡るのを妨げていることを受け入れられません」と、勇敢で 「恐れを知らないミハルトの農民たち」は語った。

戦闘は2時間以上続いた。銃弾が発射された。農民が殺害され、「死のチーム」のトク、コンスタンティネスク、アドチテイが二度目の重傷を負った。

「死のチーム」全員と他の生徒計50名は、その日のうちに当局によってテイウスに連れ戻された。彼らは電車に乗ると言われましたが、電車の切符を持っていなかったため、アルバルリアまで迎えに行かなければなりませんでした。
しかしそこで彼らは、切符を手に入れる代わりに、逮捕状もなしに、ホリアが投獄された有名な刑務所に放り込まれたことに気づきました。
彼の抗議はすべて無駄だった。彼らは自分たちの拘留が不法であると抗議したが無駄だった。いかなる被拘禁者も逮捕状なしに逮捕されないこと。彼らをそこに放り込んだ当局が違法行為を行っていたということだ。
その夜の2時に彼らは刑務所の門を破壊し、列を作り検察官の家に向かった。彼らは彼に出来事を報告した。彼らは翌朝まで中庭に留まり、その後検察官とともに刑務所に戻った。今回は 「刑務所の門を強行突破した」として逮捕状が出された。

その後の裁判では、そもそも逮捕状がないために不法に拘留されていたため、無罪となった。これらは法的規定に準拠していました。主催者に知らせたことで、彼らは規定に従っていただけだ。再び法廷で、混乱を引き起こしたのは軍団兵ではなく、法律を執行する代わりに主権的軽蔑をもって法律を侵害した当局自身であることが証明された。

Googleによる機械翻訳

「死のチーム」は2か月の作戦活動を終えてブカレストに戻った。彼の闘い、彼が受けた苦しみ、彼の傷はトランシルヴァニア全土の魂を揺さぶった。

さて、現時点では、当局のあらゆる反対にもかかわらず、あらゆる迫害にもかかわらず、軍団運動は全国に広がったと言えます。

これから始める、もうやめよう、と私たちは言いました。私たちは労働収容所での生活のための軍人教育を深め始めます。特に政治的枠組みの外にいる場合、誰がこの沈黙の活動を気にするでしょうか？

ヴィサニダム

1933 年 7 月 10 日

しかし、前年の冬、ラムニクル•サラートの軍団長である薬剤師のアリストテル•ゲオルギュウが私に報告書を送ってきたが、その中で彼は、ブザウ川が毎年数戸の地域の農民の畑を氾濫させていたヴィサーニ村の状況について説明していた。何千も。エーカー。そして彼は、村全体が私たちに保護ダムの建設を手伝ってくれるように懇願していると言いました。私はこの要請を受け入れ、専門技術者を派遣し、計画を立て、労働収容所が開設される1933年7月10日にその地域のすべての軍団兵がビサニに集まるように命令を出し、必要な措置をすべて講じた。命令は次のとおりです :国内のすべての巣および軍団のリーダーの皆様へ

同志の皆さん、

人間が視力を失った瞬間ほど、光の問題が提起されたことはありません。あたかも、周囲のすべてが崩壊しつつあることを人類が明らかに認識しているときに、建設問題が特に緊急に提起されたかのように。

すべてがゆっくりと廃墟に変わりつつあるとき、人間の魂は反撃を試みて逆の方向に進み、基礎から築き上げ、労働によって高め、構築しようとする恐るべき衝動を現します。

戦時中に私たちが廃墟となり、戦後になって日に日に廃墟状態が増大した今日のように、この建設問題がヨーロッパで提起されたことは一度もなかった。

私たちの国では、尊大だが不毛な公の言論が15年続いて廃墟だけを残した後、私たちの魂はその言葉に反抗し、行動を求めています。
私たちも構築したいと考えています。壊れた橋から道路へ、滝の水しぶきとそのエネルギーへの変化。新しい農民の家から、新しいタイプのルーマニアの村、ルーマニアの都市、ルーマニアの国家まで。

これが私たちの世代の歴史的魅力であり、今日の廃墟の上に新しく美しい国を建設するということです。

今日、我が国においてルーマニア国民は、東ヨーロッパで独自の文化と文明を創造するという世界における使命を果たすことができません。

軍団兵の皆さん、こ

れらの真実を知った私は、国の真ん中、ブザウ川のほとりに皆さんを呼び、何十年もの間皆さんの名を冠するであろう巨大なダムを皆さん自身の武器で引き上げてもらいたいと思いました。

私が彼に尋ねたのは、他のルーマニア人たちに、新しいルーマニアを築くのはあなたたちだということを伝えるためでした。

この新しいルーマニアは、クラブ、カフェ、キャバレーでは生まれません。または、さまざまなドン•ファンが街の通りで乗り物や気晴らしに使用するハイヒール。
それはあなたの仕事の英雄的な行為から生まれます。

説明と兆候 1. ダムは、ブザ

ウ-ブライラ線のフォーレイ鉱床の北4マイル、ラムニクル•サラト郡南部のヴィサーニ村近くに建設される。

。

2. ヴィサーニ村の集合場所。すべてのチームは到着後、現地の指揮下に置かれます。

3. ヴィサーニ到着日: 1933 年 7 月 8 日と 9 日。
4. プロジェクトは 30 日間ずつ 2 段階で実施されます。
最初の一歩、。 1933 年 7 月 10 日から 8 月 10 日まで。
第二段階 :1933年8月10日から9月10日まで

各チームの定員は 500 名となります。
全体的な指揮はラムニクル•サラト郡の軍団司令官に委ねられる
、Aristotel Gheorghiu が企画します:

- プロビジョニング、 - ホスティング、 -
ツール、 - プロジェクトの全体的な方向性に関連するその他すべての事項。
彼の指揮下には、1. プロジェクト現場の責任者、作業開始時に私が個人的に任命する軍団兵、2. 宿泊施設および物資の責任者、および 3.
チームの軍団司令官である彼らは、必要となるすべてのサービス（食料など)を一緒に確立します。

最初のチームはブライラ、ブザウ、ラムニクル•サラト、フォクシャニ、テクチ、ブカレスト、プロエスティ、イアロミタ、ダンボヴィータ、ムセル、アルジェス、ヴラスカ、オルテニアの軍団兵で構成される。

ベッサラビアからの軍団兵は7月15日、つまり5日後に到着する予定だ。彼らはグラディステ、コムラト、コンガス、カブール、コリバシ、レニ、ガラティを経由して徒歩でクビシナウを出発します。
カブール、ティグビナ、イスマイル、セタテア•アルバの軍団兵がこのグループに加わる。

全国各地から集まった十字架協会が最初のチームの一員となる。 2番目のチームは国内の残りの地域からの軍団兵で構成されます。軍団兵は作業服、予備のリネン、シャベル、毛布を用意しようとします。

他のチームは、団体旅行の 75% 割引を利用して、行進するか電車に乗らなければなりません。

5 人の信頼できるブライラ軍団兵は、地面を準備して仲間を受け入れるために、5 日早い 7 月 5 日に報告しなければなりません。これらはブライラ軍団司令官イオン•リエスクによって任命され、ラムニクル•サラトの軍団司令官アリストテル•ゲオルギュウに直ちに連絡する予定である。

出発と到着を発表する必要がある本部: アリストテル•グベオルビウ、薬剤師、ラムニクル•サラト。

お勧めします: a)
最後まで注文を完了してください。挑発された場合は、反応することを禁じます。
目的地に到着することが最も重要です。
町や都市のどこを通っても、常に軍団兵の規律、正しさ、完全に威厳のある態度、礼儀正しさに感銘を受けることを願っています。チームリーダーは全責任を負います。 b) ヴィサーニとその周辺地域では、あらゆる面で模範的な行動を示さなければならないという事実に注意を促します。人々に対して友好的であり、特に労働と抵抗においては英雄的である。 c) 疑わしい分子が軍団兵の中に侵入した場合、彼らは真っ直ぐな道から逸脱しようとする最初の試みで家に送り返され、これは私に個人的に報告されなければなりません。

実際、各リーダーは部下に対して責任を負っています。 d) スチャバでの集会の後、7 月 10 日月曜日の朝に到着する予定です。

夜明け、仕事を始める前に、地域のすべての司祭が祝う礼拝に参加します。

同志たち、
あなたはレギオンの戦いの歴史に新たなページを書き込もうとしています。
これまで何度も君たちを見てきたように、国は君たちを再び英雄として尊敬するだろう。
前に。

それなら、熱意に満ちた心で戦場に行きなさい。そこには困難な任務があなたを待っていますが、それを通してあなたは新たな犠牲を払うことになります、したがって、軍団のルーマニア、私たちの勝利に向けて新たな一歩を踏み出すことになります。

したがって、私たちの新しい戦場で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。
ブカレスト、1933 年 6 月 23 日 コルネリュー•ゼレア＝コドレアヌ 軍団長

7月10日、ステリアン•テオドレスク、ニコラエ•コンスタンティネスク、パヴァルタ、ドル•ベリマーチェ、ストエネスク、ブルーマの指揮のもと、カラティ、フォクシャニ、ブカレスト、ブザウ、テクチ、ヤシ、ブライラから200人以上の若い軍団兵が徒歩でビサニに集結した。
しかし到着時のように疲れて空腹だった彼らは、喜んで迎えられ、食べるものと休む場所を与えられる代わりに、数人の憲兵隊に囲まれ、野獣の残忍な攻撃を受け、地面に叩きつけられた。打撃を受けて。 。

憲兵たちは内務省の命令により将校たちから指示を受けていた 内務省の発言によれば、アルマンド•カリネスク*氏は我が国の拷問と弾圧の措置において重要な役割を果たしたとのことだが 彼はこれらの若者たちに打撃の雨を降らせた。ルーマニア人は、ルーマニア人の最大の敵を攻撃しているのと同じくらいの憎しみを抱いていた。

負傷し、屈辱の限りを尽くした人々の中には、軍団兵ステリアン•テオドレスク、ブルーマ、ドル•ベリマス、イオン•ドゥミトレスク神父、ステネスク、パヴァルタ、ニコラエ•コンスタンティネスクが含まれており、この2か月で4回目の重傷を負った。

この前例のないニュース、つまり善行をしに来た一部の若者に対する残虐行為、そして彼らが受けたあらゆる屈辱のニュースは、打ちひしがれ不安に駆られたすべての若者の心に黒いベールのように広がりました。彼らの信仰と祖国への愛によって、国の政治家によって外敵に裏切られたのです。その時私は、あらゆる道が閉ざされていること、そしてそれ以来、私たちは死の準備をしなければならないことを理解しました。

私たちは、忍耐と自制心のすべての蓄えが崩壊の危機に瀕していると感じた、全体的なうつ病の状態を経験しました。私は、自分の周りのすべてがひび割れ、そして何よりも、顔に一度でも平手打ちが起こったら、それは取り返しのつかない不幸になるだろうということに気づきました。 「もう我慢できない！」と心の底から叫びたかった。

この憂鬱な雰囲気の中で、私は 1933 年 7 月 20 日の新聞カレンダール (「カレンダー?」) に掲載された次の手紙で首相に宛てました。

アイアンプロテクターの追求

ミスターからの手紙コーネリュー•Z•コドレヌ氏から氏へアル首相
ヴァイダ

総理大臣、

ヴィサーニで起きた事件は、私の心が血を流すほど道徳的に重大なものだったので、私はあなたに次の文章を書くことにしました。

私がこのような行動をとったのは、瞬間的な衝動によるものでも、私の手紙が新聞に掲載されて友人に拍手を送りたいという願望によるものでも、ラムニクル＝サラットで行われた悪名に対して「抗議」するという慣習的な正式な義務を簡単に果たしたいという願望によるものでもありません。

私は、良心が乱れているので、あなたにこの手紙を送りたいと思います。あなたがいとも簡単に私たちを押しつけたこの道は、どんな名誉ある人にとっても、死への道であると伝えたいと思います。

* 当時内務省の国務次官だったアルニアンド•カリネスクは、鉄衛隊に対する一連の迫害を開始したばかりである。彼は1938年2月に国民農民党を離党し、コルネリュー•Z•コドレアヌに対する個人的な憎悪のおかげで内務大臣およびルーマニア国王カロル2世の右腕となった。それ以来、ユダヤ•フリーメーソンのこの悲しい英雄の星は上昇し続け、その絶頂期に達しました。その日、彼は高貴な君主の命令により、鉄衛兵団長の暗殺を命じました。それから死刑執行人の専門用語で、自分が「鉄衛兵の首を切った」と仲間内で自慢したのです。実のところ、カリネセウスは単なるサディスティックな悪党でした。この「武力行為」の名誉はすべて国王に帰属する。 (Tr.)

Googleによる機械翻訳

もはや避けられない不幸。

総理大臣、

過去10年間、私たちの祖国で、ルーマニアとキリスト教の信仰のために殉教したことをここで数行で説明することはできません。
ルーマニア政府は10年間、我々を殴るのにうんざりしていたとだけ言っておこう。
私たちを打撃で打ち砕いた自由党政権がありました。そこに氏が続いた。
ゴーガ、そして彼は 1926 年に私たちをも打ち負かしました。それからミスター。ミハラチもまた、エイリアンのマスターたちとともに、私たちを野蛮に殴り、絶滅させたことを誇りに思っていました。それからイオルガ•アルジェトイアヌ政権が誕生し、私たちは再び衝撃を受けました。ついにあなたは権力を掌握し、打撃を続けました。

首相、これらのどれも、しばしば私たちの抵抗力を圧倒する傾向にある終わりのない道徳的、肉体的拷問を支持できるかどうかを尋ねるものではありませんでした。

この間、私たちはあらゆることを非常に強力にサポートしてきました。私たちは満身創痍ですが、決してうつむきません。私たちが彼らを怒らせたのは、どんなにひどい拷問であっても、少なくとも私たちの人間の尊厳と名誉の感覚は尊重されていたからです。しかし、最近、あなたの政権下で、私たちの迫害と拷問は最も困難な段階に入っています。

私の父が撃たれて流血したテイウスで起こったこと、そして特にビサニで起こったことは、これまで私たちが受けてきたすべての苦しみよりも比較にならないほど深刻です。これらの虐待は私たちの名誉そのものを攻撃します。

しばらくアカウントを提示しません。
2か月前、私があなたが始めた迫害に値するのに私たちの何が問題だったのかと尋ねに来たとき、あなたは私にこう言ったのを覚えているでしょう、「何か建設的なことを始めてみませんか？」

'氏。首相「私はブザウ海岸にダムを建設することにした」と答えた。
異論はありますか？ '

'いいえ。とても良い。非常に素晴らしい。'
私は何かが始まる1か月前に公共事業省に請願書を提出した。私はこの分野で最も著名な専門技術者と相談し、7月10日に工事が始まろうとしていました。

それは単に若者のレクリエーションを目的としたものではありませんでした。それは、健全な達成という大きなニーズに応えるための私たちの若者への呼びかけでした。 1,000人の若者を建設的な方向に教育する必要があります。

それは他の何万人もの若者の模範となるべきでした。
それは、何年もの間、老朽化した橋や道路を歩き回り、国が修理に来てくれるのを待っていた大勢の人々のための学校となるだろう。彼らの普通の仕事なら一日で修復できるはずだ。

これは国全体への励ましであり、強いルーマニアは私たち全員の努力によってではなく、誰かの哀れみから生まれることができると誤って想像している人々にとっての模範となった。
働きが始まる数日前に、私はこれから来る人たちのために宿泊施設と食料を準備するために、3人の著名な若者をヴィサニに送りました。しかし、彼らは7月8日に捕らえられ、ラムニクル•サラートに移送され、その後足かせで鎖につながれ、人間としての尊厳を傷つけ、その嘲笑の中で最も卑しい泥棒のように家に送り返された。

「ラムニクル•サラト市にあるブカレスト大学の他の2人の若者は、熱心に仕事に来ていたが、逮捕され、警察に連行され、市警察署長と2人の警察本部長から些細な侮辱と平手打ちを受けた。イヨネスク兄弟　そして、後ろ手に縛られたまま町の真ん中を通って駅まで連行され、電車で家に連れ戻されました。

ついに、7月10日月曜日、200人の若者がビサニに到着し、そのほとんどが学生でした。

そこでは、彼らの善意を両手を広げて歓迎される代わりに、郡長、検察官、警察官のイグナット大佐、Ctenが歓迎した。
チェプレヌ、憲兵中尉。フォテア、

Google による機械翻訳

銃を手にした数百人の憲兵、機関銃を携えた歩兵中隊が不当かつ不当な攻撃性を示す口調で直ちにその地域から立ち去るよう呼びかけられた。

このような脅威的な状況に直面して、200人の若者は6インチの泥の中に横たわり、その謙虚な姿勢で「神は私たちとともにある」と歌い始めました。憲兵は彼らを攻撃するよう命じられました。数百人が彼らに突進し、彼らを踏みつけ、胸や頭をブーツで押しつぶした。若者たちは何の抵抗も示さず、殉教者の沈黙の中でこの試練全体に耐えた。学生たちを蹴った者の前には検事ラシエルと学生ブルーマの髪を自らの手で引っ張ったイグナット大佐、そして警部補がいた。

純真な青年の頬に拳を叩き込むフォテア。
結局、ロープが持ち込まれました。 200人の若者の両手は野蛮にも後ろ手に縛られ、その後半日雨の中に放置された。

その間にドゥミトレスク神父が到着し、検察官が「ここで何をしているのか？」と尋ねた。
「私は司祭です。仕事が始まる前にミサを捧げに来ました。
- あなたは司祭ではありません。君は馬鹿だ、と検察官は答えた。 - すぐに手を後ろで縛ります。

司祭の両手は他の者と同じように縛られ、この屈辱的な姿勢で全員がラルニクル•サラットに連行され憲兵隊に逮捕され、そこで再び検察官、憲兵、警察によって侮辱され、ひどい拷問を受けた。

拷問部屋や地下室から連れ出され、放り込まれ、牛の静脈の鞭で打たれて気を失った者もいた。

「このような試練が4日間続いた後、彼らは何の罪にも問われず釈放された。

「ヴィサーニに向かう途中で逮捕された他の人たちは、ブザウとブライラで逮捕され、そこで手を縛られて家に送られた。あと 15 個が今日土曜日までまだ到着していません。彼らはいた。ブザウからブカレストまで、憲兵隊の駐屯地から憲兵隊の駐屯地まで徒歩で連行され、4日間食事も与えられず、侮辱され、平手打ちされた。

首相、「これらは孤立した出来事ではなく、国内のどこにでも到着する政府の命令によるものです。」 2週間前、何の落ち度もないのに　そしてそのことの議論の余地のない証拠は、下されたすべての正義の決定である　私たちはあらゆる段階で殴られ、侮辱された。ブカレスト、アラド、テイウス、ピアトラ•ネアムツ、スチャヴァ。

「首相、私は最も敬意を持って注意を喚起します。歴史と、より良い運命を達成したいと望んで各国民が払った犠牲を知っている私たち、今日のルーマニアの若者が、この犠牲を拒否してください。

新しいルーマニアによる犠牲を避けるために、私たちは卑怯者ではありません。
「しかし、もう一度、私がこれらの若者たちに人間の尊厳と名誉の感覚を教えたという事実に注目していただきたいと思います。
これから証明するように、私たちは必要に応じて死ぬ方法を知っています。私たちを逮捕しても構いません。私たちの骨は刑務所の奥で腐ってしまうかもしれない。私たちは射殺される可能性があります。しかし、私たちは平手打ちされたり、宣誓をしたり、後ろ手に縛られたりすることはできません。

私たちは、悲しくも誇り高いルーマニアの歴史の中で、我が国の人々が不名誉を容認したことを覚えていません。

私たちの畑は死者でいっぱいですが、卑怯者ではありません。
今日、私たちは自分たちの権利を認識している自由人です。私たちは奴隷ではありませんし、決してそうではありませんでした。私たちは死を受け取りますが、屈辱は受けません。
総理、ご安心ください、私たちはこの屈辱と屈辱の日々に耐えることはできません。

安心してください、お願いします、10年間の苦しみを経て、私たちは名誉と尊厳なしでは維持できない人生から名誉ある方法を見つけるのに十分な道徳的強さを持っています。

私の気持ちを受け止めてください。

コルネリュー•ゼレア=コドレアヌ」

自由党は人類を絶滅させる責任を負う

アイアンガード

しかし、この青年の苦しみは終わらない。私たちの目の前では、地平線がどんどん暗くなっていきました。さらに大きな試練が私たちのために準備されていました。ヴィサーニの拷問が終わるとすぐに、自由党党首IGドゥカがパリへ向けて出発したことを知った。私たちはパリの新聞で彼の発言を読んで驚きました。 「鉄の衛兵」はヒトラー主義者によって支払われているということ。ヴァイダ政府が弱いのは、我々を滅ぼさないからだ。そして、彼とIGドゥカと彼の一行は、私たちの死を準備し、私たちを絶滅させた責任を負ったと。国内では、党の機関紙であるヴィトルル（「未来」）が同じ主張に基づいて私たちに意見を言うだろう：「無政府運動」、「破壊運動」（「ヒトラー主義者の報酬を得る運動」、そして政府については、ヴァイダが私たちの運動に対する「弱さ」と「寛容」、そして私たちの「無政府的」で「ナチスに売った」運動に「媚びている」と非難した。

国家として、私たちは今日、最低レベルの屈辱に陥るだろう。ルーマニアの二人の政治家、IG•ドゥカとN•ティトゥレスクは、パリのユダヤ人銀行家の資金を利用したルーマニアの政治フロントと結合する予定である。一方では我が国の富の無慈悲な搾取に関心があり、他方では状況の確保に関心がある。できるだけ幸せに。ルーマニアの同宗教家たちにとっては、自由党の政権獲得が可能であり、自由党は形式的な条件の下で、あらゆる手段を使って軍団運動を殲滅する義務を負っている。若くて強くて誇り高いルーマニアの軍団国家は、略奪的な資本をすべて国外に追い出しているが、外国の銀行家とは折り合いが悪い。

そして、何の罪もないまま、10年以上にわたる苦しみの結論として、米国のために死の冠が用意されているのです。

この一連の闘いの終わりに、母に思いを向けさせてください。母の魂は毎年、毎時間、私を追って、私を襲うあらゆる打撃に震え、運命によって私に投げかけられるあらゆる脅威に震えています。毎年、残忍で猥褻な検察官や警察署長らによる次々と行われる捜索が、彼らの家庭の静けさを乱し、そこからは喜びと平和の痕跡はとうの昔に消え去っていた。政治家によって貶められた国民から、最も苦しい窮乏の中で国への愛から7人の子供を育てた母親への何という報いでしょう。このいくつかの言葉が、ルーマニア国家のために戦い、苦しみ、亡くなった子供を持つすべての母親たちへの賛辞となりますように。

Googleによる機械翻訳

同志たち

同志たち、

これらの最後の物語がこの巻を締めくくるとともに、私の青春、そして皆さんの中の多くの青春が終わりました。二度と皆さんの道を歩むことはありません。
もし私たちの青春時代のこの 14 年間が、それほど良い時と喜びに満ちたものではなかったとしても、今、大きな満足感が私の良心に灯をともします。軍団のルーマニアは、その根を木の根のように私たちの心の肉の中に埋め込んでいます。それは痛みと犠牲を伴い成長し、私たちの飢えた目はそれが開花し、その素晴らしさと威厳で地平線と今後何世紀にもわたって照らされるのを眺めます。この威厳は、私たちの小さな犠牲だけでなく、それが最も恐ろしいものであっても、あらゆる人間の苦しみに圧倒的に報いてくれます。

親愛なる同志の皆さん、

殴られたり、中傷されたり、殉教したりしたあなたたちに、私は、何気ない修辞句の薄っぺらな価値以上に伝えたいニュースを届けることができます。「私たちは勝ちます」
すぐ。

彼らの柱の前に、我々の抑圧者は皆倒れるだろう。個人的な理由であなたを傷つけた人たちを許してください。ルーマニア国民への信仰のせいで彼を拷問した者たちよ、あなたは許さないだろう。あなたたちに不当な扱いをした人々を許すキリスト教徒の権利と義務と、自分たちを裏切って運命に逆らう人々を罰する我が国民の権利と義務を混同しないでください。あなたが身に着けている剣は国家のものであることを忘れないでください。あなたは彼女の名においてそれらを負います、彼女の名においてあなたはそれらを容赦のない懲罰のために使用するでしょう。このようにして、そしてこの方法でのみ、あなたはこの国の健全な未来を準備することになるでしょう。

1936年4月5日、カルメン•シルバにて。

私の軍団兵への一言

（創立10周年記念におけるコドレアヌ氏のスピーチ）

Google による機械翻訳

大天使ミカエル軍団の創設）

親愛なる同志の皆さん、

15年間にわたる闘争、迫害、犠牲となった命を経て、ルーマニアの若者は軍団兵の勝利の時が近づいていることを知らなければならない。

私たちに対する敵の試みはすべて打ち砕かれます。私たちを誘惑するすべての計画、私たちの魂を買おうとするすべての努力、私たちを分断しようとするすべての努力、そして私たちの間のあらゆる裏切りはすべて地に落ちます。

彼らの目を見てください、暴君どもよ！すべての打撃に諦めをもって耐え、すべての拷問に耐えなさい。私たち全員の犠牲が、勝利への壊れた体と苦しむ魂の鉄の基礎となるからです。

倒れる私たちには英雄と墓の名前が付けられるでしょう！
私たちを殺そうとする者たちは裏切り者の汚名を背負い、
世代から世代へと告発されてきた。

深みから軍団兵が勝利を収める！ロック魂とともに。
勝てると信じている人も、買えると思っている人も、やがて自分たちが間違っていたと確信するでしょうが、遅すぎます。

エピローグ

コルネリュー•ゼレア•コドレアヌの暗殺

捜査委員会における憲兵シャルブの証言
1940年11月、ブカレストのルーマニア破毀院は次のように述べている。

「私たちはその夜（11月29日から11月30日まで）2台の市役所警察のバンに乗ってブカレストを出発しました。私たちはそうでした

憲兵少佐のディヌレスクとマオヴェアヌが同行した。

ラムニクル•サラトに到着した私たちは憲兵隊に立ち寄り、そこでディヌレスク少佐とマオヴェアヌ少佐がラムニクル•サラトの憲兵隊司令官であるユダヤ系のスカーラット•ロジアヌ少佐と接触した。

正確な命令を受けていなかったので、憲兵は軍団兵を逮捕しなかった。私たちは全員、バンに戻るよう命じられました。
私たちはブカレストに戻り始めました。しかし途中で、私たちはディヌレスク少佐に驚かされました。彼は「ラムニクル•サラトに帰れ！」と叫びました。

私たちは引き返しましたが、ラムニクル•サラートのこちら側数キロにあるバルタティ村に立ち寄り、そこで一晩滞在しました。
ここでは私たちは飲むワイン、高価なタバコ、そして高級な食べ物を与えられます。

翌日はラムニクル•サラートへ行きました。

刑務所に到着した私たちは全員、ディヌレスク少佐とマオヴェアヌ少佐から軍団兵の処刑方法を指導された独房の一つに行きました。

私たちのバンの運転手をひざまずかせ、後ろから首にロープを掛け、人がいかに簡単に処刑されるかを示しました。

数分ですべてが終わりました。それから憲兵たちは一人ずつ刑務所の庭に出て、それぞれ軍団兵を拘留した。

私は他のものよりも強くて背の高いものを選びました。後で知ったのですが、彼はコルネリュー•ゼレア•コドレアヌ大尉でした。

それから私たちは彼らをバンに連れて行きました。そこでは軍団兵たちの手は後ろのベンチに縛り付けられ、足は前のベンチの底に縛り付けられ、どの方向にも動くことができなかった。

こうして彼らのうちの10人は最初のバンに、4人は2番目のバンに縛り付けられました。私は10人と一緒に最初のバンに乗り、船長の後ろにいました。各憲兵はその指揮下で軍団兵の後ろに座っていた。

私たちの手には弦が握られています。それで私たちは出発しました。

私のバンにはディヌレスク少佐が、もう一台にはマオヴェアヌ少佐が乗っていた。

私たち自身の間でも軍団の間でも話すことができなかったため、墓のような沈黙が保たれた。

私たちがタンカベスティの森に到着すると、処刑の瞬間に暗号信号を出すはずだったディヌレスク少佐が懐中電灯を3回点けたり消したりした。

処刑の時が来たが、なぜだかわからないが、私たちは二人とも動かなかった。
それからディヌレスク少佐はバンを止め、車から降りて後ろのバンに戻りました。

そこではマコヴェアヌ少佐の方が権威があった。軍団兵たちはすでに絞殺されていた。

船長はわずかに頭を私の方に向けてささやきました、「同志、仲間たちと話させてください。」しかし、その瞬間、まだ嘆願を終える前に、ディヌレスク少佐はバンのランニングボードに登り、バンドのリボルバーを手に踏み込み、「処刑せよ！」と叫んだ。

そう言って憲兵たちはロープを投げた…

カーテンが引かれ、バンはジラバへ向かい続けた。

私たちがそこに着いたときは朝の7時でした。そこで私たちはゼシウ大佐に期待されていました。ダン•パスク刑務所長。ゲロヴィチ大佐、検視官。イヨネスク中佐ら。

墓はすでに掘られています。

バンから降ろされた軍団兵の死体は地面にうつ伏せに置かれ、逃走しようとする銃撃を模擬するために背中から撃たれた。

それから私たちはジラバ刑務所の一室に集められ、そこで大佐が「あなた方は義務を果たした。あなた方は普通の殺人者ではない」と講義しました。

数日後、私はゲロヴィチ大佐の執務室に呼び出されましたが、彼は私を見て「あなたはとても強いですね。一度に三人も殺せただろうね」と言った。それから彼は、私が医療援助として総額20,000 レイを受け取ったと述べ、署名するよう紙切れを私に渡しました。私は彼にこう言いました。「大佐、私は病気ではありません。」彼は「聞いてくれ、サルブ !自分がどれだけひどいか分からないのか ?そして口を閉じていないと、土で埋めてやるよ」と机の上のモーゼル拳銃を指差して答えた。それで私も他の憲兵たちと同様に休暇を与えられた。」